

内閣府 令和5年度委託調査事業

学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査
調査結果 報告書

2023年12月8日

株式会社マーケティング・コミュニケーションズ

目次

調査結果報告書要旨

- (1) 調査の概要 . . . 4
- (2) 本調査のまとめ . . . 5

第一章 調査結果概要・回答者の基本属性

- (1) 調査の概要 . . . 11
- (2) 回答者属性 . . . 12
- (3) ウェイトによる補正 . . . 14

第二章 就職活動に関する意識と準備

9

- (1) 就職・採用活動時期に関する認知状況 . . . 19
- (2) 就職・採用活動の時期（就活ルール）に関する認識と考え . . . 20
- (3) 就職・採用活動についての考え . . . 22

第三章 インターンシップと呼称されるものについて

- (1) インターンシップと呼称されるものへの参加状況 . . . 25
- (2) インターンシップと呼称されるものの効果についての認識 . . . 36

第四章 就職活動内容について

- (1) 企業説明会やセミナー等の参加状況 . . . 45
- (2) エントリーシートの提出状況 . . . 49
- (3) 採用面接の参加状況 . . . 54
- (4) 内々定の状況 . . . 60
- (5) 採用試験・面接等を受けた経路 . . . 70
- (6) 就職活動の始まりと終わりの認識 . . . 73

第五章 就職活動における諸問題について

- (1) 履修履歴（成績証明書など）の提出の状況 . . . 82
- (2) 採用面接の際の学業や成績等への評価 . . . 84
- (3) 就職活動の日程・時間帯等に関する配慮 . . . 85
- (4) 遠隔地への就職活動への配慮 . . . 86
- (5) 留学経験者への配慮 . . . 87
- (6) 秋採用や通年採用などに関する機会提供や情報発信 . . . 88
- (7) 新型コロナウイルス感染症の影響 . . . 90
- (8) 「オワハラ」の状況 . . . 91
- (9) 「セクシュアルハラスメント」の状況 . . . 105
- (10) 「特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付け」の状況 . . . 108

第六章 ジョブ型採用について

- (1) ジョブ型採用での就職活動経験について . . . 111
- (2) ジョブ型採用での内々定の状況 . . . 112
- (3) ジョブ型採用とそうでない採用の応募・待遇について . . . 114

第七章 就活ルール解禁前の活動

- (1) 就活ルール解禁前の活動について . . . 117

【第八章】 文系・理系別の集計

- (1) 文系・理系別の就職活動の内容 . . . 139
- (2) 文系・理系別の就職予定企業について . . . 150

【第九章】 就職予定の企業の業界別の集計

- (1) 就職予定の企業の業界別の就職活動の内容 . . . 157

調査結果報告書要旨

調査結果報告書要旨

(1) 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、2023年度卒業・修了予定者の就職・採用選考活動の意識・行動等を把握することにより、2024年度以降の就職・採用活動の円滑な実施に資することを目的として実施した。

【参考】就職・採用活動開始時期の変更経緯(大学4年生の場合)

	広報活動開始	採用選考活動開始
2015年度 卒業者	大学3年生 12月	大学4年生 4月
2015年度 卒業者	大学3年生 3月	大学4年生 8月
2016年度 卒業者		大学4年生 6月
2017年度 卒業者		
2018年度 卒業者		
2019年度 卒業者		
2020年度 卒業者		
2021年度 卒業者		
2022年度 卒業者		
2023年度 卒業者		

2. 調査の実施方法

【対象】：大学4年生、大学院2年生

(医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科、海外からの留学生を除く。)

【方法】：インターネット調査。62の大学から所属対象学生に案内。

【期間】：2023年7月13日から8月14日(8月1日時点の状況を回答)

3. 有効回答件数

対象	大学4年生	大学院2年生	合計
有効回答件数	3,482件	1,483件	4,965件

(注) この資料中、「2022年度調査」とあるのは、内閣府令和4年度委託事業「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」、「2021年度調査」とあるのは、内閣府令和3年度委託事業「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」、「2020年度調査」とあるのは、内閣府令和2年度委託事業「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」、「2019年度調査」とあるのは、内閣府令和元年度委託事業「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」、「2018年度調査」とあるのは、内閣府平成30年度委託事業「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」、「2017年度調査」とあるのは、内閣府平成29年度委託事業「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」、「2016年度調査」は、内閣府平成28年度委託事業「就職・採用活動開始時期変更に係る学生の就職活動等調査」、「2015年度調査」は、内閣府平成27年度委託調査事業「就職・採用活動開始時期の後ろ倒しに係る学生の就職活動等調査」を指す。なお、2016年度調査～今年度調査は8月1日時点で実施しているが、2015年度調査は10月1日時点で実施した。

(注) 2015年度調査～2017年度調査については、原則として大学4年生と大学院2年生の集計を別々に行っていたが、本調査では、2018年度以降調査と同様に、大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計も行い、結果を掲載した。なお、大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計を行う際には、学校基本調査の在学者数を基にしたウエイトによりデータの補正を行っている。

(注) 原則として「就職活動を行った(終えた)」又は「就職活動を行っている(継続している)」と回答した者が集計対象であるが、一部の回答者を除いて集計をしている設問がある。インターンシップと呼称されるものに関する設問には「これから就職活動を行う予定である」と回答した者も集計対象に含んでいる。

(注) 四捨五入により、複数の選択肢の回答を合わせた結果について、グラフに掲載した個々の選択肢の回答割合を足し合わせたものと小数点以下第1位の値が一致しない場合がある。

(2) 本調査のまとめ

1. 就職・採用活動時期に関する認識

1 就活ルールについて、「ルールは必要」とする人は各段階において全て約7割。特に「正式内定は10月」に対し、「ルールは必要」とする割合が最も高い。

2 昨年と同じ時期であることについて、「昨年度の情報を参考にできた」が約6割、「暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ」「予定をたてやすく準備・行動ができた」が5割。

- 就活ルール(広報活動3月、採用選考活動6月、正式内定10月)について、「ルールは必要」とする人はいずれの段階に対しても約7割。特に、「正式内定は10月1日」に対して、「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」との回答の割合が5割と高い。
- 2023年度の就職活動時期が、昨年度と同じ時期であることについて、「先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた」、「夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ」「どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた」などのメリットが挙げられた。

【就職・採用活動時期(就活ルール)に関する認識】

(n=3,986)	ルールは必要計
広報活動は3月1日以降	68.3%
採用選考活動は6月1日以降	72.4%
正式内定は10月1日以降	74.6%

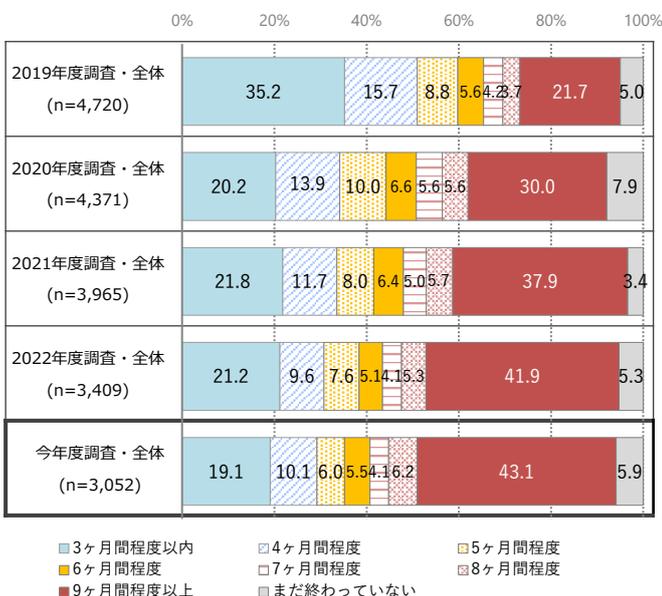
2. 就職活動に要する期間と学生の認識

1 就職活動に要する期間は「9ヶ月間程度以上」が約4割と最も高い。この割合は年々上昇しており、長期化が進む傾向が見られる。

2 就職活動が「始まった」と学生が考えるタイミングについては、「就職活動準備」が4割、「インターンシップ関連」3割、「就職活動に関する具体的なアクション」2割となった。

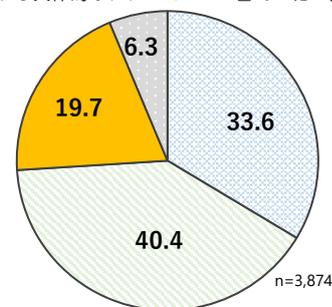
- 「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の期間について見ると、「9ヶ月間程度以上」の割合が約4割と最も高い。過年度調査と比較をすると、「9ヶ月間程度以上」の割合が高くなっており、長期化が進んでいる実態が窺える。
- 就職活動が「始まった」と考えるタイミングについては、「就職活動準備」が最も高く4割、「インターンシップと称されるもの関連」が3割、「就職活動に関する具体的なアクション」が2割。詳細結果では、「インターンシップと称されるもの」に関するウェブサイトに登録した時が約2割と最も高い。

【就職活動の始まりから終わりまでの期間】 ※全体値



【就職活動が「始まった」と考えるタイミング (選択肢をカテゴリーでまとめた結果)】 ※全体値

- インターンシップと称されるもの関連
- 就職活動準備
- 就職活動に関する具体的なアクション
- その他・覚えていない



【就職活動が「始まった」と考えるタイミング 詳細結果】 ※全体値、割合が高いものを抜粋

「インターンシップと称されるもの」に関するウェブサイト(当該企業のHP、リクルート・マイナビ等)に登録した時	23.1%
就職活動に関するウェブサイト(リクナビ・マイナビ等)に登録した時	10.7%
「インターンシップと称されるもの」に参加した時	10.5%
エントリーシートを提出した時	10.0%
企業説明会やセミナー等に参加した時	9.8%
企業にエントリー(資料・情報の請求など)をした時	9.1%

(2) 本調査のまとめ

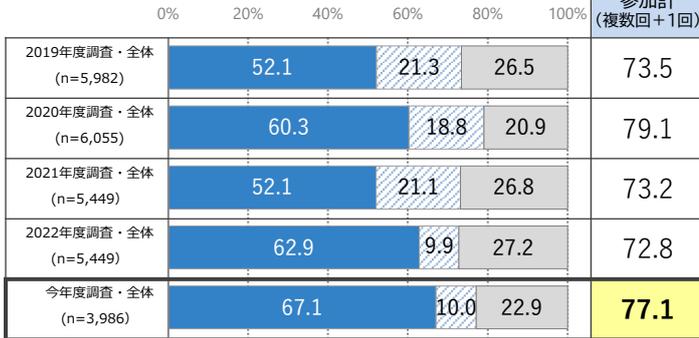
3. 「インターンシップと呼称されるもの」参加状況について

1 **参加割合は約8割。前年度調査から増加し、コロナ前(2020年度調査)の数値に近づく。「複数回参加」の割合も7割弱と増加。**

2 **参加したインターンシップと呼称されるものの最長日数について、「5日以上」の割合は約2割と増加傾向にあるものの、依然「1日以下」が約4割を占める。**

- インターンシップと呼称されるもの参加経験について、約8割が「参加したことがある」と回答、約7割が「複数回参加したことがある」と回答。過年度と比較すると、参加割合、複数回参加割合ともに上昇傾向。
- 参加したインターンシップと呼称されるもののうち、最長の日数のものについて、「1日以下」の回答割合は約4割、「5日以上」の回答は約2割であった。

【「インターンシップと呼称されるもの」参加経験の有無】※全体値



■ 複数回参加したことがある □ 参加したことがある (1回) ■ 参加したことがない

※今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

【「インターンシップと呼称されるもの」の最長参加日数】※全体値

	1日以下	5日以上
2021年度調査・全体 (n=3,988)	46.8%	20.1%
2022年度調査・全体 (n=3,355)	42.4%	21.2%
今年度調査・全体 (n=3,075)	38.4%	24.6%

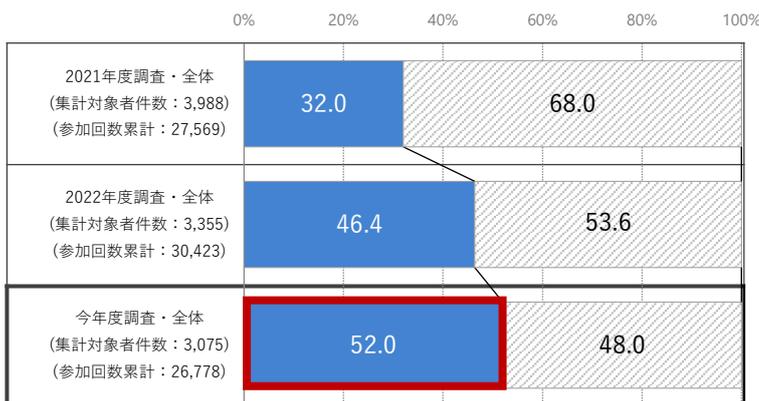
4. 「インターンシップと呼称されるもの」参加者への企業側のアプローチについて

1 **参加した「インターンシップと呼称されるもの」において、実質的な選考があった割合は52%。経年比較すると、年々その割合は高まってきている。**

2 **「インターンシップと呼称されるもの」後の参加者を対象としたアプローチについては、「早期選考の案内」が約7割、「採用説明会、セミナーへの参加」が約6割と高い。**

- 参加した「インターンシップと呼称されるもの」における実質的な選考実施があった割合は、52%となり半数。年々その割合は年々高まってきている。
- 「インターンシップと呼称されるもの」参加後に、参加者を対象とした採用説明会・採用面接等のアプローチを受けたかどうかを集計すると、「早期選考の案内」が約7割、「採用説明会・セミナーに参加した(2023年2月以前に開催されたもの)」が約6割、「採用試験、面接を受けた」が約5割となった。

【参加した「インターンシップと呼称されるもの」における実質的な選考実施の有無】※全体値



【「インターンシップと呼称されるもの」参加後に、参加者を対象としたアプローチを受けたか】※全体値

	2022年度調査・全体 (n=3,355)	今年度調査・全体 (n=3,075)
1 早期選考の案内	54%	65%
2 採用説明会、 セミナーに参加した (卒業・修了前年度2月以前に開催されたもの)	56%	57%
3 採用試験、面接等を受けた	34%	48%

- 採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいた
- 採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいなかった (又は含んでいるかわからなかった)

※今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

(2) 本調査のまとめ

5. 就職・採用活動の動きについて

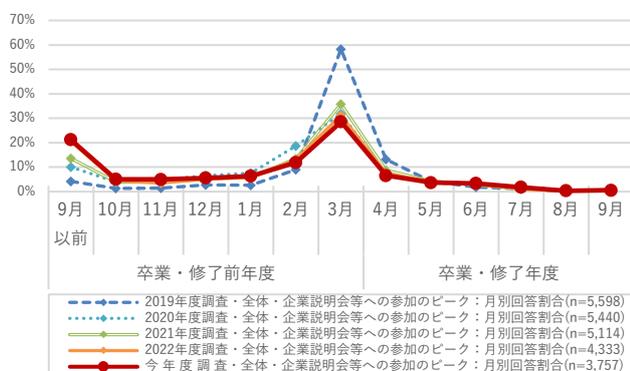
1 **企業説明会等の参加時期のピークについて、広報活動開始前の「卒業・修了前年度9月以前」は約2割と、昨年度とほぼ同様に高い。**

2 **最初の採用面接を受けた時期は、昨年度と比べ、採用選考活動開始前の3月の割合が低下。累計で見ると、2月までに約6割の学生が最初の面接を受けている。**

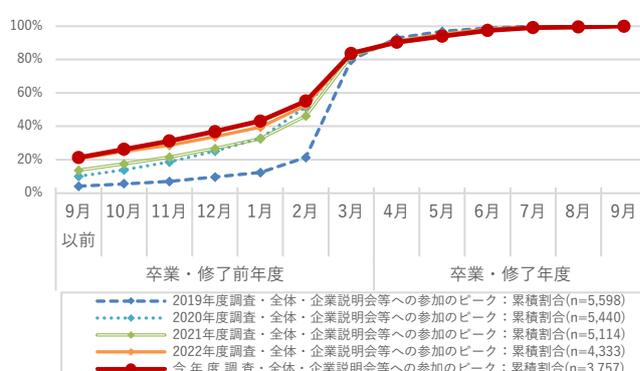
3 **最初の内々定を受けた時期は、過年度調査と同様に採用選考活動開始前である4月の割合が最も高い。**

- ・ 企業説明会やセミナー等の参加時期の「ピーク」について、広報活動開始時期前である「卒業・修了前年度9月以前」の回答割合が約2割となっており昨年度とほぼ同様に高い。
- ・ 企業説明会やセミナー等の参加時期について、過年度調査と比較すると、「最初」「ピーク」「最後」共に、特に「卒業・修了前年度3月以前」において、少しずつ時期が早まっている。
- ・ 採用面接の時期について、「最初に採用面接を受けた時期」は、広報活動開始時期である卒業・修了前年度3月の回答割合が約2割で最も高いが、昨年度と比べるとその割合は低下。一方卒業・修了前年度2月以前の回答割合が約6割と上昇している。「ピーク～最後」についても僅かに時期が早まっている。
- ・ 最初の内々定を受けた時期について、最も回答割合が高い月は採用選考活動開始時期前である「卒業・修了前年度4月」にきており、約2割。昨年度と比較すると、「卒業・修了前年度12月」～「卒業・修了前年度3月」の割合が高まっており、採用選考活動開始時期である6月時点までの回答割合は上昇傾向。
- ・ 説明会、面接、内々定、いずれについても、昨年度結果よりも時期が早まっている傾向が見られた。

【企業説明会等への参加時期（ピーク）】 ※全体値



【企業説明会等への参加時期（ピーク）累計】 ※全体値



6. 企業からの学修活動等への配慮や就職活動実施方法について

1 **「説明会や面接等の日程・時間帯等についての配慮」について、「多く又はある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約8割。**

2 **「インターンシップと呼称されるもの」「採用面接」について、ウェブ等での参加が含まれる割合は、どちらも全体の約8割。**

- ・ 就職活動を行った企業における説明会や個別の面接日時・時間帯等について、多くの企業又はある程度の企業で「配慮していた」と感じた学生の割合は約8割。
- ・ 「インターンシップと呼称されるもの」への参加方法について、「対面のみ」約2割、「ウェブ等のみ」約7割、「対面とウェブ等」が約1割となり、約8割はウェブ等の参加が含まれるものであった。
- ・ 「採用面接」への参加方法について、「対面のみ」約2割、「ウェブ等のみ」「対面とウェブ等」が4割ずつとなった。過年度調査と比較すると、「対面とウェブ」のハイブリット型が増加傾向にある(昨年度調査:3割→今年度調査:4割)。

(2) 本調査のまとめ

7. オワハラについて

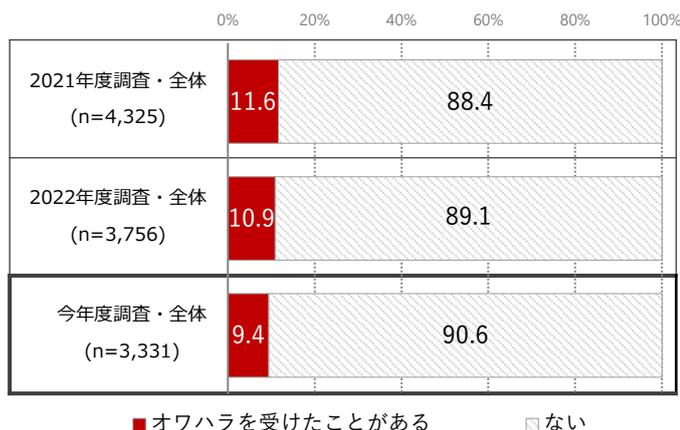
1 **オワハラの経験有無について、「受けたことがある」とした人は約9.4%。過年度調査と比較すると、僅かに減少傾向にあるが、例年約1割の学生がオワハラを受けている。**

2 **オワハラの内容は、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」が約7割と、過年度に引き続き最も高い。**

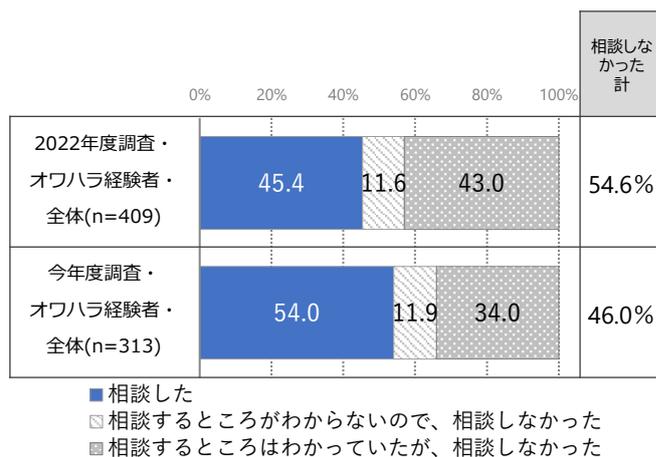
3 **オワハラを受けた際の対応について、「相談した」は約5割と昨年度より上昇。「相談するところはわかっていたが、相談しなかった」は、約3割と昨年度より減少した。**

- オワハラの経験有無について、今年度調査において「オワハラを受けたことがある」とした人は9.4%。過年度調査と比べると、「ある」と回答した割合は、僅かに減少傾向にある。
- オワハラの内容は、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された」が約7割。
- オワハラを受けた際の対応について、2022年度結果と比較すると、「相談した」が今年度調査では54.0%と増加。「相談するところはわかっていたが、相談しなかった」が、今年度調査では34.0%と減少。

【受けた「オワハラ」の内容】 ※全体値



【「オワハラ」を受けた際の対応】 ※全体値



8. 内々定を受けた企業の種類と時期について

1 **就職予定企業の種類別内々定の時期は、国内企業では6月が最も高く、一方外資系企業は2月以前の割合が4割にのぼり、「国内企業」と比べて早い傾向がみられた。**

2 **最初に内々定を受けた企業の規模別の内々定の時期について、累計割合で見ると、「5,000人規模以上」では、約5割が3月までに最初の内々定を受けている。**

- 就職予定の企業が国内企業かどうかについて見ると、国内企業(ベンチャー企業)が9%、国内企業(ベンチャー以外)が85%、外資系企業が4%、わからないが2%という分布となっており、国内企業は9割となった。
- 内々定を受けた時期を企業の種類別に見ると、就職予定企業では、「国内企業」では6月が最も高い。一方、「外資系企業」は5月以前の割合が特に高く、4割が卒業・修了前年度の2月以前に内々定を受けており、「国内企業」と比べて早い傾向がみられた。
- 「最初に内々定を受けた企業の規模別に、最初の内々定時期を見ると、いずれの規模でも、4月の割合が最も高い。一方「5,000人～9,999人規模」では、「1月」の割合が他規模に比べて高く、「99人以下規模」では、「3月」の割合が低く、「7月」の割合が高い。
- 累計割合で見ると、「5,000人～9,999人規模」「10,000人以上規模」では約5割が3月までに最初の内々定を受けている。

※ベンチャー企業については、「新興企業であって、独自のアイデアや技術で新しいサービスやビジネスに挑戦している企業。」と、回答者に案内した上で調査を行った。

調査結果報告書本文

第一章 調査結果概要・回答者の基本属性

第一章 調査結果概要・回答者の基本属性

(1) 調査の概要

1. 調査の目的

本調査は、2023年度卒業・修了予定者の就職・採用選考活動の意識・行動等を把握することにより、2024年度以降の就職・採用活動の円滑な実施に資することを目的として実施した。

2. 調査の実施方法

地域、設置主体、規模等を勘案して選定した全国の62の大学に協力いただき、それらの大学から、大学4年生及び大学院修士課程(博士前期課程)2年生(以下、「大学院2年生」と表記)にアンケート調査への協力を依頼していただいた。なお、医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生や海外からの留学生については調査の対象外である旨を案内の上で実施した。

各学生には、インターネット上に開設したアンケート調査のホームページにアクセスし、回答していただいた。ホームページは、2023年7月13日から8月14日までの間開設した。

3. 回答状況

対象学年別の有効回答件数は次の図表の通りである。なお、社会人経験があり元の職場に復帰予定の者や、進学等を予定しており就職活動をする予定がない者等については、集計の過程において、適宜対象から除いて集計を行った。

【学年別の有効回答件数】

対象	大学4年生	大学院2年生	合計
有効回答件数	3,482件	1,483件	4,965件

(2) 回答者属性

本調査への回答が得られた学生の属性に関して、①性別、②大学・大学院の設置主体、③専攻、④大学・大学院の所在地域による割合を、対象学年別に下記に示し、それぞれ右欄に2022年度の学校基本調査※1(文部科学省調べ)の情報(確定版)について掲載した※2。

本調査の回答者の属性の状況を、学校基本調査に基づく全国の母集団の状況と比較すると、性別については大学4年生が「女性」からの回答割合が高く、大学・大学院の設置主体については大学4年生・大学院2年生ともに「国立」からの回答割合が高いなど、若干の偏りが生じている状況にあることが把握できる。

【①性別】

対象	大学4年生		大学院2年生	
	本調査	2022年度 学校基本調査 (確定版)	本調査	2022年度 学校基本調査 (確定版)
男性	45.0%	56.7%	67.6%	70.6%
女性	53.4%	43.3%	31.1%	29.4%
その他・答えたくない	1.6%	-	1.3%	-
集計度数	3,482	556,282	1,483	74,665

【②大学・大学院の設置主体】

対象	大学4年生		大学院2年生	
	本調査	2022年度 学校基本調査 (確定版)	本調査	2022年度 学校基本調査 (確定版)
国立	30.4%	16.3%	66.6%	57.5%
公立	5.7%	4.9%	6.1%	6.2%
私立	63.9%	78.8%	27.3%	36.3%
集計度数	3,482	556,282	1,483	74,665

※1：学校基本調査は、全国全ての学校を対象とした、統計法（平成19年法律第53号）に基づく基幹統計調査である。調査対象として医学科・薬学科・歯学科・看護学科・獣医学科の学生は対象外としていることから、学校基本調査の情報のうち「専攻」について、「保健」の学生数を除いた値を参照した。また本調査では専攻として確認した「情報」は学校基本調査の情報の中でないが、「文系」として集計している。

※2：2023年度の学校基本調査の情報（速報値）では、「性別」「大学・大学院の設置主体別」「大学・大学院の所在地域別」の学生数が公開されているが、「専攻別」の学生数が公開されていないため、2022年度の学校基本調査の情報（確定版）から、大学3年生・大学院1年生の値を用いてウエイトを作成した。比較対象として2022年度の学校基本調査の情報（確定版）の値を掲載している。

なお、本調査の値と2021年度学校基本調査（確定版）いずれの値も、小数点第2位を四捨五入した上で表示しているため、割合の合計が100%を超えたり、小計の値を超えたりする場合がある。

今年度調査においては、性別を尋ねる設問において、「その他」と「答えたくない」の選択肢を設定した。ここでは、これらの回答を「その他」として集計した。

【③専攻】

対象	大学4年生		大学院2年生	
	本調査	2022年度 学校基本調査 (確定版)	本調査	2022年度 学校基本調査 (確定版)
人文科学	22.7%	15.9%	7.3%	5.8%
社会科学	38.3%	36.6%	7.4%	9.6%
情報	5.0%	-	9.1%	-
理学	7.3%	3.5%	26.2%	8.9%
工学	11.4%	17.1%	34.5%	45.9%
農学	2.4%	3.4%	7.6%	6.1%
保健	1.7%	-	1.3%	-
商船	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
家政	1.3%	3.1%	0.7%	0.6%
教育	4.5%	8.4%	2.9%	2.7%
芸術	0.5%	3.5%	0.7%	3.0%
その他	4.8%	8.5%	2.3%	17.3%
文系	77.2%	76.0%	30.5%	39.0%
理系	22.8%	24.0%	69.5%	61.0%
集計度数	3,482	556,282	1,483	74,665

※「人文科学」、「社会科学」、「情報」、「家政」、「教育」、「芸術」、「その他」を「文系」とし、「理学」、「工学」、「農学」、「保健」、「商船」を「理系」としている

(3) ウェイトによる補正

就職・採用活動の状況は、文系・理系などの属性別に差異があると考えられることから、実態について集計結果を示すにあたっては、可能な限り回答者の属性分布を母集団に近似させることが望ましい。そこで、本調査では、「性別」「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」の3点について、それぞれのバランスが母集団に近似するようにウェイト付けを行った上で集計を行うこととした。なお、本調査では過年度調査と同様に、大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計と、大学4年生と大学院2年生の学年別の集計を行い結果を掲載した。大学4年生と大学院2年生とを合わせた集計を行う際にも、学校基本調査の在学者数※1を基にしたウェイトによりデータの補正を行った。分類別のウェイト値は、大学4年生・大学院2年生を合わせた集計結果を示す場合と、別々に示す場合とで、それぞれ設定をした※2。また、①性別、②大学・大学院の設置主体、③専攻、④大学・大学院の所在地域のそれぞれについて、ウェイトによる補正後の分布は、下記、また次ページの表のようにになっている※3。これらから、ウェイト補正後は、「性別」「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」の3点について、母集団における分布と近い構成比になっていることが確認できる※4。

※1：2015年度調査から2019年度調査については、各調査年度の学校基本調査の速報値から「性別」「大学・大学院の設置主体別」「専攻別」の大学4年生・大学院2年生の在学者数の情報を用いてウェイト値を作成していたが、2020年度・2021年度・2022年度・今年度については学校基本調査の速報値に「専攻別」の情報の掲載がなかった。そのため、2021年度の学校基本調査の確定版から「性別」「大学・大学院の設置主体別」「専攻別」の大学3年生・大学院1年生の在学者数の情報を用いてウェイトを作成した。

※2：性別が「その他」の者に関しては、学校基本調査には直接的に対応する値はないが、性別以外の「大学・大学院の設置主体」「文系・理系別」のバランスをふまえてウェイト値を設定した。

※3：ウェイト補正後の集計値に関しては、四捨五入等している関係で、設問により、選択肢ごとの度数と度数合計が一致しない場合がある。また、集計結果の割合(%)は、小数点以下第2位を四捨五入した上で表示しているため、内訳の計が100%にならない場合がある。

※4：「文系・理系別」の詳しい内訳と大学・大学院の所在地域については直接的にウェイト付けの対象としなかったことから、母集団の分布と比べて若干の相違があるが、細部まで補正を行うことが困難であったことから、「性別」「大学・大学院の設置主体別」「文系・理系別」の3点について補正したデータにより集計を行った。なお、ウェイト付けの際には、専攻について「保健」の者を除いた形で値を算出した。

【大学生・大学院生をまとめて集計する際のウエイト値】

本調査			大学4年生	大学院2年生
男性	国立	文系	0.7725	0.4820
		理系	0.9345	0.3306
	公立	文系	1.4871	0.5871
		理系	0.8030	0.4099
	私立	文系	1.7768	0.5012
		理系	3.2453	0.5298
女性	国立	文系	0.4494	0.4192
		理系	0.5334	0.2219
	公立	文系	1.4461	0.8270
		理系	0.4430	0.1971
	私立	文系	1.2029	0.6820
		理系	1.3712	0.3528
その他	国立	文系	0.7822	0.2519
		理系	0.8004	0.6950
	公立	文系	2.3273	0.1875
		理系	0.9989	0.3811
	私立	文系	1.1836	0.3212
		理系	2.4227	1.6994

【大学4年生・大学院2年生を別々に集計する際のウエイト値】

本調査			大学4年生	大学院2年生
男性	国立	文系	0.6139	1.2190
		理系	0.7427	0.8363
	公立	文系	1.1818	1.4848
		理系	0.6382	1.0368
	私立	文系	1.4121	1.2675
		理系	2.5792	1.3400
女性	国立	文系	0.3572	1.0603
		理系	0.4239	0.5612
	公立	文系	1.1493	2.0917
		理系	0.3521	0.4985
	私立	文系	0.9560	1.7251
		理系	1.0898	0.8922
その他	国立	文系	0.6567	0.5528
		理系	0.6721	1.5255
	公立	文系	1.9540	0.4114
		理系	0.8387	0.8365
	私立	文系	0.9938	0.7050
		理系	2.0342	3.7300

※ウエイト値について四捨五入の上小数点以下第4位まで掲載しているが、実際には小数点以下第15位までの値に基づいてウエイト付けを行っている。

【①性別(ウエイトによる補正後)】

本調査	全体	大学4年生	大学院2年生
男性	57.4%	55.8%	69.7%
女性	41.0%	42.6%	29.0%
その他	1.6%	1.6%	1.3%
集計度数	4,965	3,482	1,483

【②大学・大学院の設置主体(ウエイトによる補正後)】

本調査	全体	大学4年生	大学院2年生
国立	21.2%	16.3%	57.5%
公立	5.1%	4.9%	6.2%
私立	73.8%	78.8%	36.3%
集計度数	4,965	3,482	1,483

【③専攻(ウエイトによる補正後)】

本調査	全体	大学4年生	大学院2年生
人文科学	20.1%	21.5%	9.5%
社会科学	36.8%	40.4%	9.8%
情報	5.6%	4.9%	11.3%
理学	9.6%	7.8%	23.0%
工学	14.8%	12.6%	31.3%
農学	2.4%	1.9%	5.7%
保健	1.6%	1.7%	1.1%
商船	0.0%	0.0%	0.0%
家政	1.0%	1.0%	0.8%
教育	3.0%	3.0%	3.4%
芸術	0.6%	0.5%	1.1%
その他	4.5%	4.7%	3.1%
文系	71.6%	76.0%	39.0%
理系	28.4%	24.0%	61.0%
集計度数	4,965	3,482	1,483

【④大学・大学院の所在地域(ウエイトによる補正後)】

本調査	全体	大学4年生	大学院2年生
北海道・東北	10.8%	10.7%	11.7%
関東	49.5%	48.8%	54.7%
中部	14.5%	15.0%	10.7%
近畿	15.6%	16.8%	7.3%
中国・四国	5.5%	5.1%	8.2%
九州・沖縄	4.1%	3.6%	7.4%
集計度数	4,965	3,482	1,483

以降では、ウエイト補正後のデータに基づき集計を行った。なお、原則として大学4年生・大学院2年生をあわせて集計した結果と、別々に集計した結果の両方を掲載している。また適宜、2019年度・2020年度・2021年度・2022年度に実施した「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」※1との比較を行い、回答傾向の違いについて把握した。

本資料に掲載した集計結果等に関しては、次のような点に留意されたい。

- ◆集計結果の割合(%)は、小数点以下第2位を四捨五入した上で表示しているため、内訳の計が100%にならない場合がある。
- ◆設問には選択肢からひとつだけ回答するものと、選択肢から複数の項目を回答するものがあり、複数回答する場合の設問では、選択肢別の集計結果の割合合計が100%を超える場合がある。
- ◆本資料で扱う今年度調査の集計について、ほとんどの設問は「就職活動を行った(終えた)」「就職活動を行っている(継続している)」と回答した者が集計対象であるが、一部の設問は「これから就職活動を行う予定である」と回答した者も集計対象に含んでいる。このほか、一部の回答者を除いて集計をしている設問があるが、これらの点はページ下部の注釈にて説明を記載した。

※1：それぞれ、「2015年度調査」「2016年度調査」「2017年度調査」「2018年度調査」「2019年度調査」「2020年度調査」「2021年度調査」と表記し、これら7ヶ年の調査をあわせて「過年度調査」と表記する。また、今回2022年度に実施した「学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査」を「今年度調査」と表記する。
なお、2016年度調査、2017年度調査、2018年度調査、2019年度調査、2020年度調査、2021年度調査、今年度調査は8月1日時点で実施しているが、2015年度調査は10月1日時点で実施した。

第二章 就職活動に関する意識と準備

第二章 就職活動に関する意識と準備

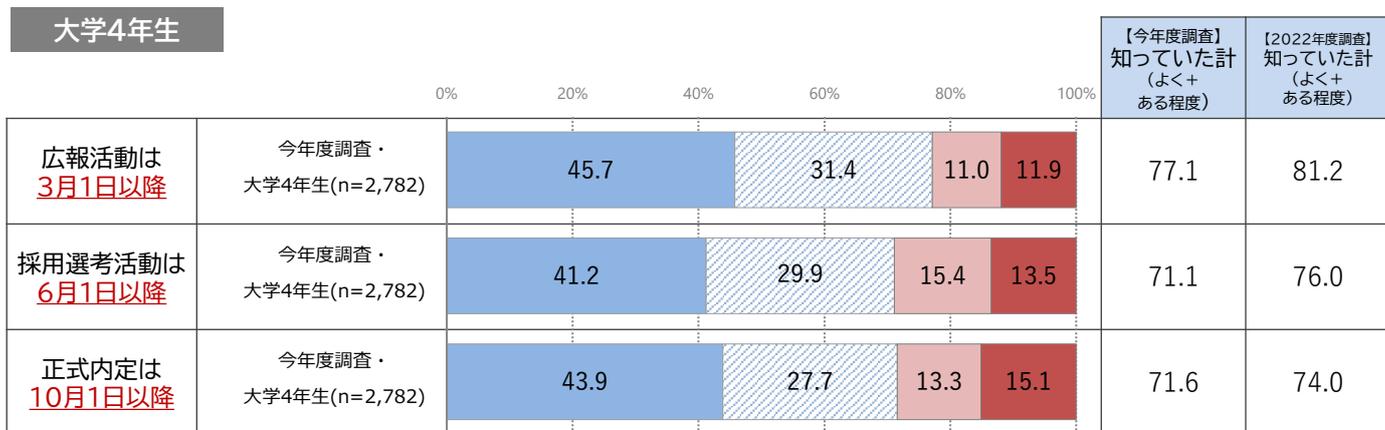
(1) 就職・採用活動時期に関する認知状況

①就職・採用活動の時期(就活日程ルール)の認知度

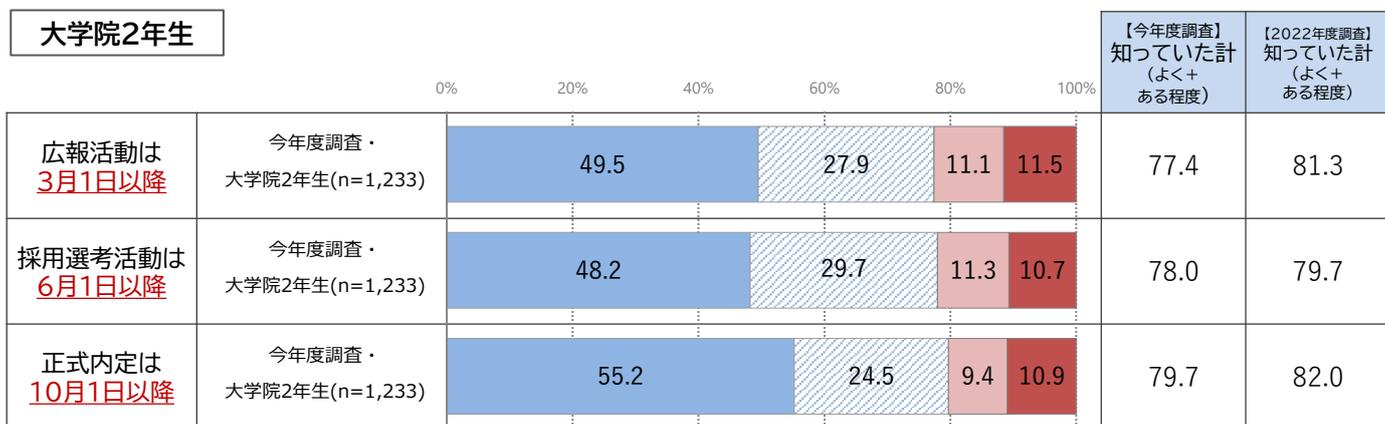
就職活動を開始するにあたり、就職・採用活動の時期(就活日程ルール)は、広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降、正式内定は10月1日以降で行われることについて、それぞれの「知っていた」の回答割合は※1、「広報活動は3月1日以降」が最も高く、約8割。「正式内定は10月1日以降」「採用選考活動は6月1日以降」は、約7割。2022年度調査と比較すると、「広報活動は3月1日以降」、「採用選考活動は6月1日以降」、「正式内定は10月1日以降」のいずれについても、「知っていた」計の回答割合がやや低くなっている※1。



■ よく知っていた □ ある程度知っていた ■ 聞いたことはあるがあまりよく知らなかった ■ 知らなかった



■ よく知っていた □ ある程度知っていた ■ 聞いたことはあるがあまりよく知らなかった ■ 知らなかった



■ よく知っていた □ ある程度知っていた ■ 聞いたことはあるがあまりよく知らなかった ■ 知らなかった

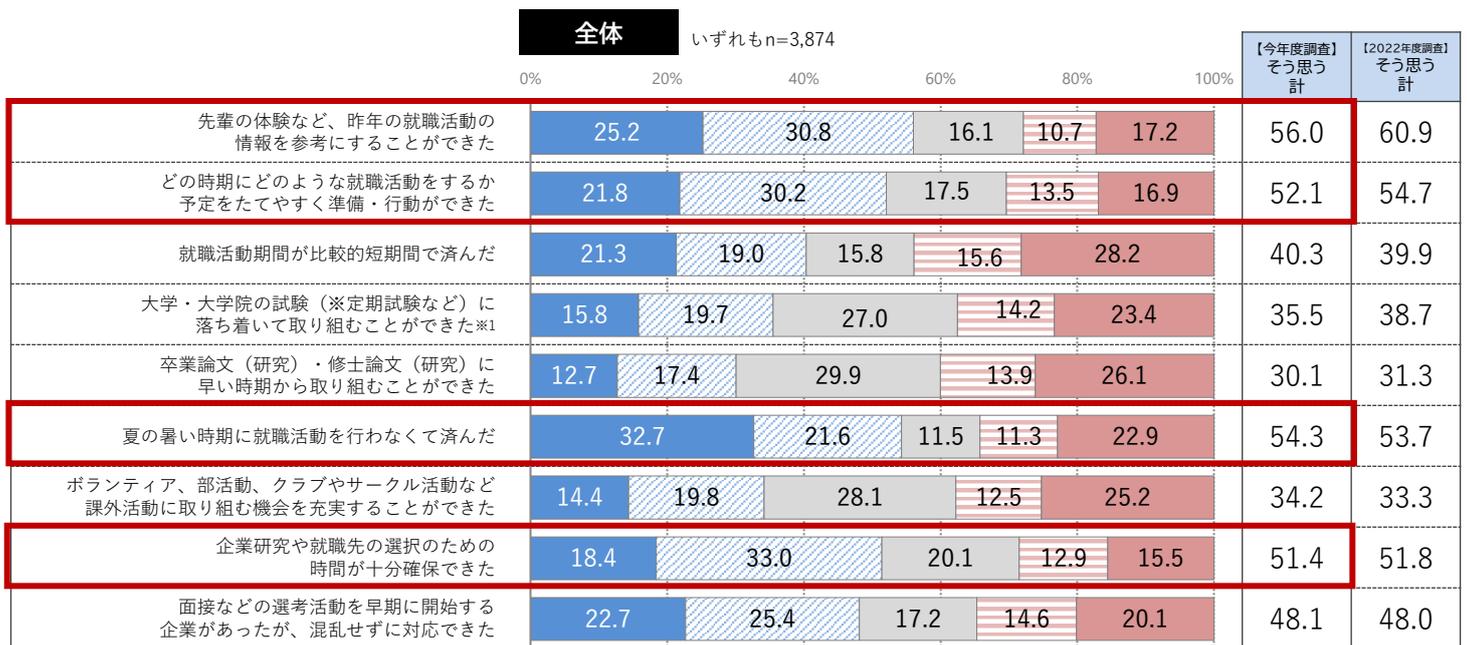
※1：いずれの年度の調査も、「就職活動を行った(終了)」「就職活動を行っている(継続している)」「これから就職活動を行う予定である」と回答した者が集計対象で、「就職活動を行わなかった(行う予定はない)」と回答した者は集計の対象外とした。

(2) 就職・採用活動の時期(就活日程ルール)に関する認識と考え

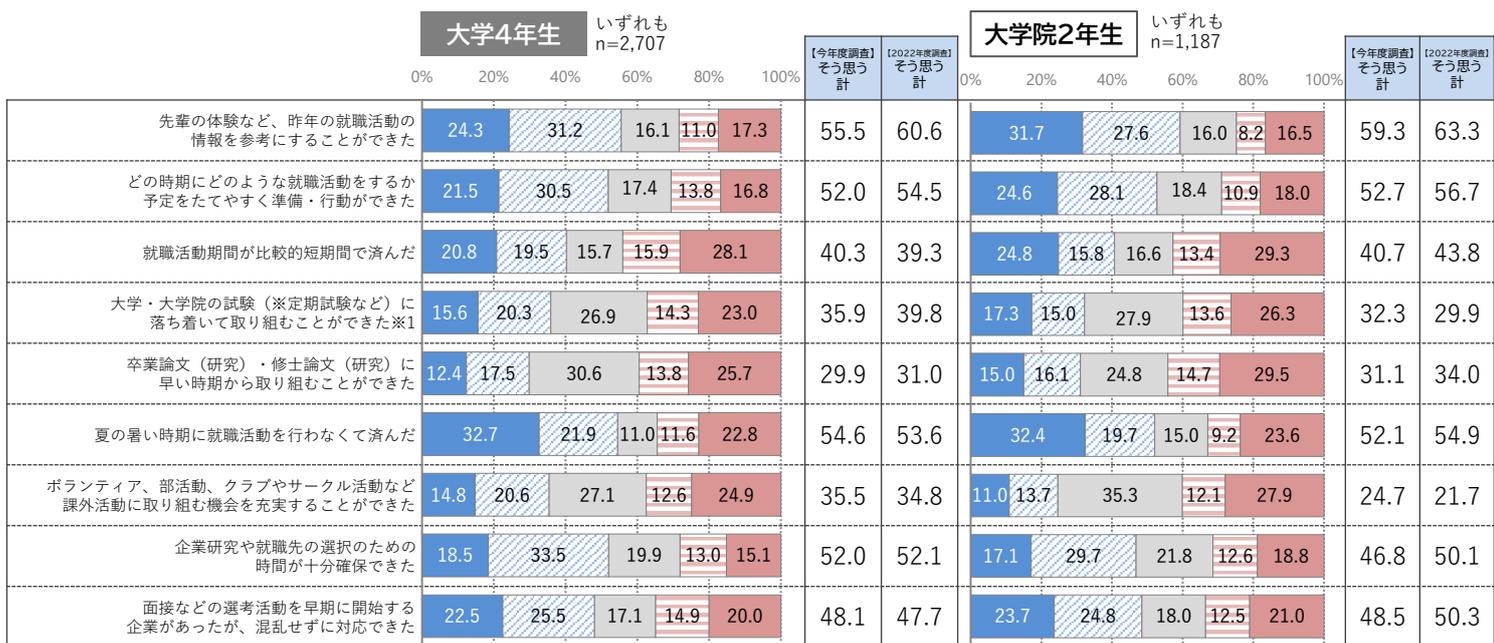
①就職・採用活動の時期(就活日程ルール)についての認識

就職・採用活動の時期が昨年度と同様の時期に設定された(広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降)ことについて、「先輩の体験など、昨年の就職活動の情報を参考にすることができた」、「夏の暑い時期に就職活動を行わなくて済んだ」、「どの時期にどのような就職活動をするか予定をたてやすく準備・行動ができた」、「企業研究や就職先の選択のための時間が十分確保できた」という点で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が5割を超え比較的高かった。

2022年度調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっている。



■ そう思う □ どちらかといえばそう思う ▨ どちらでもない ▩ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない



■ そう思う □ どちらかといえばそう思う ▨ どちらでもない ▩ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない

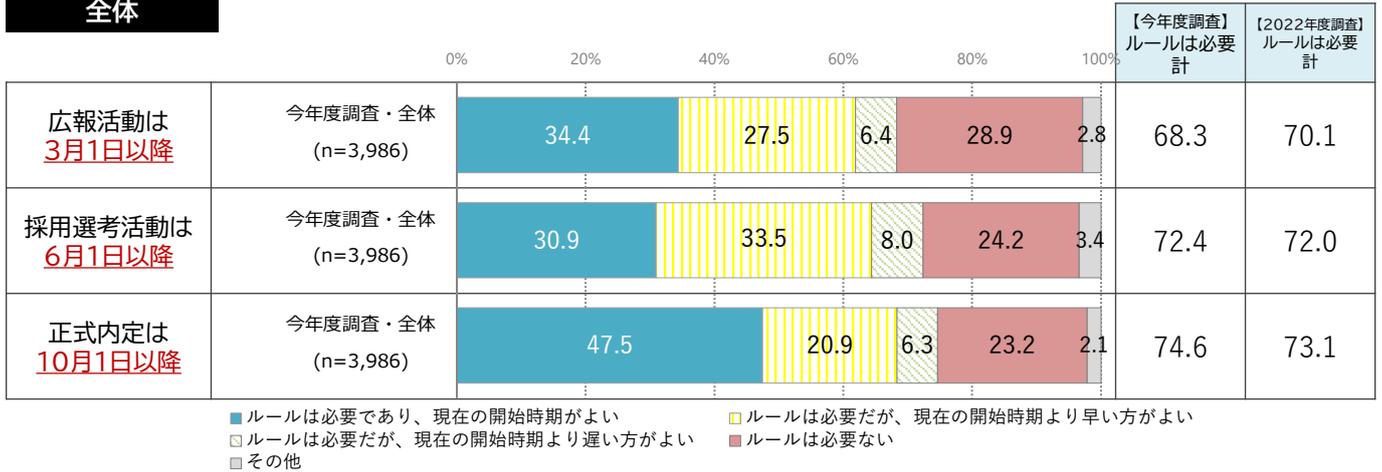
※1：2022年度調査以前の選択肢は「大学の試験に落ち着いて取り組むことができた」。

②就職・採用活動の時期・就活日程ルールに関する考え

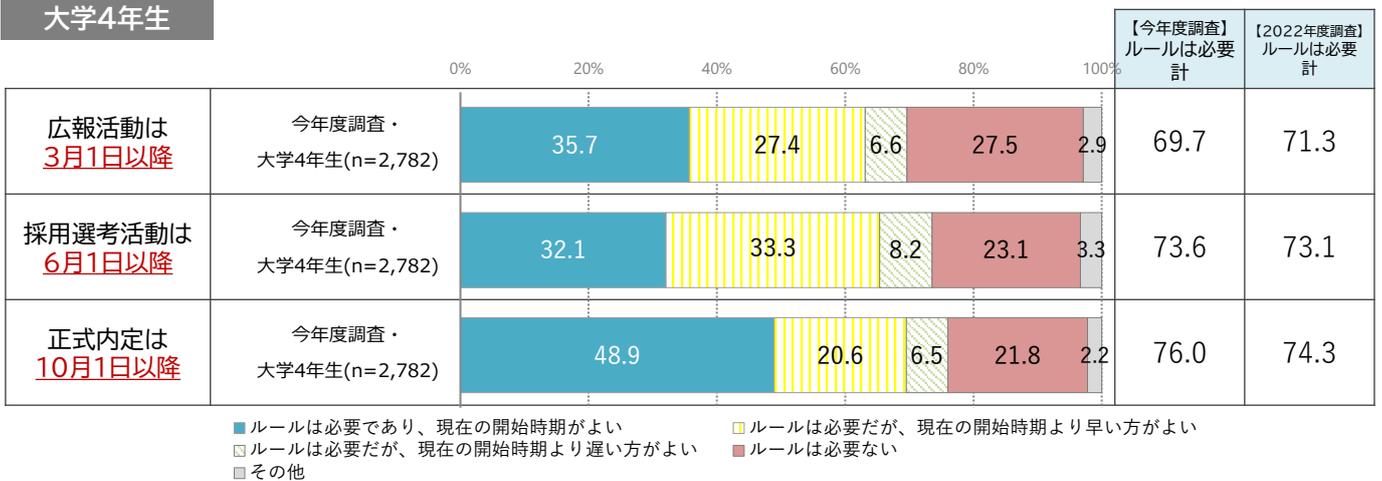
就職・採用活動開始時期や、いわゆる「就活ルール」に関する考えについて、広報活動は3月1日以降、採用選考活動は6月1日以降、正式内定は10月1日以降で行われることに対して、「ルールは必要」※1とする人はそれぞれ約7割。最も「ルールは必要」が高いのは「正式内定は10月1日以降」で、約5割が「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」とした。

2022年度調査と比べると、ほぼ同様の結果となっている。

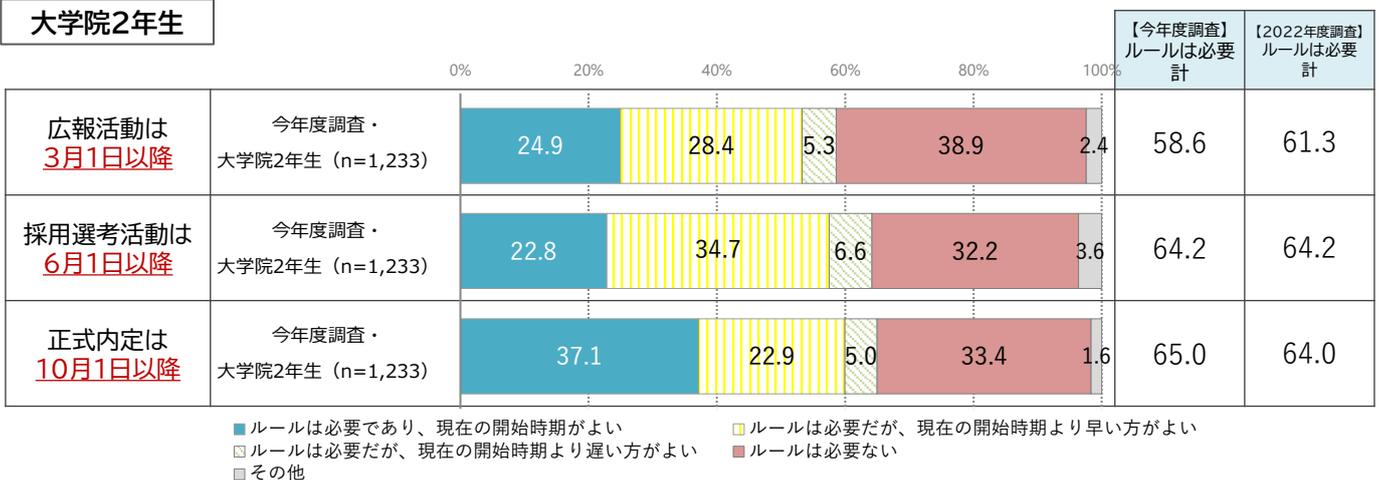
全体



大学4年生



大学院2年生



※1：「ルールは必要」の計は、「ルールは必要であり、現在の開始時期がよい」と、「ルールは必要だが、現在の開始時期より早い方がよい」と、「ルールは必要だが、現在の開始時期より遅い方がよい」を合わせた数値。

(3) 就職・採用活動についての考え

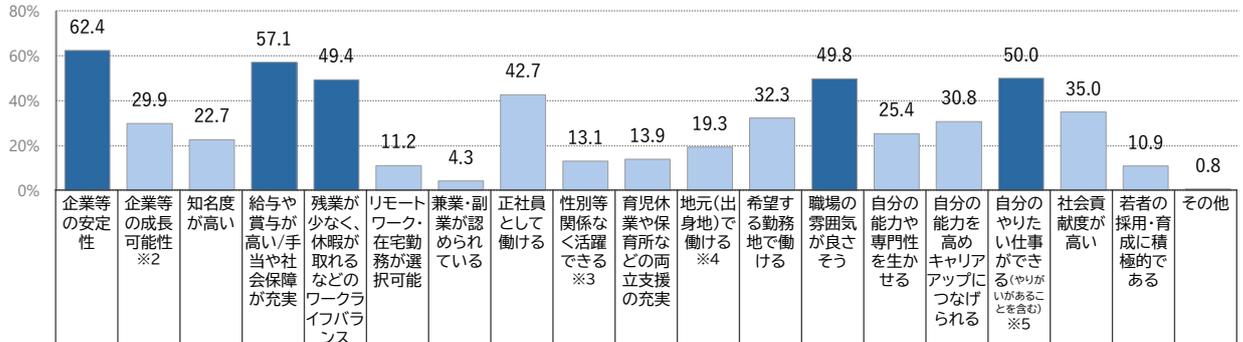
①就職先を決めるにあたって重視していること

就職先を決めるにあたって重視していることについて※1、「企業等の安定性」との回答が約6割で最も高く、次いで、「給与や賞与が高い/手当や社会保障が充実」「自分のやりたい仕事ができる(やりがいがある)」「職場の雰囲気が良さそう」「残業が少なく、休暇が取れるなどのワークライフバランス」が高くなっている。

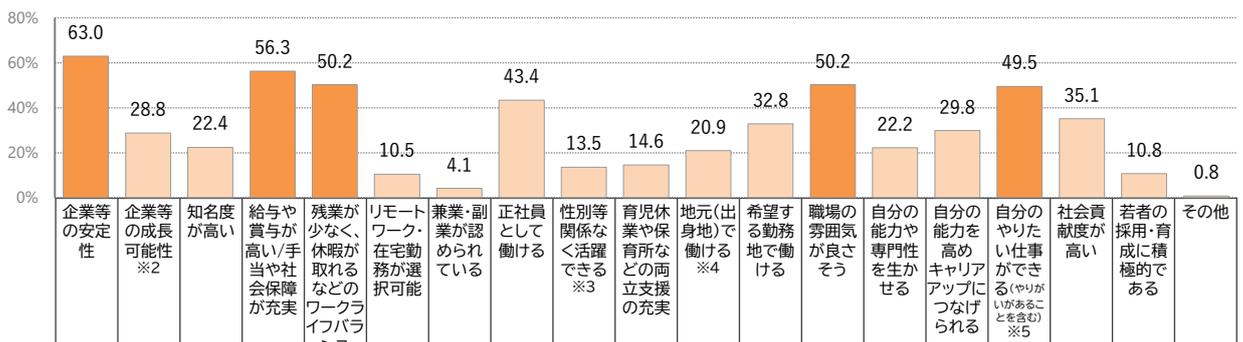
過年度調査と比較すると、「企業等の安定性」「給与や賞与が高い/手当や社会保障が充実」が増加傾向にある。

※グラフは今年度の数字

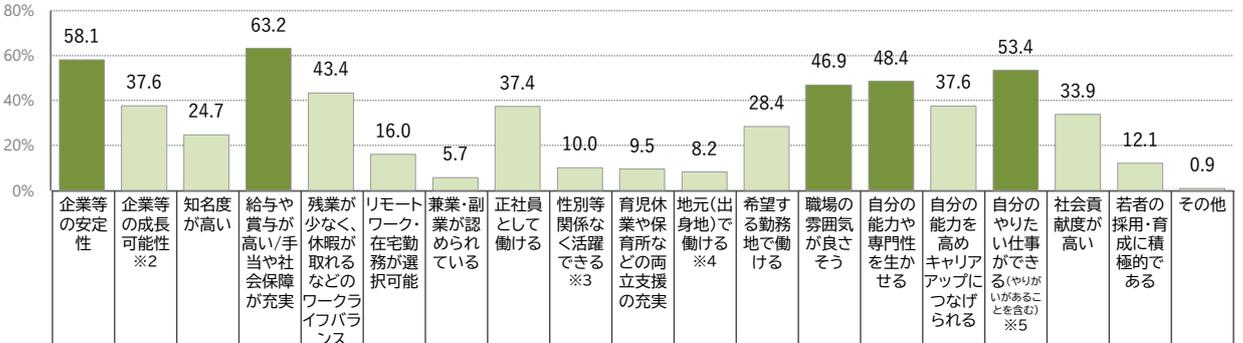
全体



大学4年生



大学院2年生



※1: 「就職活動を行った(終えた)」「就職活動を行っている(継続している)」「これから就職活動を行う予定である」と回答した者が集計対象で、「就職活動を行わなかった(行う予定はない)」と回答した者は集計の対象外とした。

※2: 2022年度調査以前の選択肢は「企業の成長可能性」。

※3: 2022年度調査以前の選択肢は「女性が活躍できる」。

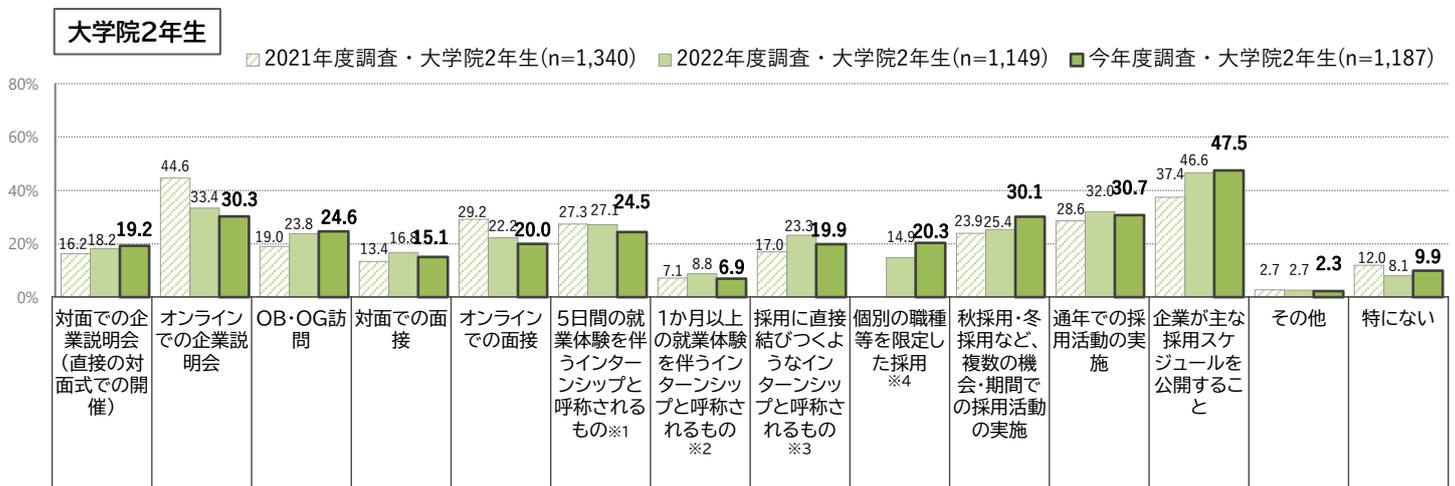
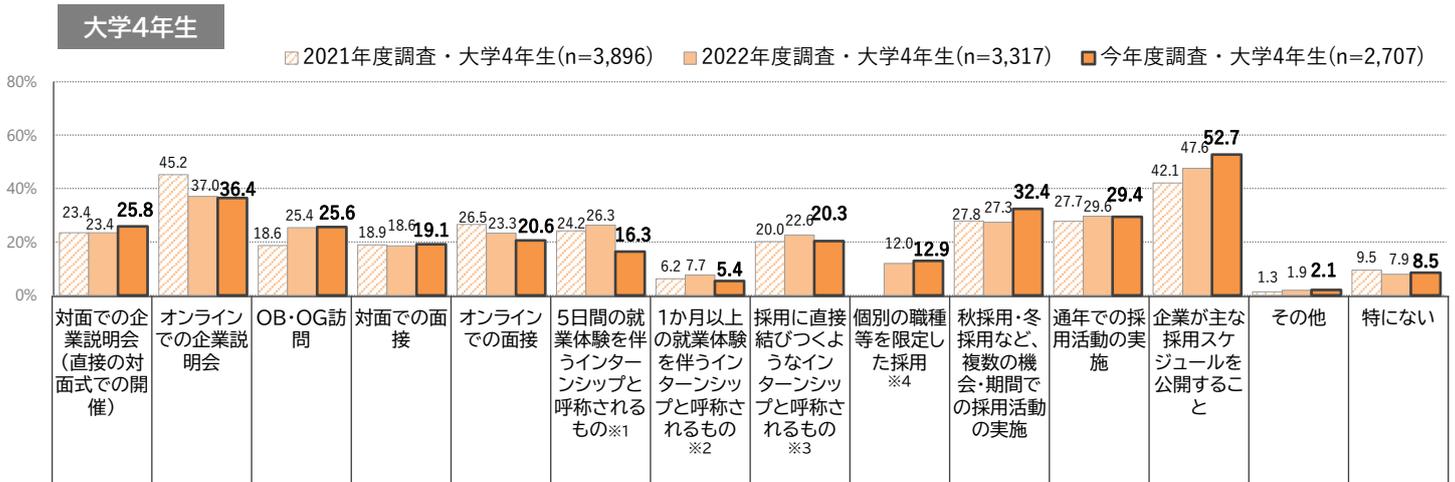
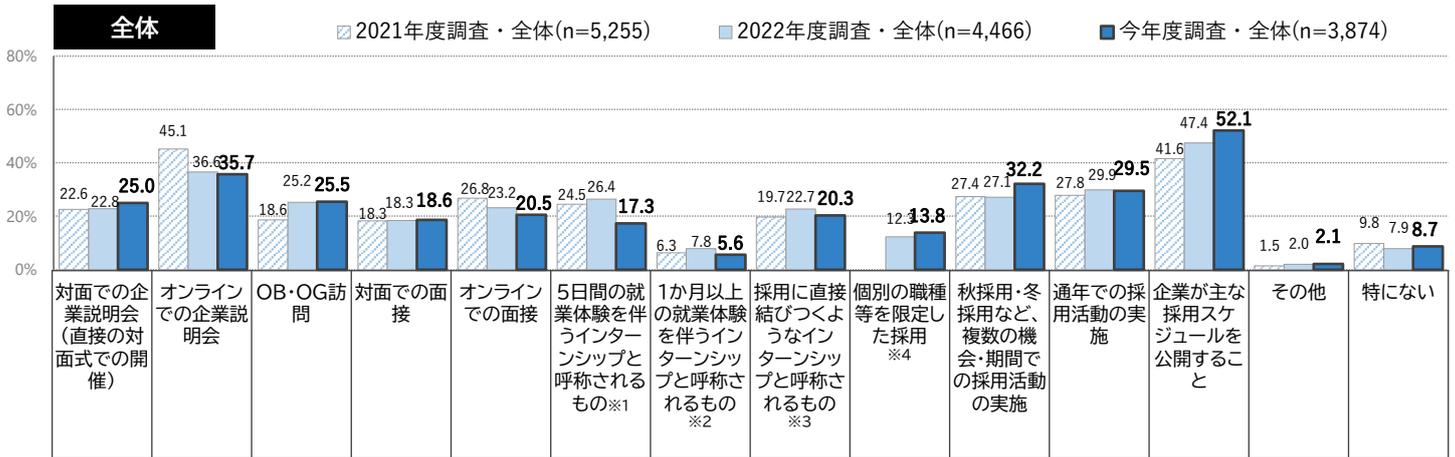
※4: 2022年度調査以前の選択肢は「地元で働ける」。

※5: 2022年度調査以前の選択肢は「自分のやりたい仕事ができる(やりがいがある)」。

②これからの就職・採用活動のあり方として、もっと増やすべきだと考えるもの

現状と比べてこれからの就職・採用活動のあり方として、もっと増やすべきだと考えるものについて、「企業が主な採用スケジュールを公開すること」の回答割合が約5割で最も高く、次いで「オンラインでの企業説明会」が約4割、「秋採用・冬採用など、複数の機会・期間での採用活動の実施」「通年での採用活動の実施」「OB・OG訪問」「対面での企業説明会」が約3割となっている。

過年度調査と比較すると、「企業が主な採用スケジュールを公開すること」が増加傾向にあり、一方で「オンラインでの企業説明会」「オンラインでの面接」が減少傾向にある。



※1：2022年度調査以前の選択肢は「数日間の就業体験を伴うインターンシップ」。
 ※2：2022年度調査以前の選択肢は「1か月以上の就業体験を伴うインターンシップ」。
 ※3：2022年度調査以前の選択肢は「採用に直接結びつくようなインターンシップ」。
 ※4：「個別の職種等を限定した採用」は2022年度調査より新たに設けた項目である。

第三章 インターンシップと呼称されるものについて

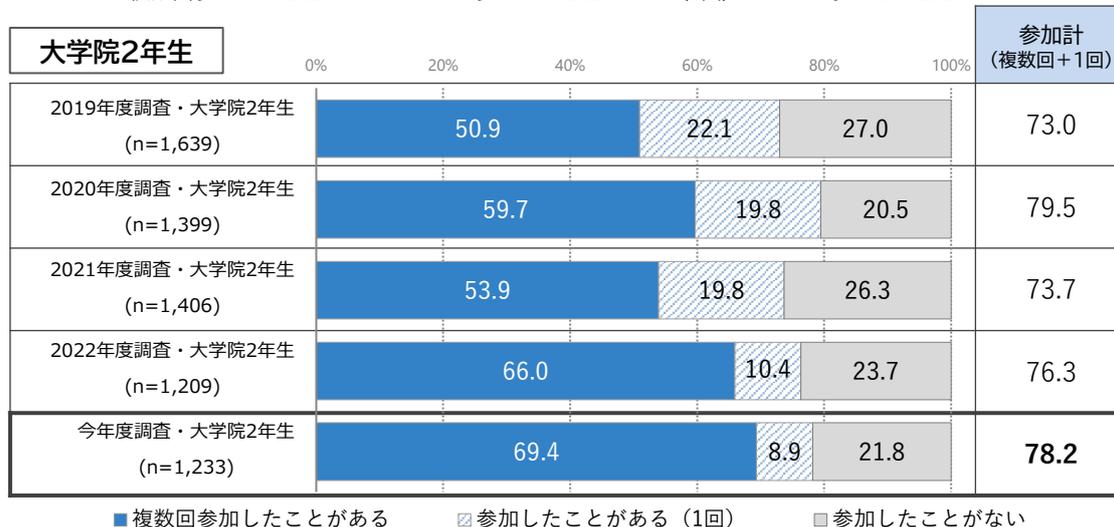
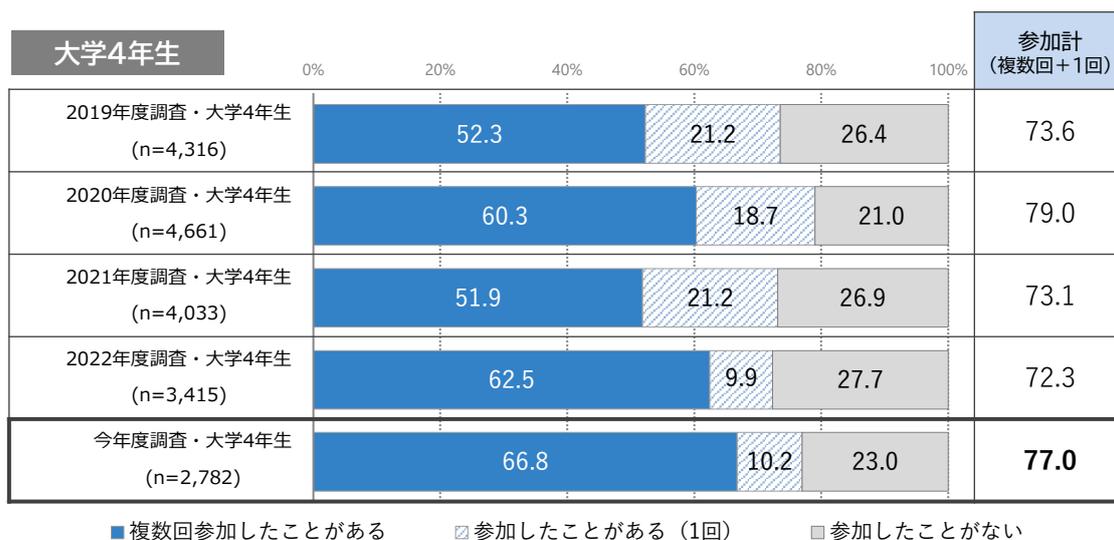
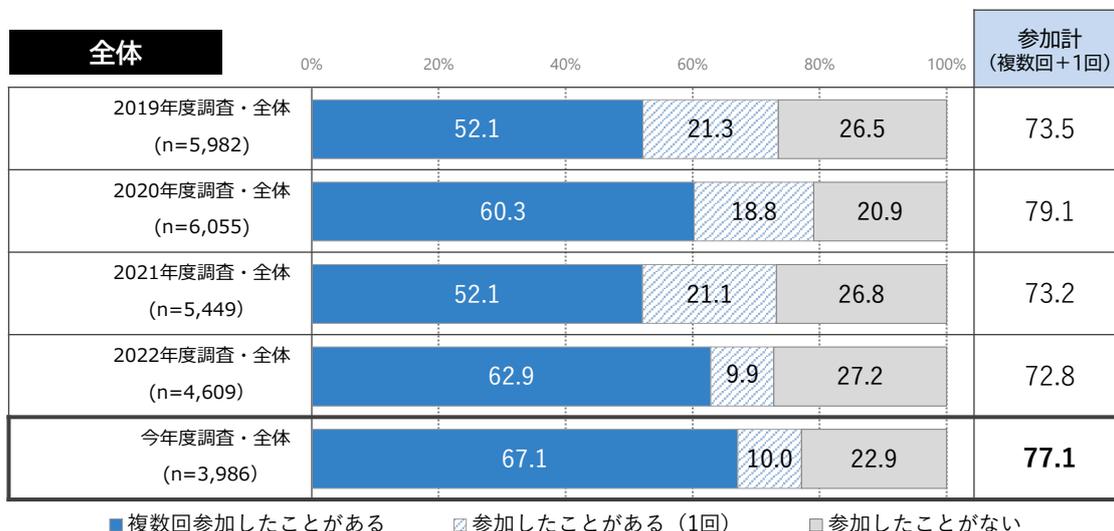
第三章 インターンシップと呼称されるものについて

(1) インターンシップと呼称されるものへの参加状況

①参加の有無

インターンシップと呼称されるもの※1への参加経験について※2、約8割が「参加したことがある」と回答している。なお、約7割が「複数回参加したことがある」と回答している。

過年度調査と比較すると、今年度調査は「複数回参加したことがある」と回答した割合について、過去5年で最も高くなっている。



※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。
 ※2：2022年度調査より、インターンシップに参加したことがある「日数（半日、1日など）」に対して参加有無を答えてもらい、全ての「日数」に対して「参加していない」と回答した人を「参加したことがない」として処理している。

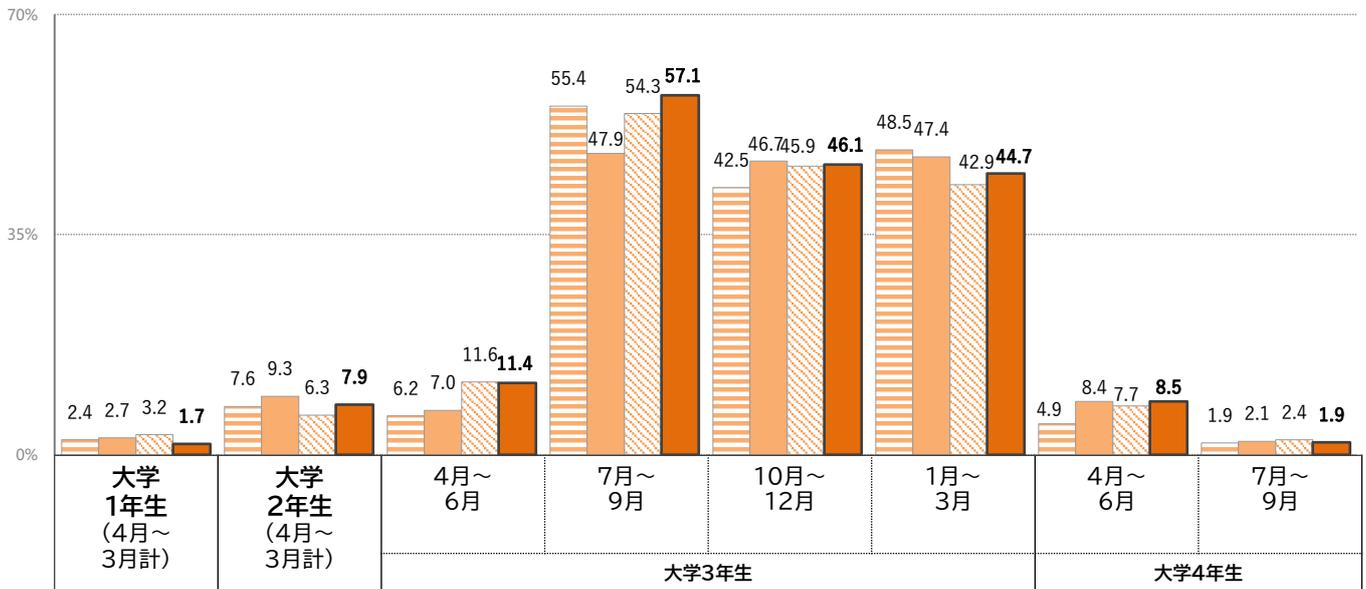
②参加時期

インターンシップと呼称されるもの※1への参加の時期について※2、大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」が約6割と最も高く、次いで「10～12月」が約5割、「1月～3月」が約4割と高くなっている。

2022年度調査と比較すると、大学3年生・大学院1年生の「7月～9月」において、インターンシップと呼称されるものに参加したと回答した割合が高くなっており、特に大学院1年生で高くなっている。

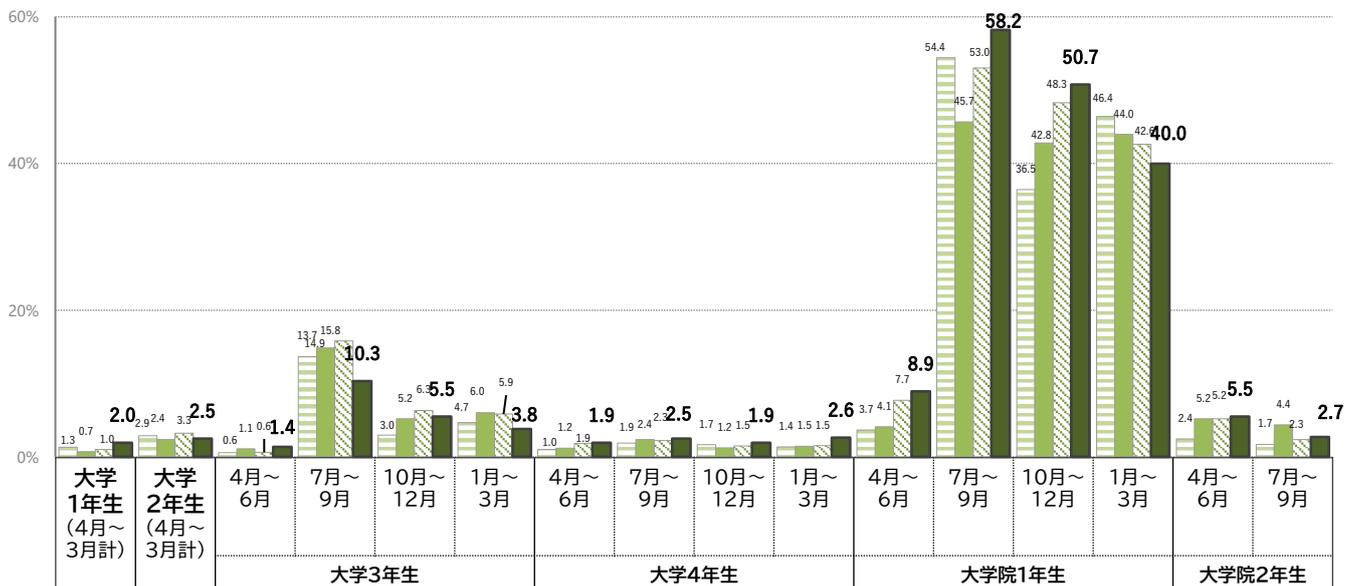
大学4年生

■ 2020年度調査・大学4年生(n=4,661) ■ 2021年度調査・大学4年生(n=4,033)
■ 2022年度調査・大学4年生(n=3,415) ■ 今年度調査・大学4年生(n=2,784)



大学院2年生

■ 2020年度調査・大学院2年生(n=1,399) ■ 2021年度調査・大学院2年生(n=1,408)
■ 2022年度調査・大学院2年生(n=1,209) ■ 今年度調査・大学院2年生(n=1,233)

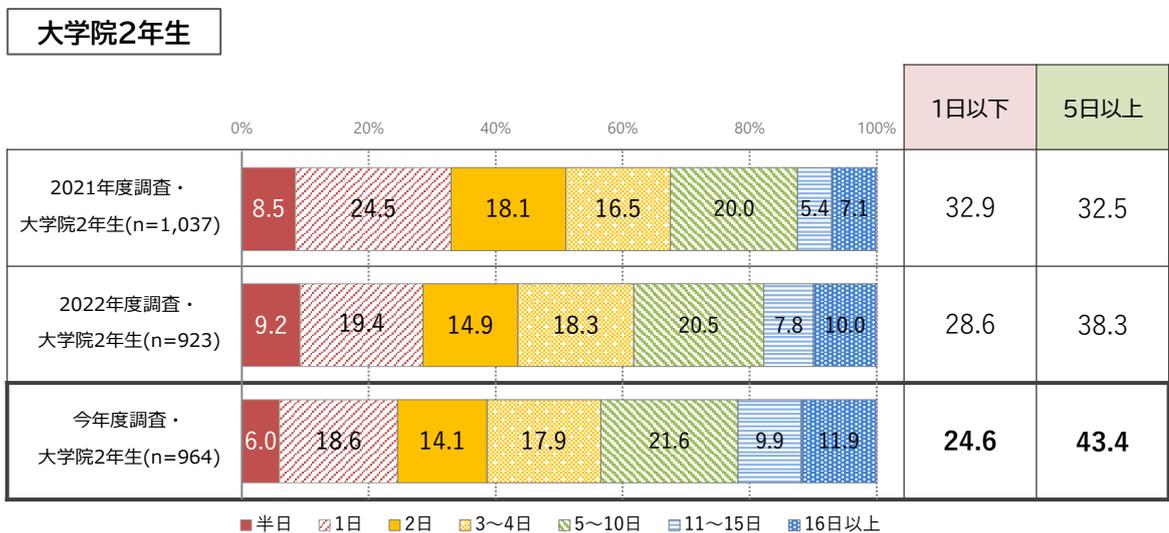
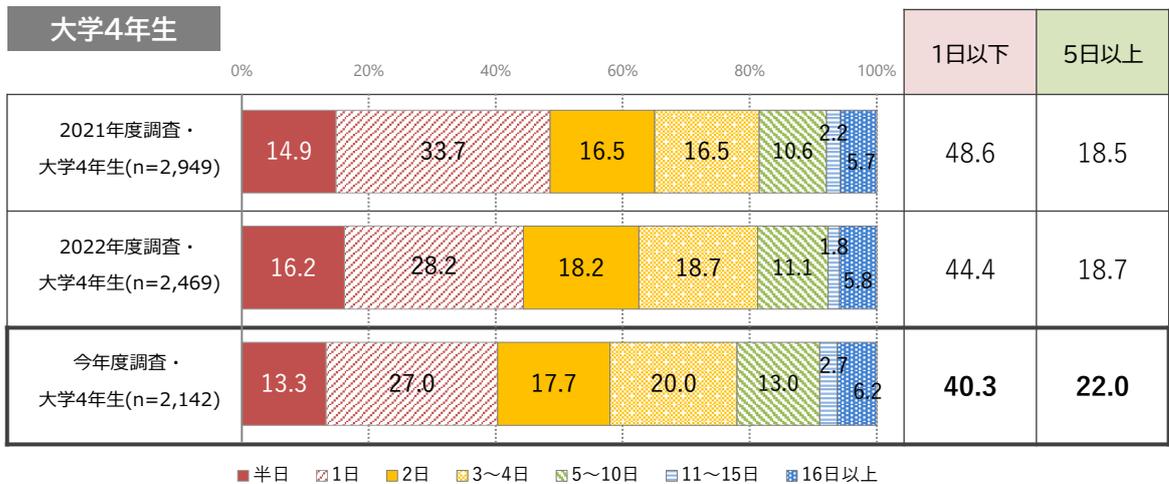


※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。
 ※2：ここでの集計対象（母数）には、「就職活動を行ったもの」を対象としているが、インターンシップと呼称されるものに参加しなかった者も含む。

③参加日数(最長の日数)

参加したインターンシップと呼称されるもの※1のうち、最長の日数のものについて集計したところ、「1日」の回答割合が約3割で最も高くなっている。なお、「5日以上」の回答は約2割であった。

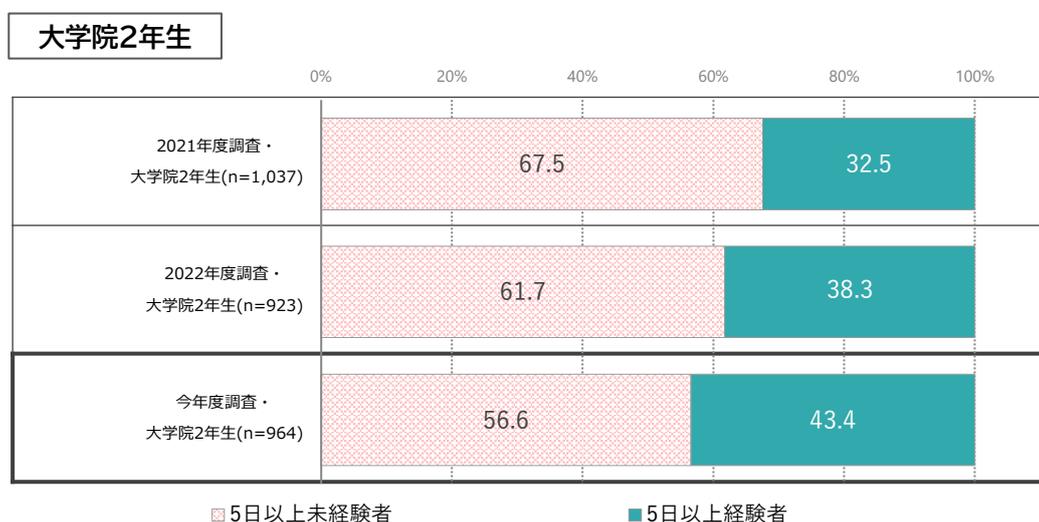
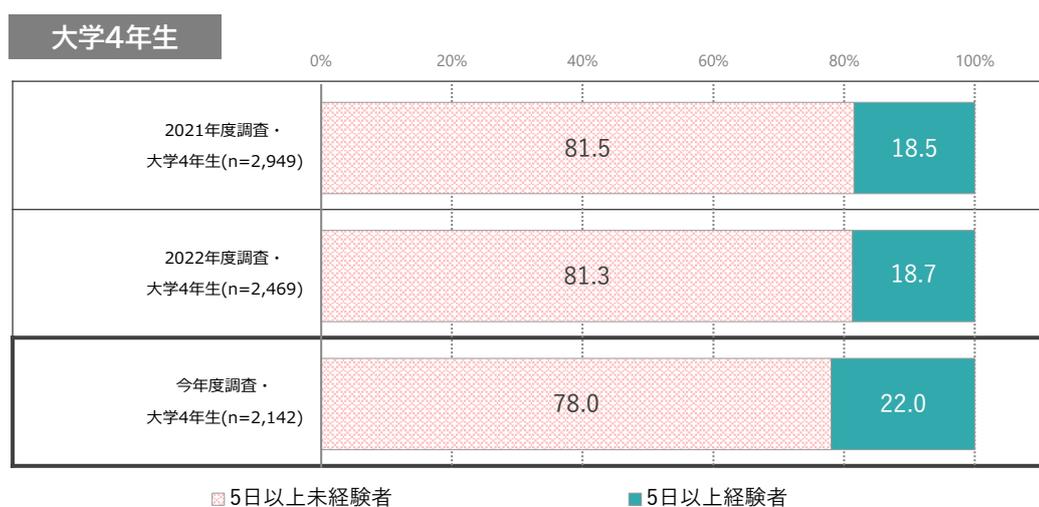
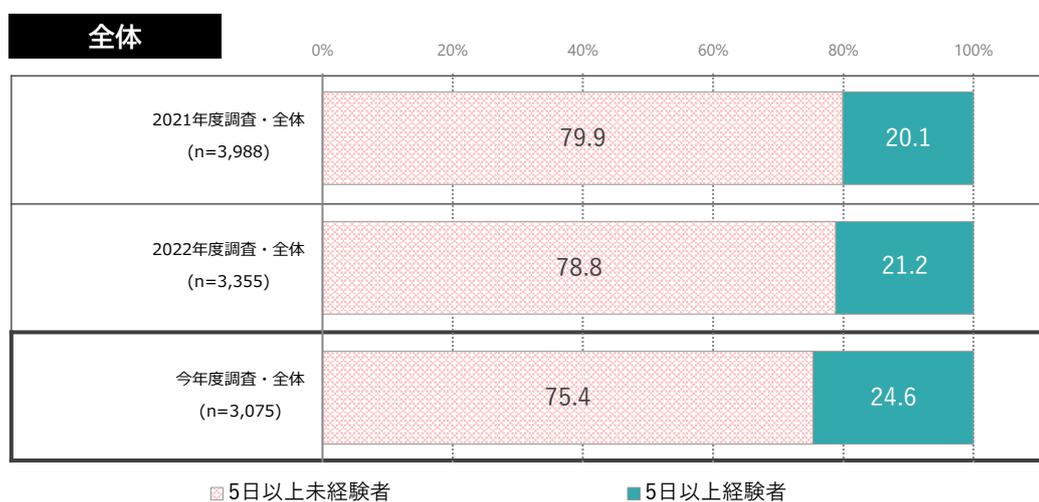
過年度調査と比較すると、今年度調査では「1日以下」を最長とする割合は減少傾向にあるが、依然として全体の4割程度を占めている。



※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

④5日以上のインターンシップと呼称されるものの参加状況

すべてのインターンシップと呼称されるもの※1の参加回数のうち、半日間又は1日間のインターンシップの参加回数が占める割合は、全体の約8割であった。この割合は、2022年度調査とほぼ同様となっている。



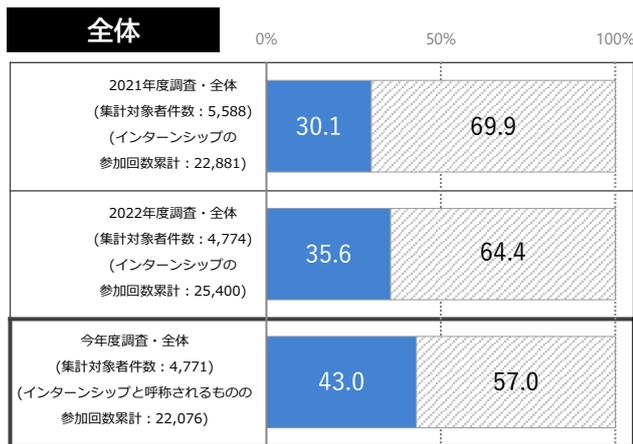
※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

⑤参加したインターンシップと呼称されるものの就業体験等との関係

参加したインターンシップと呼称されるもの※1のなかで、就業体験等※2を伴っていたかどうかを集計すると、「半日間・1日間のインターンシップと呼称されるもの」に関して、就業体験を伴うものだった割合は約4割であり、「5日間以上のインターンシップと呼称されるもの」に関しては、約8割となっている。

「就業体験等を伴うものだった」の回答割合を2022年度調査と比較すると、「半日間・1日間のインターンシップと呼称されるもの」、「5日間以上のインターンシップと呼称されるもの」のどちらも高くなっている。

半日間・1日間のインターンシップと呼称されるもの



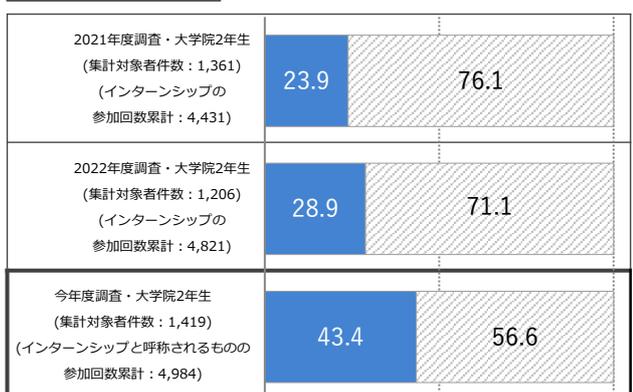
■ 就業体験等を伴うものだった
 ☒ 就業体験等を伴うものではなかった

大学4年生



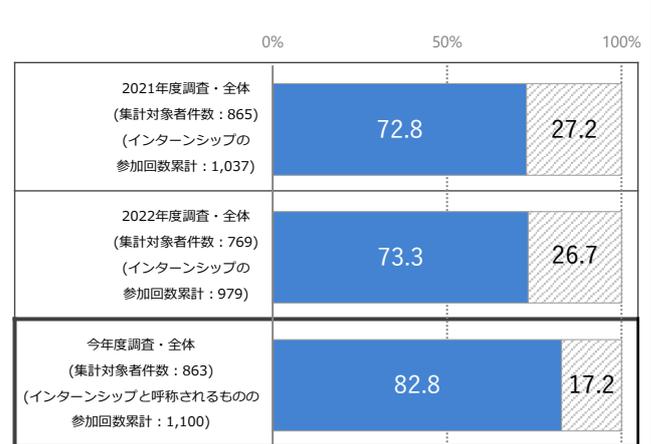
■ 就業体験等を伴うものだった
 ☒ 就業体験等を伴うものではなかった

大学院2年生

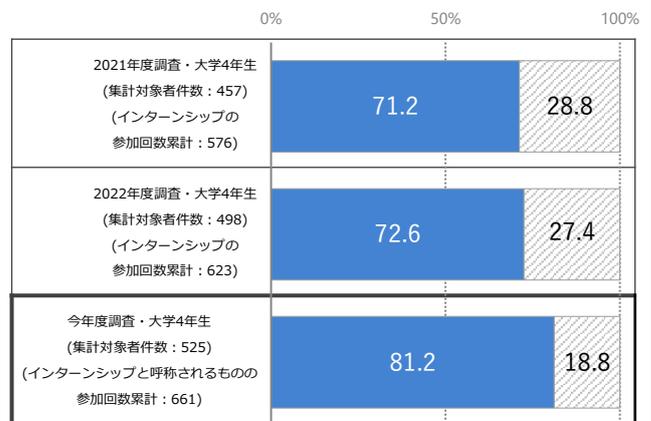


■ 就業体験等を伴うものだった
 ☒ 就業体験等を伴うものではなかった

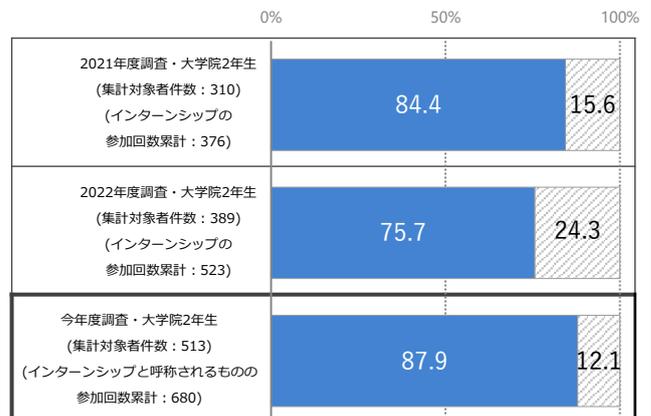
5日間以上のインターンシップと呼称されるもの



■ 就業体験等を伴うものだった
 ☒ 就業体験等を伴うものではなかった



■ 就業体験等を伴うものだった
 ☒ 就業体験等を伴うものではなかった



■ 就業体験等を伴うものだった
 ☒ 就業体験等を伴うものではなかった

※1: 今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。
 ※2: 就業体験とは、企業の業務内容の説明や職場見学のみのもは含まない旨、回答者に案内した上で調査を行った。

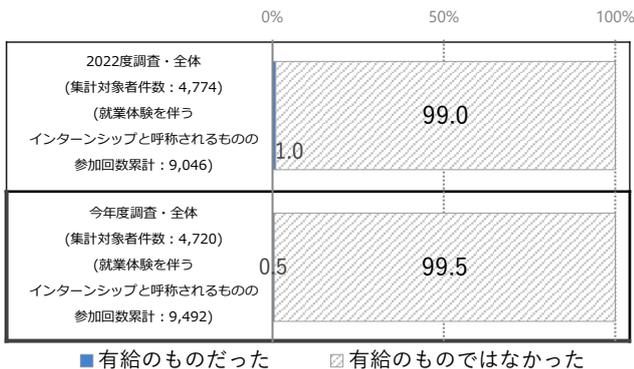
⑥就業体験を伴ったインターンシップと呼称されるものが有給であったかどうか

就業体験を伴ったインターンシップと呼称されるもの※1のなかで、有給であったものを集計すると、「半日間・1日間のインターンシップと呼称されるもの」に関して、有給のものだった割合は0.5%であり、「5日間以上のインターンシップと呼称されるもの」に関しては、34%となっている。

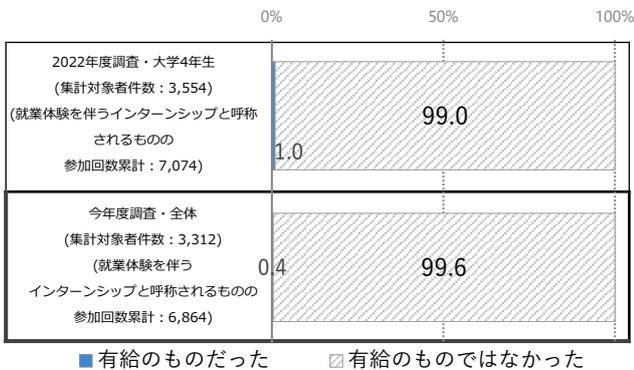
2022年度調査と比較すると、「半日間・1日間」「5日以上」ともに、ほぼ同様の結果となっている。

半日間・1日間のインターンシップと呼称されるもの

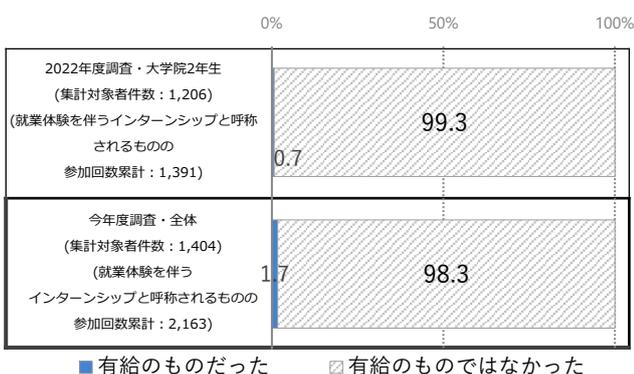
全体



大学4年生

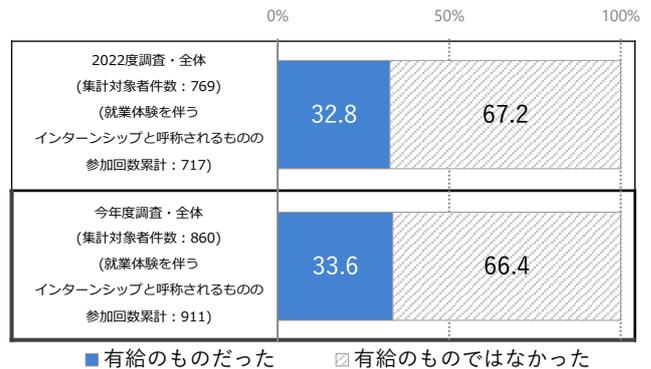


大学院2年生

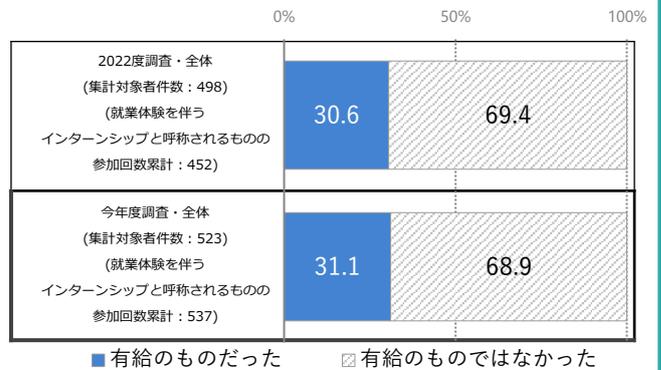


5日間以上のインターンシップと呼称されるもの

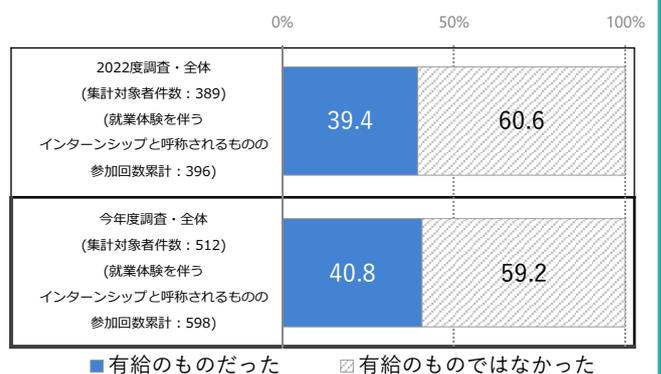
全体



大学4年生



大学院2年生

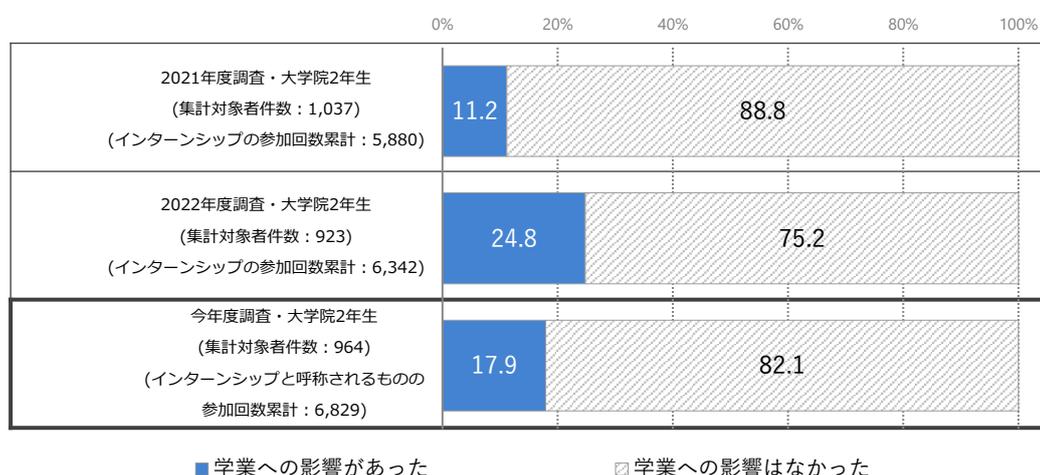
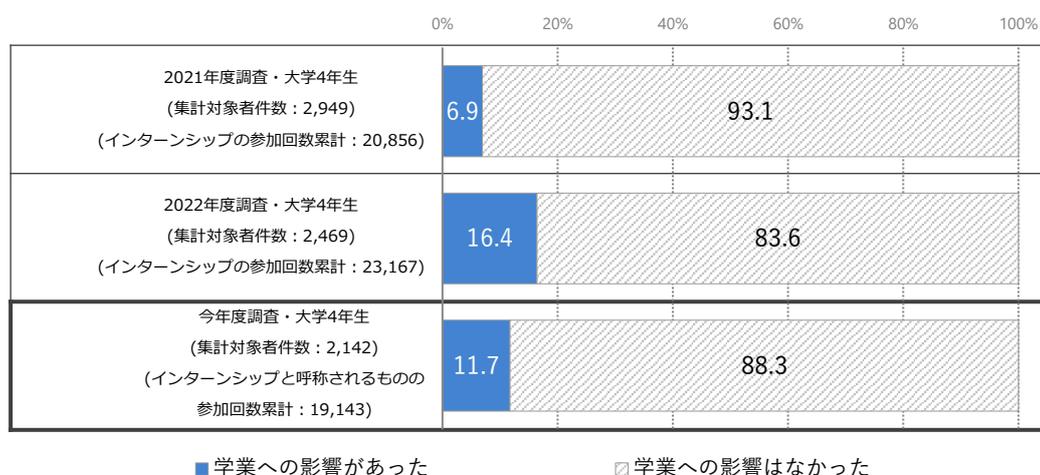
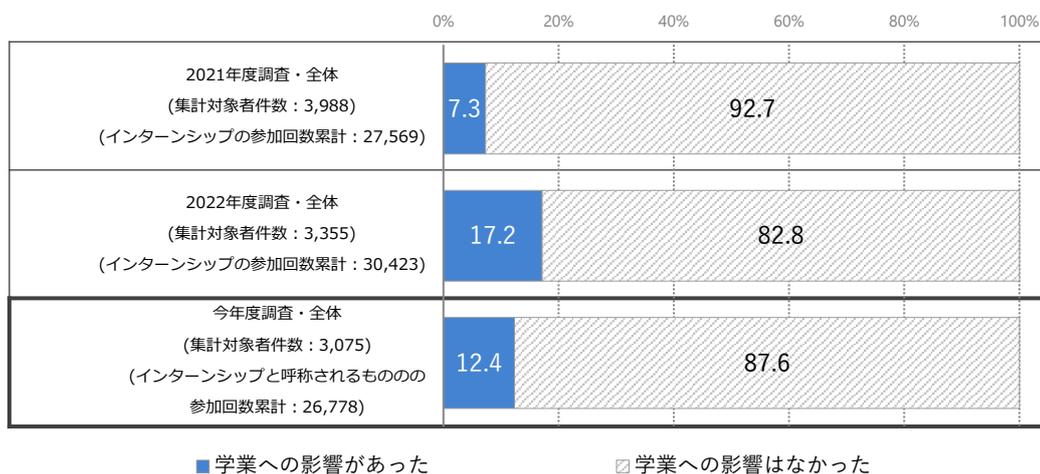


※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。
 ※2：有給のものとは、企業の業務内容の説明や職場見学のみのもは含まない旨、回答者に案内した上で調査を行った。その上で、就業体験を伴ったインターンシップと呼称されるものうち、有給のものが何件あったかで割合を算出している。

⑦参加したインターンシップと呼称されるものの学業(授業)への影響

参加したインターンシップと呼称されるもの※1のなかで、学業への影響※2があったかどうかを集計すると、約1割が「学業への影響があった」とした。

2022年度調査と比較すると、「学業への影響があった」とする回答割合が減少した。



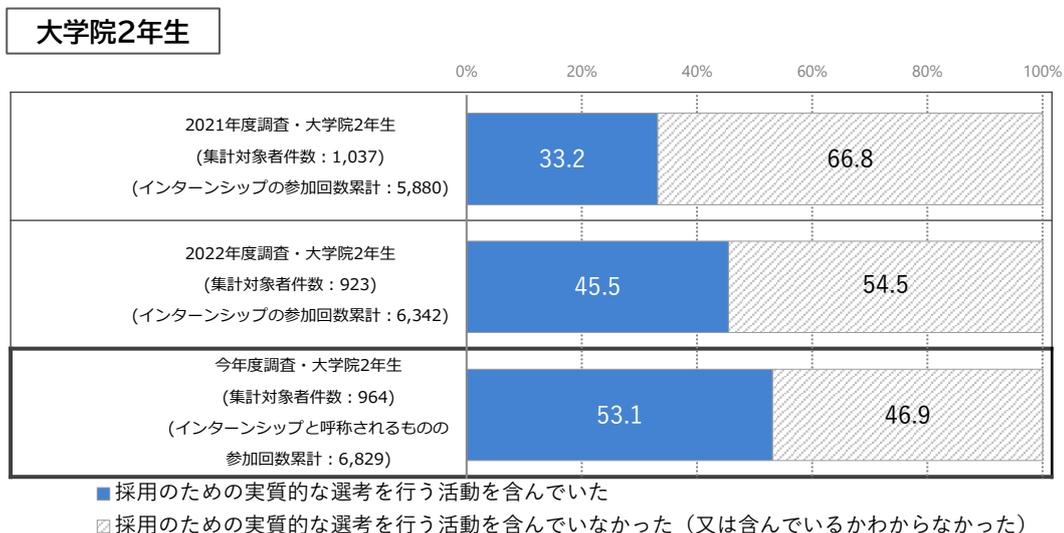
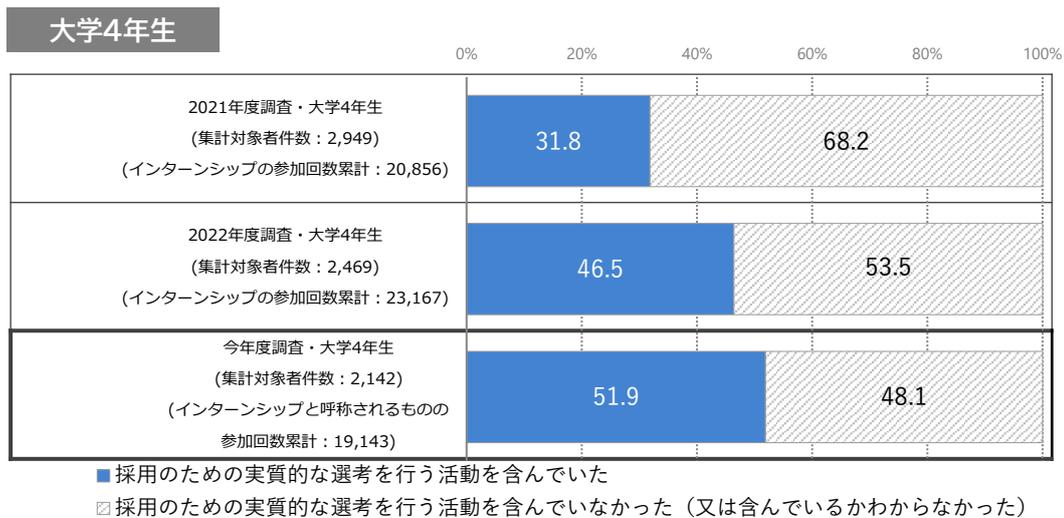
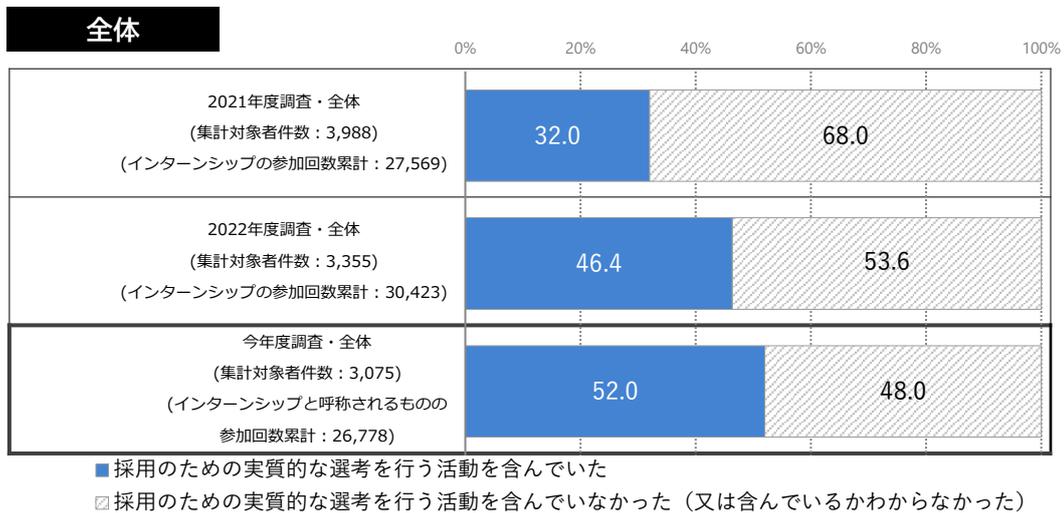
※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

※2：「学業への影響」とは、授業の欠席を伴ったものなど、具体的に影響があったものについて考えていただくよう、回答者に案内した上で調査を行った。

⑧インターンシップと呼称されるものにおける実質的な選考・採用実施の有無

参加したインターンシップと呼称されるもの※1のなかで、採用のための実質的な選考を行う活動※2を含んでいたかどうかを集計すると約5割が実質的な選考を行う活動を含むものであった。

2022年度調査と比較すると、採用のための実質的な選考を行う活動を含んでいたとする回答割合が増加した。



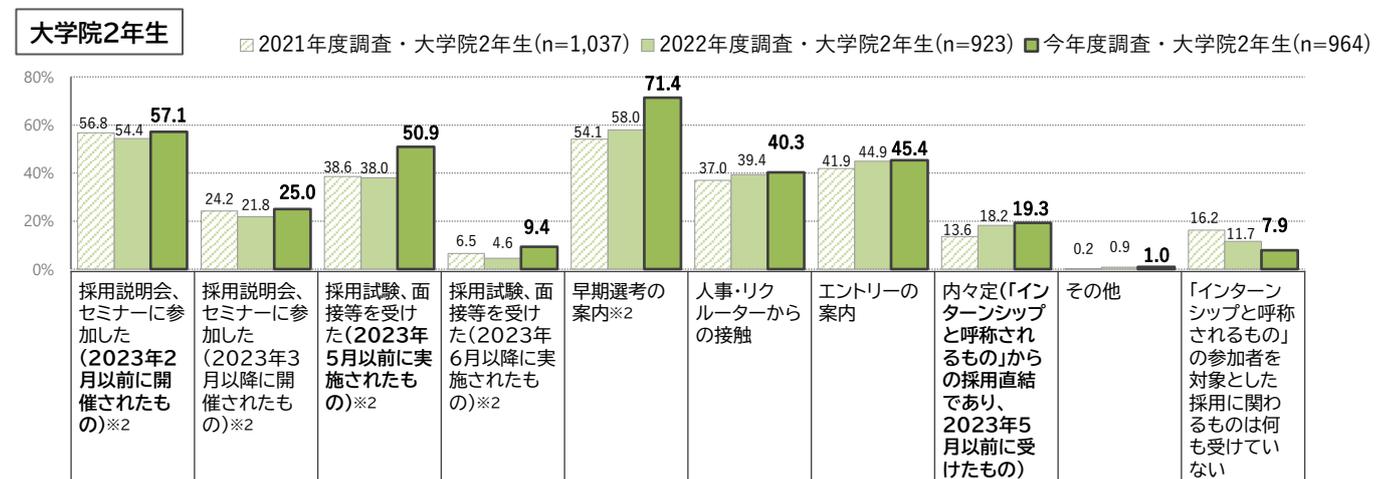
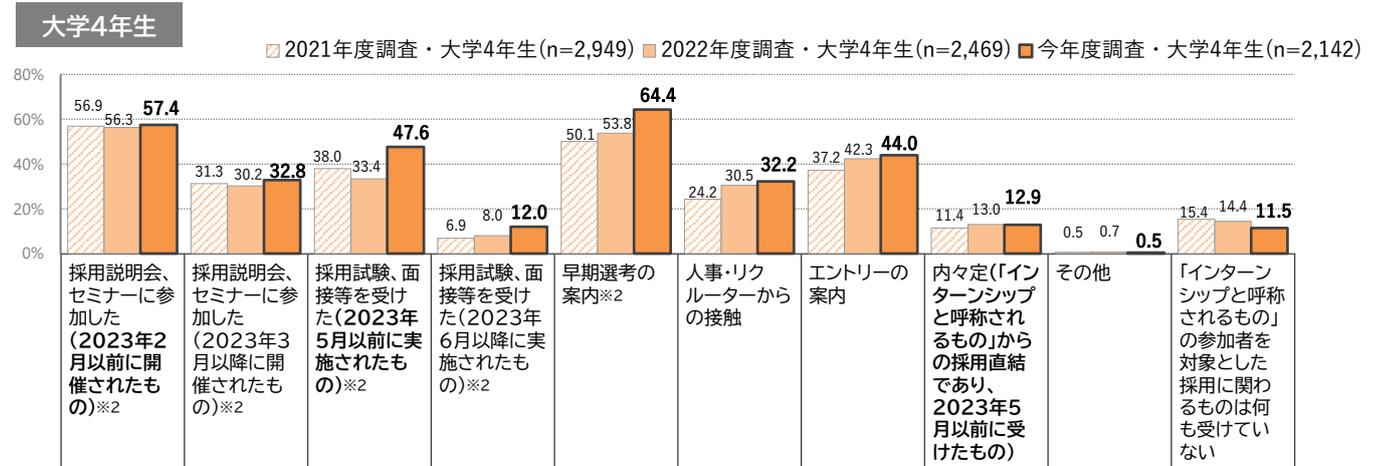
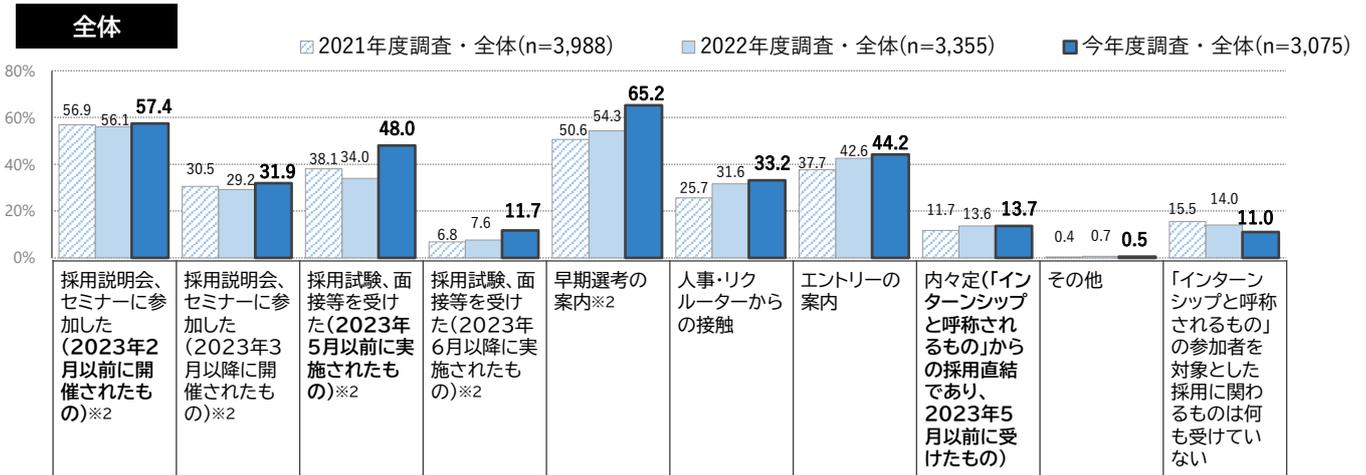
※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

※2：「採用のための実質的な選考を行う活動」とは、インターンシップと呼称されるものの参加が採用面接等を受けるための必須条件になっていたり、インターンシップと呼称されるものの結果が内々定の獲得に影響したりすることとして考えていただくよう、回答者に案内した上で調査を行った。

⑨インターンシップと呼称されるもの参加後に、参加者を対象としたアプローチを受けたか

インターンシップと呼称されるもの※1参加後に、参加者を対象とした採用説明会・採用面接等のアプローチを受けたかどうかを集計すると、「早期選考の案内」が約7割、「採用説明会・セミナーに参加した(2023年2月以前に開催されたもの)」が約6割、「エントリーの案内」が約4割となった。

過年度調査と比較すると、「早期選考の案内」が増加傾向にある。

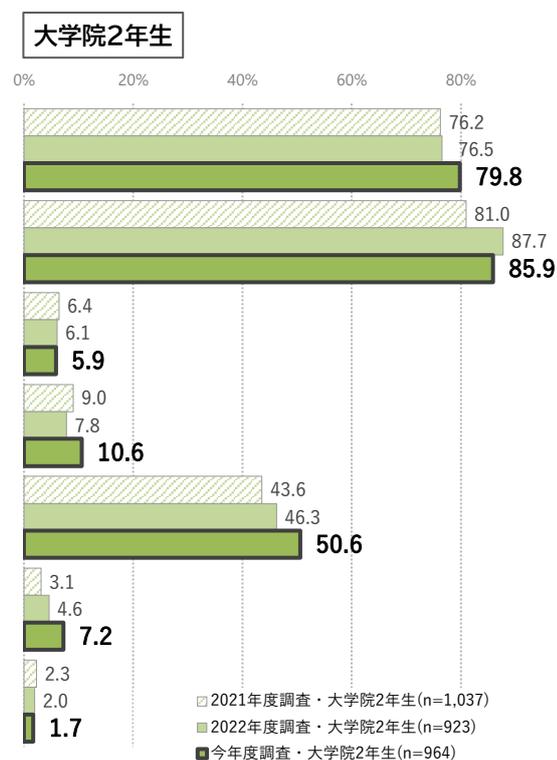
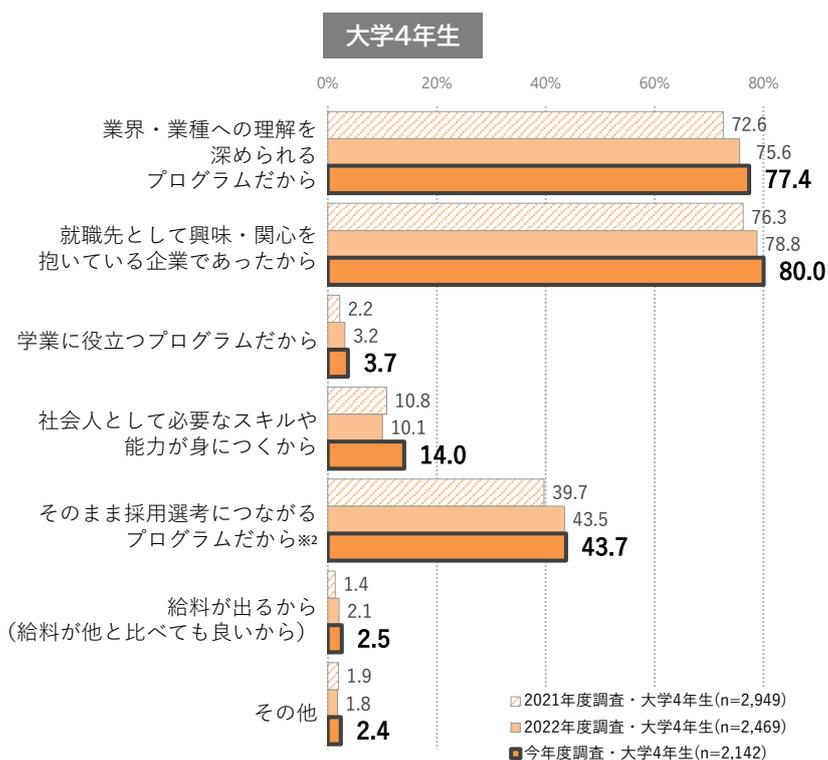
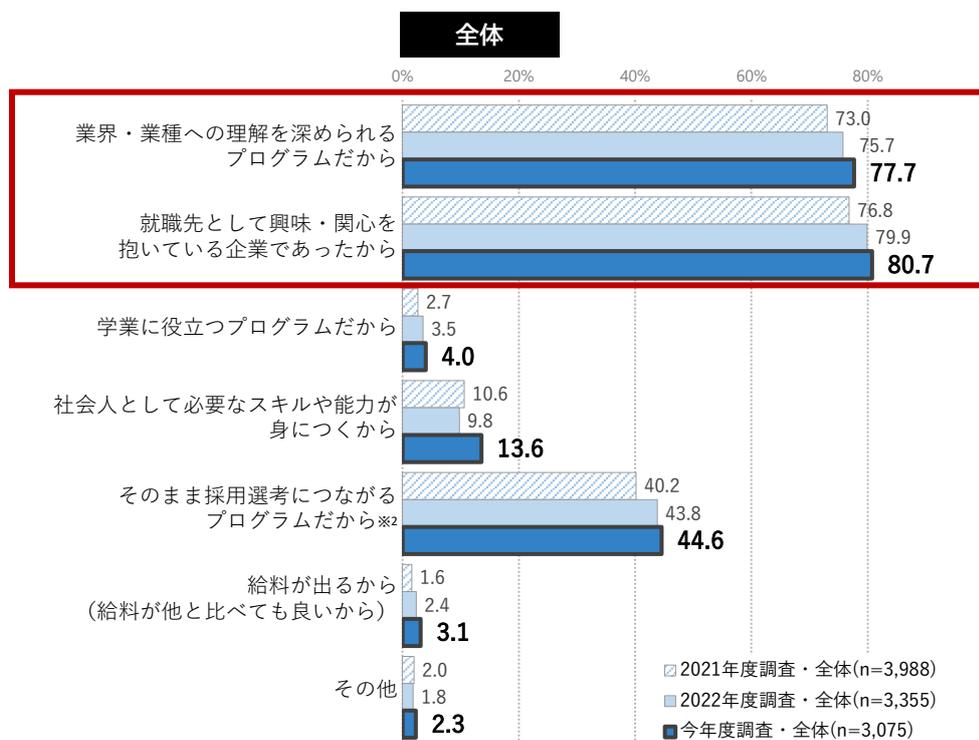


※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

※2：2022年度調査以前の選択肢は文頭に「インターンシップ参加者を対象とした」がついていたが、今年度調査から削除した。

⑩インターンシップと呼称されるもの参加基準・選択した理由

どのような基準で参加したインターンシップと呼称されるもの※1を選択したかについて、「就職先として興味・関心を抱いている企業であったから」「業界・業種への理解を深められるプログラムだから」が約8割、「そのまま採用選考につながるプログラムだから」の回答割合も約4割と比較的高く、いずれも過年度調査と比較して高まっている。



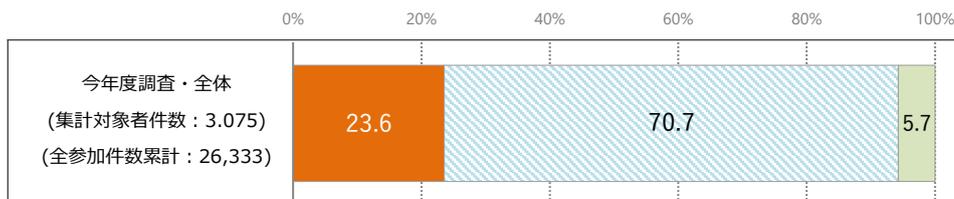
※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

※2：2022年度調査以前の選択肢は「採用選考につながるプログラムだから」。

⑩インターンシップと呼称されるものへの参加方法について

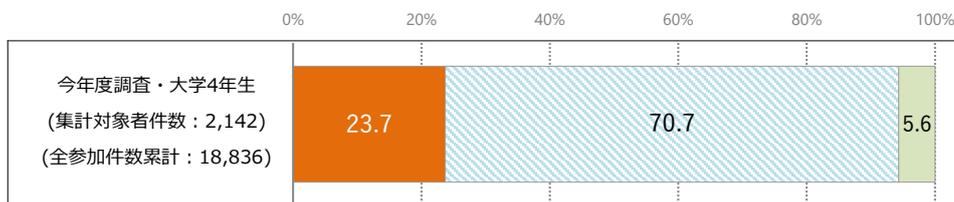
インターンシップと呼称されるもの※1への参加方法すべての企業数を累計※2し、実施方法別の企業数が占める割合を集計したところ、「ウェブ等のみでの実施」が最も多く約7割となっている。「対面のみでの参加」は約2割、「対面とウェブ等の両方での参加」は約1割。

全体



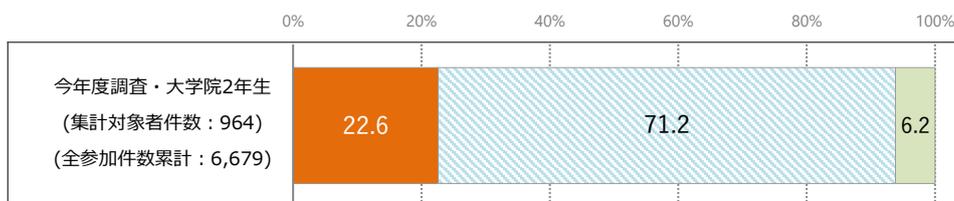
■ 対面のみでの参加 □ ウェブ等のみでの参加 ■ 対面とウェブ等の両方での参加

大学4年生



■ 対面のみでの参加 □ ウェブ等のみでの参加 ■ 対面とウェブ等の両方での参加

大学院2年生



■ 対面のみでの参加 □ ウェブ等のみでの参加 ■ 対面とウェブ等の両方での参加

※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

※2：調査においては、合計で何件のインターンシップと呼称されるものに参加したかを尋ねる設問と、対面での実施、ウェブ等での実施の方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「参加件数」と後者の「方法別で尋ねた参加件数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能ないように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

(2) インターンシップと呼称されるものの効果についての認識

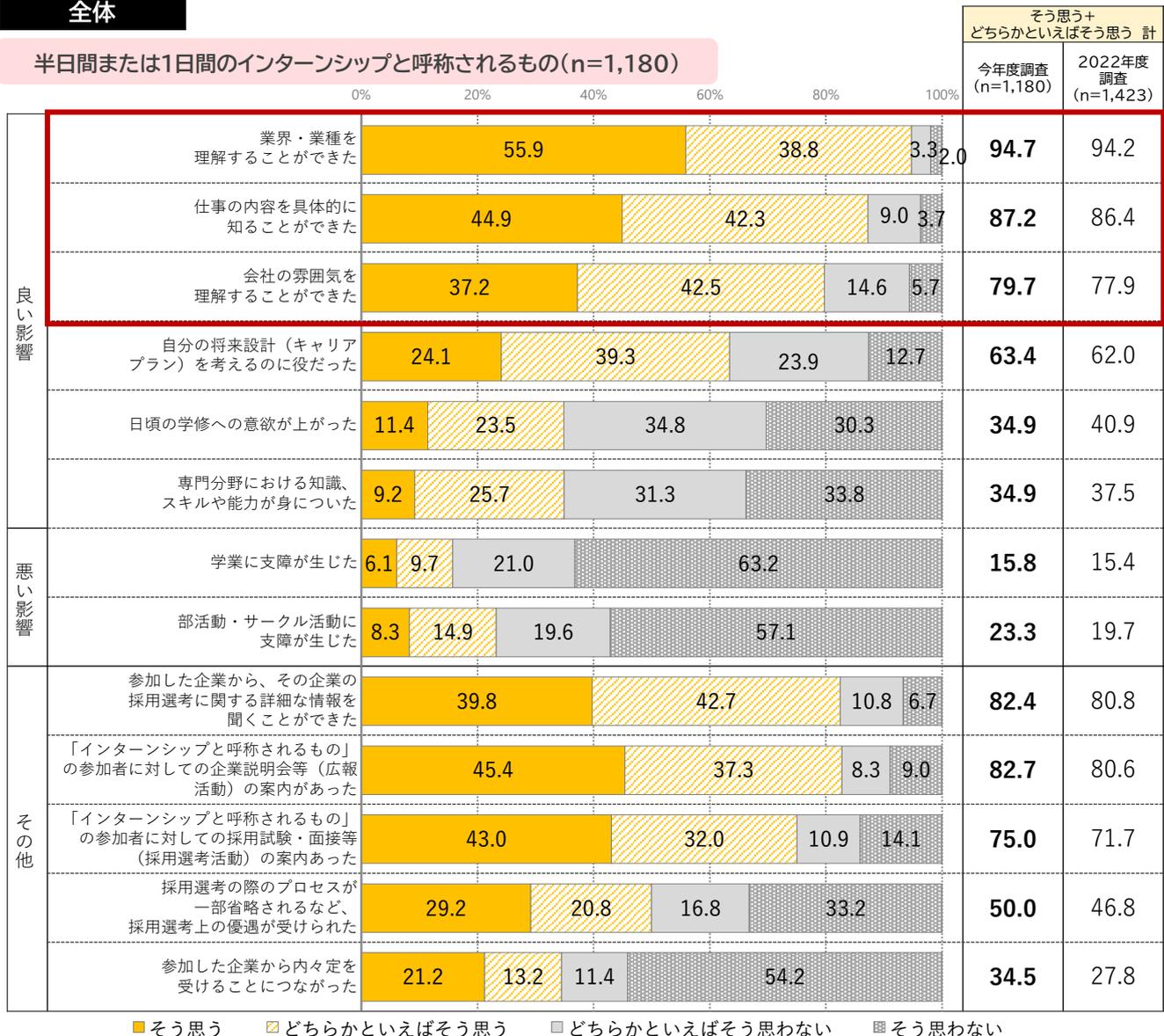
①インターンシップと呼称されるものに参加して感じた効果

インターンシップと呼称されるもの※1に参加してどのような効果があったと感じたかについて、参加したインターンシップと呼称されるものを日数別に集計すると※2、「半日または1日間のインターンシップと呼称されるもの」では、「業界・業種を理解することができた」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が9割以上、「仕事の内容を具体的に知ることができた」も約9割、「会社の雰囲気を理解することができた」も約8割と高くなっている。

2022年度調査と比較すると、「参加した企業から内々定を受ける事につながった」が高くなっている。一方、「日頃の学修への意欲が上がった」は低くなっている。

全体

半日または1日間のインターンシップと呼称されるもの(n=1,180)



※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

※2：「半日間は1日間のインターンシップと呼称されるもの」についての集計対象者は、参加したインターンシップと呼称されるもののうち最長が「半日」もしくは「1日間」に該当する者、「5日間以上のインターンシップと呼称されるもの」についての集計対象者は、参加したインターンシップと呼称されるもののうち最長が「5日間」以上に該当する者とした上で、「参加したうちの最も長いインターンシップと呼称されるものについて」答えてもらうよう設問を設定した。

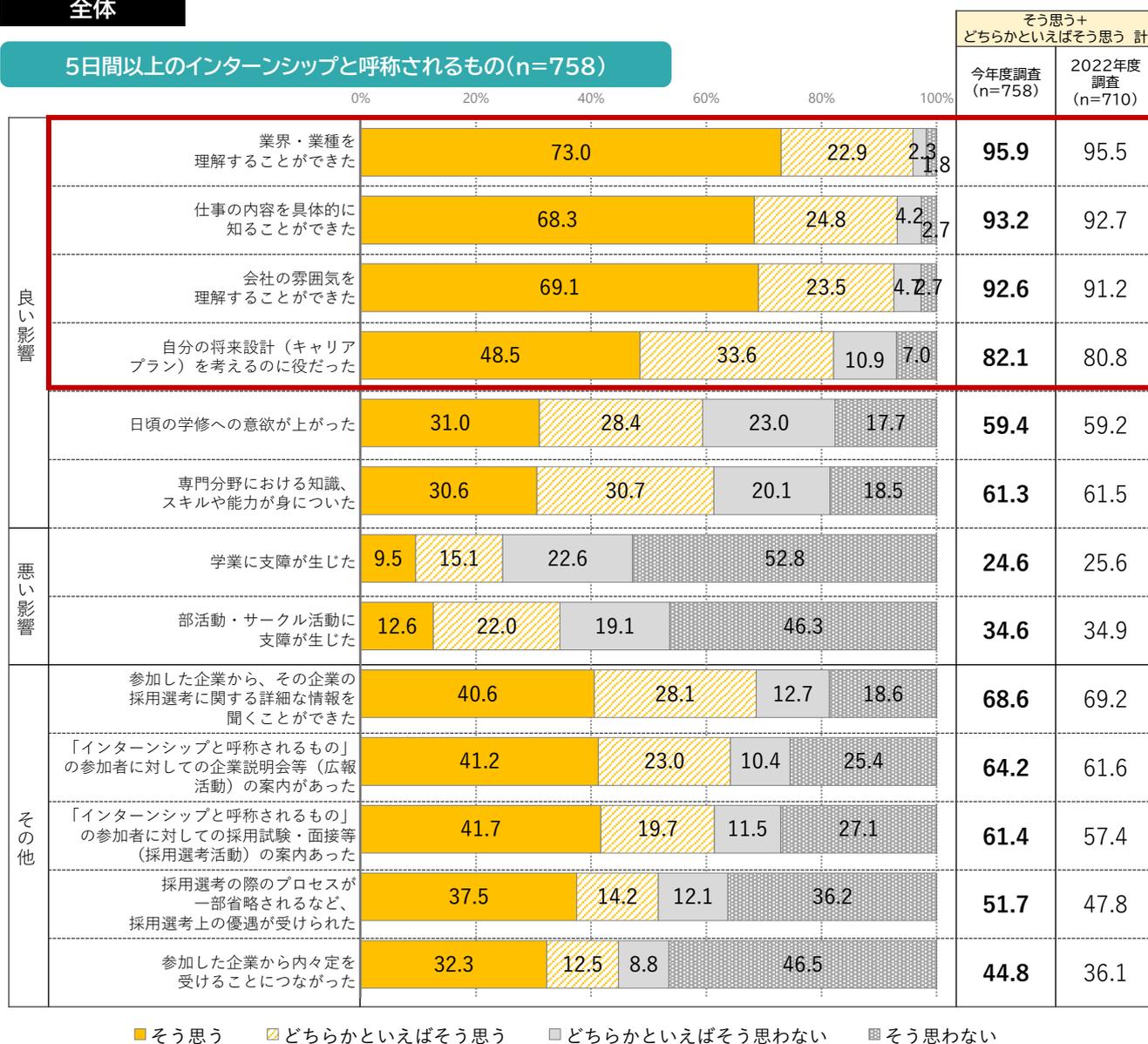
①インターンシップと呼称されるものに参加して感じた効果

「5日間以上のインターンシップと呼称されるもの※1」でも、「半日又は1日間のインターンシップと呼称されるもの」と同様に、「業界・業種を理解することができた」「仕事の内容を具体的に知ることができた」について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合が9割以上と高くなっている。さらに「会社の雰囲気を理解することができた」も約9割、「自分の将来設計を考えるのに役立った」も約8割と高い。

2022年度調査と比較すると、「参加した企業から内々定を受ける事につながった」が高くなっている。

全体

5日間以上のインターンシップと呼称されるもの(n=758)



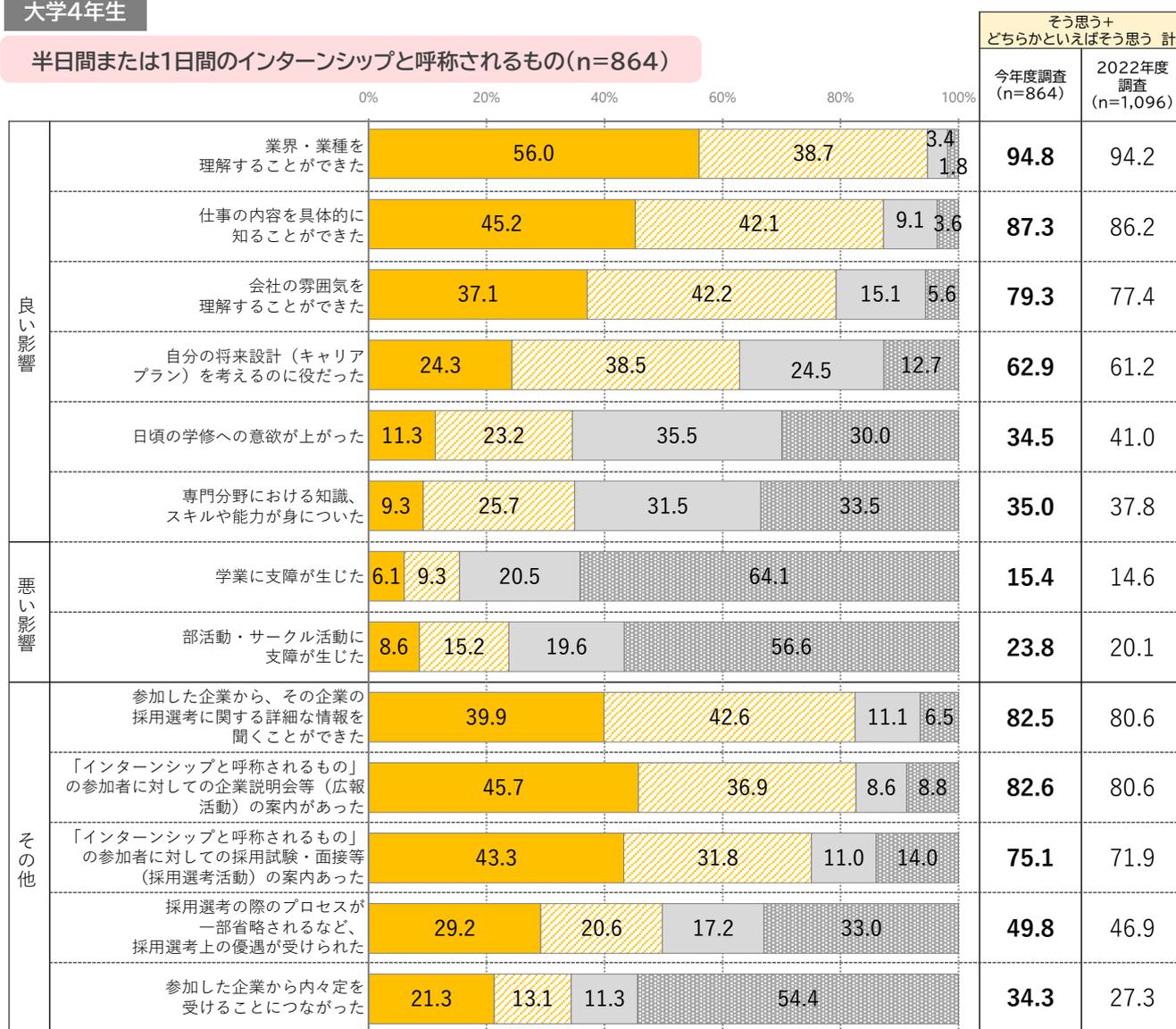
※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

※2：「半日間又は1日間のインターンシップと呼称されるもの」についての集計対象者は、参加したインターンシップと呼称されるもののうち最長が「半日」もしくは「1日間」に該当する者、「5日間以上のインターンシップと呼称されるもの」についての集計対象者は、参加したインターンシップと呼称されるもののうち最長が「5日間」以上に該当する者とした上で、「参加したうちの最も長いインターンシップと呼称されるものについて」答えてもらうよう設問を設定した。

①インターンシップと呼称されるものに参加して感じた効果

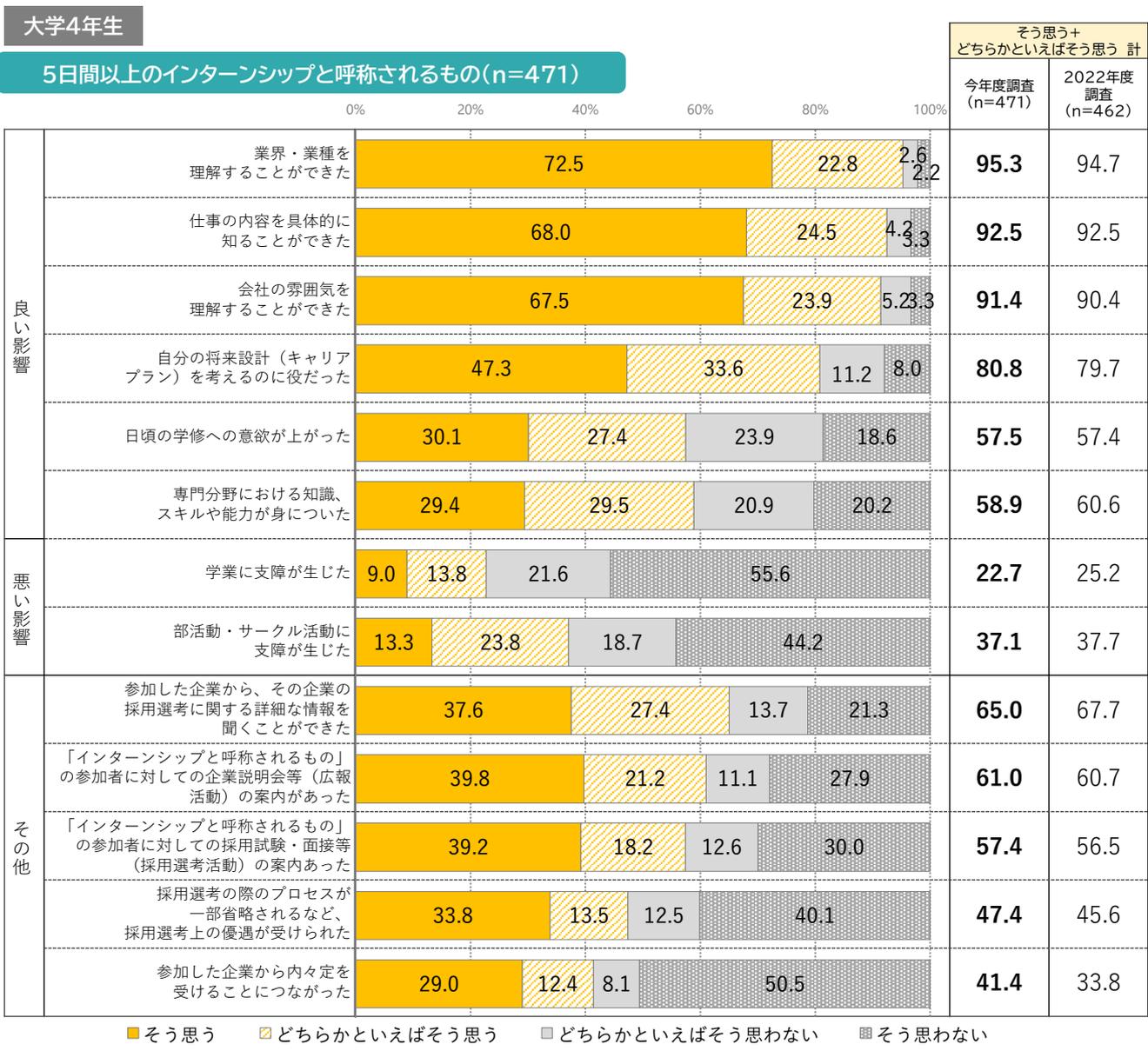
大学4年生

半日間または1日間のインターンシップと呼称されるもの(n=864)



■ そう思う ▨ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない

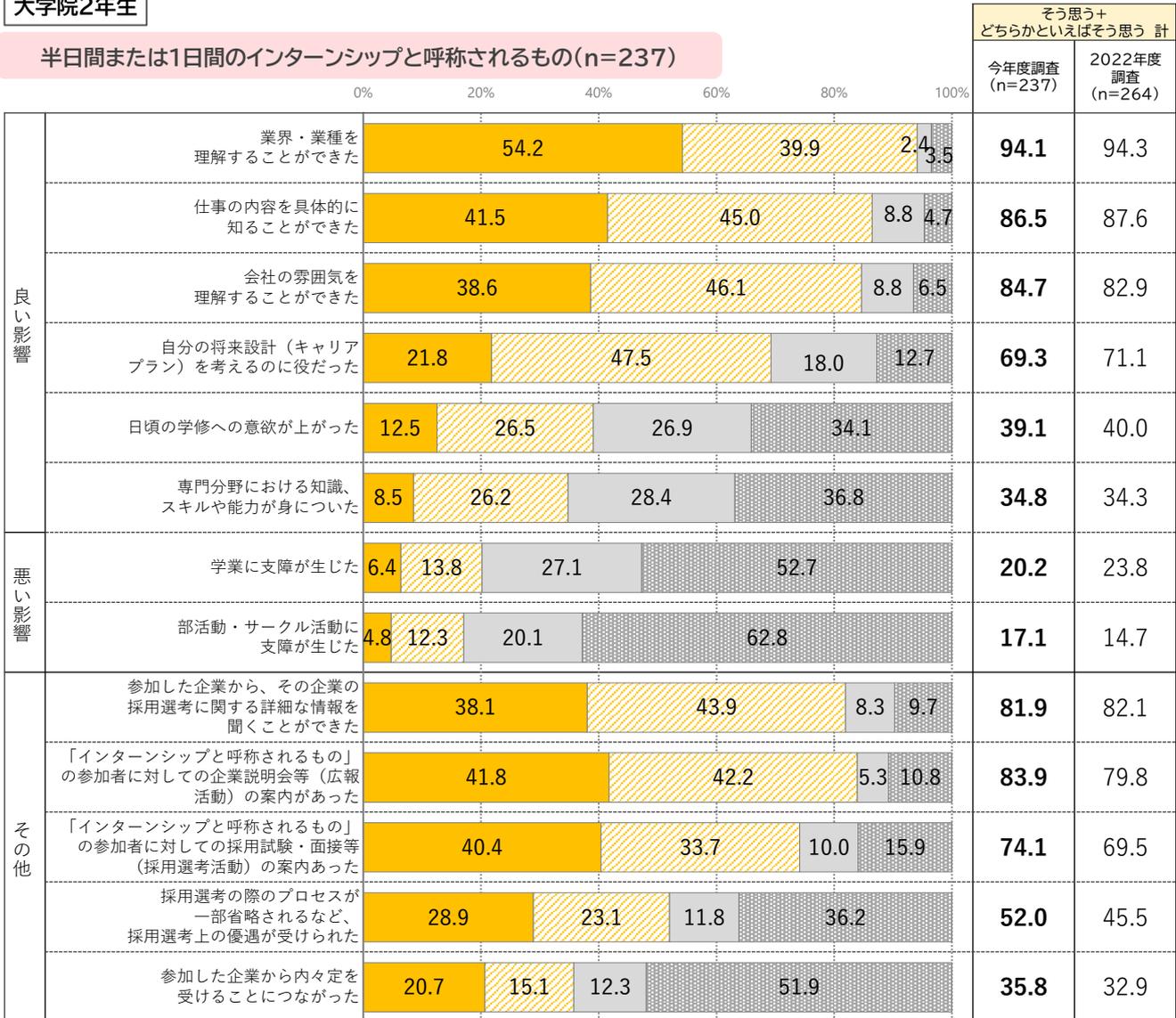
①インターンシップと呼称されるものに参加して感じた効果



①インターンシップと呼称されるものに参加して感じた効果

大学院2年生

半日間または1日間のインターンシップと呼称されるもの(n=237)

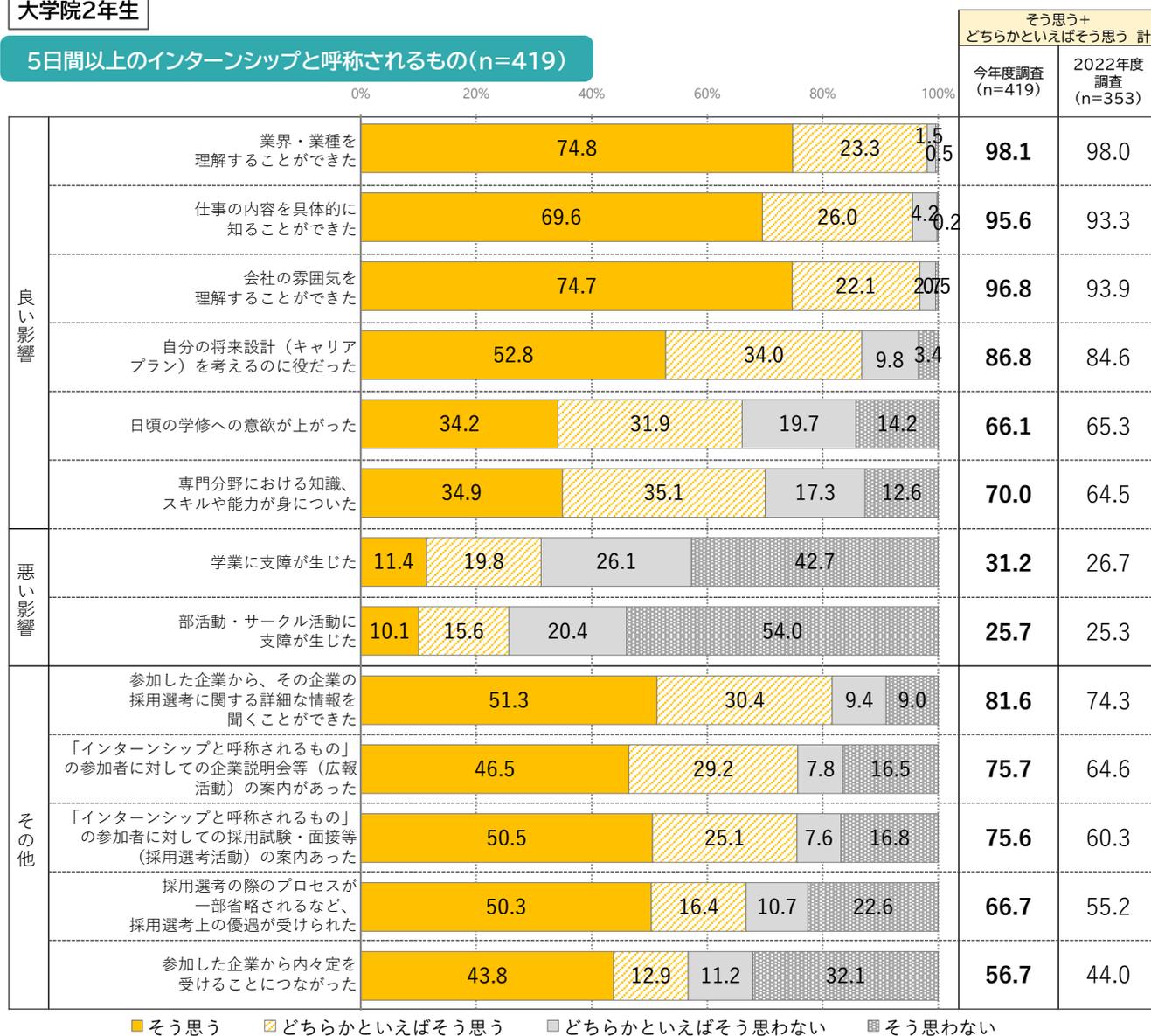


■ そう思う ▨ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない

①インターンシップと呼称されるものに参加して感じた効果

大学院2年生

5日間以上のインターンシップと呼称されるもの(n=419)



■ そう思う ▨ どちらかといえばそう思う □ どちらかといえばそう思わない ▩ そう思わない

②インターンシップと呼称されるものに参加して感じた効果の比較

インターンシップと呼称されるもの※1に参加してどのような効果があったと感じたかについて、参加したインターンシップと呼称されるもので最も長かった日数別に「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計値を比較した。「良い影響」「悪い影響」共に、「半日又は1日間のインターンシップと呼称されるもの」に比べ「5日以上インターンシップと呼称されるもの」の方が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答割合が高くなっている項目が多い※2。

全体

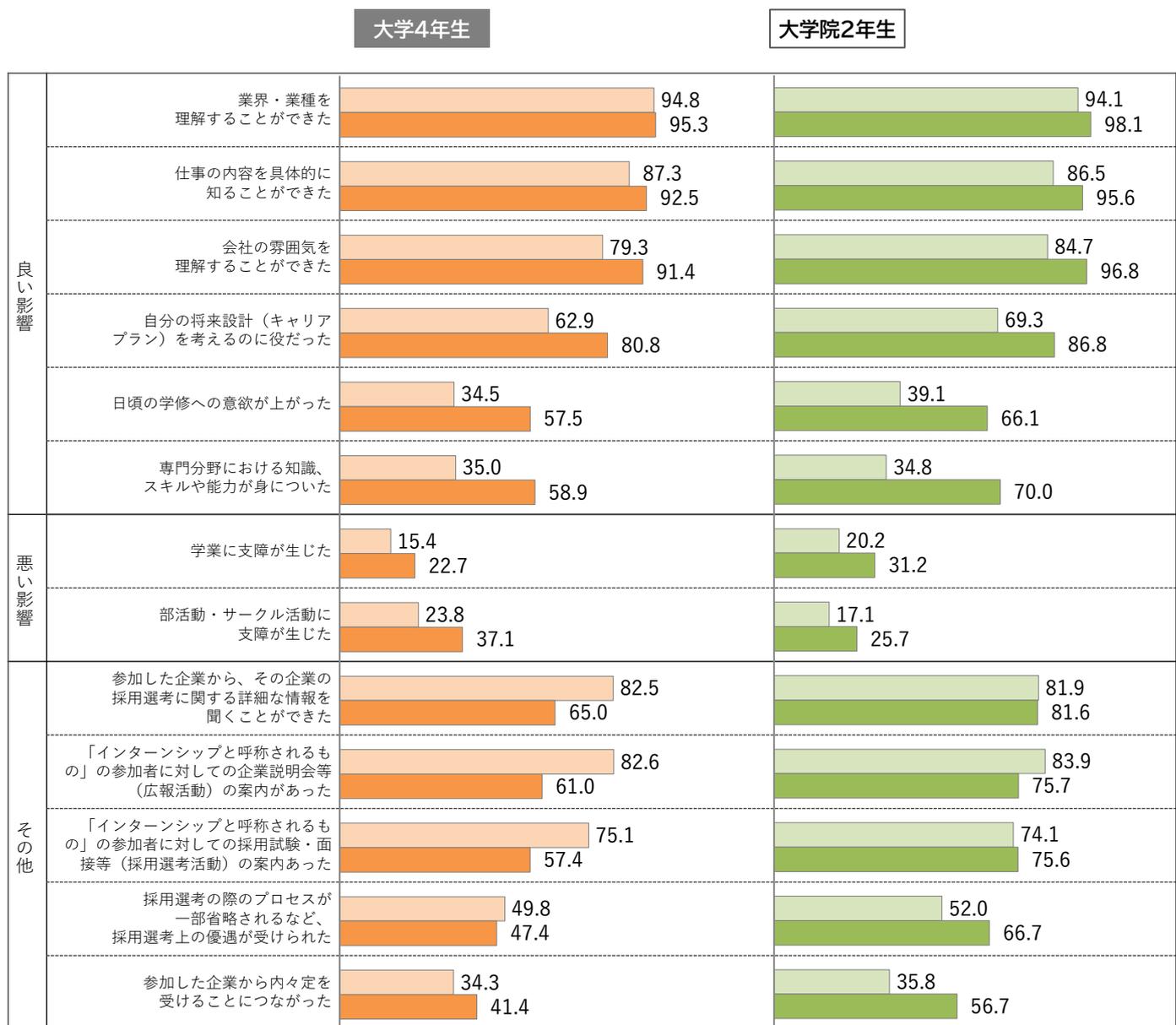
良い影響	業界・業種を理解することができた	94.7	95.9
	仕事の内容を具体的に知ることができた	87.2	93.2
	会社の雰囲気を理解することができた	79.7	92.6
	自分の将来設計（キャリアプラン）を考えるのに役だった	63.4	82.1
	日頃の学修への意欲が上がった	34.9	59.4
	専門分野における知識、スキルや能力が身についた	34.9	61.3
悪い影響	学業に支障が生じた	15.8	24.6
	部活動・サークル活動に支障が生じた	23.3	34.6
その他	参加した企業から、その企業の採用選考に関する詳細な情報を聞くことができた	82.4	68.6
	「インターンシップと呼称されるもの」の参加者に対する企業説明会等（広報活動）の案内があった	82.7	64.2
	「インターンシップと呼称されるもの」の参加者に対する採用試験・面接等（採用選考活動）の案内があった	75.0	61.4
	採用選考の際のプロセスが一部省略されるなど、採用選考上の優遇が受けられた	50.0	51.7
	参加した企業から内々定を受けることにつながった	34.5	44.8

■ 半日間または1日間のインターンシップと呼称されるもの（n=1,180）
 ■ 5日間以上のインターンシップと呼称されるもの（n=758）

※1：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと呼称されるもの」と提示した。

※2：「半日間又は1日間のインターンシップと呼称されるもの」についての集計対象者は、参加したインターンシップと呼称されるもののうち最長が「半日」もしくは「1日間」に該当する者、「5日間以上のインターンシップと呼称されるもの」についての集計対象者は、参加したインターンシップと呼称されるもののうち最長が「5日間」以上に該当する者とした上で、「参加したうちの最も長いインターンシップと呼称されるものについて」答えてもらうよう設問を設定した。

②インターンシップと呼称されるものに参加して感じた効果の比較



■ 半日間または1日間のインターンシップと呼称されるもの (n=864)

■ 5日間以上のインターンシップと呼称されるもの (n=471)

■ 半日間または1日間のインターンシップと呼称されるもの (n=237)

■ 5日間以上のインターンシップと呼称されるもの (n=419)

第四章 就職活動内容について

第四章 就職活動内容について

(1) 企業説明会やセミナー等の参加状況

①企業説明会やセミナー等の参加時期

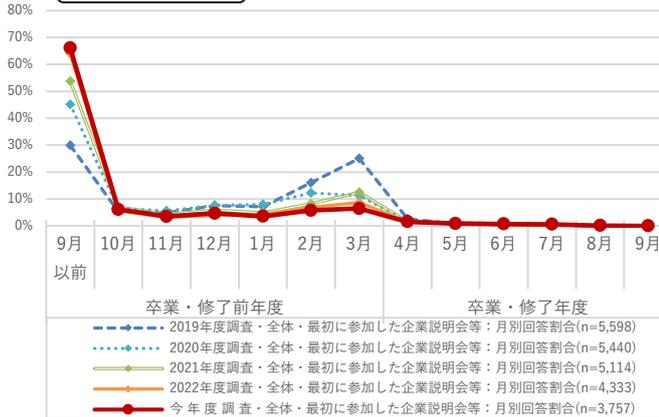
企業説明会やセミナー等について、「最初に参加した時期」は、広報活動開始時期前である「2022年9月以前」の回答割合が約6割と最も高くなっている※1。「参加のピーク」については、約3割が「2023年3月」と回答しており最も割合が高い※2。「最後に参加した時期」については、「2023年3月」の回答割合が約2割と最も高く、「2023年4月」「2023年5月」と続く。

過年度調査と比較すると、「最初」「ピーク」「最後」共に、少しずつ時期が早まっている。

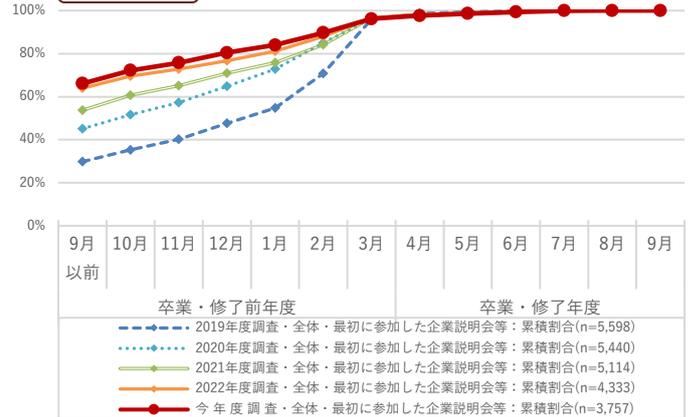
全体

最初に参加した時期

月別回答割合

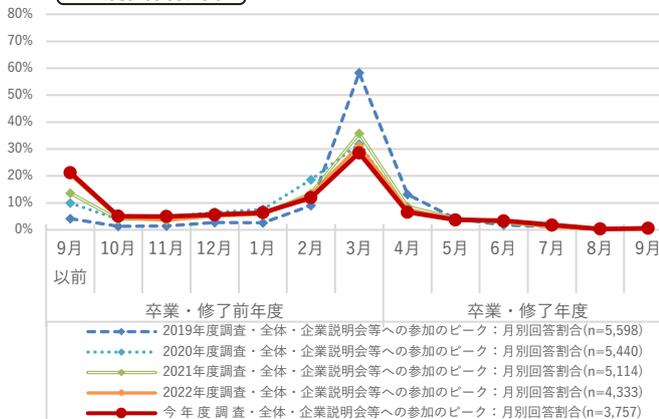


累計割合

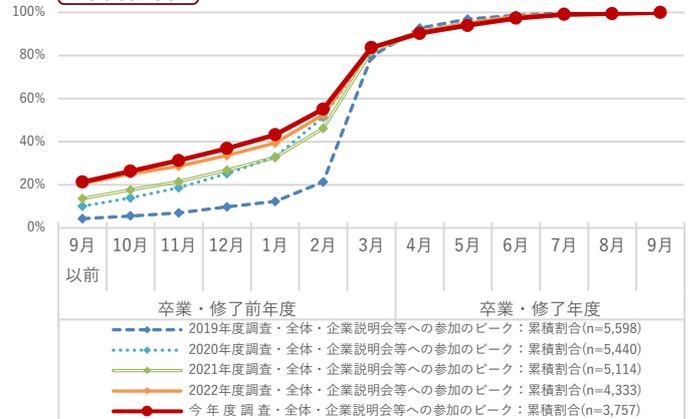


参加のピーク

月別回答割合

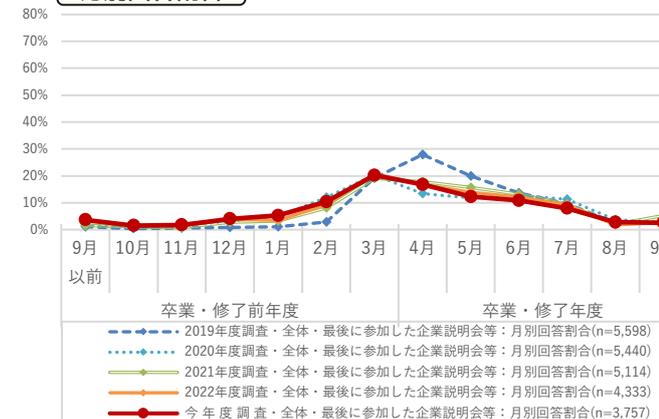


累計割合

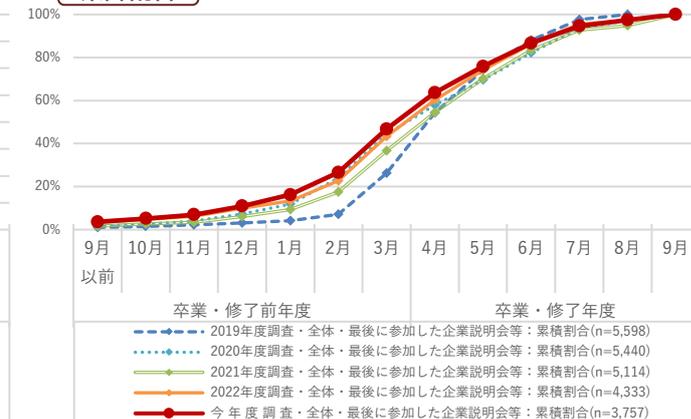


最後に参加した時期

月別回答割合



累計割合



※1：企業説明会やセミナー等に「特段参加しなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

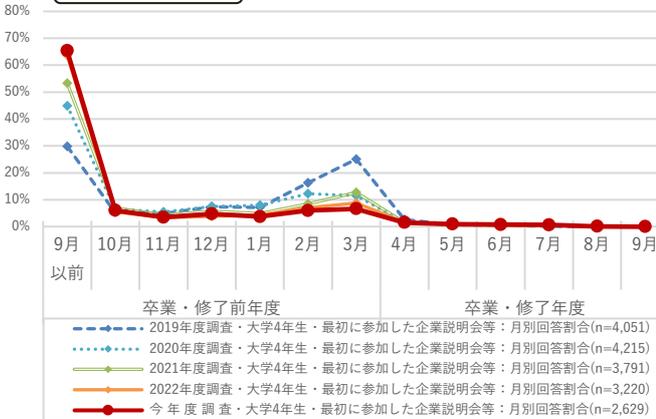
※2：「参加のピーク」および「最後に参加した時期」について、今年度調査では「2022年9月以降（予定）」を選択肢として設けているが、グラフ中では「卒業・修了年度9月」の値として示している（以降、就職活動の時期に関する調査項目について同様）。

①企業説明会やセミナー等の参加時期

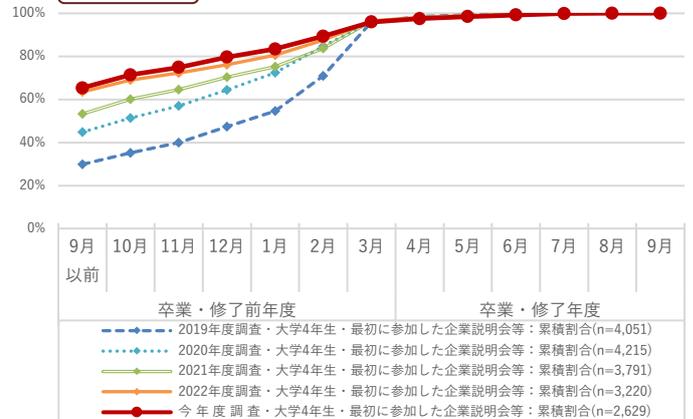
大学4年生

最初に参加した時期

月別回答割合

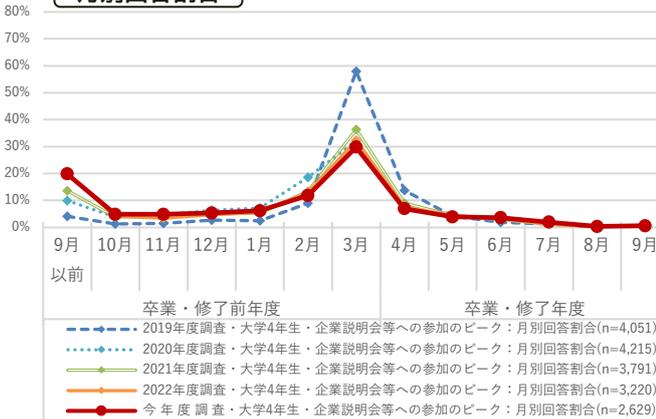


累計割合

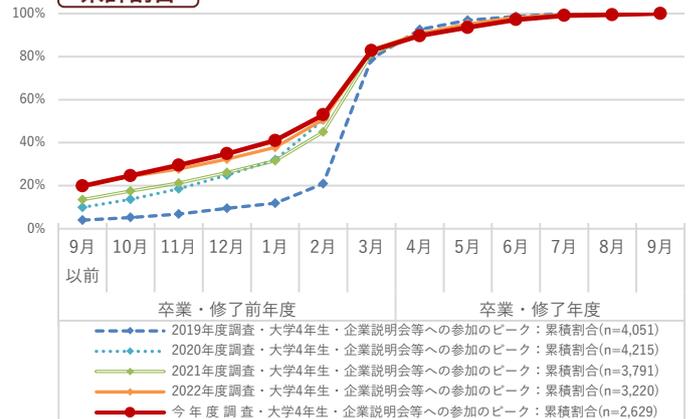


参加のピーク

月別回答割合

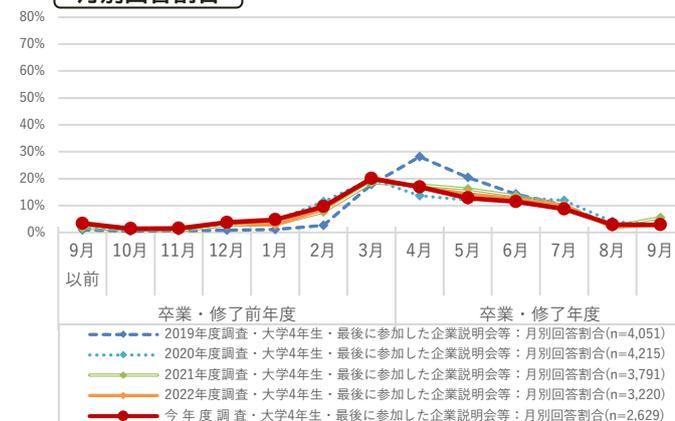


累計割合

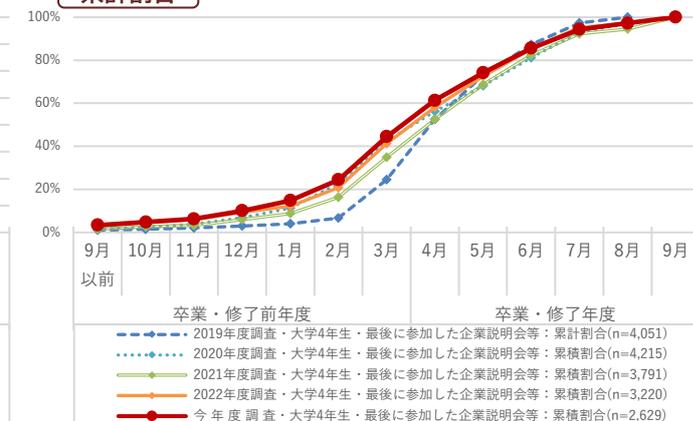


最後に参加した時期

月別回答割合



累計割合

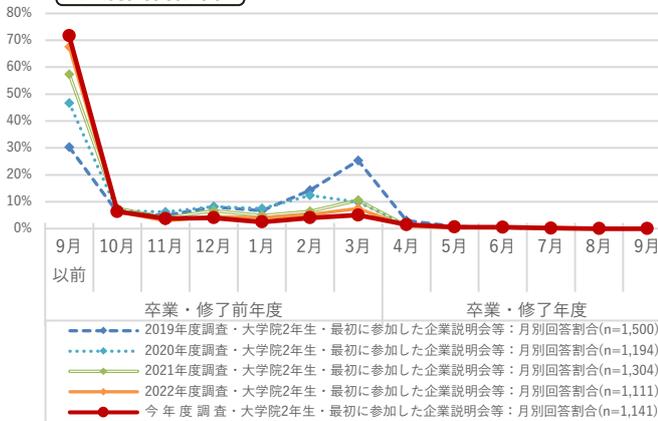


①企業説明会やセミナー等の参加時期

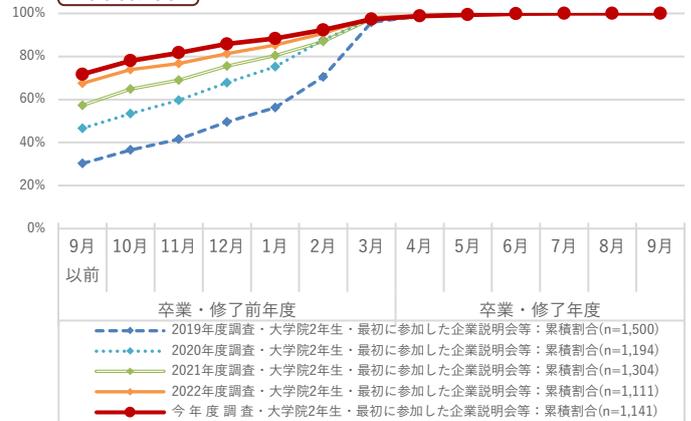
大学院2年生

最初に参加した時期

月別回答割合

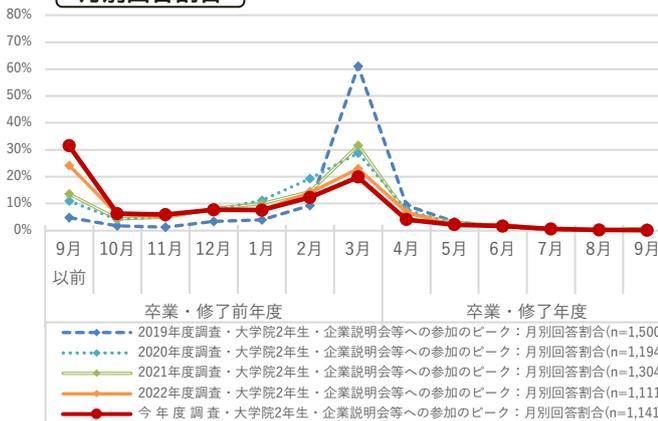


累計割合

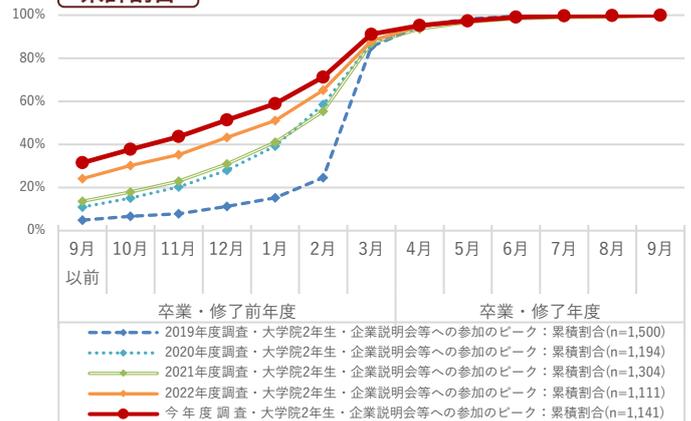


参加のピーク

月別回答割合

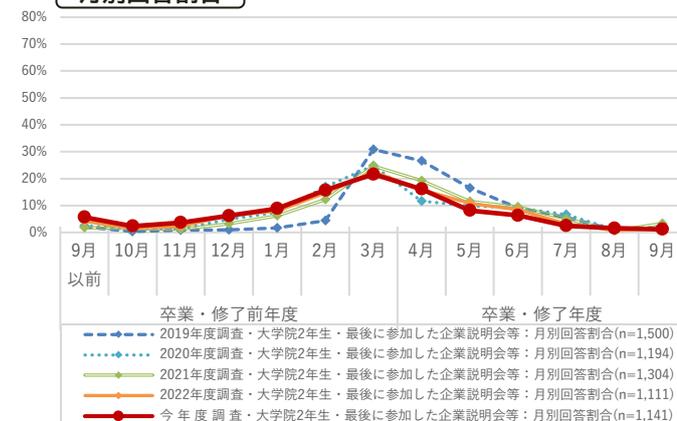


累計割合

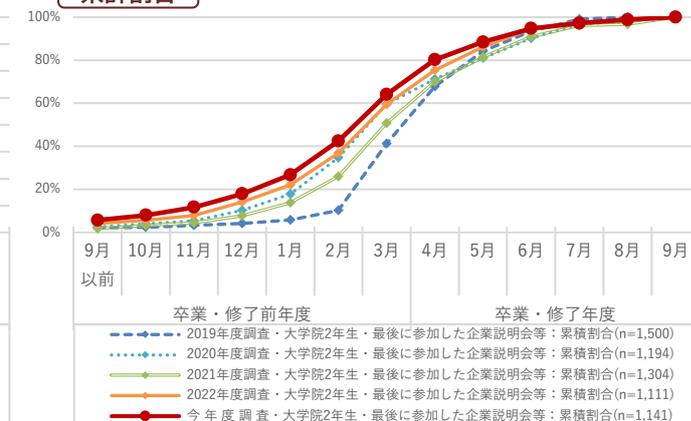


最後に参加した時期

月別回答割合



累計割合



①企業説明会やセミナー等の参加時期

【今年度調査・詳細データ】※全て%

全体

最初の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	35.7	16.1	9.8	4.5	6.1	3.5	4.7	3.6	5.7	6.4	1.5	0.9	0.7	0.6	0.1	0.0
累積割合	35.7	51.8	61.6	66.1	72.2	75.7	80.4	84.0	89.7	96.1	97.7	98.6	99.3	99.9	100.0	100.0
参加のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	2.7	4.1	9.8	4.7	5.0	5.0	5.6	6.3	11.9	28.6	6.6	3.7	3.4	1.8	0.3	0.5
累積割合	2.7	6.8	16.6	21.2	26.3	31.3	36.8	43.2	55.1	83.7	90.3	94.0	97.3	99.1	99.5	100.0
最後の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.7	0.7	1.2	1.1	1.5	1.8	4.0	5.3	10.4	20.2	16.8	12.3	10.8	7.9	2.8	2.6
累積割合	0.7	1.3	2.5	3.7	5.2	7.0	11.0	16.2	26.6	46.8	63.6	75.8	86.7	94.6	97.4	100.0

大学4年生

最初の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	34.8	16.1	9.8	4.6	6.1	3.5	4.8	3.7	6.0	6.6	1.5	0.9	0.8	0.6	0.1	0.0
累積割合	34.8	50.9	60.7	65.4	71.4	74.9	79.7	83.4	89.4	96.0	97.5	98.5	99.2	99.9	100.0	100.0
参加のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	2.3	3.7	9.6	4.2	4.9	4.8	5.3	6.2	11.9	29.8	6.9	3.9	3.6	2.0	0.4	0.6
累積割合	2.3	6.0	15.6	19.8	24.7	29.6	34.9	41.0	52.9	82.7	89.6	93.5	97.1	99.1	99.4	100.0
最後の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.6	0.6	1.2	1.0	1.4	1.5	3.7	4.8	9.6	20.0	16.9	12.8	11.4	8.7	2.9	2.8
累積割合	0.6	1.2	2.4	3.4	4.8	6.3	10.0	14.8	24.4	44.4	61.3	74.1	85.6	94.3	97.2	100.0

大学院2年生

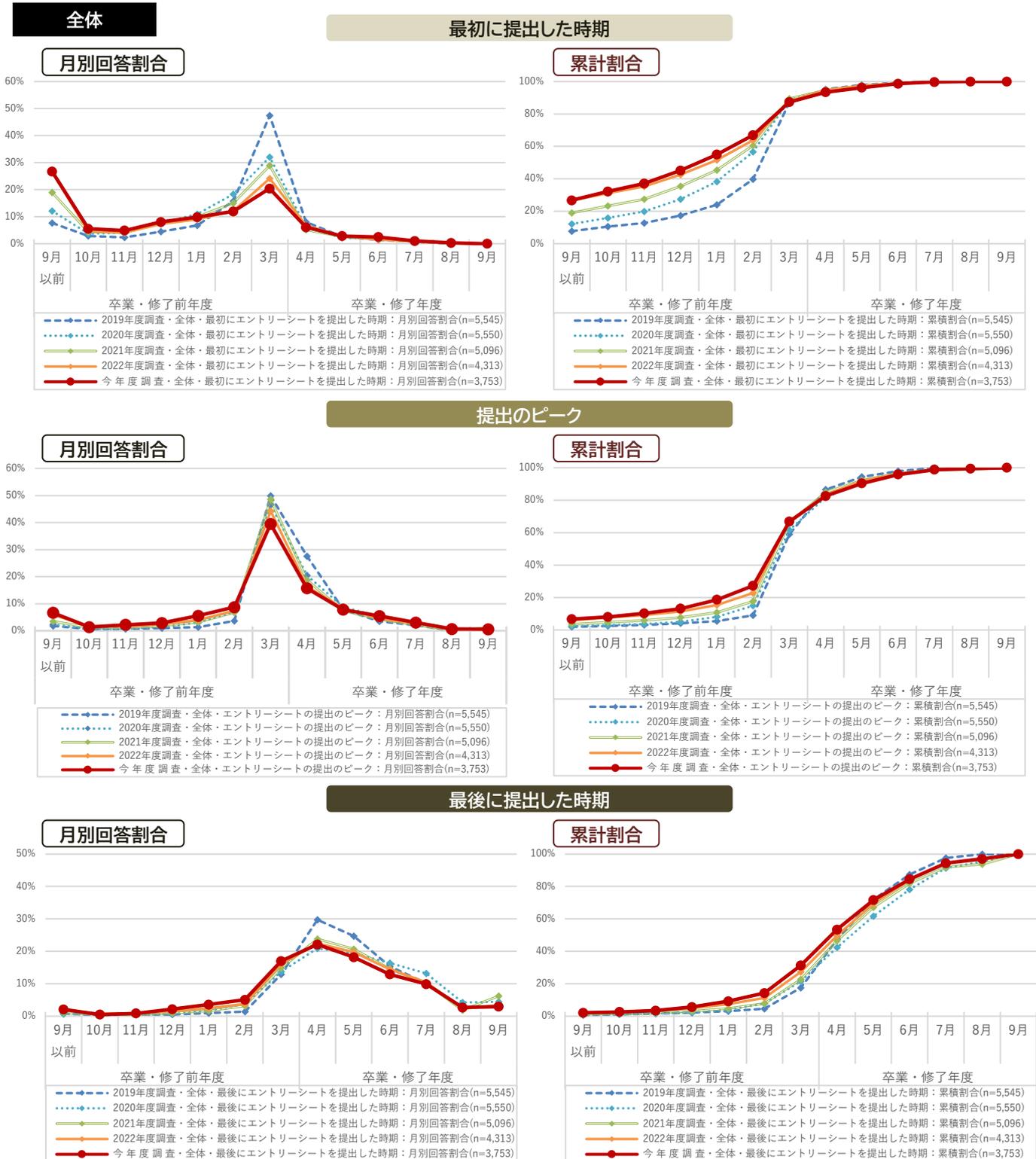
最初の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	42.6	15.4	9.8	3.7	6.3	3.7	4.0	2.5	4.0	5.0	1.5	0.6	0.5	0.2	0.0	0.0
累積割合	42.6	58.1	67.9	71.7	78.0	81.7	85.7	88.3	92.3	97.3	98.7	99.3	99.8	100.0	100.0	100.0
参加のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	5.8	6.8	10.9	8.0	6.3	5.9	7.7	7.6	12.4	19.9	4.1	2.2	1.7	0.6	0.2	0.1
累積割合	5.8	12.6	23.5	31.5	37.8	43.7	51.4	59.0	71.3	91.2	95.2	97.4	99.1	99.7	99.9	100.0
最後の参加	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	1.2	1.0	1.4	2.2	2.3	3.7	6.2	8.9	15.7	21.7	16.1	8.2	6.3	2.5	1.6	1.2
累積割合	1.2	2.1	3.5	5.7	8.0	11.7	17.9	26.8	42.5	64.1	80.2	88.4	94.7	97.2	98.8	100.0

(2) エントリーシートの提出状況

①エントリーシートの提出時期

エントリーシートの提出時期について、「最初に提出した時期」は、「2022年9月以前」の回答割合が約3割と「2023年3月」を上回り最も高くなっている。「提出のピーク」は「2023年3月」の回答割合が約4割と最も高く、「最後に提出した時期」については、「2023年4月」の回答割合が約2割と最も高い。

過年度調査と比較すると、「最初」「ピーク」「最後」共に、少しずつ時期が早まっている。



※1: エントリーシートの提出を「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

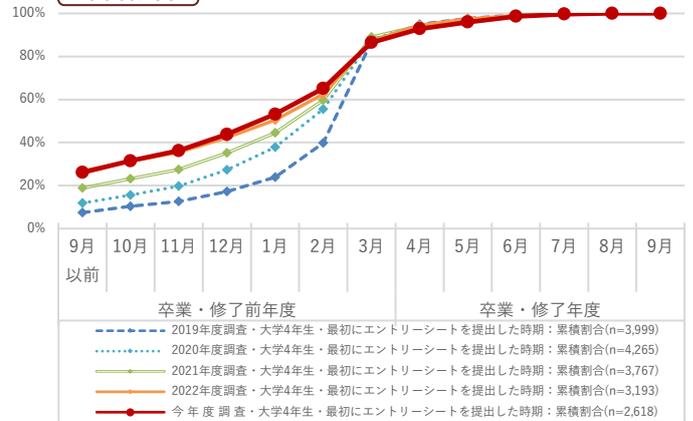
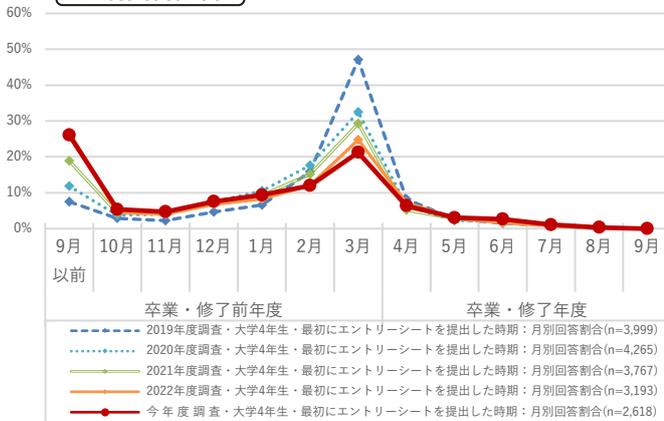
①エントリーシートの提出時期

大学4年生

最初に提出した時期

月別回答割合

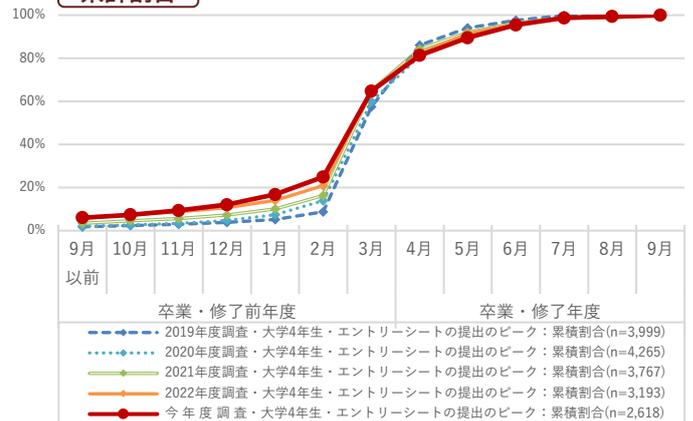
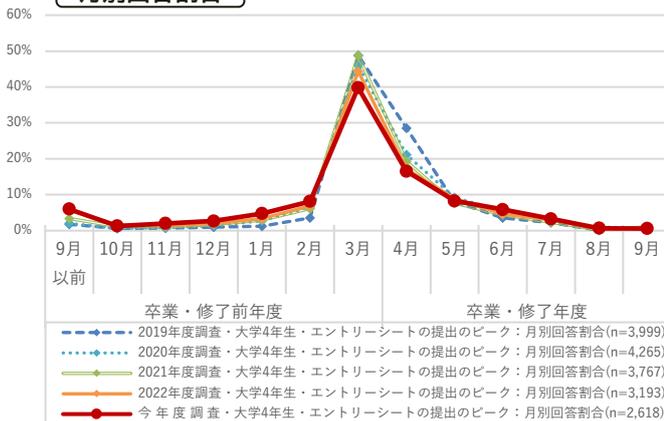
累計割合



提出のピーク

月別回答割合

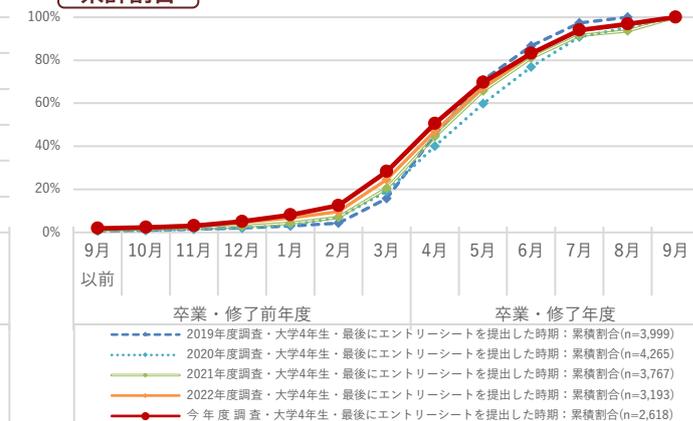
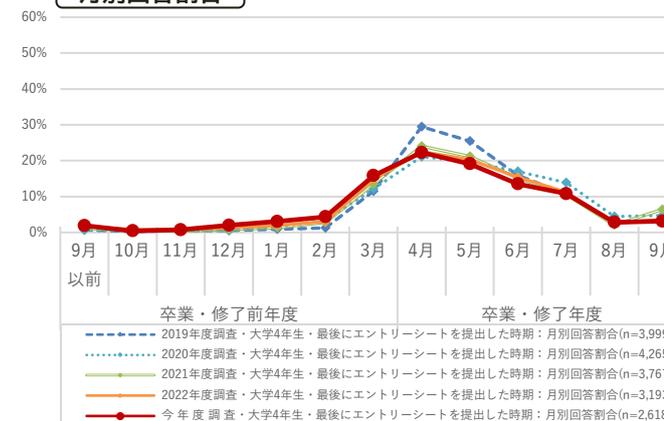
累計割合



最後に提出した時期

月別回答割合

累計割合



①エントリーシートの提出時期

【今年度調査・詳細データ】※全て%

全体

最初の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	13.8	7.0	2.8	3.1	5.5	4.9	8.0	9.8	11.9	20.4	6.1	2.8	2.5	1.0	0.3	0.0
累積割合	13.8	20.8	23.6	26.7	32.3	37.1	45.2	55.0	66.9	87.3	93.4	96.2	98.7	99.7	100.0	100.0
提出のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	1.5	2.7	1.5	1.0	1.4	2.2	2.9	5.5	8.7	39.5	15.7	7.8	5.5	3.0	0.6	0.6
累積割合	1.5	4.1	5.6	6.7	8.0	10.2	13.1	18.6	27.3	66.8	82.5	90.3	95.8	98.8	99.4	100.0
最後の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.5	0.4	0.7	0.5	0.5	0.9	2.2	3.6	5.1	17.0	22.1	18.2	12.9	9.9	2.7	3.0
累積割合	0.5	0.9	1.6	2.1	2.6	3.5	5.6	9.2	14.3	31.3	53.4	71.6	84.5	94.3	97.0	100.0

大学4年生

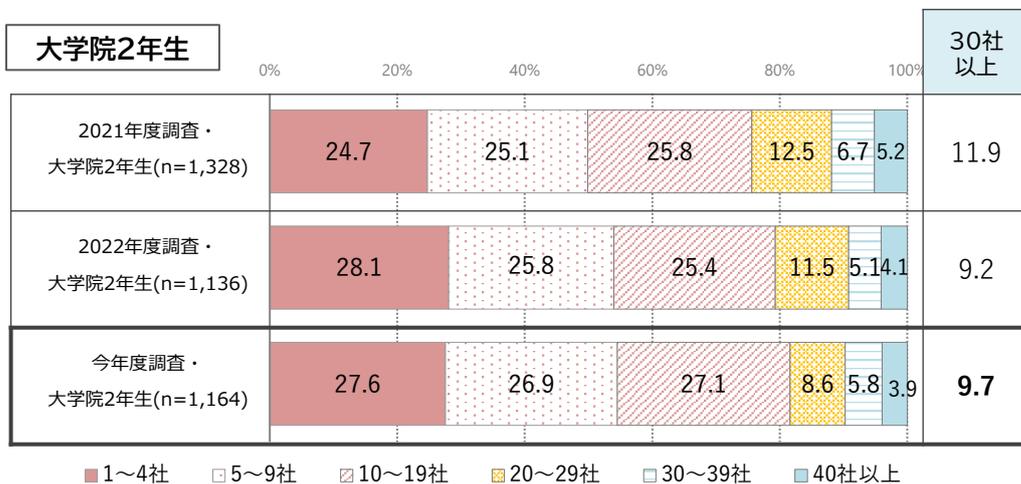
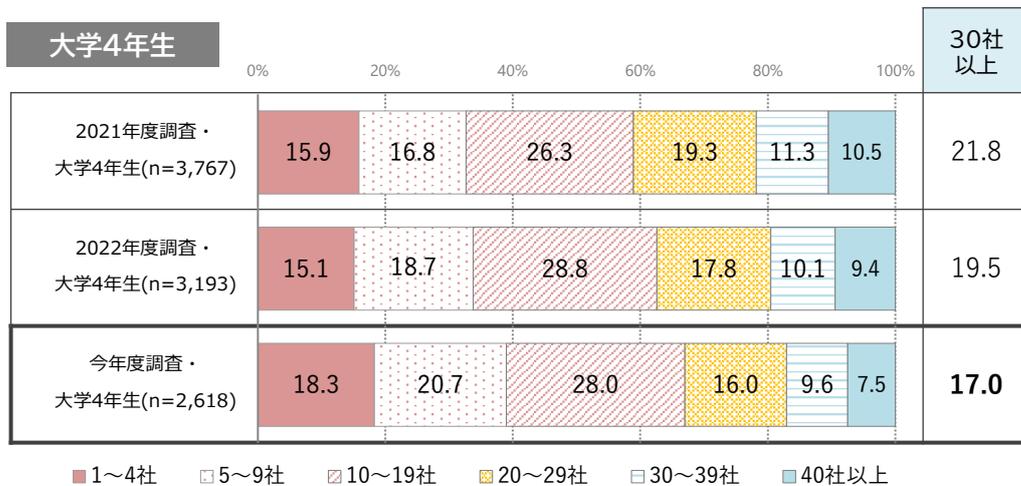
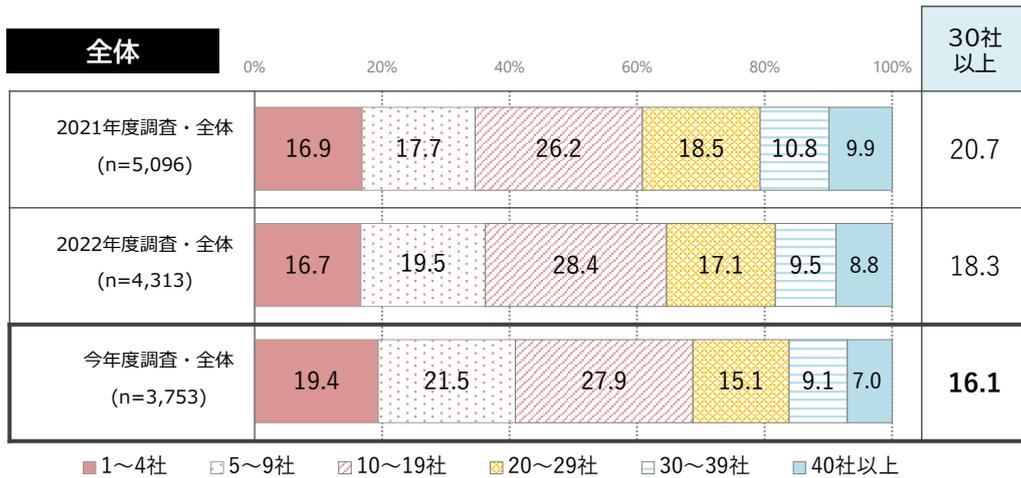
最初の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	13.1	6.9	2.8	3.3	5.4	4.7	7.6	9.4	12.0	21.3	6.4	3.1	2.7	1.1	0.3	0.0
累積割合	13.1	20.1	22.8	26.1	31.5	36.2	43.8	53.2	65.2	86.4	92.8	95.9	98.6	99.7	100.0	100.0
提出のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	1.0	2.5	1.5	1.0	1.3	2.0	2.7	4.7	8.2	39.8	16.6	8.3	5.9	3.3	0.7	0.6
累積割合	1.0	3.5	5.0	6.0	7.3	9.3	12.0	16.7	24.9	64.7	81.3	89.6	95.4	98.7	99.4	100.0
最後の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.4	0.3	0.7	0.5	0.4	0.7	2.0	3.1	4.3	15.8	22.3	19.1	13.5	10.8	2.9	3.2
累積割合	0.4	0.7	1.4	1.9	2.3	3.1	5.1	8.2	12.5	28.3	50.6	69.7	83.2	94.0	96.8	100.0

大学院2年生

最初の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	18.7	7.3	3.0	2.0	6.8	5.9	11.3	12.7	11.5	14.1	4.0	1.2	1.0	0.5	0.1	0.0
累積割合	18.7	26.0	29.0	30.9	37.7	43.6	54.9	67.6	79.1	93.2	97.2	98.4	99.4	99.9	100.0	100.0
提出のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	4.6	3.9	1.7	1.1	1.7	3.5	4.2	11.0	12.7	36.9	9.9	4.4	2.5	1.1	0.3	0.4
累積割合	4.6	8.5	10.2	11.3	13.0	16.5	20.7	31.8	44.5	81.4	91.3	95.7	98.3	99.4	99.6	100.0
最後の提出	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	1.1	0.9	0.5	0.9	1.1	1.7	3.6	7.1	10.2	25.5	20.9	11.8	8.1	3.5	1.5	1.6
累積割合	1.1	2.0	2.4	3.3	4.4	6.2	9.8	16.9	27.1	52.6	73.5	85.3	93.4	97.0	98.4	100.0

②エントリーシートの提出数

何社にエントリーシートを提出したかについて、「10～19社」であった者の割合が約3割で最も高くなっている。
 なお、30社以上にエントリーシートを提出した者が約2割となっている。
 過年度調査と比較すると、「30社以上」の回答割合が減少傾向にある。



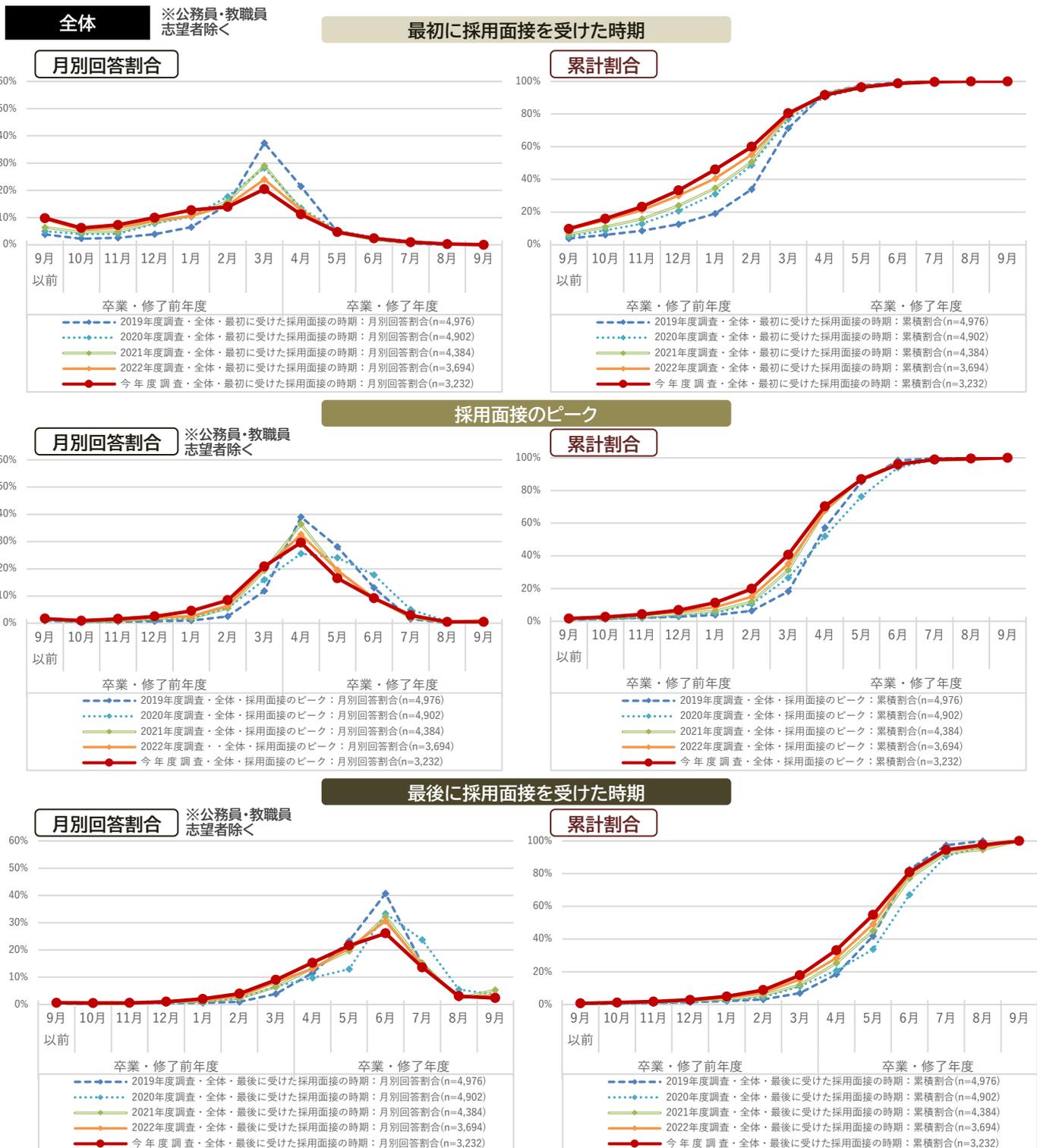
※1：エントリーシートの提出を「特段行わなかった」と回答した者は、集計の対象外とした。

(3) 採用面接の参加状況

①採用面接の参加時期

採用面接の時期について、「最初に受けた採用面接の時期」は、広報活動開始時期である「2023年3月」の回答割合が約2割で最も高くなっている※1。「採用面接のピーク」は「2023年4月」が約3割と最も高く、採用・選考活動開始時期である6月より前にきている。「最後に受けた採用面接の時期」については、採用・選考活動開始時期である「2023年6月」の回答割合が約3割と最も高くなっている。

過年度調査と比較すると、「最初」「ピーク」「最後」共に、少しずつ時期が早まっている。



※1：公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点で採用の面接等が行われていないと想定されたことから、ここでは集計の対象外とした(以降、採用面接に関しては同様の処理を行っている)。また、その上で、採用面接について「特段受けなかった」と回答した者は集計の対象外とした。

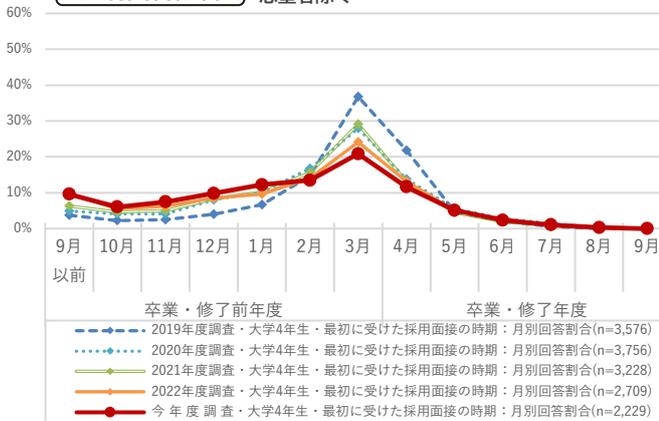
①採用面接の参加時期

大学4年生

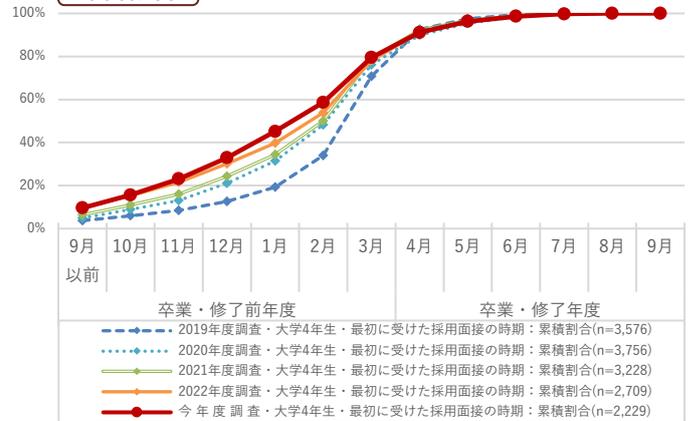
最初に採用面接を受けた時期

月別回答割合

※公務員・教職員
志望者除く



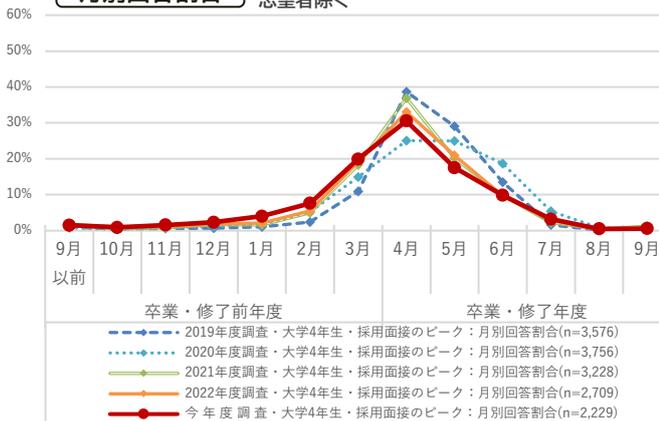
累計割合



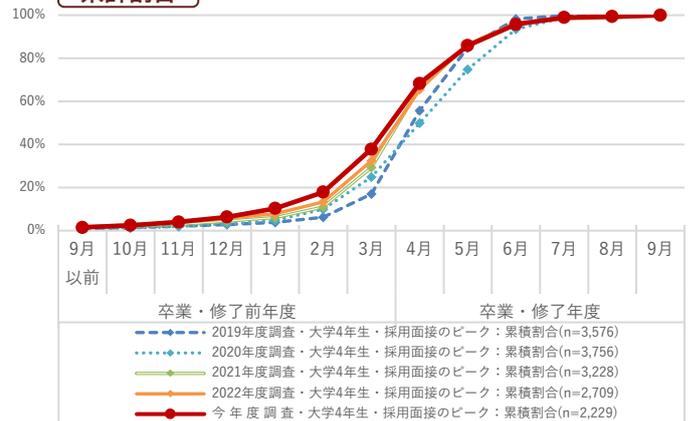
採用面接のピーク

月別回答割合

※公務員・教職員
志望者除く



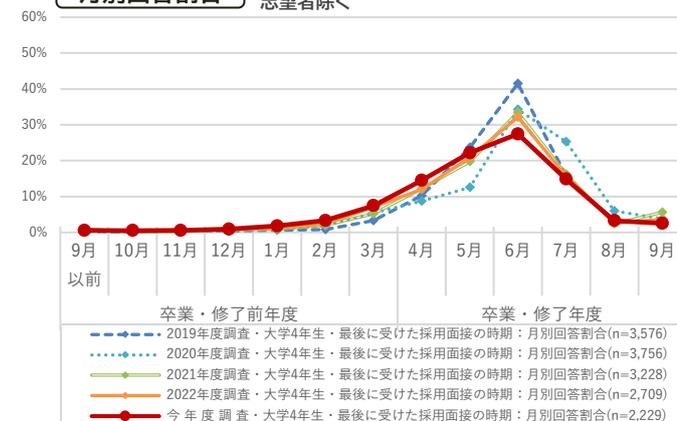
累計割合



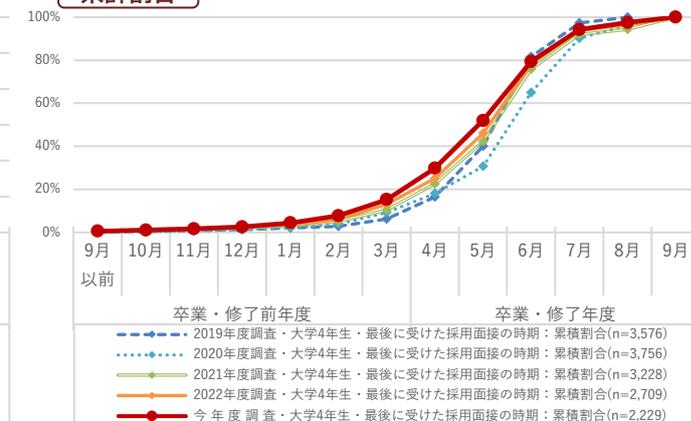
最後に採用面接を受けた時期

月別回答割合

※公務員・教職員
志望者除く



累計割合



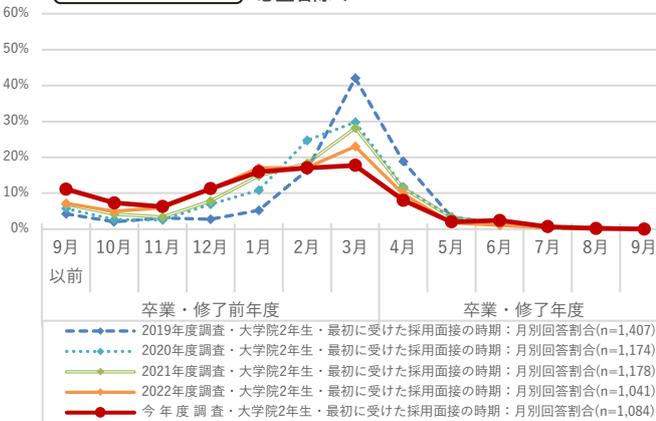
①採用面接の参加時期

大学院2年生

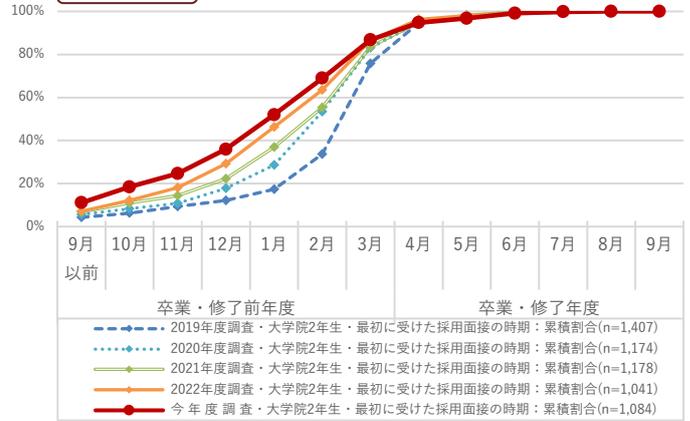
最初に採用面接を受けた時期

月別回答割合

※公務員・教職員
志望者除く



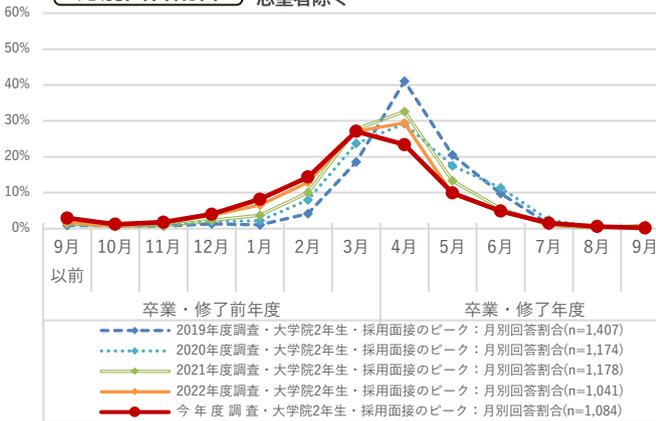
累計割合



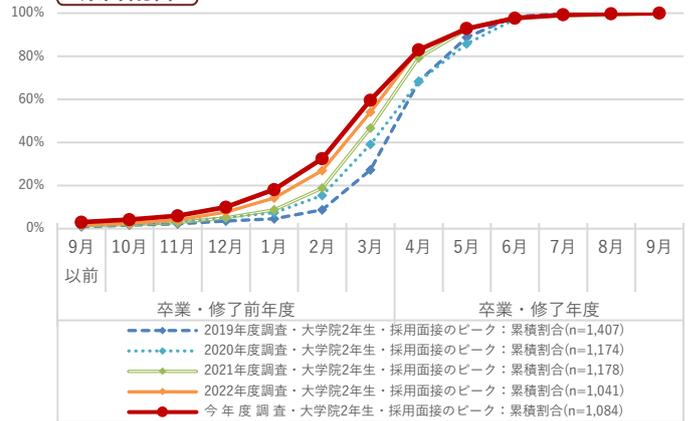
採用面接のピーク

月別回答割合

※公務員・教職員
志望者除く



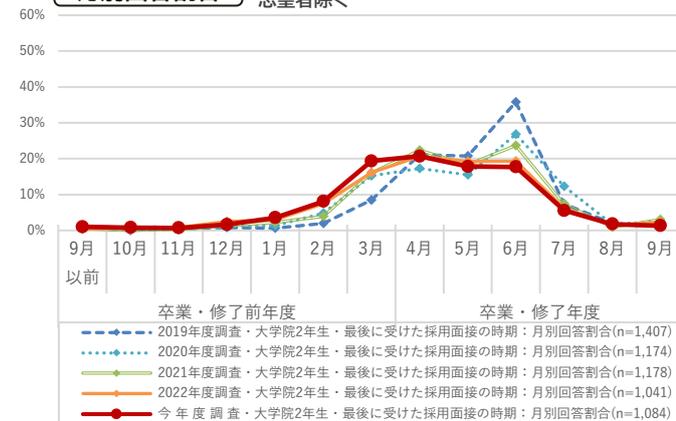
累計割合



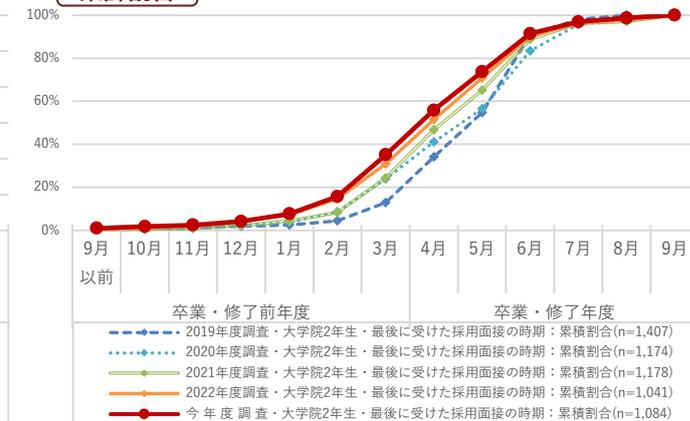
最後に採用面接を受けた時期

月別回答割合

※公務員・教職員
志望者除く



累計割合



①採用面接の参加時期

【今年度調査・詳細データ】※全て%

全体

※公務員・教職員志望者除く

最初の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	2.9	2.6	1.7	2.6	6.2	7.3	10.0	12.7	13.9	20.4	11.2	4.7	2.4	1.0	0.3	0.0
累積割合	2.9	5.5	7.2	9.8	16.0	23.3	33.4	46.1	60.0	80.4	91.6	96.3	98.7	99.7	100.0	100.0
面接のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.2	0.6	0.4	0.5	0.9	1.6	2.5	4.6	8.5	20.9	29.6	16.5	9.2	3.0	0.5	0.5
累積割合	0.2	0.8	1.2	1.7	2.6	4.3	6.8	11.3	19.8	40.7	70.3	86.8	96.0	99.0	99.5	100.0
最後の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.1	0.2	0.1	0.2	0.5	0.6	1.0	2.1	4.0	9.0	15.3	21.6	26.1	13.6	3.1	2.4
累積割合	0.1	0.3	0.4	0.6	1.2	1.8	2.8	4.9	8.9	17.9	33.2	54.8	80.9	94.6	97.6	100.0

大学4年生

※公務員・教職員志望者除く

最初の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	2.7	2.7	1.6	2.7	6.0	7.5	9.8	12.2	13.5	20.8	11.6	5.1	2.4	1.1	0.3	0.0
累積割合	2.7	5.4	6.9	9.6	15.7	23.1	32.9	45.2	58.6	79.5	91.1	96.2	98.6	99.7	100.0	100.0
面接のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.2	0.5	0.4	0.5	0.9	1.6	2.3	4.0	7.6	19.9	30.6	17.5	9.8	3.2	0.5	0.6
累積割合	0.2	0.7	1.0	1.5	2.4	4.0	6.3	10.3	17.9	37.8	68.4	85.9	95.7	98.9	99.4	100.0
最後の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.1	0.2	0.1	0.1	0.5	0.6	0.9	1.8	3.3	7.5	14.5	22.2	27.4	14.9	3.3	2.5
累積割合	0.1	0.3	0.4	0.6	1.1	1.7	2.6	4.4	7.8	15.3	29.8	51.9	79.3	94.2	97.5	100.0

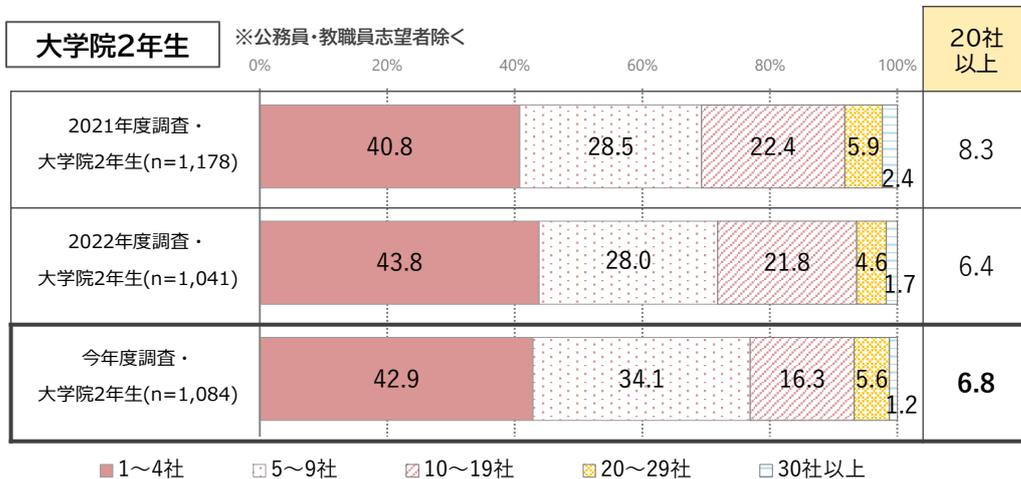
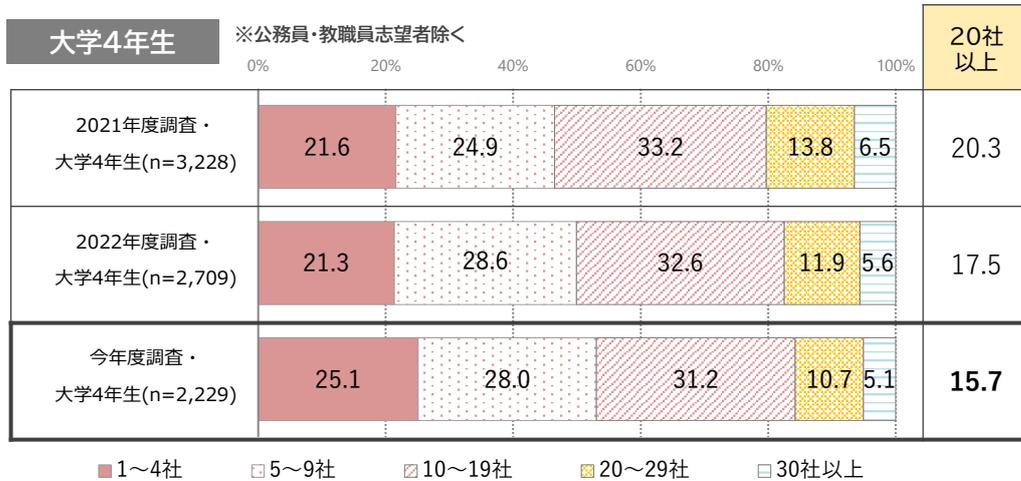
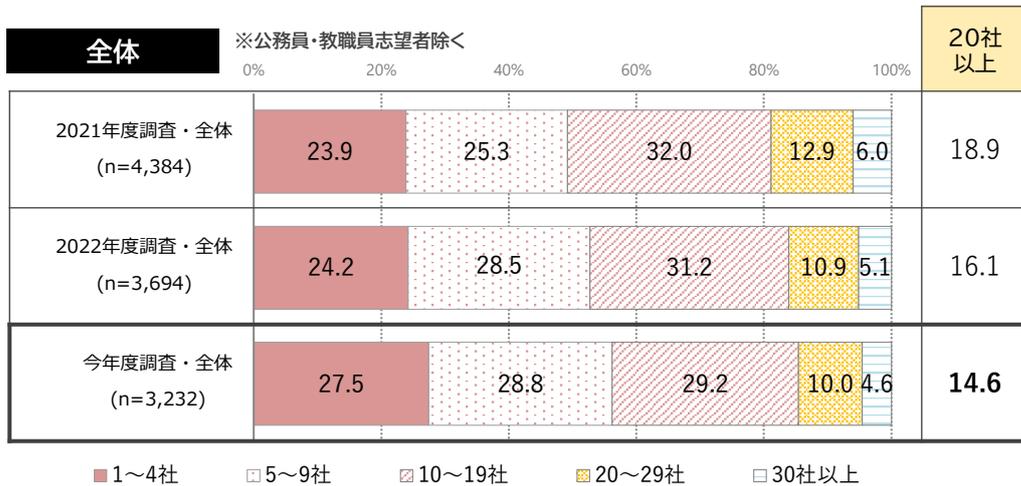
大学院2年生

※公務員・教職員志望者除く

最初の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	4.2	2.2	2.4	2.3	7.3	6.3	11.2	16.0	17.0	17.7	8.0	2.0	2.4	0.7	0.2	0.0
累積割合	4.2	6.4	8.8	11.1	18.4	24.7	35.9	51.9	69.0	86.7	94.7	96.7	99.1	99.8	100.0	100.0
面接のピーク	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.4	1.4	0.5	0.7	1.2	1.8	4.0	8.2	14.3	27.1	23.4	9.9	4.8	1.5	0.6	0.2
累積割合	0.4	1.8	2.3	2.9	4.1	5.9	9.9	18.1	32.5	59.6	82.9	92.9	97.7	99.2	99.8	100.0
最後の面接	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月以降(予定)
月別回答割合	0.0	0.2	0.2	0.6	0.8	0.7	1.7	3.5	8.1	19.3	20.7	17.8	17.7	5.5	1.8	1.3
累積割合	0.0	2.1	2.1	6.7	8.8	7.8	18.0	38.3	87.5	209.7	224.4	193.3	192.1	60.1	19.3	14.2

②採用面接を受けた企業数

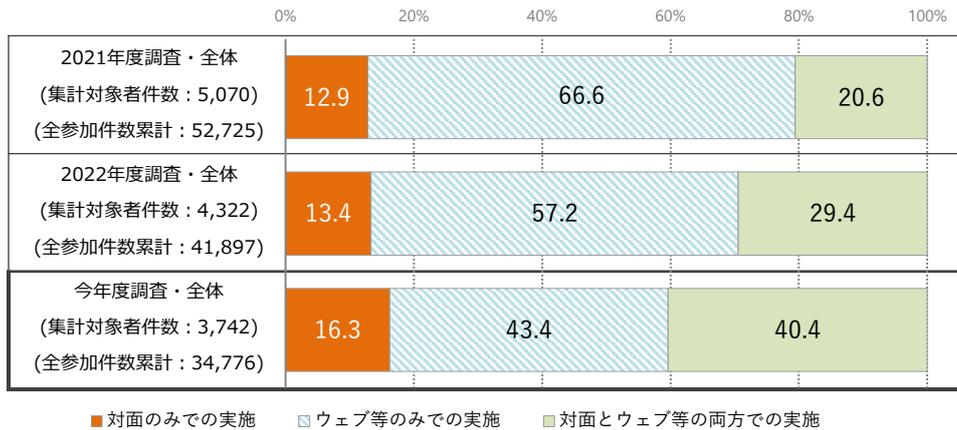
採用面接を受けた企業数について、「1～4社」「5～9社」「10～19社」であった者の割合がいずれも約3割となっている。なお、20社以上の採用面接を受けた者は約1割となっている。
過年度調査と比較すると、「20社以上」の回答割合が減少傾向にある。



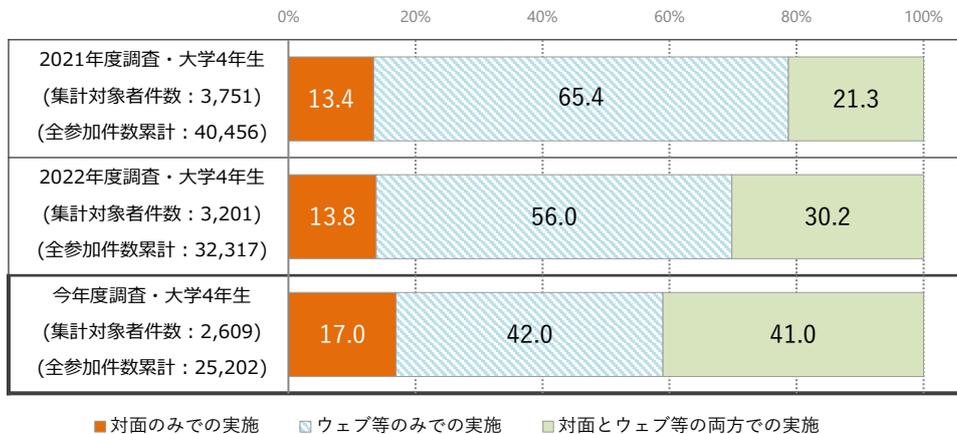
③採用面接の参加方法について

採用面接について実施された方法すべての企業数を累計※1し、実施方法別の企業数が占める割合を集計したところ、「ウェブ等のみでの実施」「対面とウェブ等での両方での実施」がどちらも約4割となっている。過年度調査と比較すると、「ウェブ等のみでの参加」が低くなり、「対面とウェブ等の両方での参加」が高まっている。

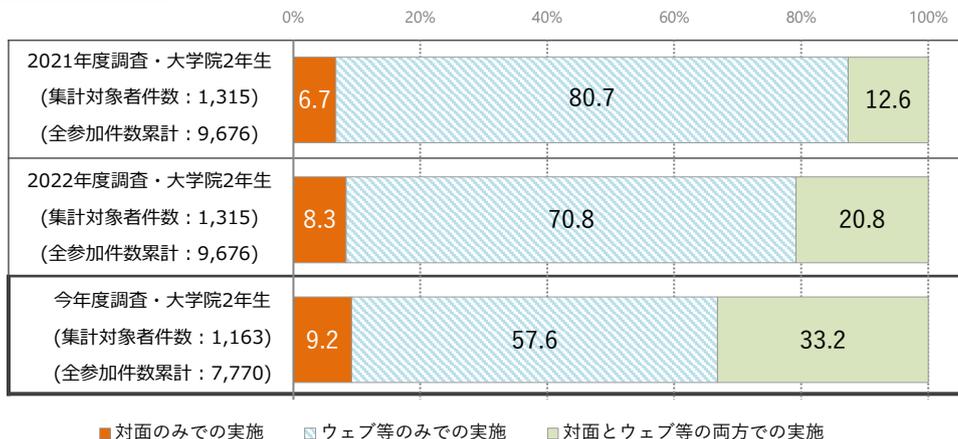
全体



大学4年生



大学院2年生



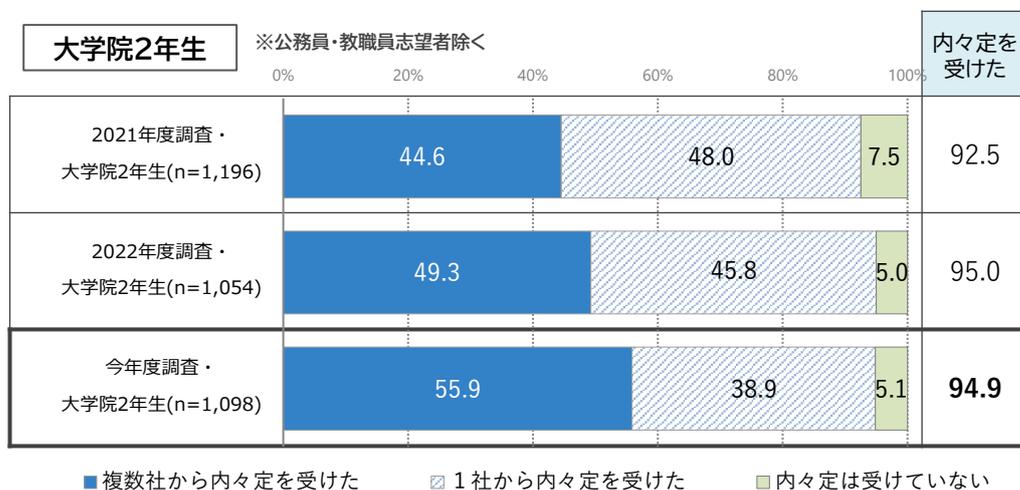
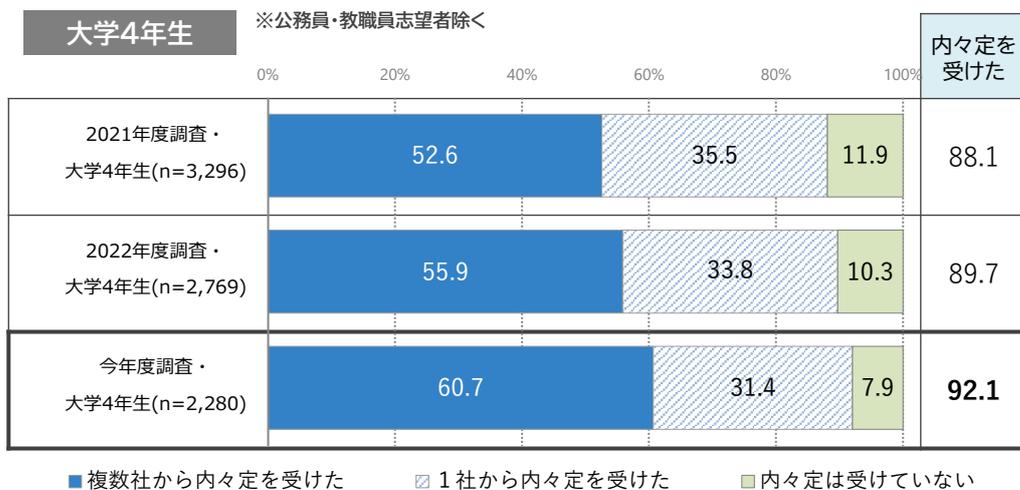
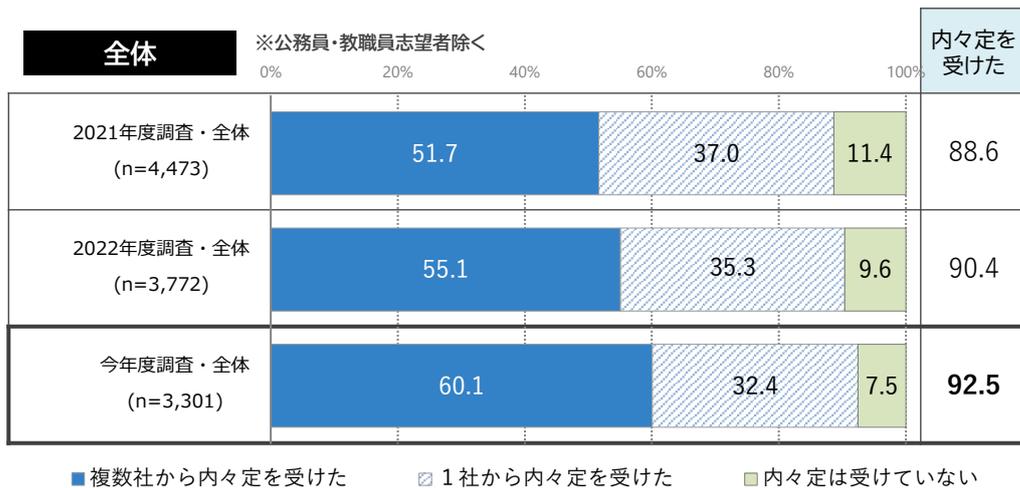
※1：調査においては、合計で何社の採用面接を受けたかを尋ねる設問と、対面のみでの実施、ウェブ等のみでの実施、対面とウェブ等の両方での方法別に尋ねる設問を設けているが、前者の「実施された合計の企業数」と後者の「方法別で尋ねた企業数」の合計は必ずしも一致せずとも回答が可能なように設定したことから、前者ではなく後者の合計を用いて累計の値とした。

(4) 内々定の状況

①調査実施時点での内々定の状況

内々定※1の状況について※2、調査実施時点で約9割が内々定を受けている状況にある。また、約6割が「複数社から内々定を受けた」と回答している。

過年度調査と比較すると、「内々定を受けた」の計、また「複数社から内々定を受けた」の回答割合についても、増加傾向にある。



※1：今年度調査より、内々定については、正式な「内定」の前の、企業と形式的に内々に合意したものと案内をした上で調査を行った。
 ※2：公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点において採用の面接等が行われていないと想定されることから、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った(以降、採用面接に関しては同様の処理を行っている)。

②内々定を受けた時期(最初の内々定)

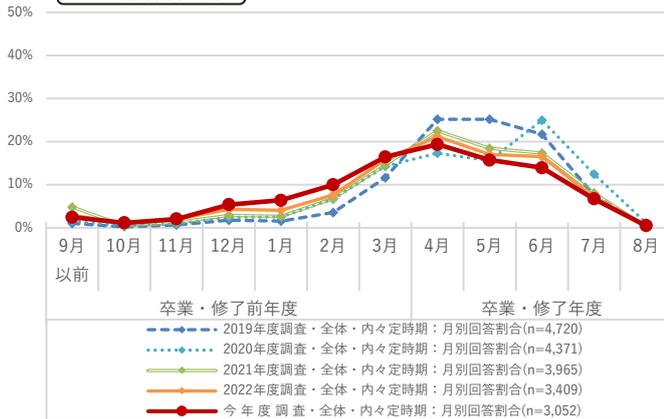
最初の内々定※1を受けた時期について※2、最も回答割合が高いのは「2023年4月」が約2割と、採用・選考活動開始時期前である。なお、累積割合では、2月までに約3割、5月までに約8割、6月までに約9割の学生が、最初の内々定を受けている。

過年度調査と比較すると時期が早まっている傾向がみられ、特に卒業・修了前年度の12月から3月までの時期が早まっている。

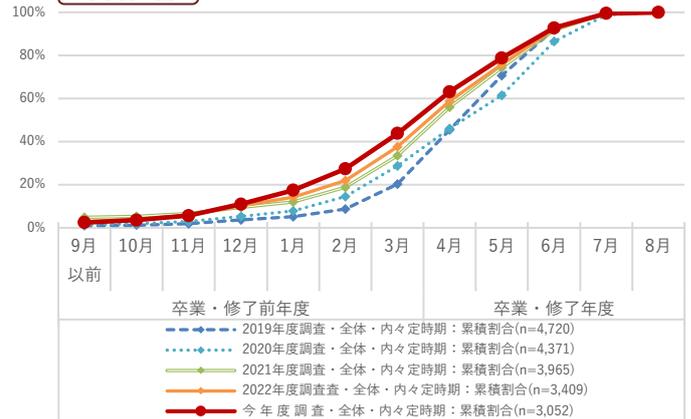
全体

※公務員・教職員志望者除く

月別回答割合



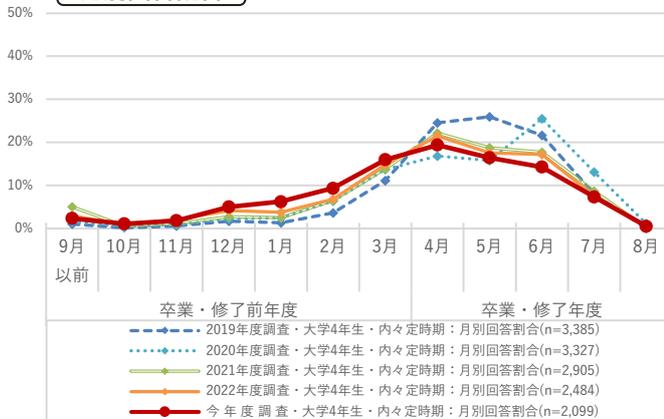
累計割合



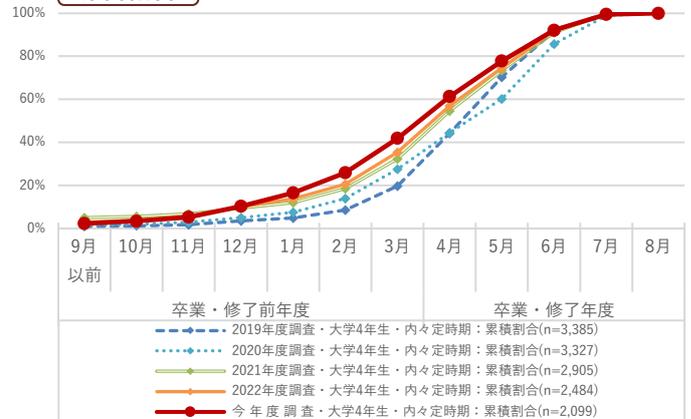
大学4年生

※公務員・教職員志望者除く

月別回答割合



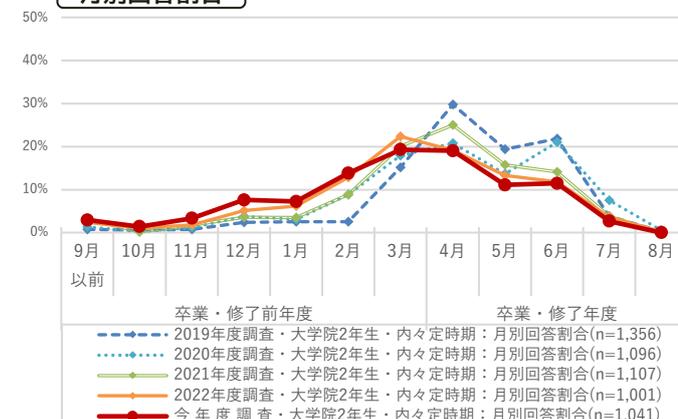
累計割合



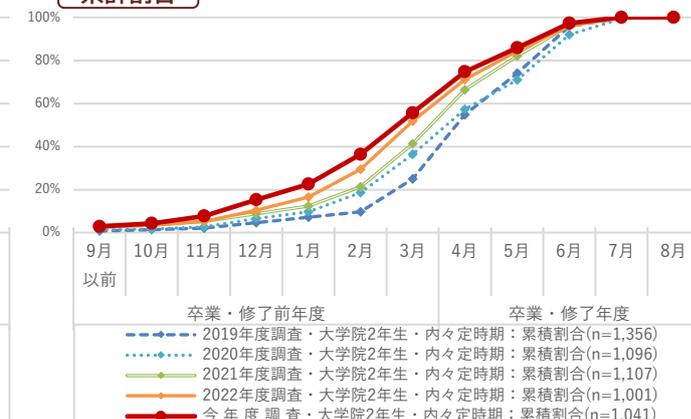
大学院2年生

※公務員・教職員志望者除く

月別回答割合



累計割合



※1：今年度調査より、内々定については、正式な「内定」の前の、企業と形式的に内々に合意したものと案内をした上で調査を行った。
 ※2：1社から内々定を受けた者はその時期について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた時期について集計した。
 なお、ここでの集計でも、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。また、内々定を受けていないと回答した者は集計の対象外としている。

②内々定を受けた時期(最初の内々定)

【今年度調査・詳細データ】※全て%

全体

※公務員・教職員志望者除く

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.7	0.5	0.6	0.6	1.1	2.0	5.4	6.4	10.0	16.5	19.3	15.7	13.9	6.7	0.5
累積割合	0.7	1.2	1.8	2.4	3.6	5.6	11.0	17.4	27.4	43.8	63.2	78.9	92.8	99.5	100.0

大学4年生

※公務員・教職員志望者除く

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.8	0.5	0.6	0.5	1.1	1.8	5.0	6.2	9.4	16.0	19.4	16.4	14.3	7.4	0.5
累積割合	0.8	1.3	1.9	2.4	3.4	5.3	10.3	16.6	25.9	42.0	61.3	77.8	92.1	99.5	100.0

大学院2年生

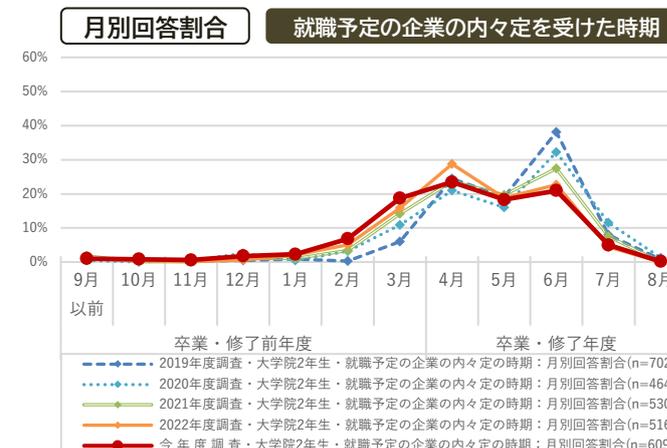
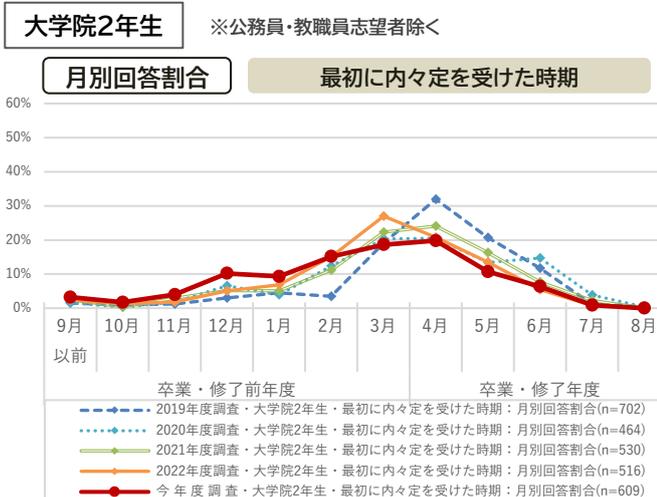
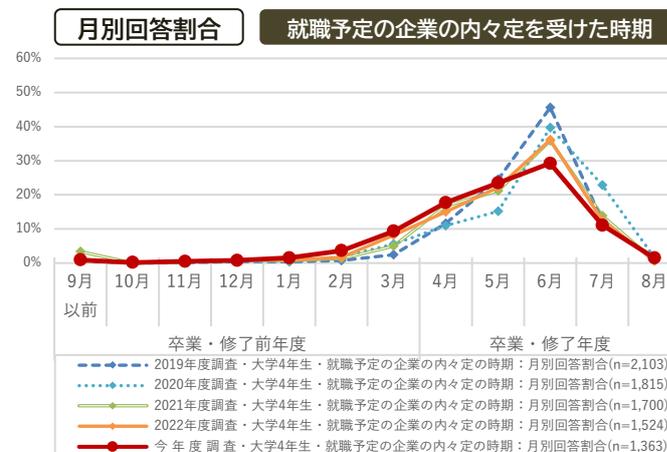
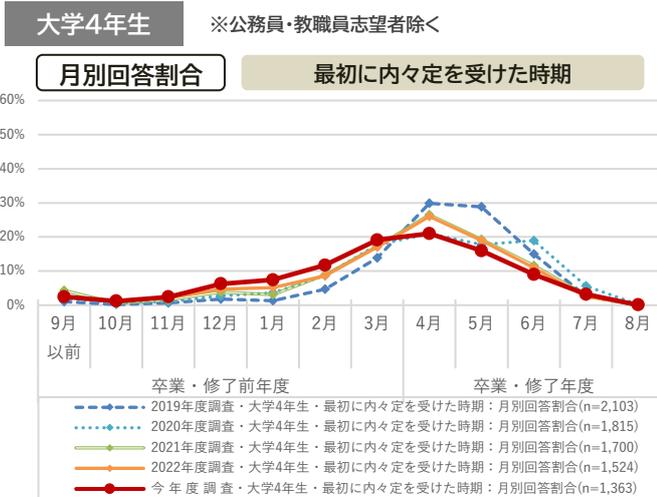
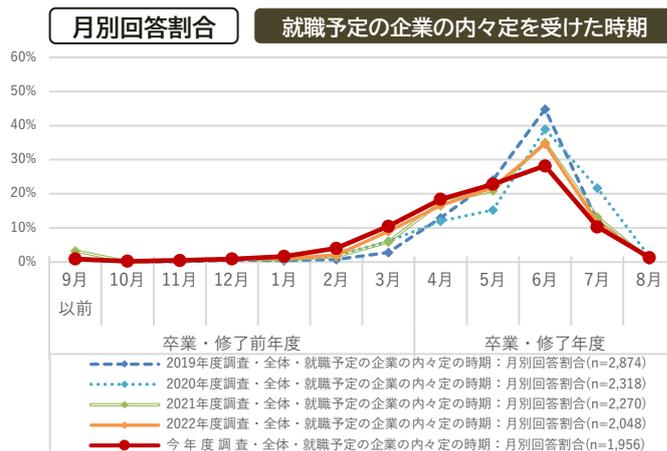
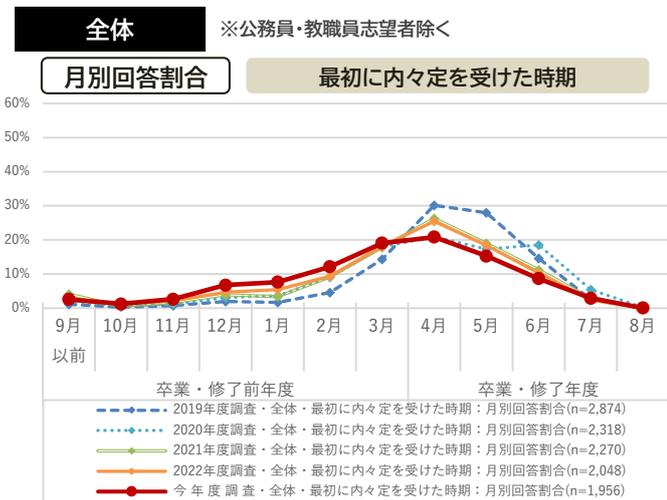
※公務員・教職員志望者除く

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4	0.3	0.9	1.3	1.4	3.4	7.6	7.2	13.9	19.3	19.0	11.1	11.5	2.7	0.0
累積割合	0.4	0.7	1.6	2.9	4.4	7.7	15.3	22.6	36.4	55.7	74.7	85.8	97.3	100.0	100.0

③内々定を受けた時期(内々定を複数社から受けた場合)

「複数社から内々定※1を受けた」と回答した者について、「最初に内々定を受けた時期」は「2023年4月」「2022年3月」との回答がどちらも約2割と高く、「就職予定の企業の内々定を受けた時期」は「2023年6月」との回答が約3割で最も高くなっている※2。

過年度調査と比較すると、「最初に内々定を受けた時期」「就職予定の企業の内々定を受けた時期」共に、時期が早まっている傾向が見られた。



※1：今年度調査より、内々定については、正式な「内定」の前の、企業と形式的に内々に合意したものと案内をした上で調査を行った。
 ※2：「最初の内々定」「就職予定の企業の内々定」いずれについても、「就職予定の企業の内々定」に関して「就職予定の企業はない」と回答した者は集計の対象外とした。

③内々定を受けた時期(内々定を複数社から受けた場合)

【今年度調査・詳細データ】※全て%

全体		※公務員・教職員志望者除く													
最初の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.9	0.4	0.7	0.7	1.3	2.6	6.8	7.7	12.2	19.1	20.9	15.3	8.7	2.9	0.1
累積割合	0.9	1.2	1.9	2.6	3.9	6.5	13.2	20.9	33.1	52.1	73.0	88.3	97.0	99.9	100.0
就職予定の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4	0.3	0.1	0.2	0.3	0.5	0.9	1.6	4.1	10.5	18.4	22.8	28.2	10.3	1.3
累積割合	0.4	0.6	0.7	0.9	1.2	1.7	2.6	4.3	8.4	18.9	37.3	60.1	88.3	98.7	100.0

大学4年生		※公務員・教職員志望者除く													
最初の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.9	0.4	0.7	0.5	1.2	2.4	6.3	7.4	11.7	19.1	21.0	16.0	9.0	3.2	0.1
累積割合	0.9	1.3	2.0	2.5	3.7	6.1	12.4	19.8	31.6	50.7	71.7	87.7	96.7	99.9	100.0
就職予定の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.4	0.3	0.1	0.1	0.2	0.5	0.8	1.6	3.7	9.4	17.7	23.5	29.2	11.1	1.5
累積割合	0.4	0.7	0.8	0.9	1.1	1.6	2.4	4.0	7.6	17.0	34.7	58.2	87.4	98.5	100.0

大学院2年生		※公務員・教職員志望者除く													
最初の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.5	0.2	0.8	1.8	1.7	4.0	10.2	9.3	15.2	18.6	19.8	10.7	6.4	0.9	0.0
累積割合	0.5	0.7	1.5	3.2	5.0	8.9	19.1	28.4	43.6	62.2	82.0	92.7	99.1	100.0	100.0
就職予定の内々定	6月以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.2	0.0	0.0	0.8	0.8	0.6	1.8	2.3	6.8	18.7	23.5	18.3	21.0	5.0	0.2
累積割合	0.2	0.2	0.2	1.0	1.9	2.5	4.3	6.5	13.4	32.1	55.5	73.8	94.8	99.8	100.0

④内々定を受けた企業の企業規模(従業員数)

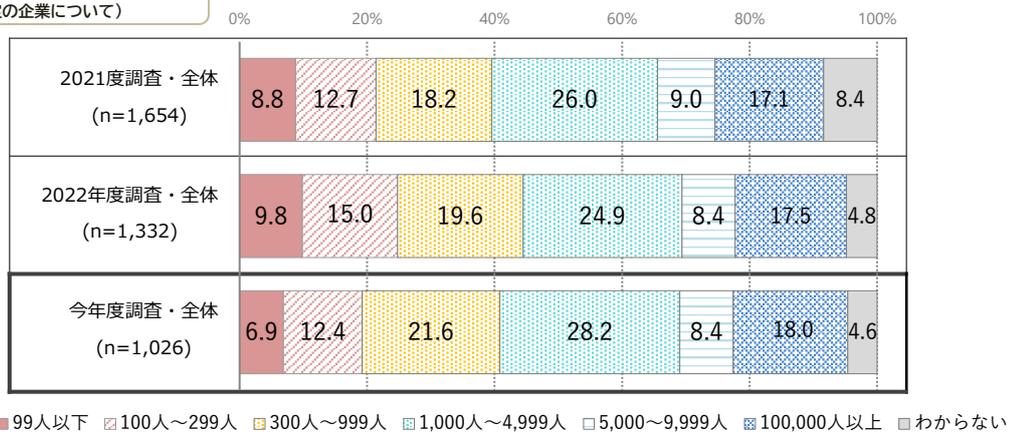
内々定※1を受けた企業の企業規模(従業員数)について※2、1社から内々定を受けた者、複数社から内々定を受けた者のそれぞれについて集計を行った。1社から内々定を受けた者については就職予定の企業について、複数社から内々定を受けた者については、最初に内々定を受けた企業と、就職予定の企業についてそれぞれ把握した。

これらのうち、複数社から内々定を受けた者について、「最初に内々定を受けた企業」に対して「就職予定の企業」の方が、規模(従業員数)の大きい企業である割合が高くなっている。これは、過年度調査と同様の結果となっている。なお過年度調査と比べると、複数社から内々定を受けた者に関して、就職予定の企業の内々定について「1,000人以上」の回答が占める割合が高くなっている。

全体

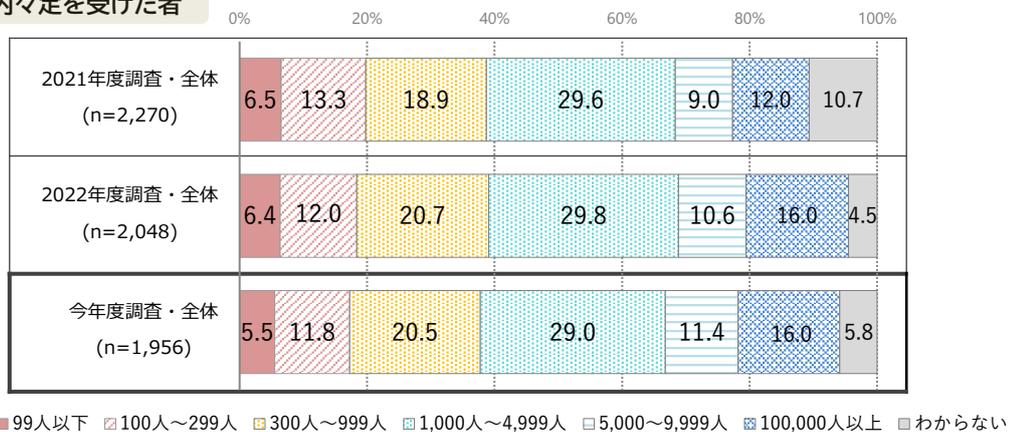
※公務員・教職員志望者除く

1社から内々定を受けた者 (就職予定の企業について)

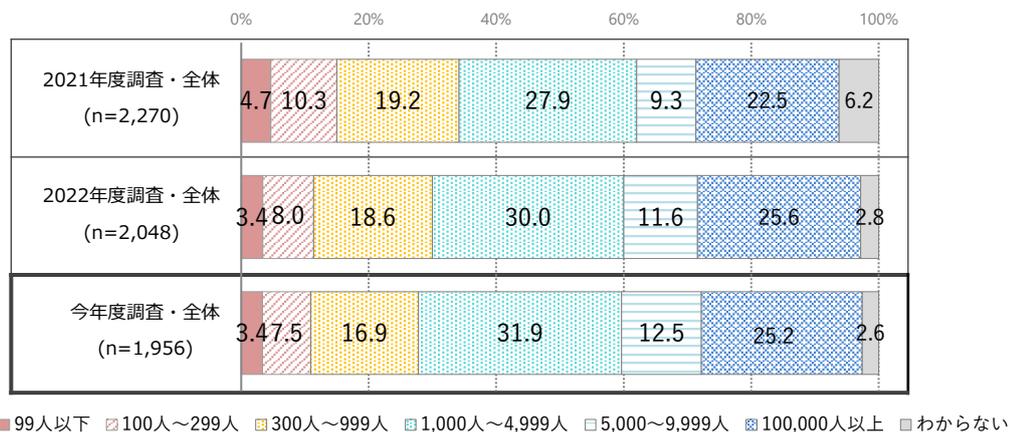


複数社から内々定を受けた者

最初に内々定を受けた企業



就職予定の企業



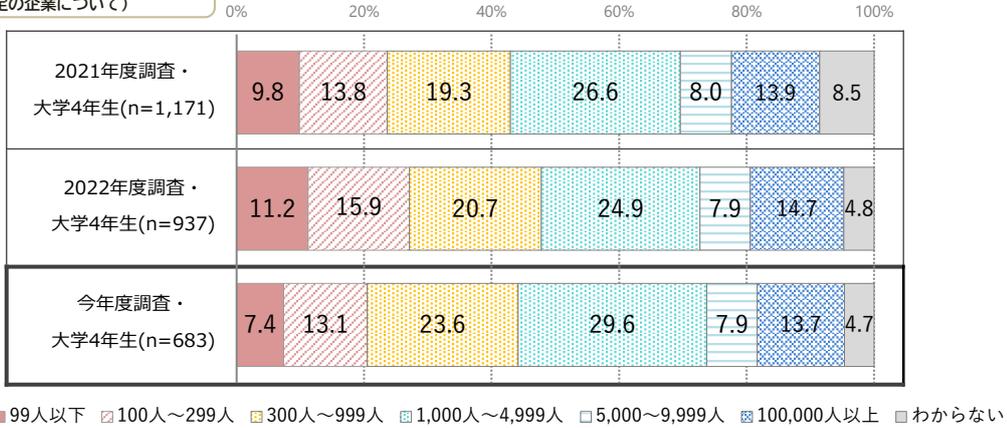
※1：今年度調査より、内々定については、正式な「内定」の前の、企業と形式的に内々に合意したものと案内をした上で調査を行った。
 ※2：公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点において採用の面接等が行われていないと想定されることから、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った(以降、就職予定企業に関しては同様の処理を行っている)。

④内々定を受けた企業の企業規模(従業員数)

大学4年生

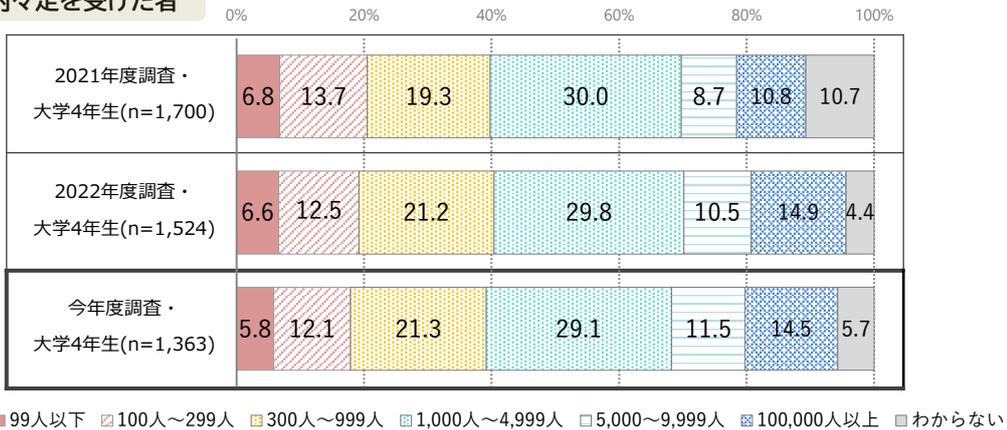
※公務員・教職員志望者除く

1社から内々定を受けた者 (就職予定の企業について)

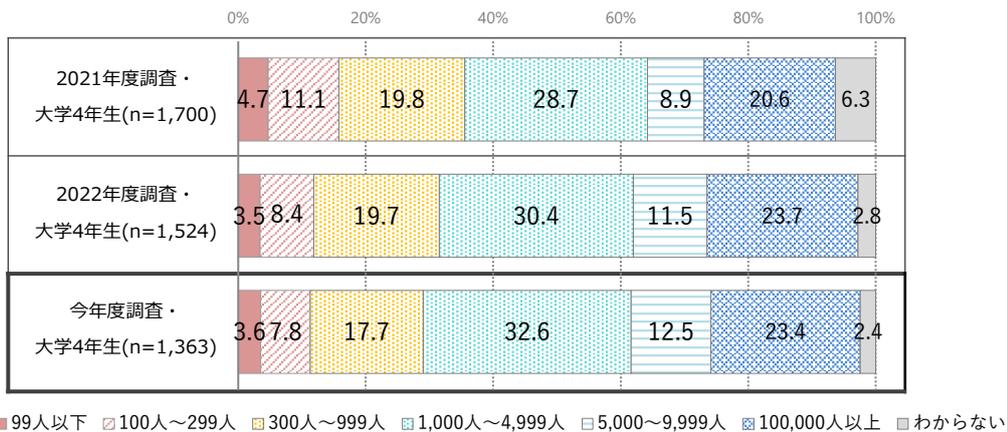


複数社から内々定を受けた者

最初に内々定を受けた企業



就職予定の企業

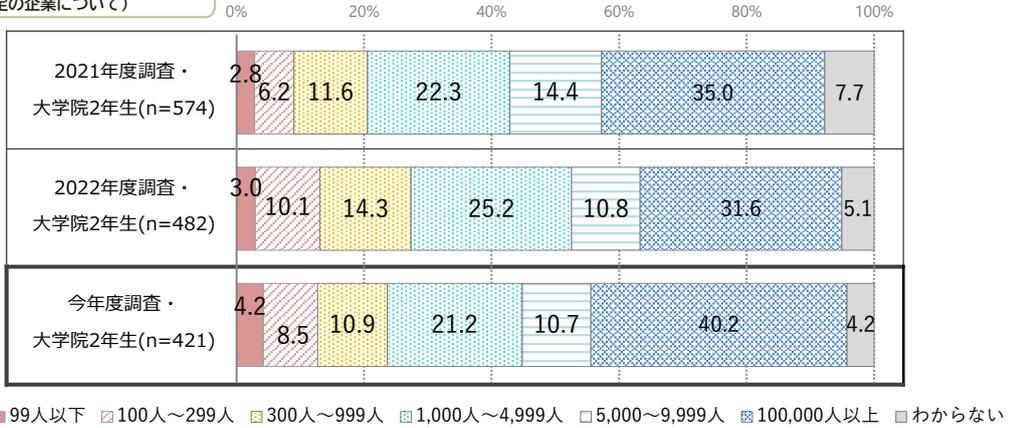


④内々定を受けた企業の企業規模(従業員数)

大学院2年生

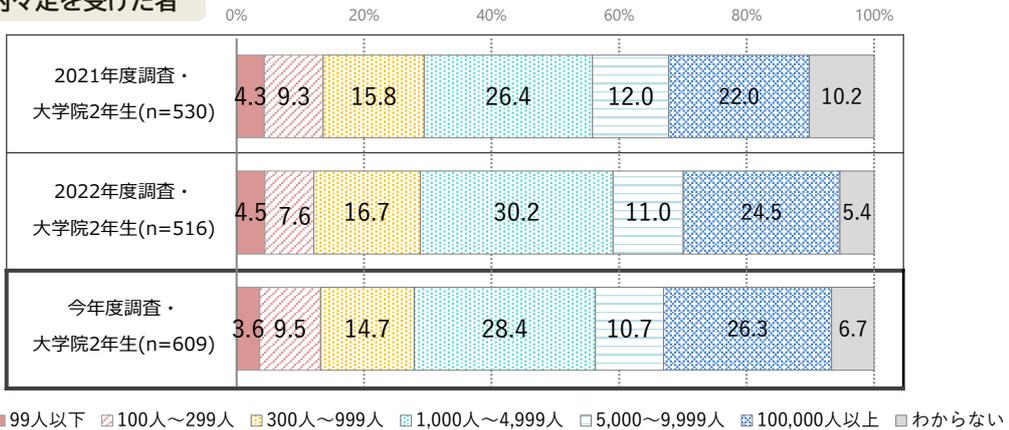
※公務員・教職員志望者除く

1社から内々定を受けた者 (就職予定の企業について)

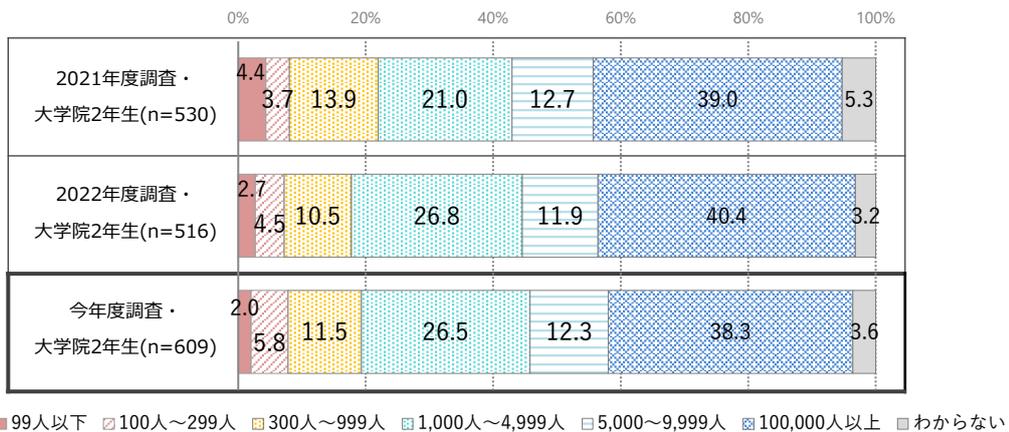


複数社から内々定を受けた者

最初に内々定を受けた企業



就職予定の企業



⑤就職予定の企業の志望度別の内々定を受けた時期

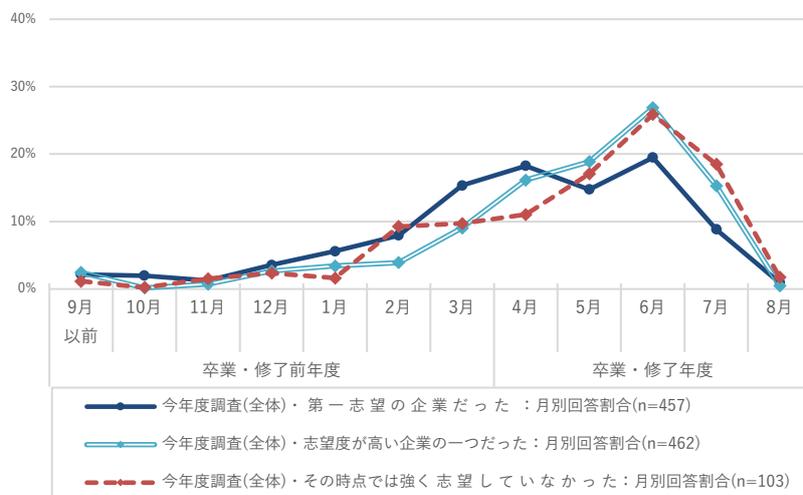
就職予定の企業からの内々定※1の時期※2について、その企業に対する志望度別に集計※3すると、複数社から内々定を受けた者ではいずれの場合も、就職予定の企業の内々定の時期は「2023年6月」の回答割合が約2～3割と最も高くなっている。1社から内々定を受けた者に関しては、「志望度が高い企業の一つだった」「その時点では強く志望していなかった」では「2023年6月」とする回答割合が最も高いが、「第一志望の企業だった」では「2023年4月」「2023年6月」が約2割ずつと、山が分散する形となった。

全体

※公務員・教職員志望者除く

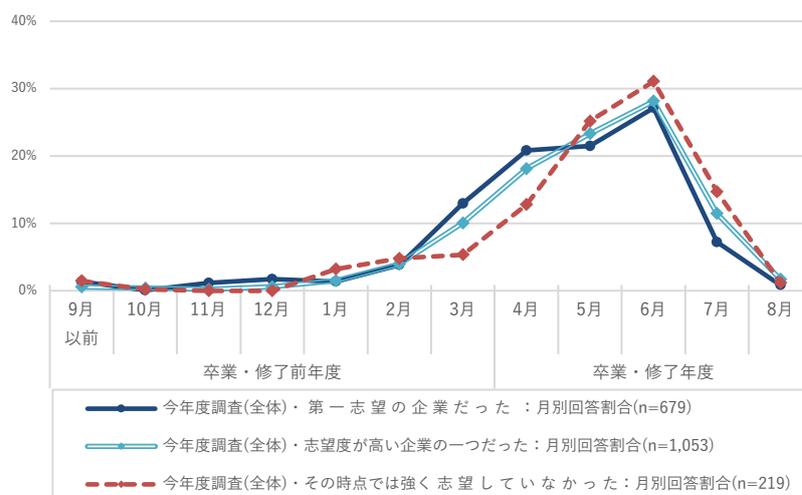
1社から内々定を受けた者

月別回答割合



複数社から内々定を受けた者

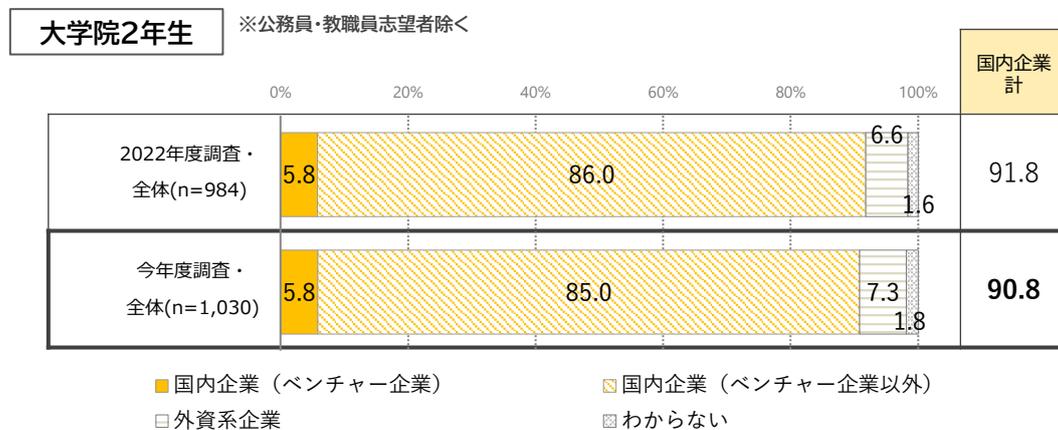
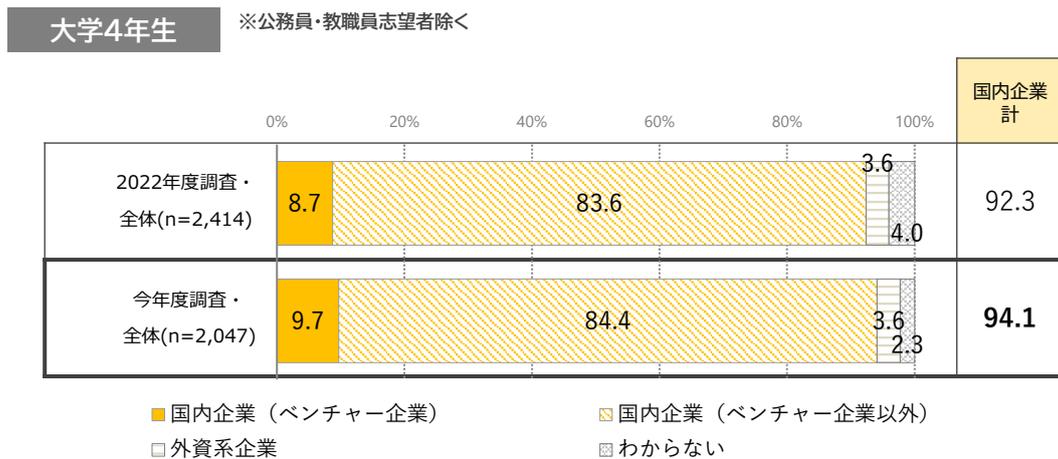
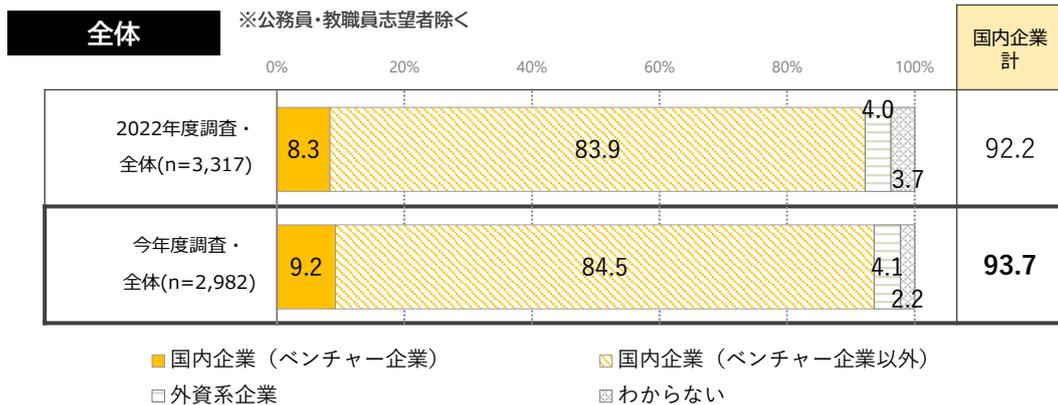
月別回答割合



※1：今年度調査より、内々定については、正式な「内定」の前の、企業と形式的に内々に合意したものと案内をした上で調査を行った。
 ※2：1社から内々定を受けた者はその企業に就職予定であると回答した場合、及び、複数社から内々定を受けた者は就職予定の企業に関して、内々定を受けた時期に関する回答結果を集計した。
 ※3：就職予定の企業の採用選考に応募した時点で志望していた企業の全てを思い返したうえでの志望度について尋ねた回答の結果を基に分類をした。なお、志望度について「覚えていない」と回答した者は集計の対象外とした。また、分類によっては集計対象者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した結果のみ参照した。

⑥就職予定の企業の種類

就職予定の企業が国内企業かどうかについて、「国内企業（ベンチャー企業※1）」の回答割合は約1割で、「国内企業（ベンチャー企業以外）」と合わせると国内企業とする回答割合は約9割となった。
過年度調査と比べると、同様の傾向となっている。

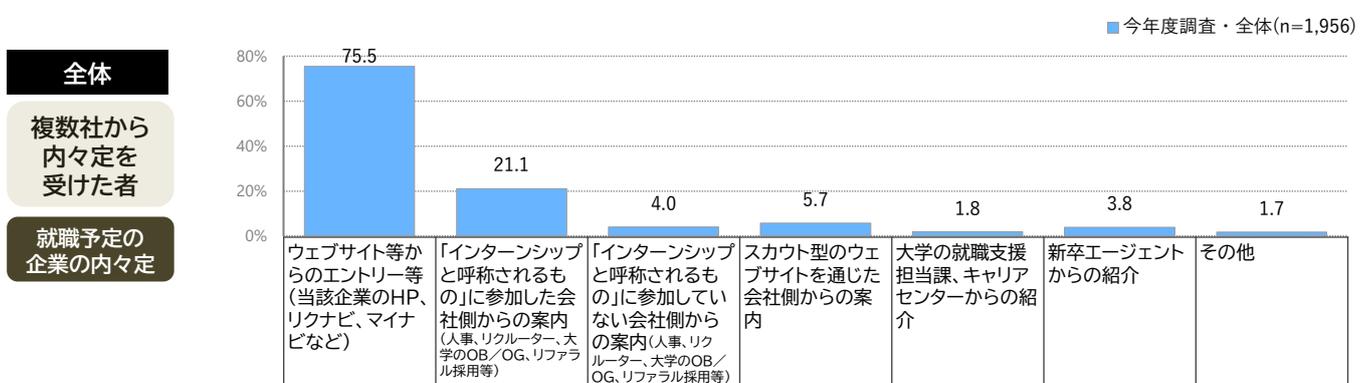
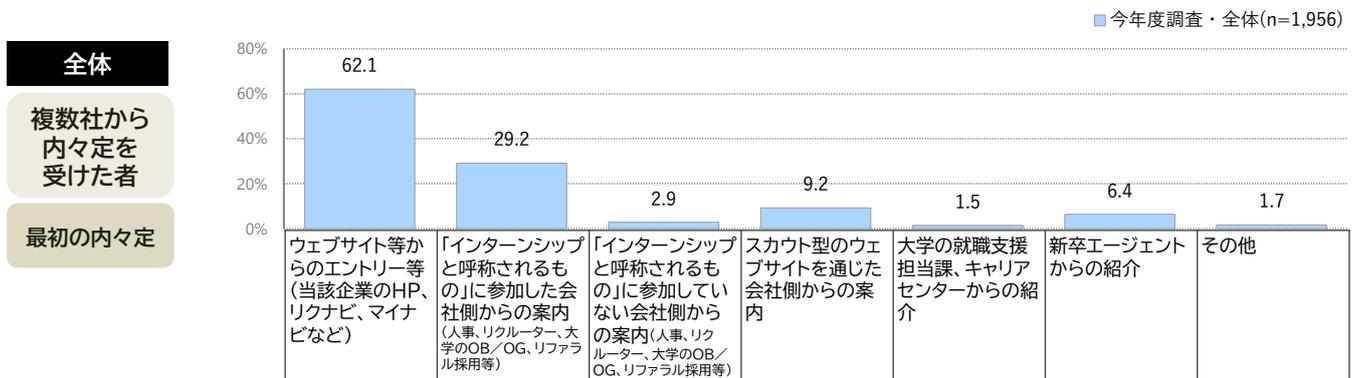
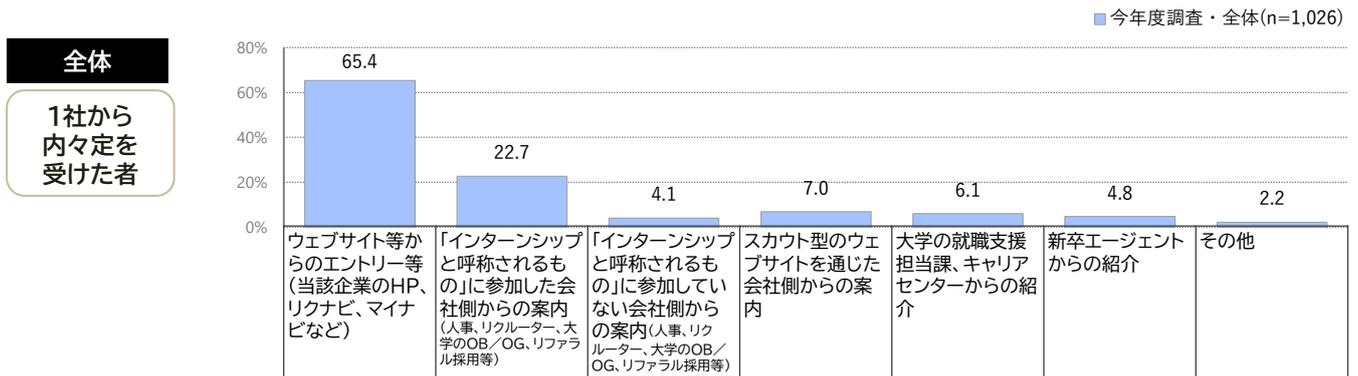


※1：ベンチャー企業については、2022年度調査では「ここでは、独自のアイデアや技術で新しいサービスやビジネスに挑戦している企業のこととする。」と案内、今年度調査では「新興企業であって、独自のアイデアや技術で新しいサービスやビジネスに挑戦している企業」と案内した上で調査を行った。

(5) 採用試験・面接等を受けた経路

①内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路

内々定※1を受けた企業に関してどのような経路で採用試験・面接等を受けたか※2について、1社から内々定を受けた者では、「ウェブサイト等からのエントリー等(当該企業のHP、リクナビ、マイナビなど)」の割合が約7割、「インターンシップと称されるもの」に参加した会社側からの案内(人事、リクレーター、大学のOB/OG、リファラル採用等)が約2割となっている。また、複数社から内々定を受けた者では、「最初の内々定」について「インターンシップと称されるもの」に参加した会社側からの案内(人事、リクレーター、大学のOB/OG、リファラル採用等)の割合が約3割とやや高くなっている。

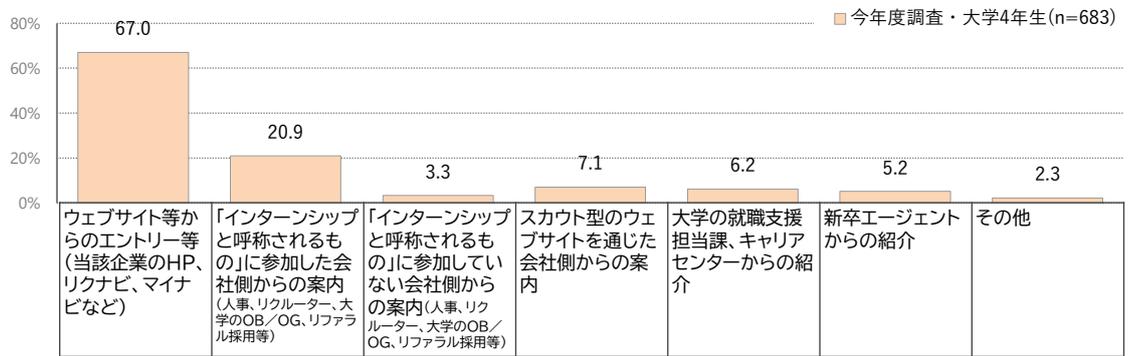


※1：今年度調査より、内々定については、正式な「内定」の前の、企業と形式的に内々に合意したものと案内をした上で調査を行った。

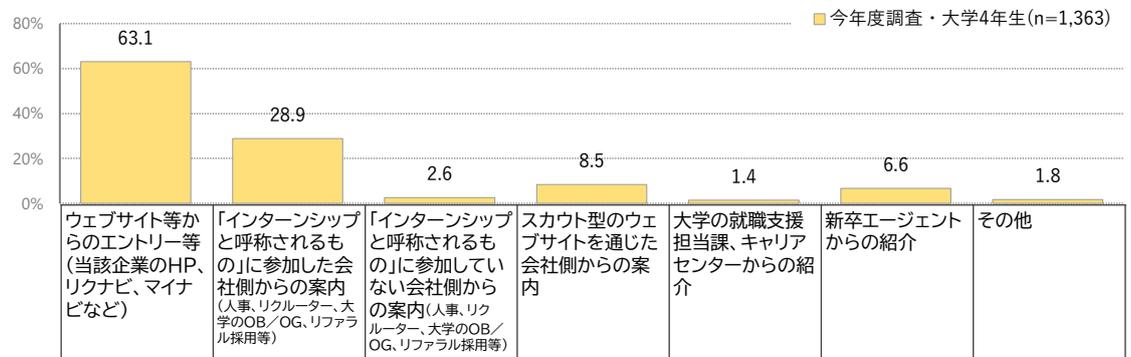
※2：1社から内々定を受けた者は就職予定の企業について、複数社から内々定を受けた者は最初に内々定を受けた企業と就職予定の企業のそれぞれについて調査し、集計をした。

①内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路

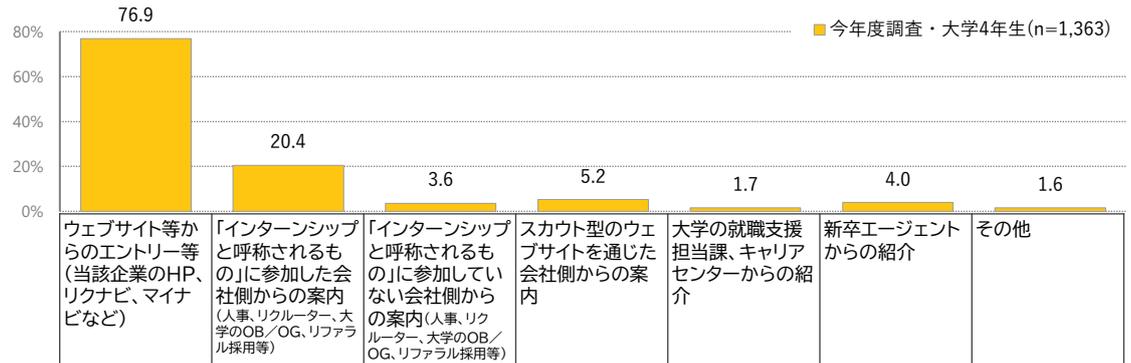
大学4年生
1社から内々定を受けた者



大学4年生
複数社から内々定を受けた者
最初の内々定



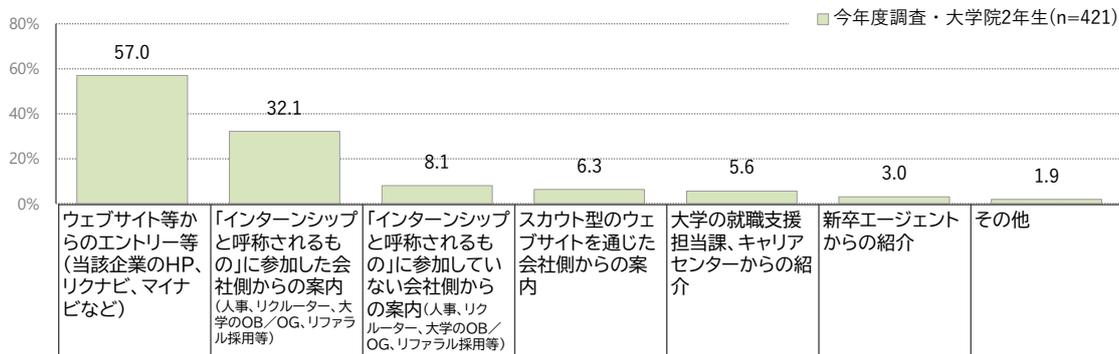
大学4年生
複数社から内々定を受けた者
就職予定の企業の内々定



①内々定を受けた企業について採用試験・面接等を受けた経路

大学院2年生

1社から
内々定を
受けた者



大学院2年生

複数社から
内々定を
受けた者

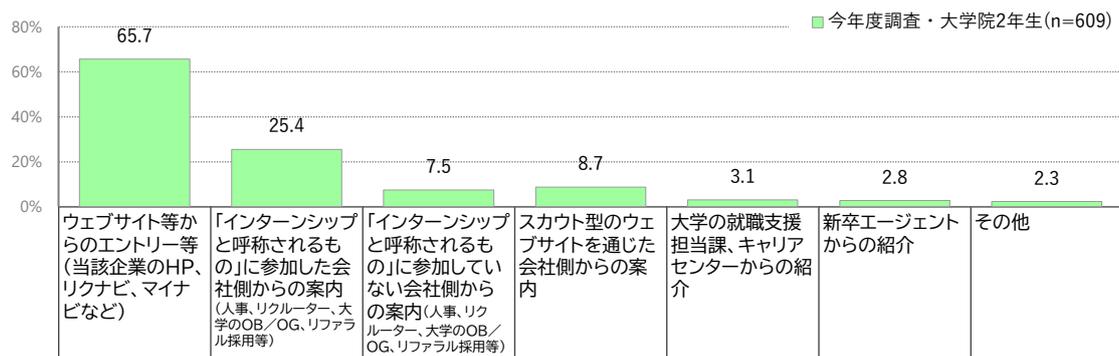
最初の内々定



大学院2年生

複数社から
内々定を
受けた者

就職予定の
企業の内々定

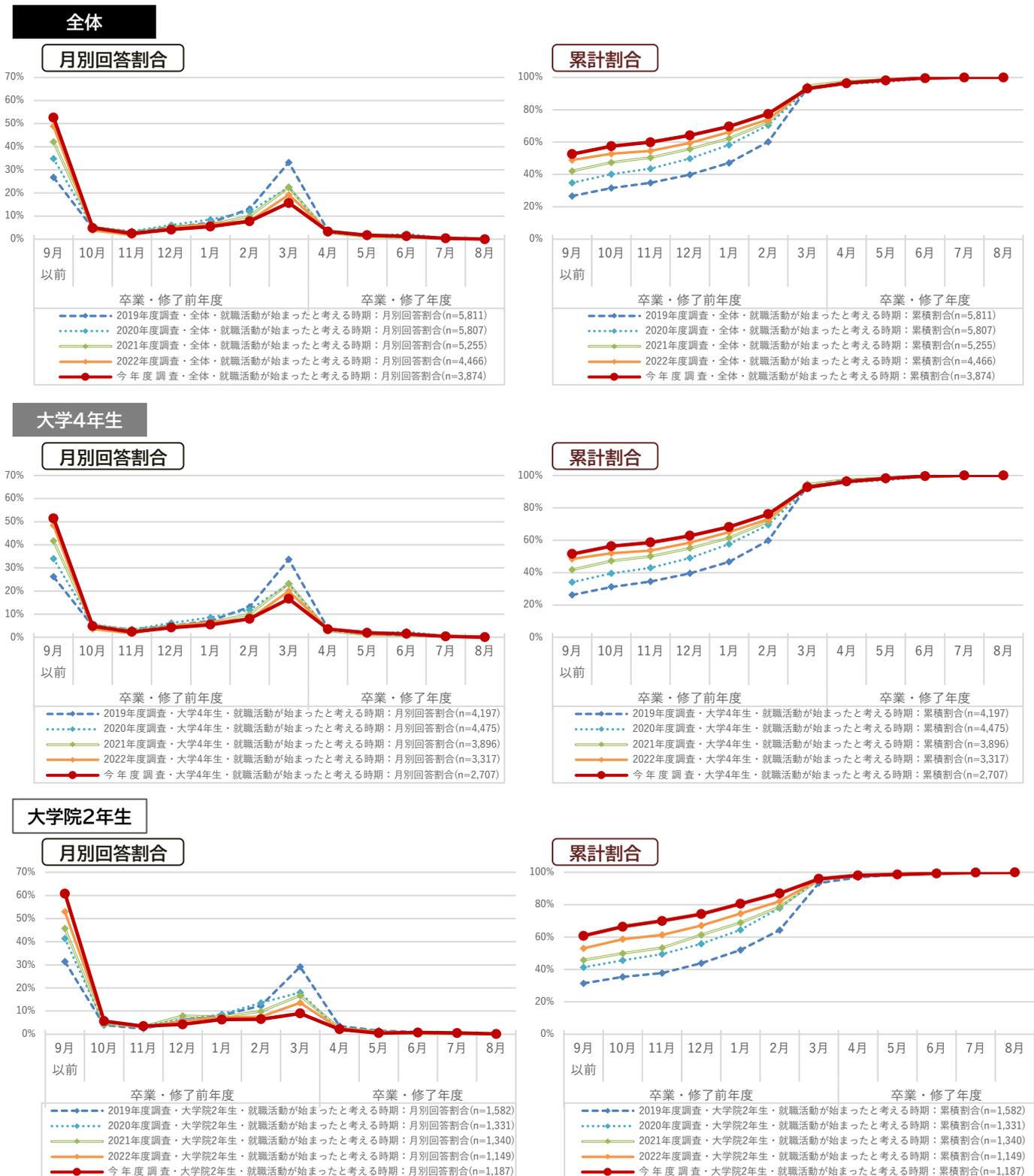


(6) 就職活動の始まりと終わりの認識

①就職活動が始まったと考える時期

回答者自身の認識としての「就職活動が始まったと考える時期」について、「2022年9月以前」が約5割と最も高く、次いで「2023年3月」の回答割合が約2割と高くなっている。

今年度調査では卒業・修了前年度3月の回答割合が比較的高い傾向は続いているが、卒業・修了前年度2月以前の回答割合は年々高くなっている。



①就職活動が始まったと考える時期

【今年度調査・詳細データ】※全て%

全体

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	32.7	10.5	6.2	3.2	4.9	2.5	4.2	5.5	7.8	15.7	3.3	1.8	1.4	0.4	0.0
累積割合	32.7	43.2	49.4	52.6	57.5	60.0	64.2	69.7	77.4	93.1	96.5	98.2	99.6	100.0	100.0

大学4年生

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	31.4	10.6	6.2	3.3	4.8	2.3	4.2	5.4	7.9	16.6	3.5	1.9	1.4	0.4	0.0
累積割合	31.4	42.0	48.1	51.5	56.3	58.6	62.8	68.2	76.1	92.7	96.2	98.2	99.6	100.0	100.0

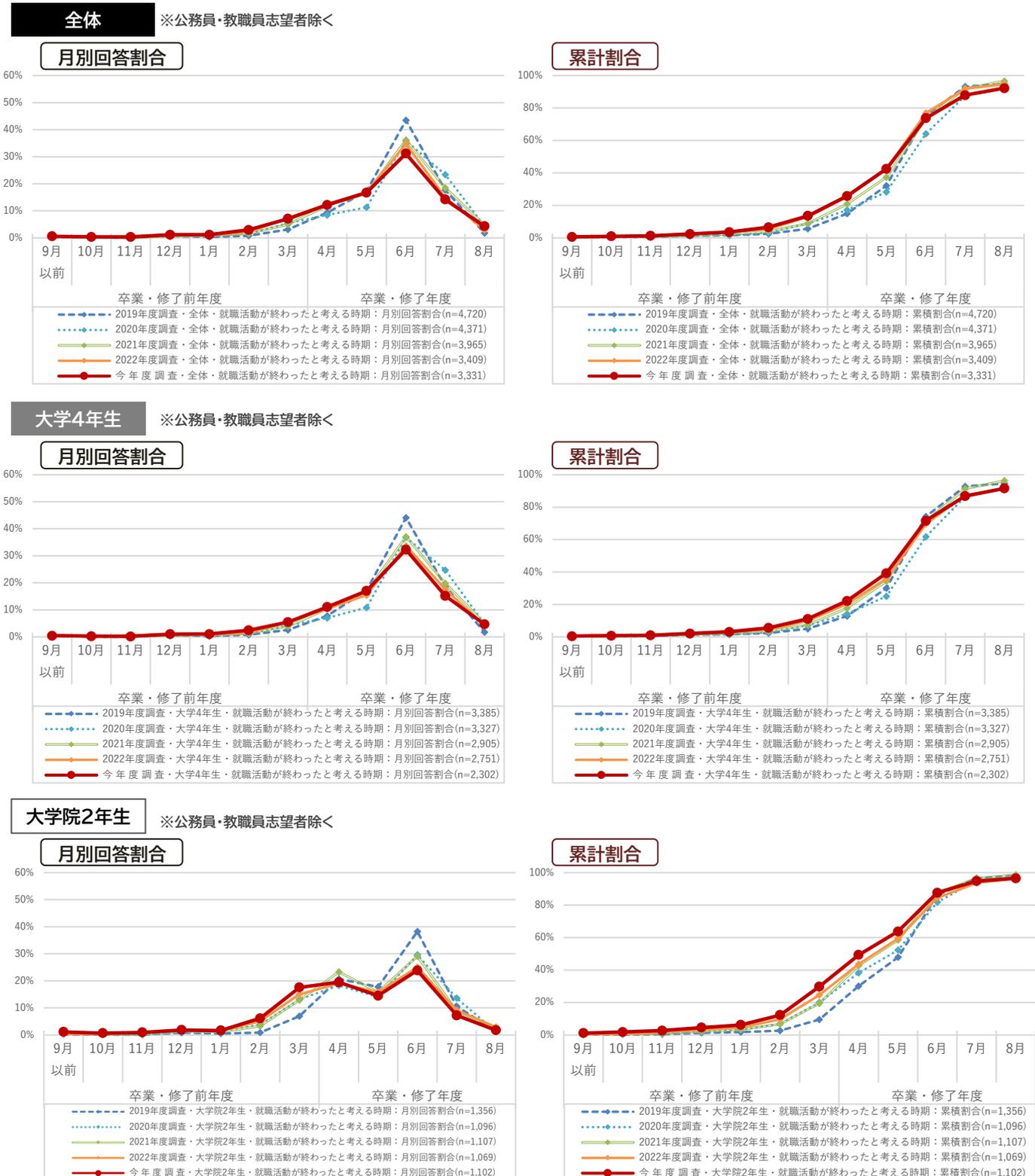
大学院2年生

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	41.9	10.2	6.4	2.3	5.6	3.5	4.3	6.3	6.5	9.0	2.1	0.5	0.7	0.5	0.1
累積割合	41.9	52.1	58.5	60.8	66.5	70.0	74.2	80.6	87.1	96.0	98.2	98.6	99.4	99.9	100.0

②就職活動が終わったと考える時期

内々定を1社以上受けたと回答した者※1にとっての「就職活動が終わったと考える時期」について、「2023年6月」の回答割合が約3割となっている。なお、累積割合※2では、2023年5月以前に就職活動が終わったと回答しているのは約4割となっている。

2022年度調査と比較すると、今年度調査では卒業・修了年度5月までに終わったと回答している人はほぼ同様となっているが、卒業・修了年度の8月までに終わったと回答する人の割合がやや低くなっている。



※1：公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点において採用の面接等が行われていないと想定されることから、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

※2：「内々定をもらったが、就職予定の企業の内々定をもらっていない」とした人を、「まだ終わっていない」とした。そのため、「8月」の時点でも累積割合のグラフは100%にならない。

②就職活動が終わったと考える時期

【今年度調査・詳細データ】※全て%

全体

※公務員・教職員志望者除く

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.2	0.2	0.0	0.2	0.4	0.3	1.2	1.2	2.9	7.1	12.2	16.7	31.2	14.2	4.3
累積割合	0.2	0.4	0.4	0.6	0.9	1.3	2.4	3.6	6.5	13.6	25.8	42.5	73.7	87.9	92.2

大学4年生

※公務員・教職員志望者除く

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.2	0.2	0.0	0.1	0.3	0.2	1.1	1.1	2.5	5.5	11.1	17.1	32.3	15.2	4.7
累積割合	0.2	0.4	0.4	0.5	0.8	1.0	2.1	3.2	5.7	11.2	22.3	39.3	71.7	86.9	91.6

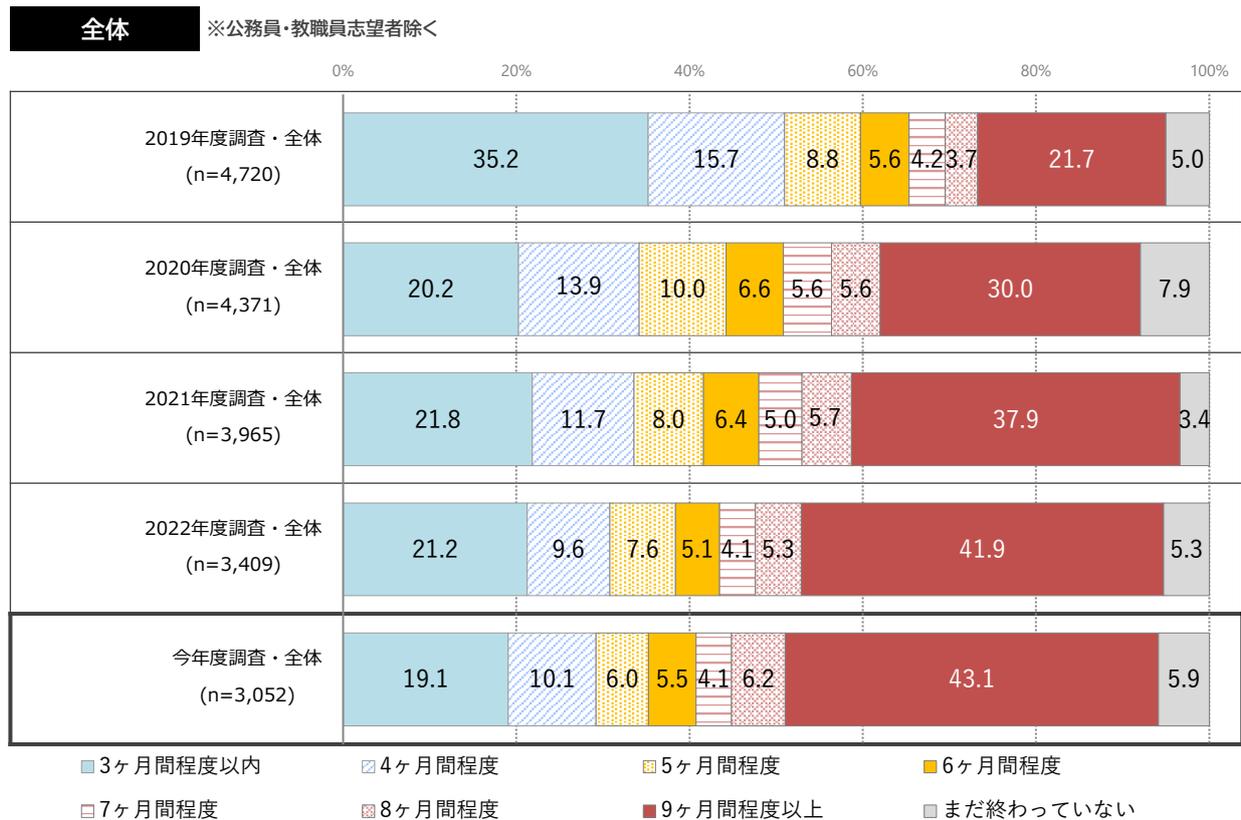
大学院2年生

※公務員・教職員志望者除く

	6月 以前	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
月別回答割合	0.3	0.0	0.2	0.6	0.7	0.9	1.8	1.6	6.1	17.6	19.4	14.5	23.8	7.2	1.7
累積割合	0.3	0.3	0.5	1.1	1.8	2.7	4.5	6.1	12.2	29.8	49.2	63.7	87.6	94.7	96.5

③就職活動の始まりから終わりまでの期間

「就職活動が始まったと考える時期」から「就職活動が終わったと考える時期」の間の期間について集計すると※1、「9ヶ月間程度以上」の割合が約4割と最も高く、次いで「3ヶ月間程度以内※2」が約2割と高い。過年度調査と比較すると、「9ヶ月間程度以上」の割合が年々高くなっており、長期化の傾向がみられる。



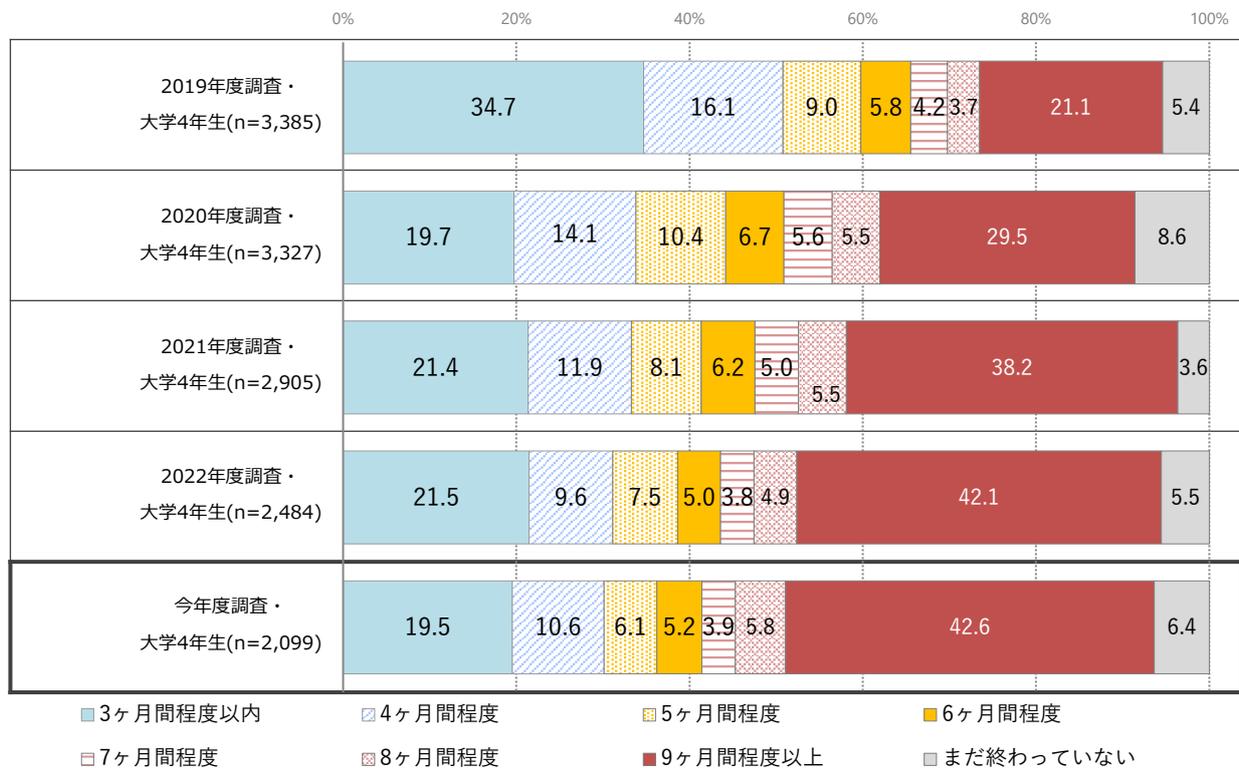
※1公務員や教職員志望者に関しては、調査実施時点において採用の面接等が行われていないと想定されることから、公務員及び教職員志望者は除いて集計を行った。

※2：ここでの集計において、「3ヶ月間程度」とは、例えば、「就職活動が始まったと考える時期」が3月、「就職活動が終わったと考える時期」が6月というように、両者の差が3ヶ月であることを意味する。したがって、「1ヶ月間程度」の分類には、最短で2日間、最長で約60日間の場合が含まれる。一方で、「同月内」の場合であっても実質的には最長で30日間である可能性もある。なお、最初と最後の月から計算しており、途中の期間に就職活動を行っていない可能性があるなど、必ずしも就職活動を行っていた実際の期間の長さを意味するものではない点に留意が必要である。

③就職活動の始まりから終わりまでの期間

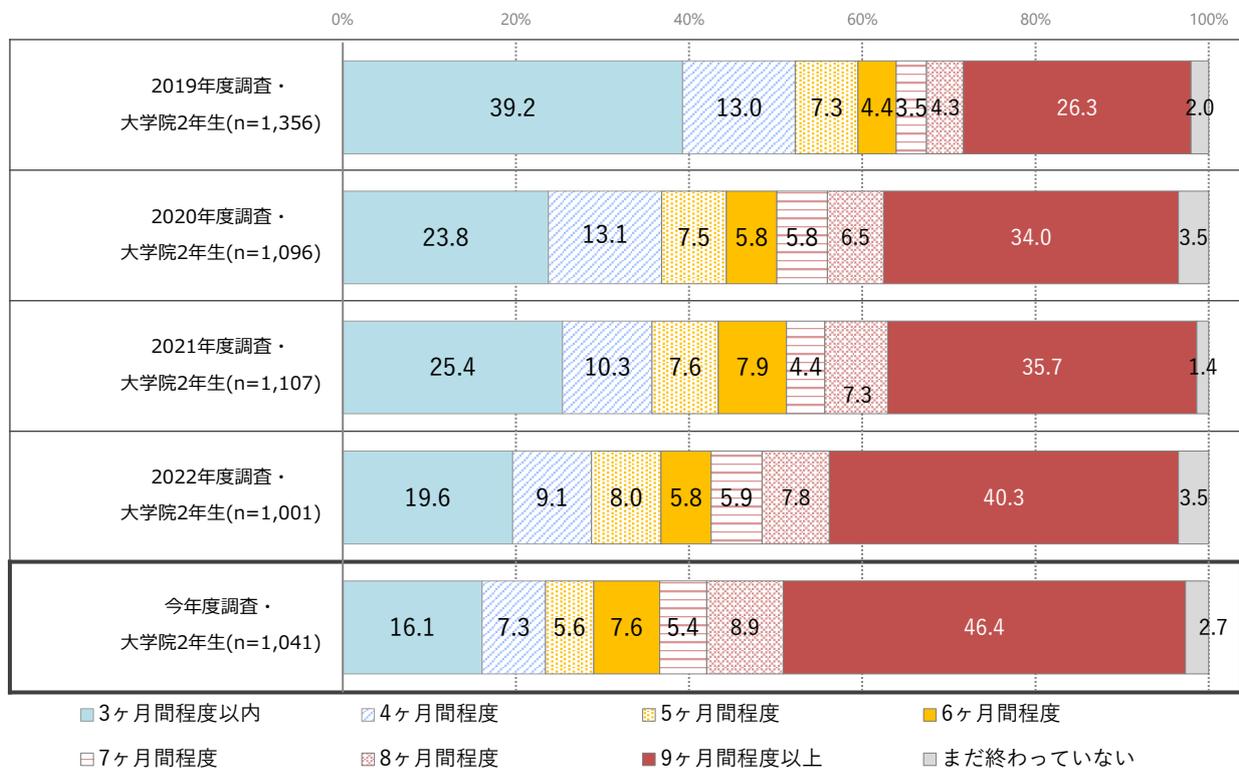
大学4年生

※公務員・教職員志望者除く



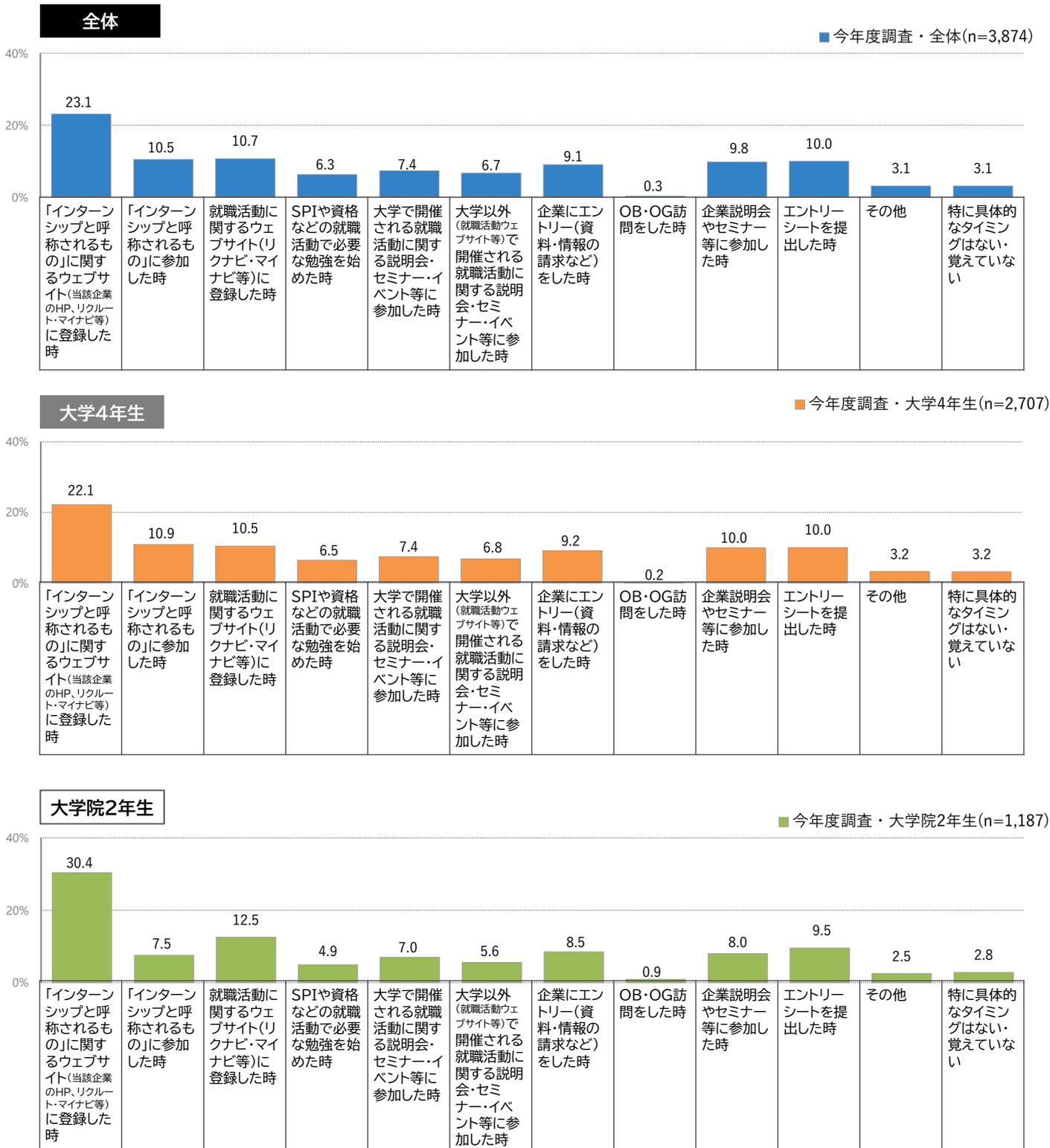
大学院2年生

※公務員・教職員志望者除く



④就職活動が「始まった」と考えるタイミング

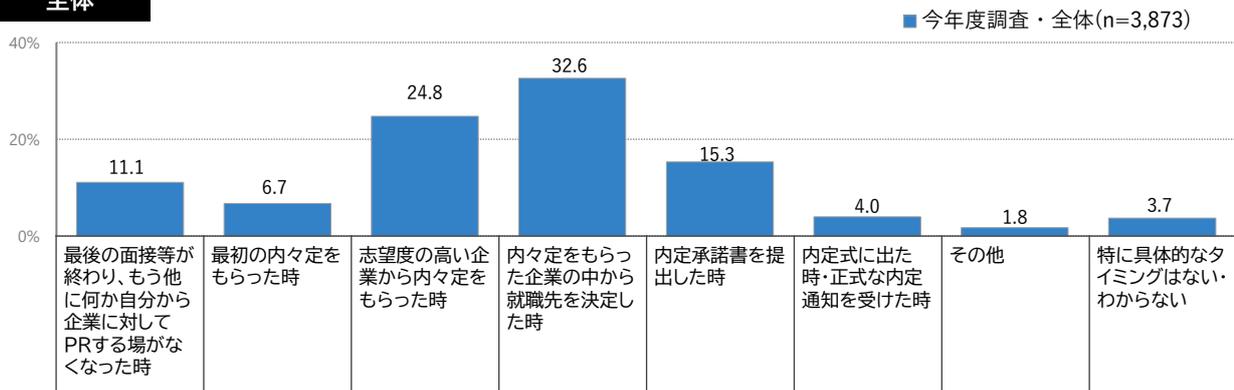
就職活動が「始まった」と考えるタイミングについて、「インターンシップと呼称されるもの」に関するウェブサイトに登録した時」が約2割と最も高く、次いで「就職活動に関するウェブサイトに登録した時」「インターンシップと呼称されるもの」に参加した時」「エントリーシートを提出した時」「企業説明会やセミナー等に参加した時」「企業にエントリーをした時」などが1割前後で並んでいる。



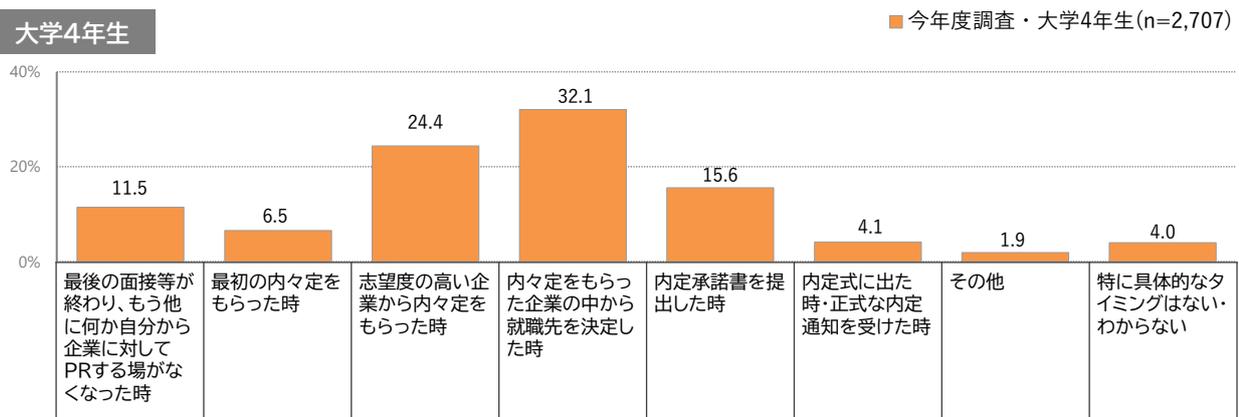
⑤就職活動が「終わった」と考えるタイミング

就職活動が「終わった」と考えるタイミングについて、「内々定をもらった企業の中から就職先を決定した時」が約3割と最も高く、次いで「志望度の高い企業から内々定をもらった時」「内定承諾書を提出した時」が約2割となっている。

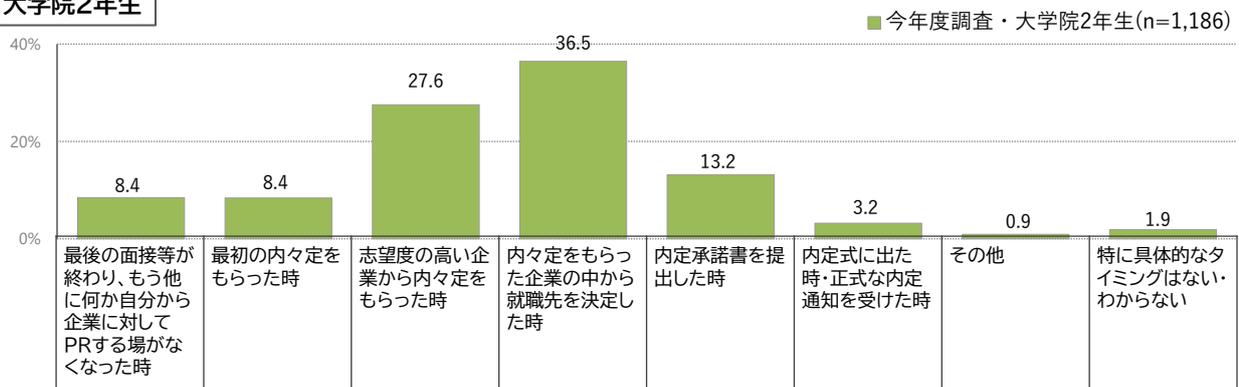
全体



大学4年生



大学院2年生



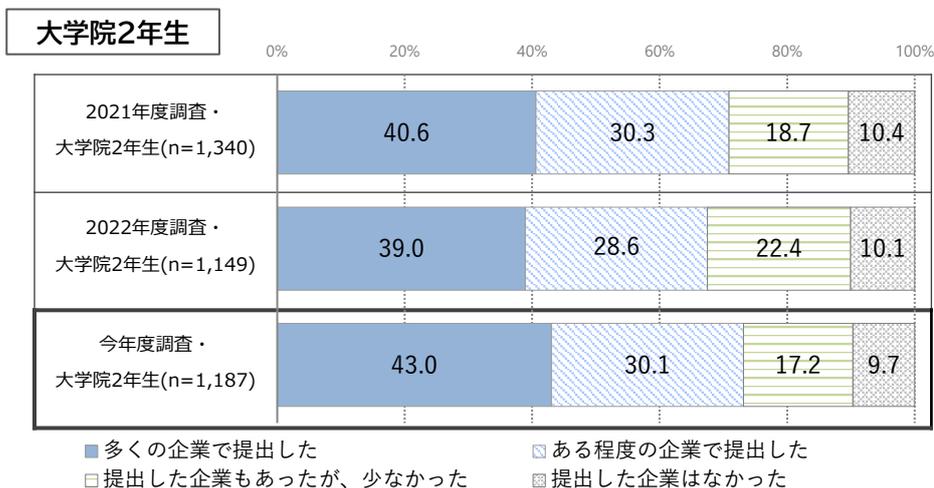
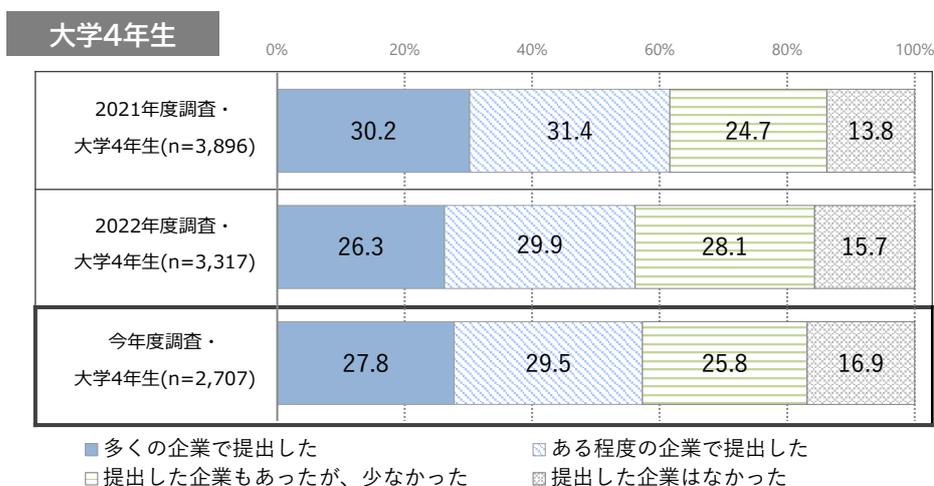
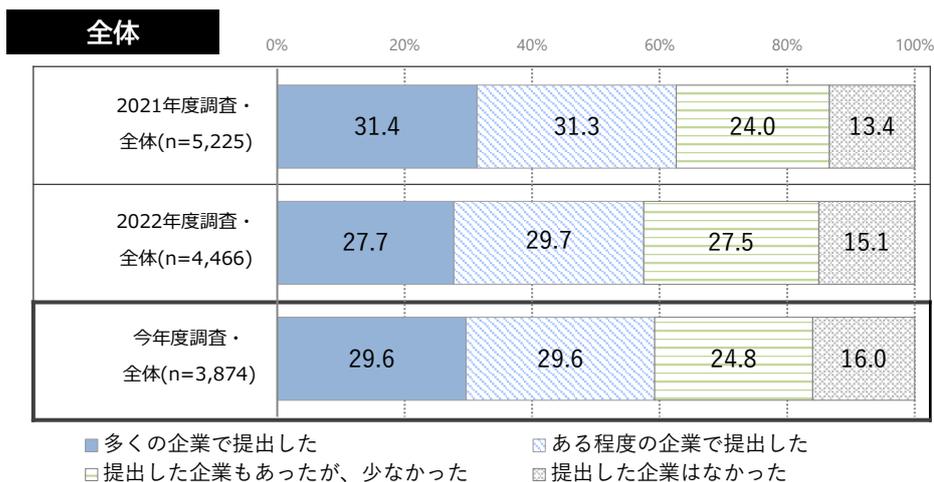
第五章 就職活動における諸問題について

第五章 就職活動における諸問題について

(1) 履修履歴(成績証明書など)の提出の状況

①提出の状況

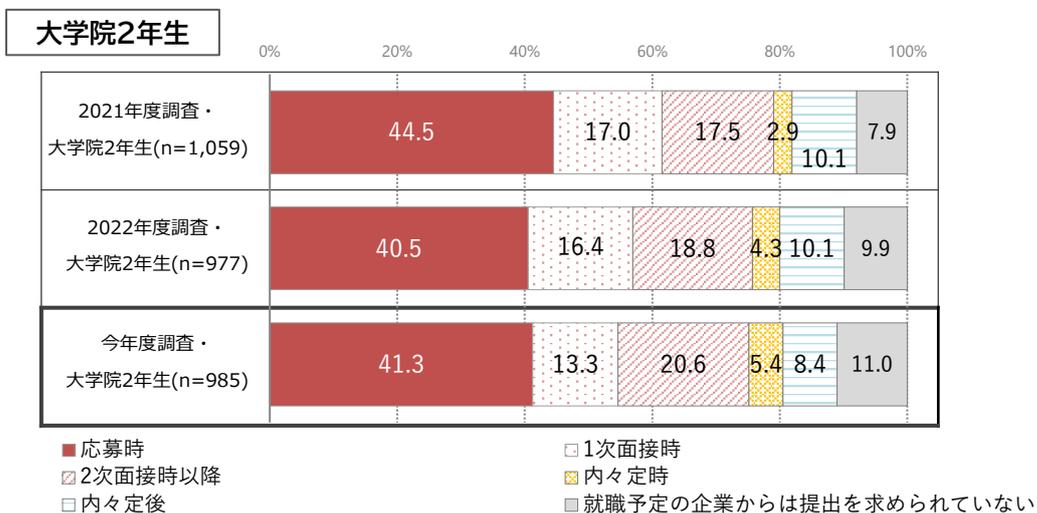
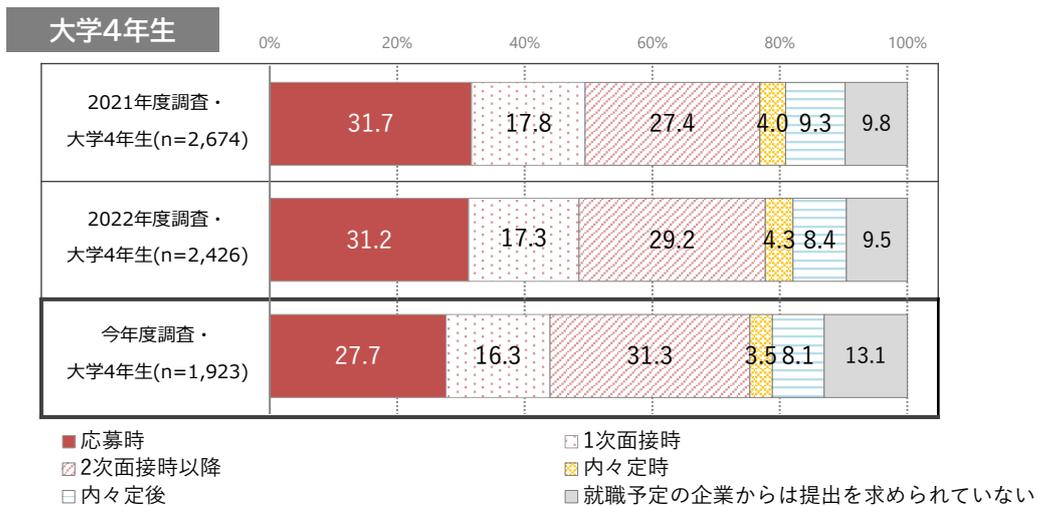
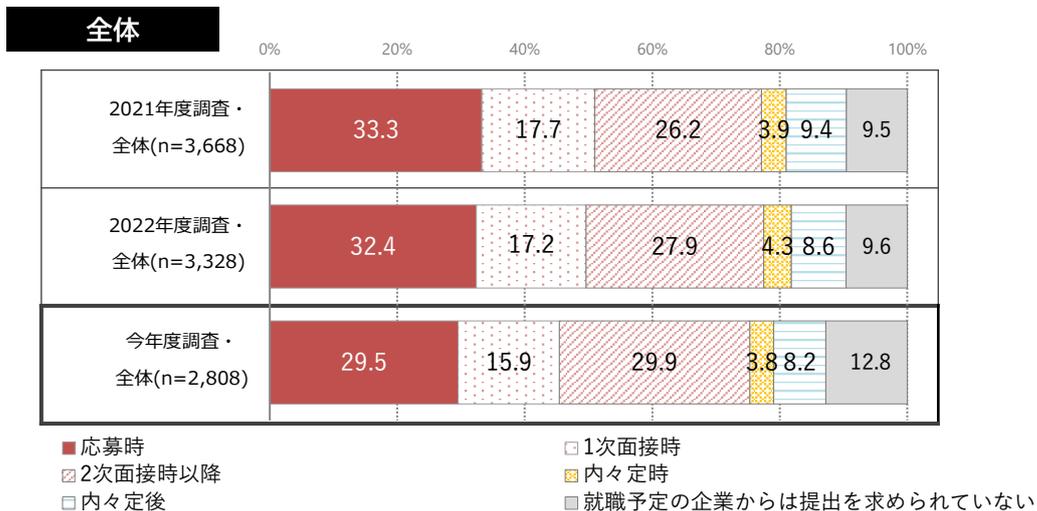
就職活動の面接や試験を受けるにあたり、履修履歴(成績証明書など)を提出することがどの程度あったかについて、「多くの企業で提出した」の回答割合は約3割となっている。
 過年度調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっている。



②就職予定の企業への履修履歴提出のタイミング

就職予定の企業から履修履歴(成績証明書など)の提出がいつ頃求められたかについて※1、「2次面接時以降」「応募時」の回答割合が約3割と高くなっている。

過年度調査と比べると、「応募時」がやや減少し、「2次面接時以降」がやや増加傾向にある。



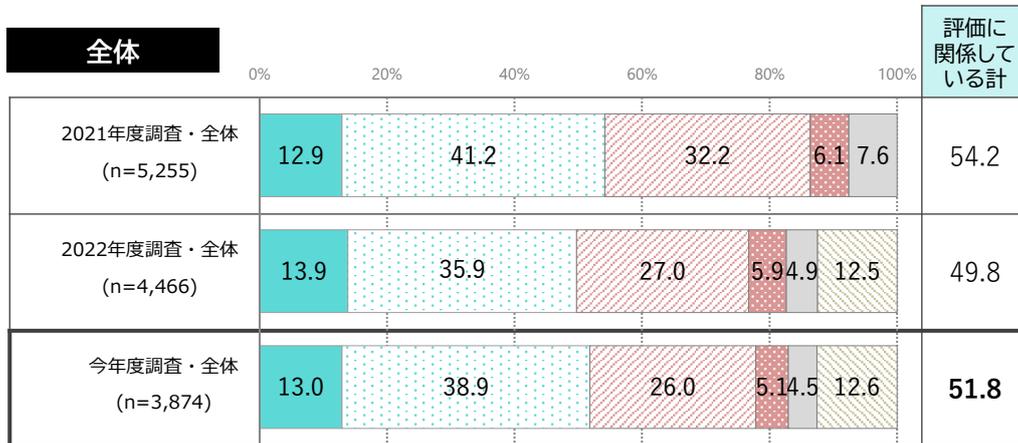
※1：就職予定の企業から履修履歴(成績証明書など)の提出がいつ頃求められたかについて、「就職予定の企業の内々定を受けたのはいつ頃ですか」という設問に対して、「まだ受けていない」と回答した者、または「就職活動に採用試験・面接等を受けるにあたり、履修履歴(成績証明書など)を提出することがどの程度ありましたか」という設問に対して、「提出した企業はなかった」と回答した者は除いて集計した。

(2) 採用面接の際の学業や成績等への評価

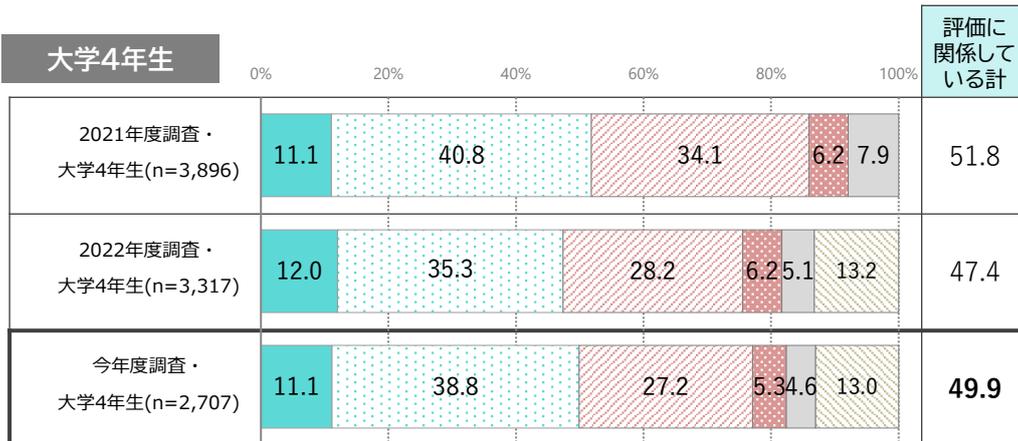
①採用面接の際の学業の取り組みや成績等への質問有無と評価との関係

採用面接において、研究・ゼミや専門分野などの学業への取組や成績等の質問などを受け、その内容が採用選考の評価に関係していると感じたかについて※1、「評価に深く関係していると感じた」と「評価にある程度関係していると感じた」を合わせた割合は約5割となっている。

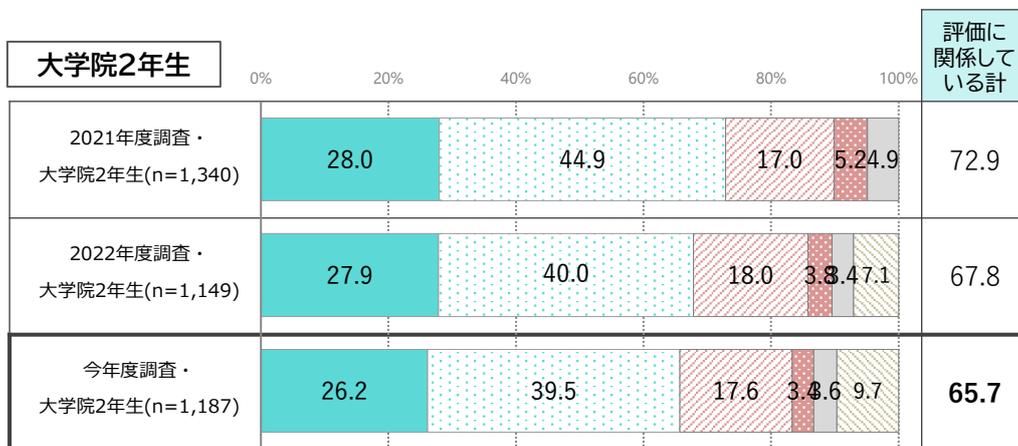
2022年度調査と比べると、「評価に深く関係していると感じた」の回答割合は、ほぼ同様の結果となっている。



- 評価に深く関係していると感じた
- 評価にあまり関係していないと感じた
- 学業への取組や成績等について質問されなかった
- 評価にある程度関係していると感じた
- 評価に全く関係していないと感じた
- 評価は企業によってばらばらなので一概には言えない



- 評価に深く関係していると感じた
- 評価にあまり関係していないと感じた
- 学業への取組や成績等について質問されなかった
- 評価にある程度関係していると感じた
- 評価に全く関係していないと感じた
- 評価は企業によってばらばらなので一概には言えない



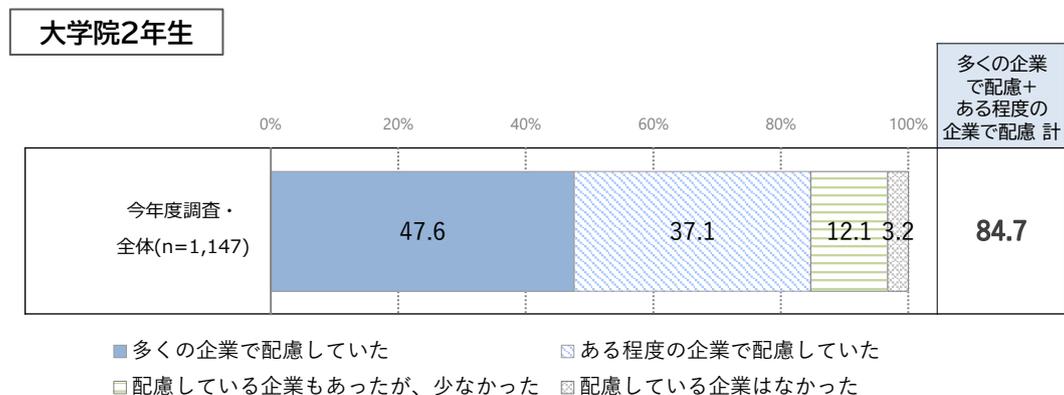
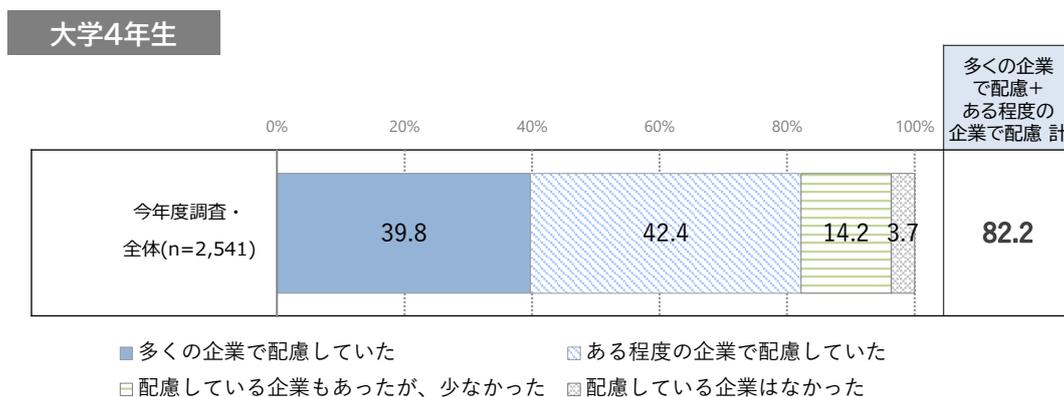
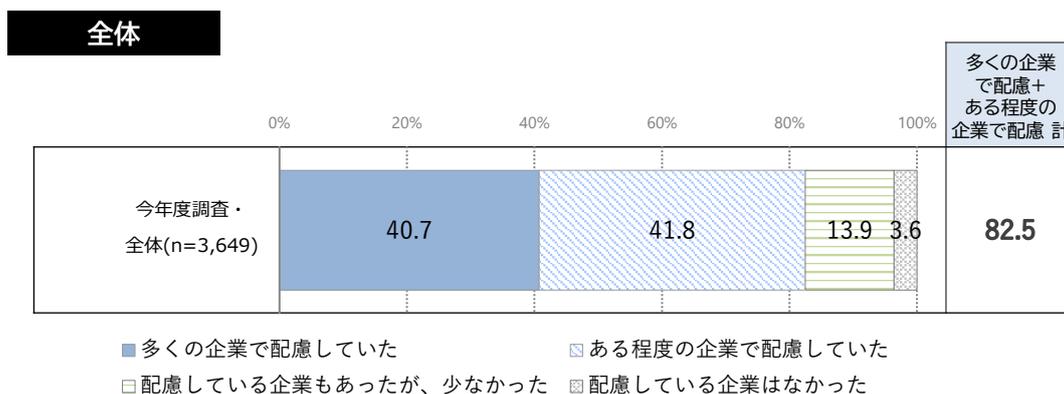
- 評価に深く関係していると感じた
- 評価にあまり関係していないと感じた
- 学業への取組や成績等について質問されなかった
- 評価にある程度関係していると感じた
- 評価に全く関係していないと感じた
- 評価は企業によってばらばらなので一概には言えない

※1：「評価は企業によってばらばらなので一概には言えない」の調査項目は2022年度調査で新たに設けた項目である。

(3) 就職活動の日程・時間帯等に関する配慮

①説明会や面接等の日程・時間帯等についての配慮

就職活動を行った企業において説明会や個別の面接日時・時間帯等について配慮があったかについて、「よくわからない」と回答した者を除くと※1、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約8割となっている。



※1：就職活動を行った企業について、「説明会や個別の面接日時・時間帯について、就職活動が授業・試験等の妨げにならないよう、連絡が余裕をもって行われたり、土日や平日夕方などの対応があったり、日程の候補が複数提示されたり、学生の要望を聞いたりするなどの配慮がありましたか。」という設問に対して、「よくわからない」と回答した者は除いて集計した。

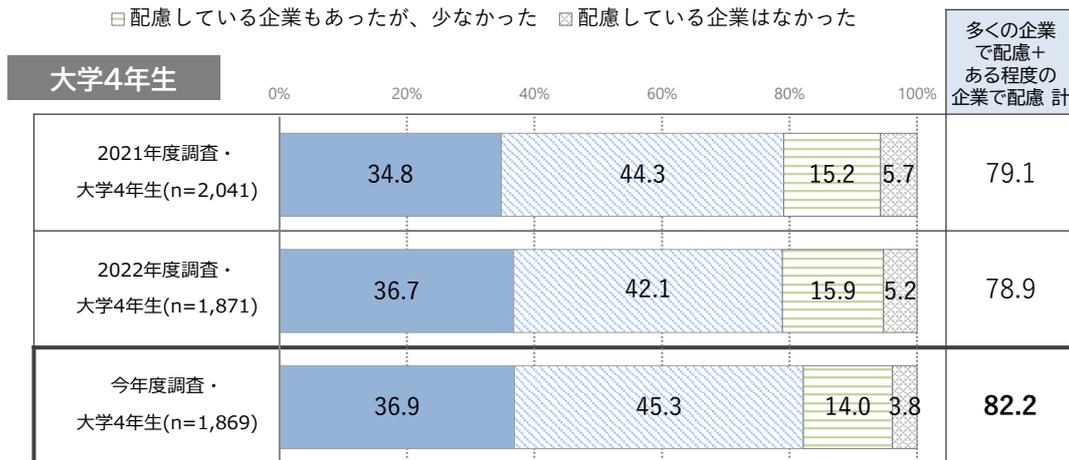
(4) 遠隔地への就職活動への配慮

①遠隔地への就職活動に際する企業側からの配慮の状況

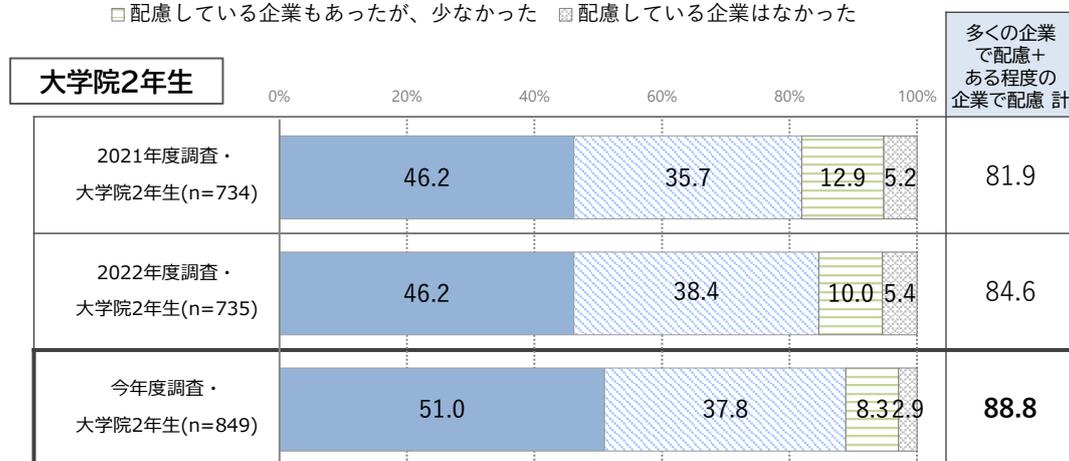
地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮があったかについて、「よくわからない」と回答した者を除くと※1、「多くの企業で配慮していた」と「ある程度の企業で配慮していた」を合わせた回答割合は約8割となっている。
 過年度調査と比較すると、やや増加傾向となっている。



- 多くの企業で配慮していた
- ▨ ある程度の企業で配慮していた
- 配慮している企業もあったが、少なかった
- 配慮している企業はなかった



- 多くの企業で配慮していた
- ▨ ある程度の企業で配慮していた
- 配慮している企業もあったが、少なかった
- 配慮している企業はなかった



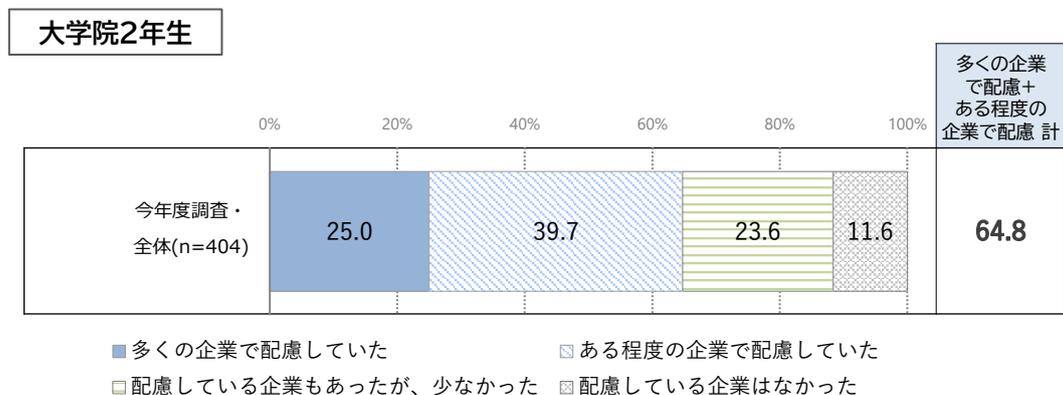
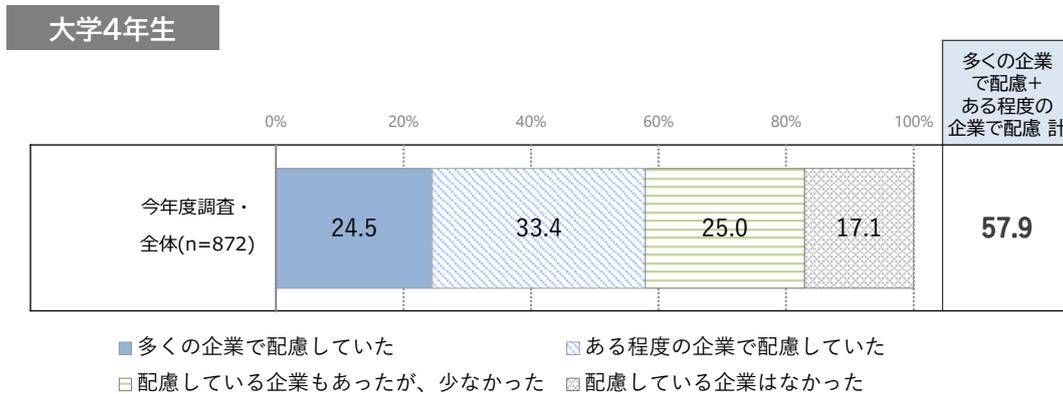
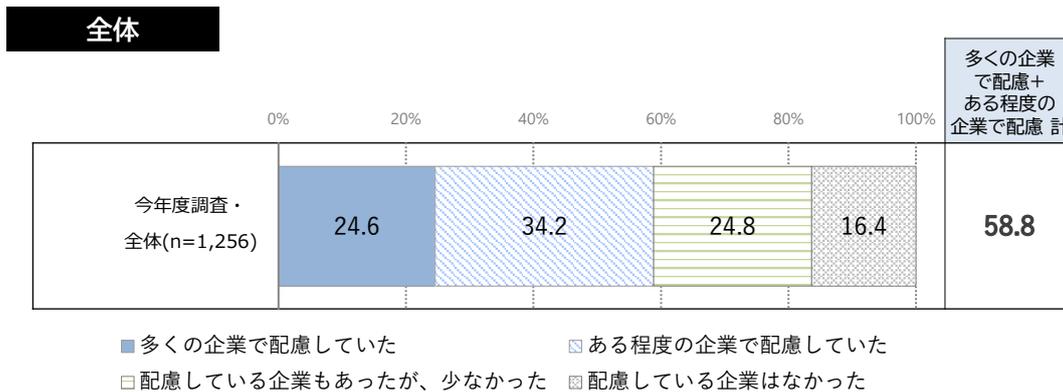
- 多くの企業で配慮していた
- ▨ ある程度の企業で配慮していた
- 配慮している企業もあったが、少なかった
- 配慮している企業はなかった

※1：「地方から都市部への就職活動や、Uターン・Iターン・Jターン就職など、学生の負担の大きい遠隔地への就職活動に際して、企業側からの配慮がありましたか」という設問に対して、2022年度調査以前においては「自身が該当しないため、よくわからない」、今年度調査においては「よくわからない」と回答した者は除いて集計した。

(5) 留学経験者への配慮

①企業側から留学経験者に対する配慮の状況

就職を希望した企業において、留学経験者が不利にならないよう留学経験者向けのスケジュールや情報を別途示すなど配慮があったかについて、「わからない」と回答したものを除くと※1、約6割が「多くの企業で配慮していた」または「ある程度の企業で配慮していた」と回答している。



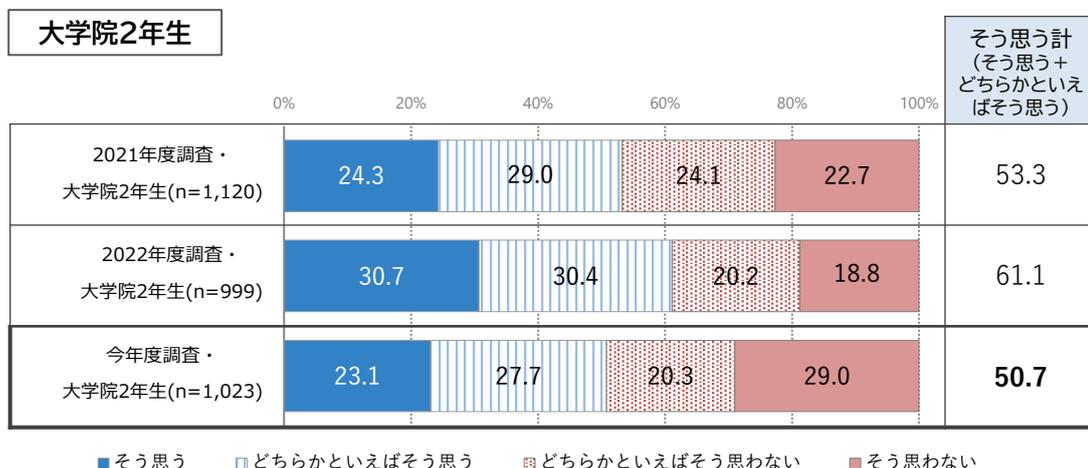
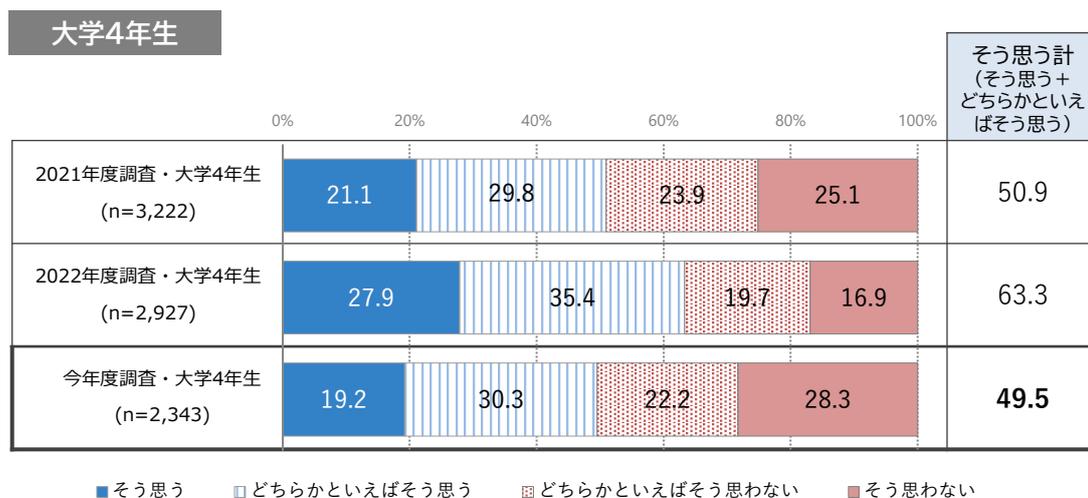
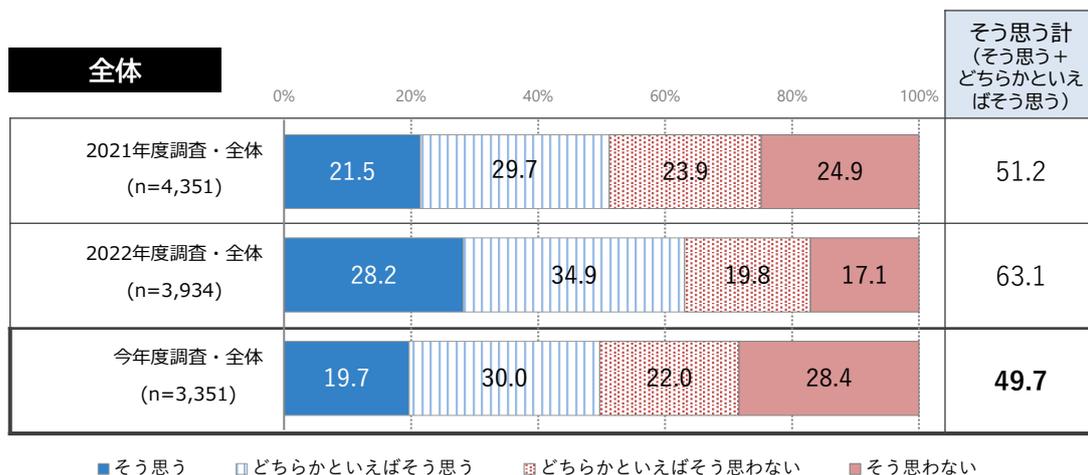
※1：「あなたが就職活動をした企業は、企業側から留学経験者向けのスケジュール・情報を別途示すなど、留学により不利にならないように配慮していましたか」という設問に対して、「わからない」と回答した者は除いて集計した。

(6) 秋採用や通年採用などに関する機会提供や情報発信

①秋採用や通年採用などに関する企業の機会提供や情報発信の状況

秋採用や通年採用などといった機会の提供や情報発信が企業からされていたか※1について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約5割となっている。

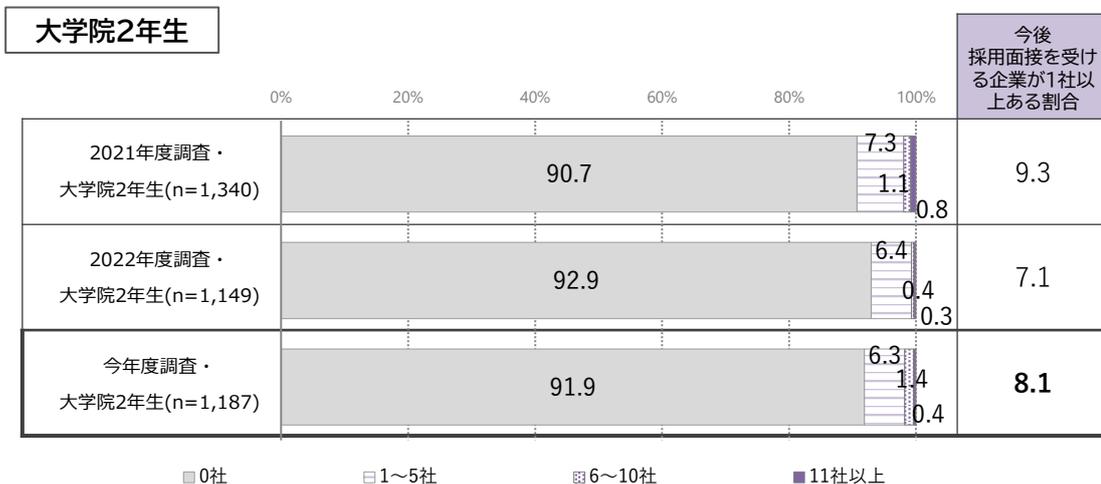
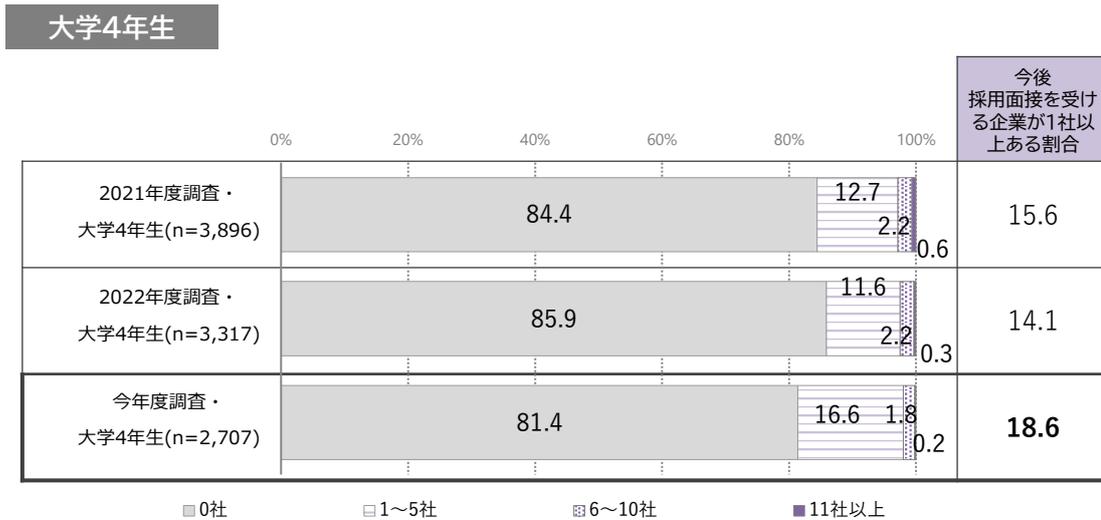
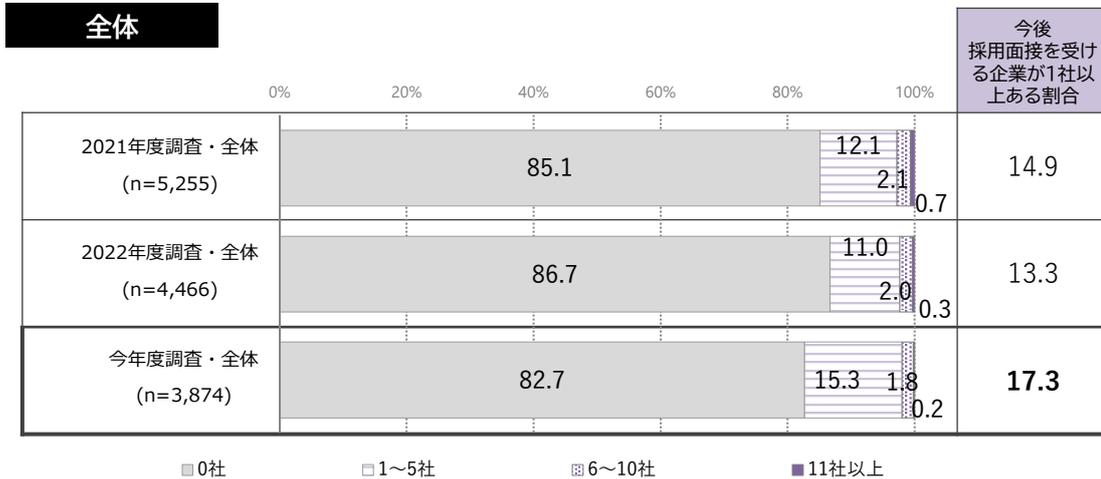
2022年度調査と比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は低下傾向にある※2。



※1：就職活動を行った企業について、「秋採用や通年採用などといった機会の提供や情報発信が企業からされていたか」という設問に対して、「わからない」と回答した者は除いて集計した。
 ※2：前年度までは「秋採用や通年採用などといった機会の提供や情報発信は、企業からあなたを含めた応募者に対してなされていたか」と尋ねていたが、今年度調査では「秋採用や通年採用などといった機会の提供や情報発信は、企業からあなたに対してなされていたか」と尋ねた。

②今後の採用面接の予定

今後採用面接を受ける予定の企業数について、1社以上である者が約2割となっている。
 過年度調査と比較すると、「1社以上」の回答割合は増加傾向にある※1。



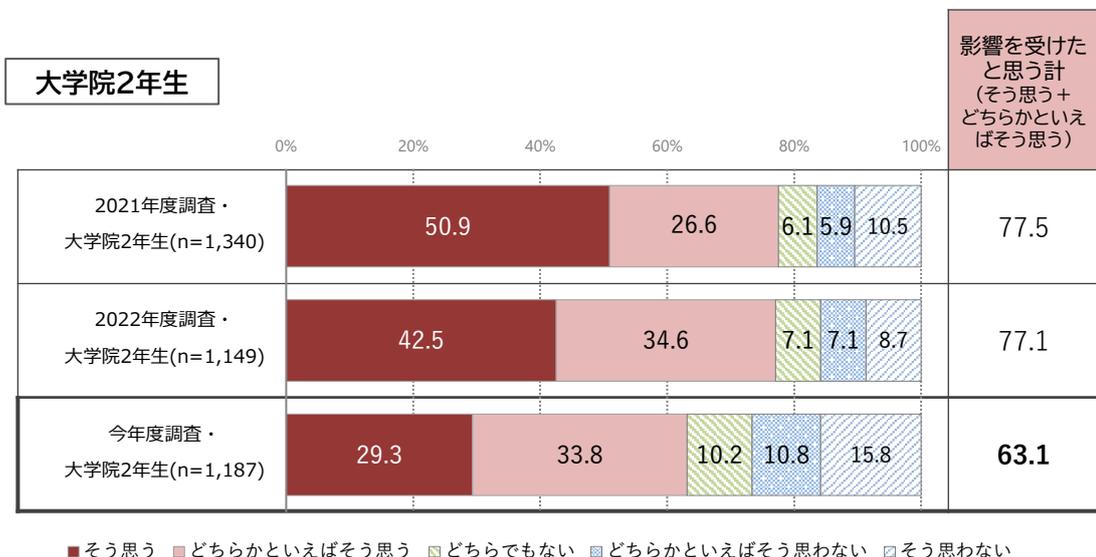
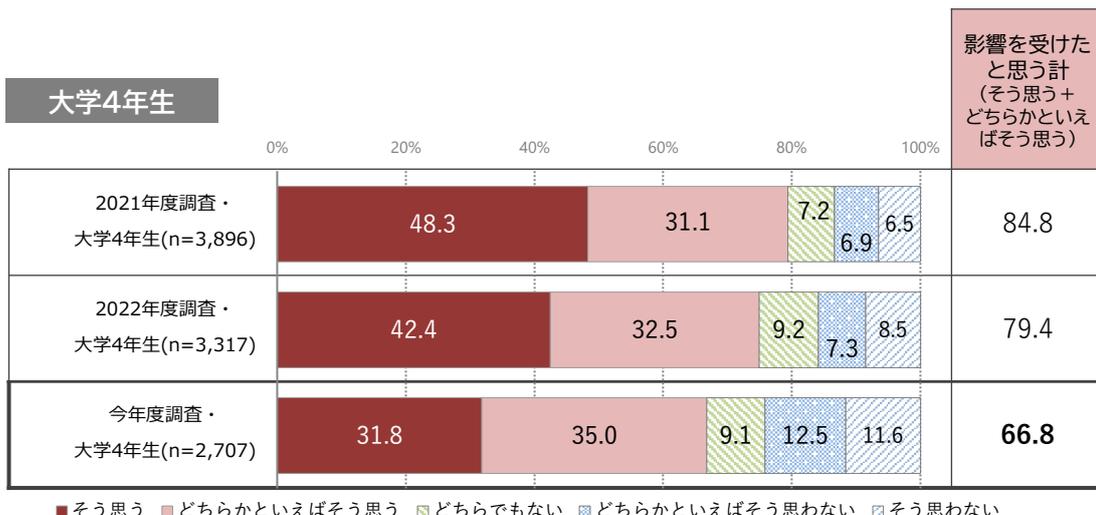
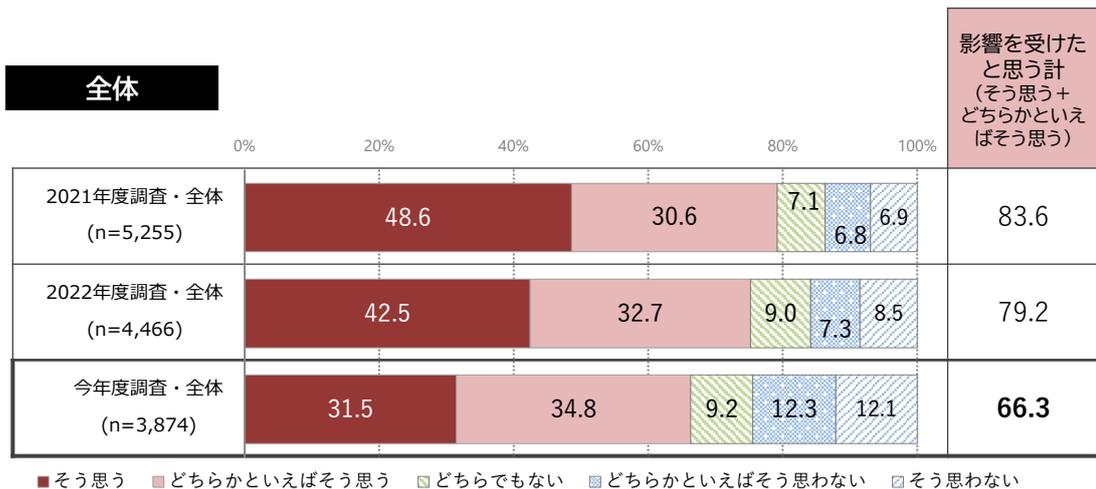
※1：2022年度以前調査では「秋採用や通年採用の実施により、今後採用面接を受ける予定の企業数はどの程度あるか」について尋ねていたが、今年度調査では秋採用や通年採用の限定せず、「今後採用面接を受ける予定の企業はどの程度あるか」を尋ねた。

(7) 新型コロナウイルス感染症の影響

①就職活動全般について新型コロナウイルス感染症によって影響を受けたと思うか

就職活動全般について、新型コロナウイルス感染症によって影響を受けたと思うかについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答割合は約7割となっている。

過年度調査と比較すると、「そう思う」の回答割合は減少傾向にある。

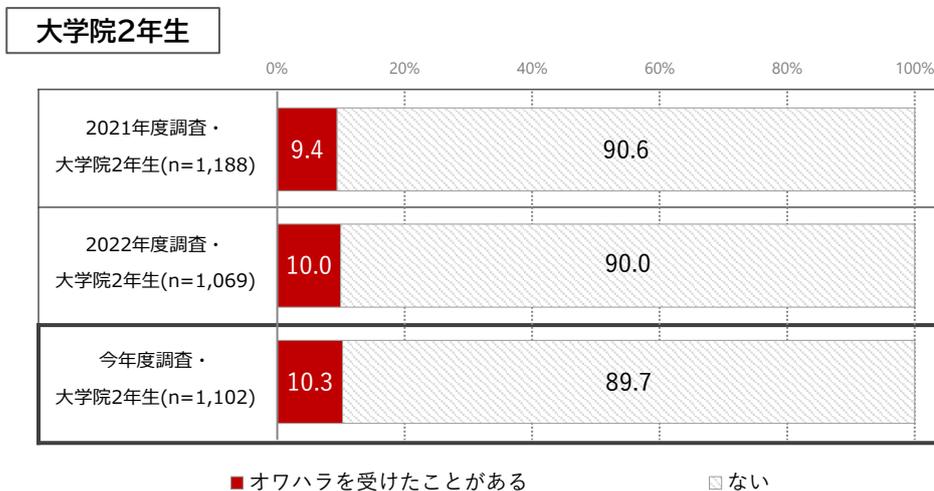
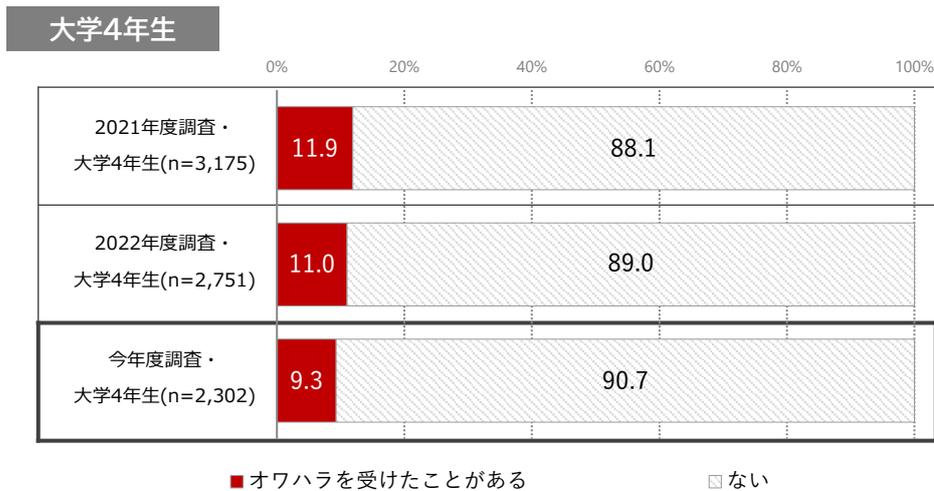
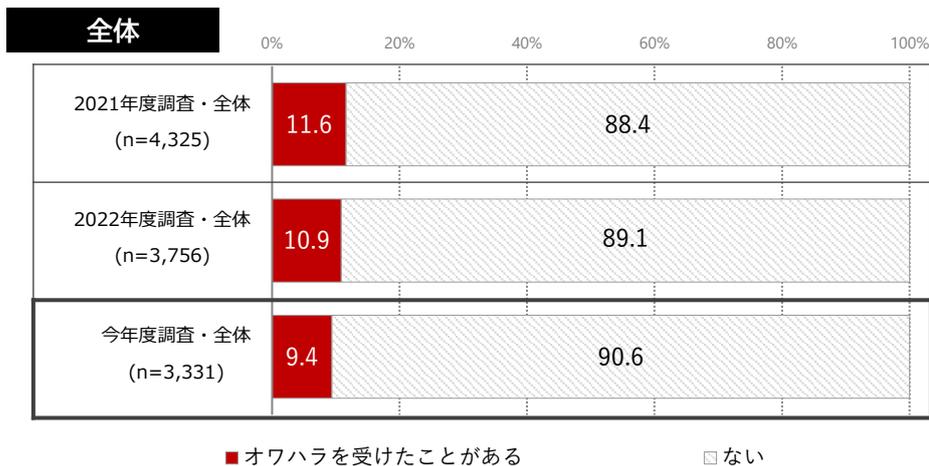


(8) 「オワハラ」の状況

①「オワハラ」の有無

企業等から、他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為（「オワハラ※1」）を受けたことがあるかについて※2、約1割の者が「ある」と回答している。

過年度調査と比較すると、「ある」と回答した割合は、やや減少傾向にある。

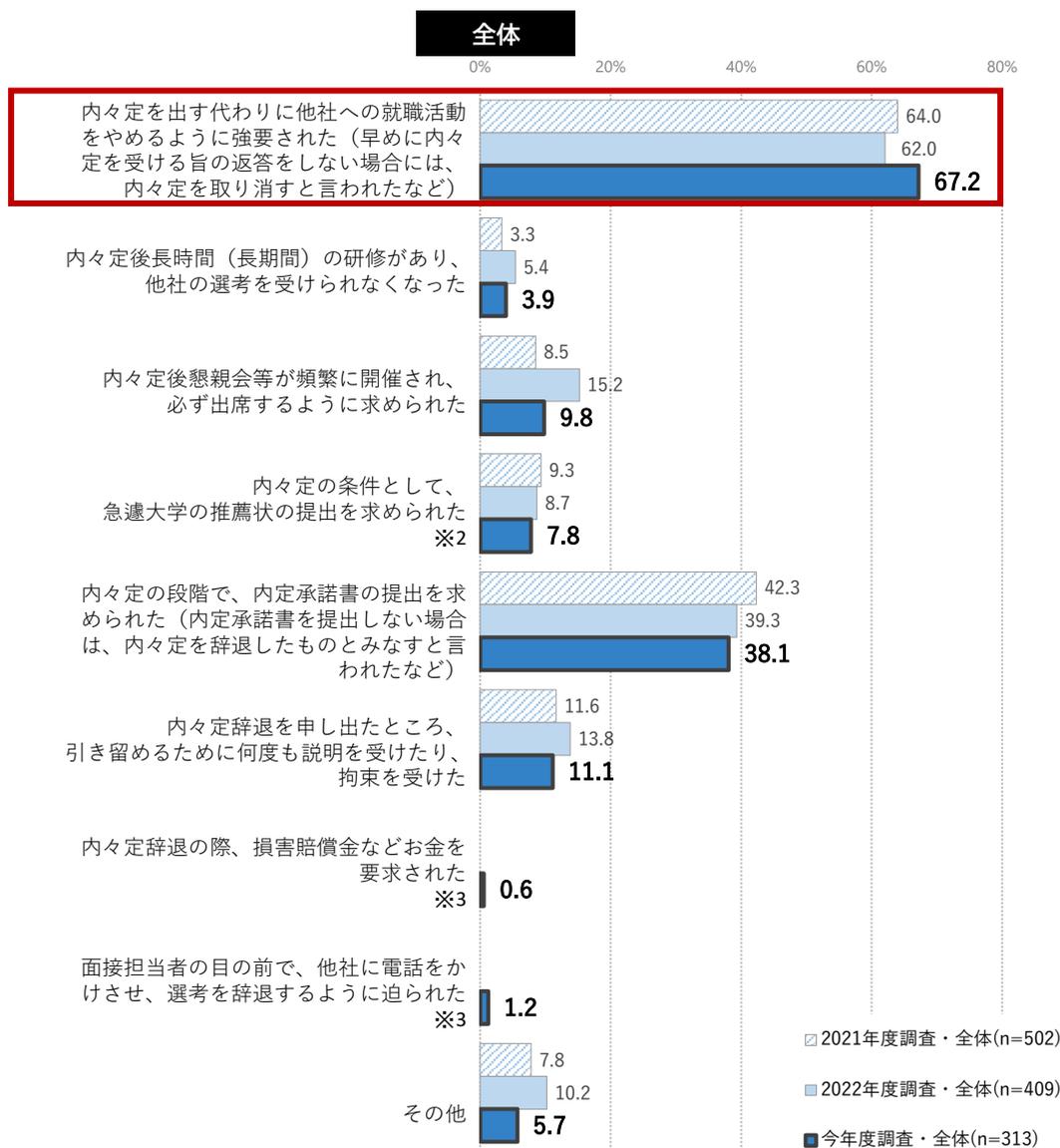


※1：今年度調査から設問において「（例）正式な内定前に他社への就職活動の終了を迫ったり、誓約書等を要求したりすること」「（例）内（々）定期間中に行われた業務性が強い研修について、内（々）定辞退後に研修費用の返還を求めたり、事前にその誓約書を要求したりすること」といった例を提示したうえで、調査を行った。

※2：内々定を1社以上から受けた者を集計の対象とした。

②「オワハラ」の内容

企業等から、「オワハラ※1」を受けたことがあると回答した者に関し、どのような行為を受けたかについては、「内々定を出す代わりに他社への就職活動をやめるように強要された（早めに内々定を受ける旨の返答をしない場合には、内々定を取り消すと言われたなど）」の回答割合が約7割となっており、2022年度調査と比較して高くなっている。

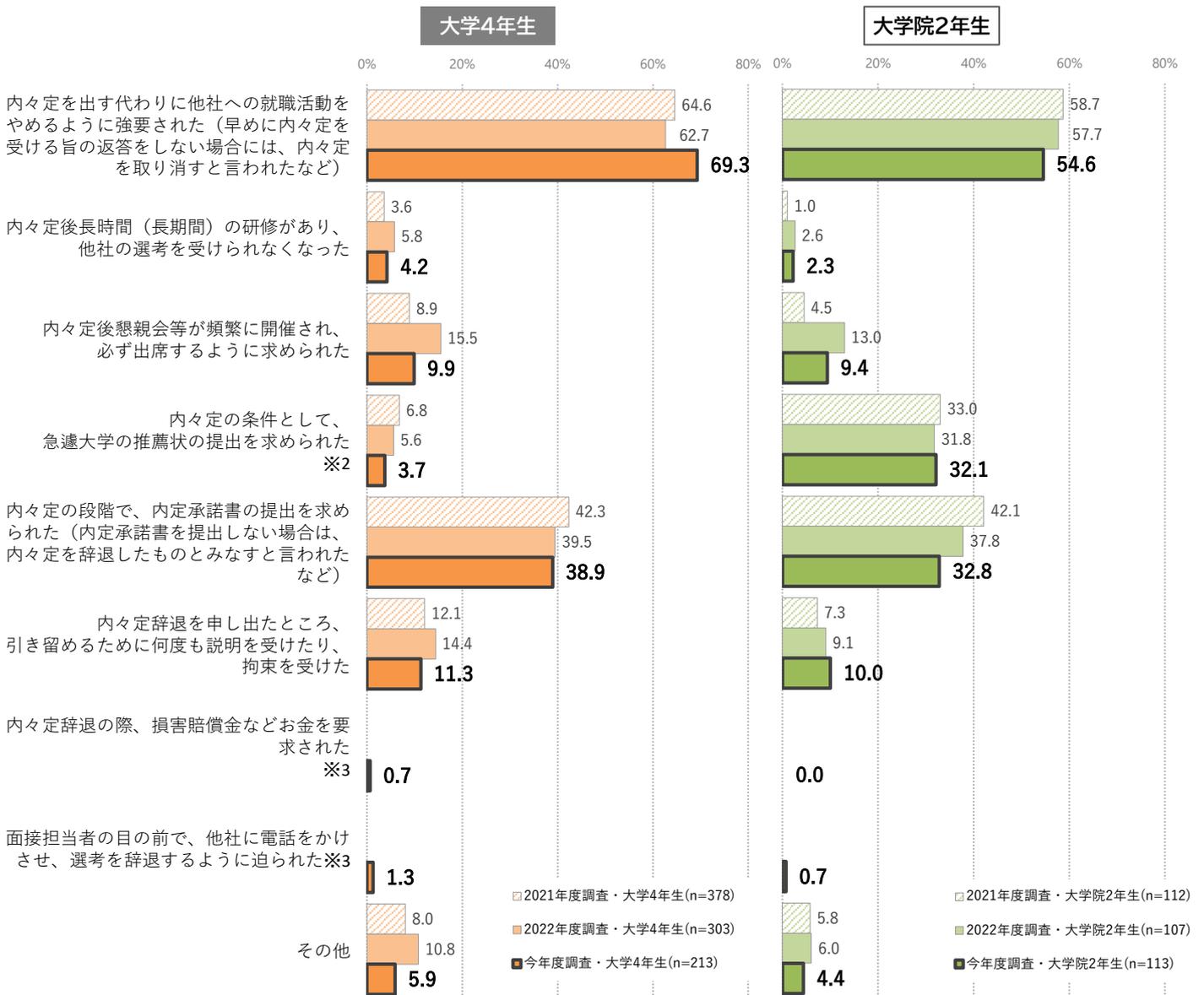


※1：オワハラについては、今年度調査では「企業等から、あなたの意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント行為」と案内した上で調査を行った。

※2：2022年度以前の選択肢は「自由応募であったのに、内々定の段階になって、まだ他社の選考を受けたいにも関わらず、急遽大学の推薦状の提出を求められた」。

※3：「内々定辞退の際、損害賠償金などお金を要求された」「面接担当者の目の前で、他社に電話をかけさせ、選考を辞退するように迫られた」は今年度調査より新たに設けた項目である。そのため、「その他」の数値についても注意が必要。

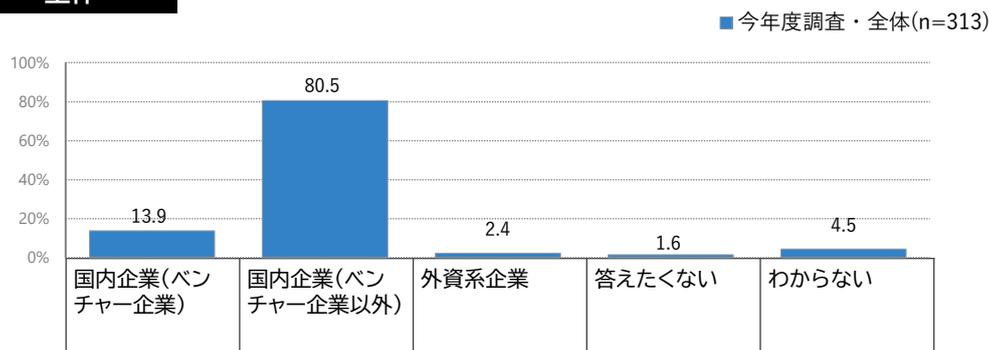
②「オワハラ」の内容



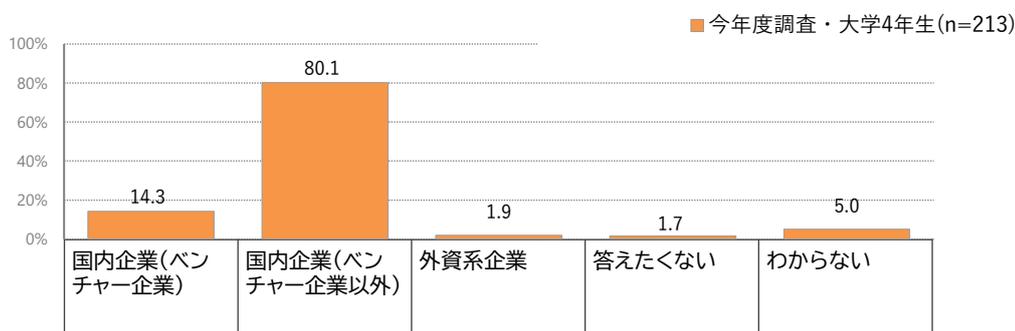
③オワハラを受けた企業の種類

他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為(「オワハラ※1」)を受けたことがある企業の種類について、「国内企業(ベンチャー企業以外)」が約8割。「国内企業(ベンチャー企業)」が約1割、「外資系企業」が2.4%となっている。

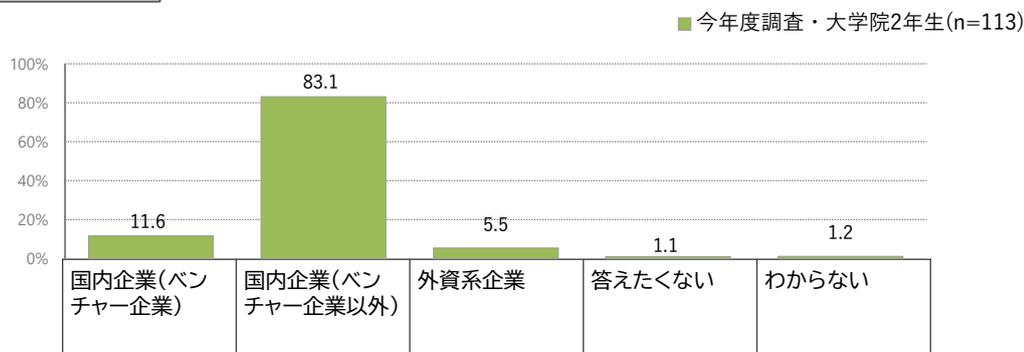
全体



大学4年生



大学院2年生

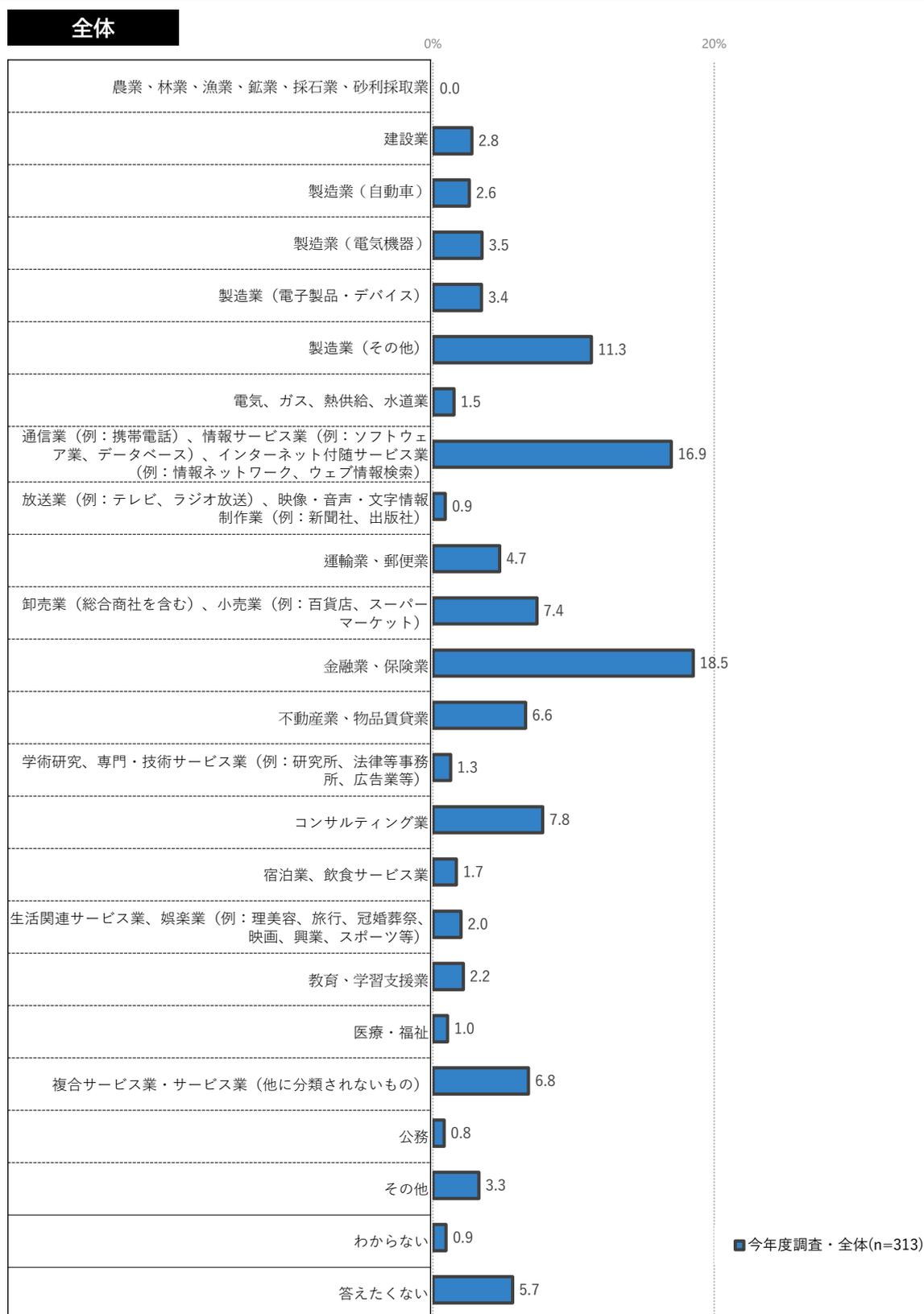


※1：オワハラについては、「企業等から、あなたの意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント行為」と案内した上で調査を行った。

※2：ベンチャー企業については、「ここでは、独自のアイデアや技術で新しいサービスやビジネスに挑戦している企業のこことする。」と、回答者に案内した上で調査を行った。

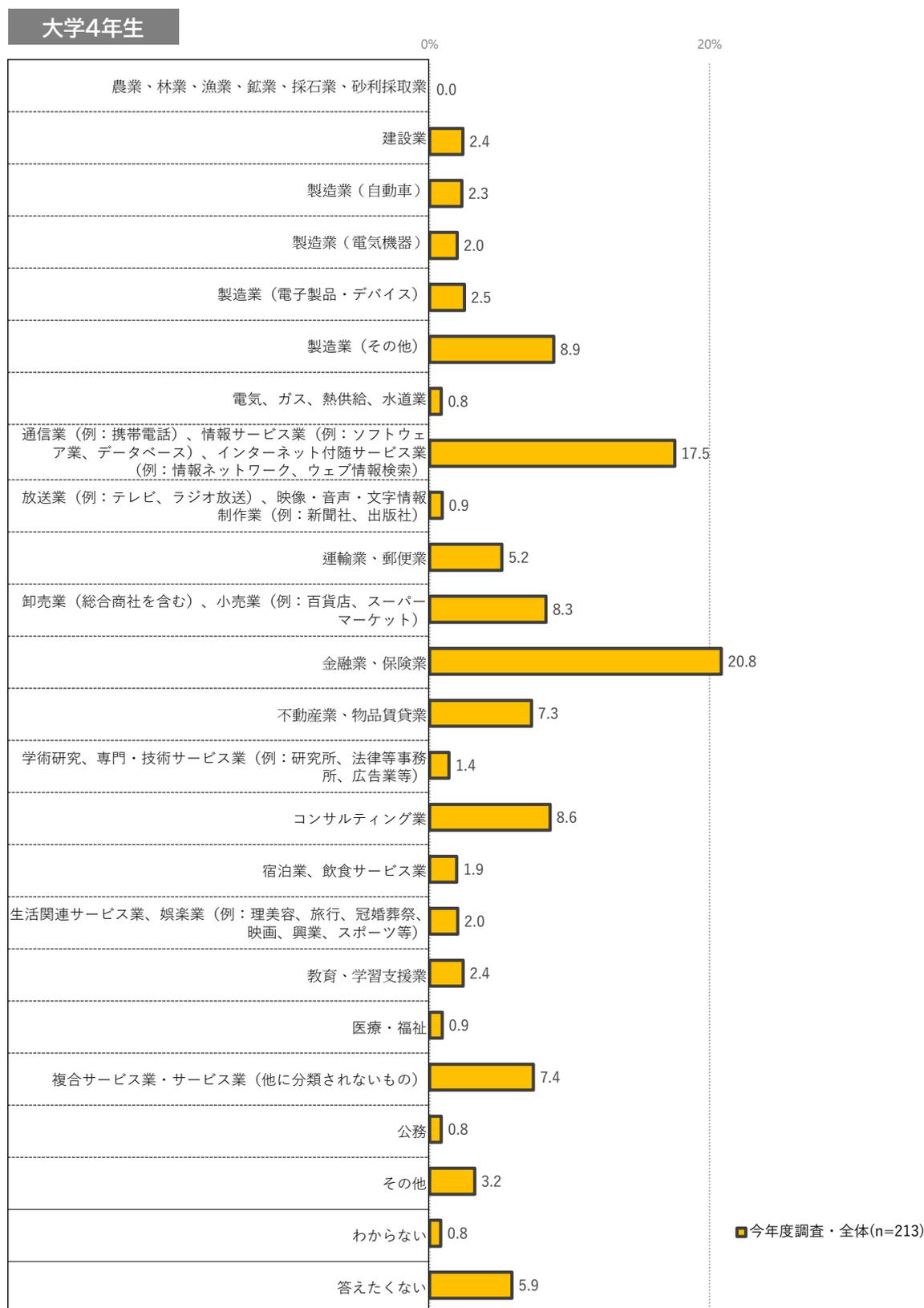
④オワハラを受けた企業の業界

他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為(「オワハラ※1」)を受けたことがある企業の業界について、「金融業・保険業」「通信業、情報サービス業、インターネット付随サービス業」が約2割。「製造業(その他)」「コンサルティング業」「卸売業、小売業」「複合サービス業・サービス業」「不動産業・物品賃貸業」が約1割となっている。

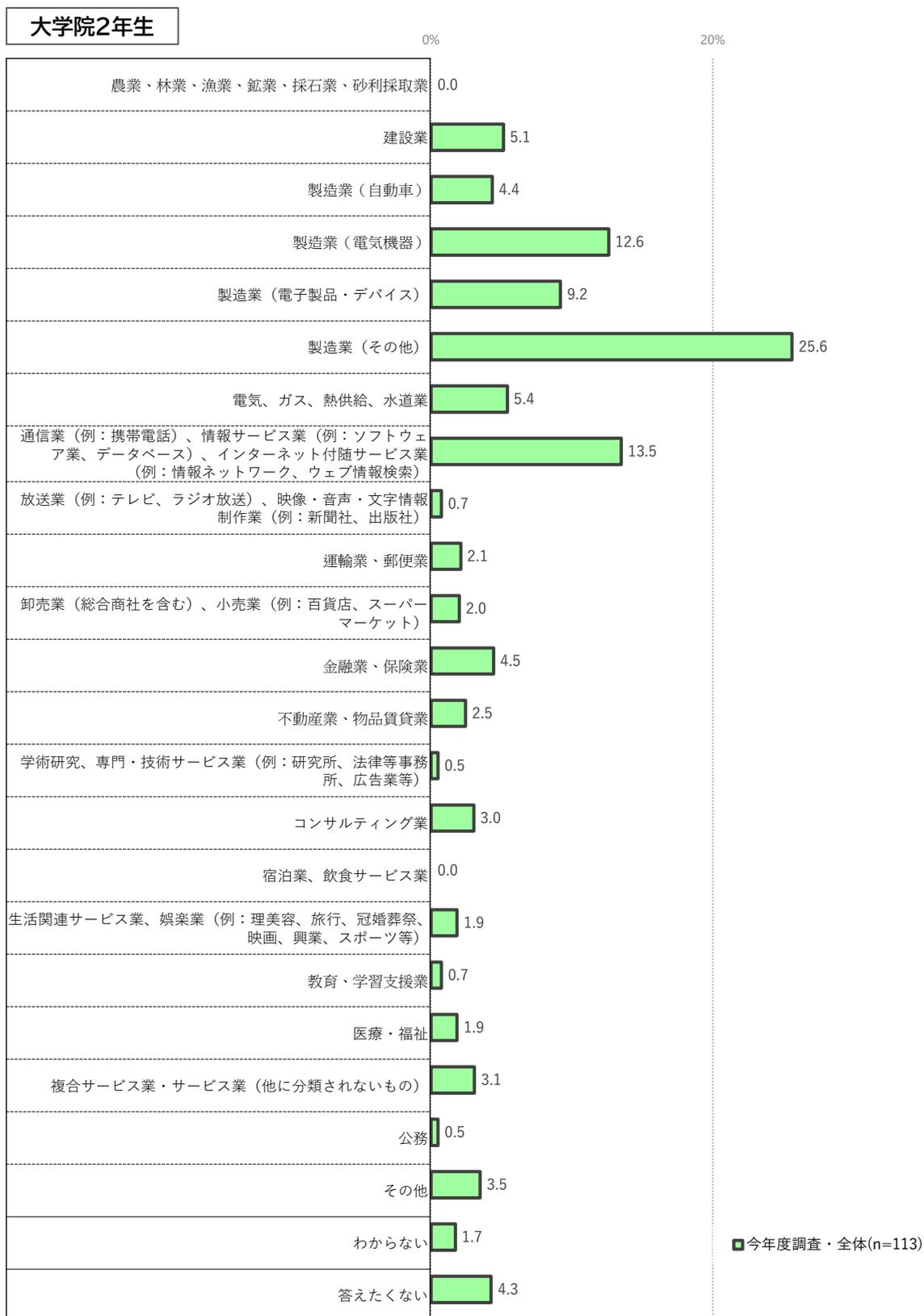


※1: オワハラについては、「企業等から、あなたの意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント行為」と案内した上で調査を行った。

④オワハラを受けた企業の業界



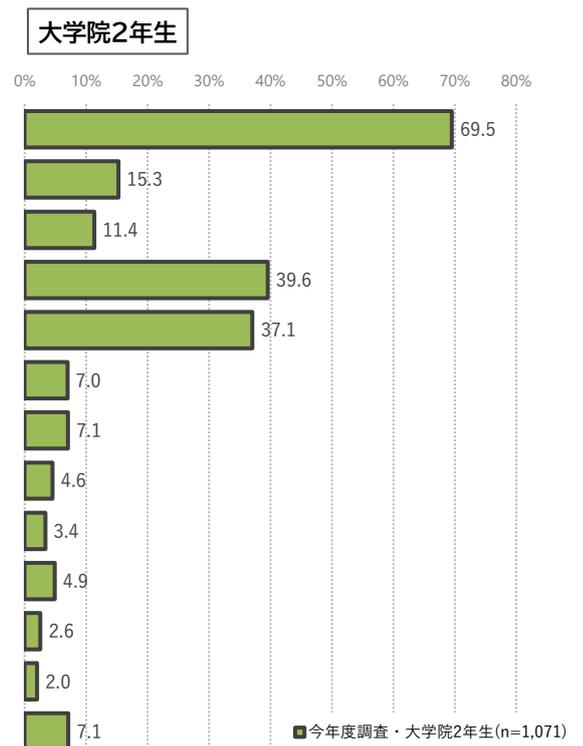
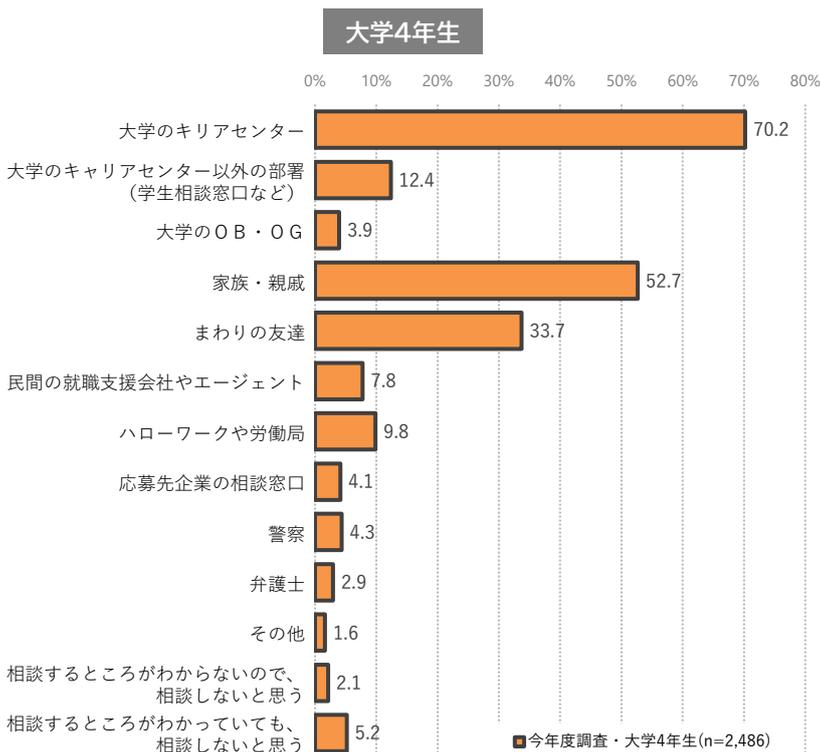
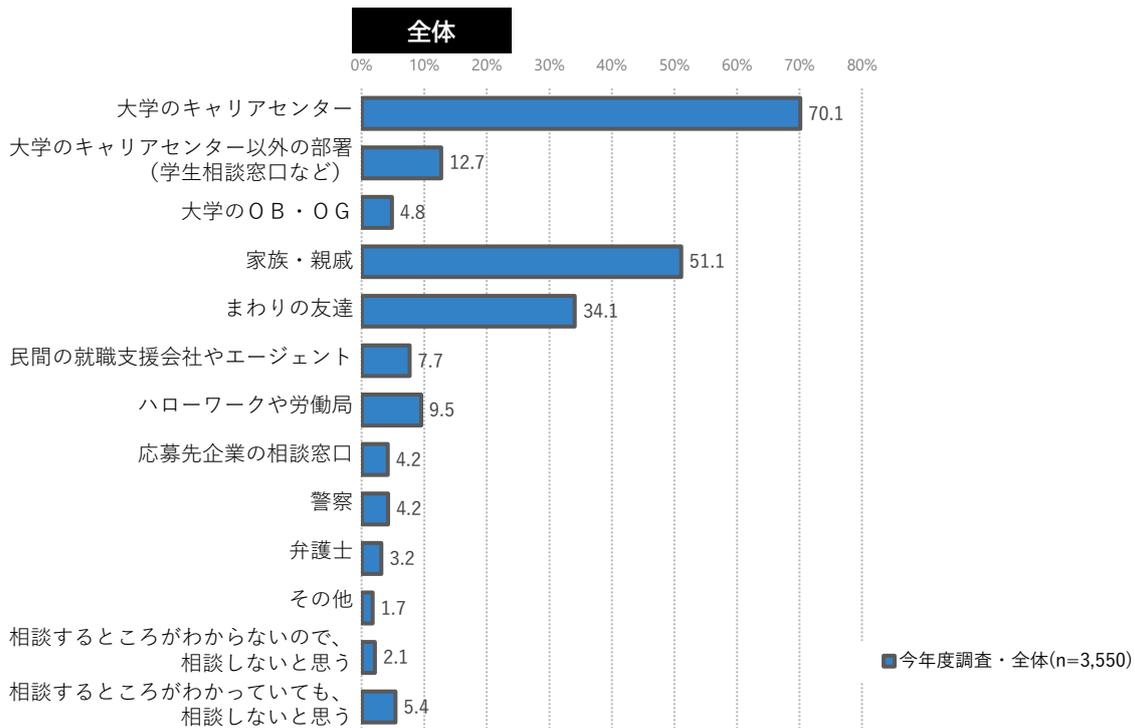
④オワハラを受けた企業の業界



⑤「オワハラ」を受けたとしたらどこに相談すると思うか(オワハラを受けていない人が対象)

他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為(「オワハラ※1」)を受けていない人に対して、もし受けたとしたらどこに相談するかについて、「大学のキャリアセンター」の回答割合が約7割と最も高く、次に「家族・親戚」が約5割、「まわりの友達」が約3割となっている。

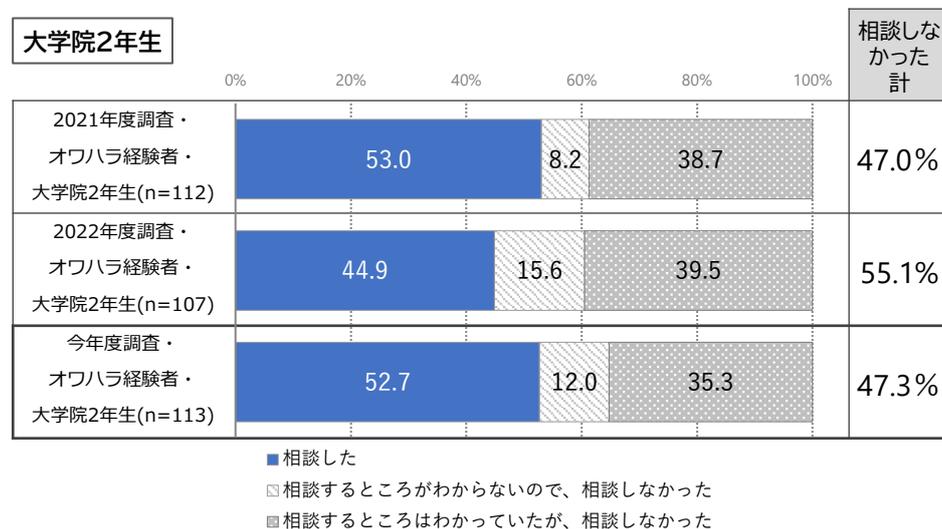
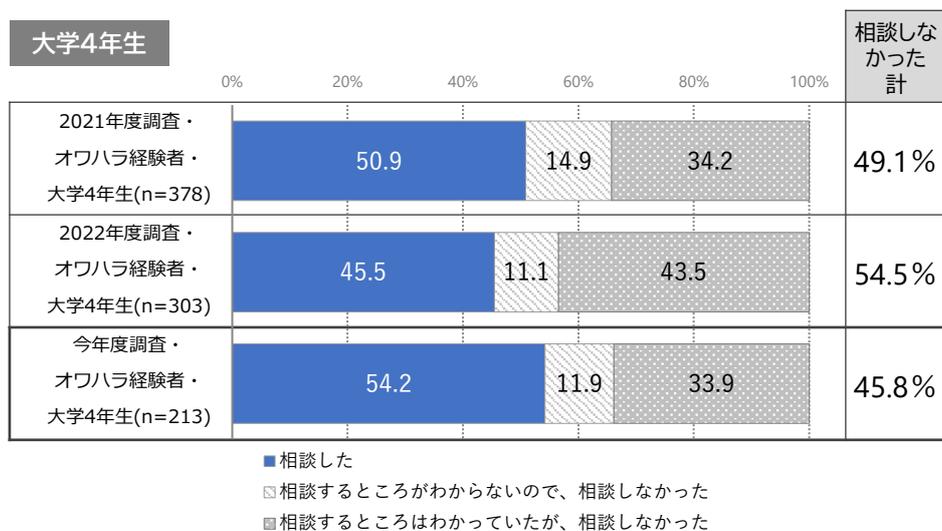
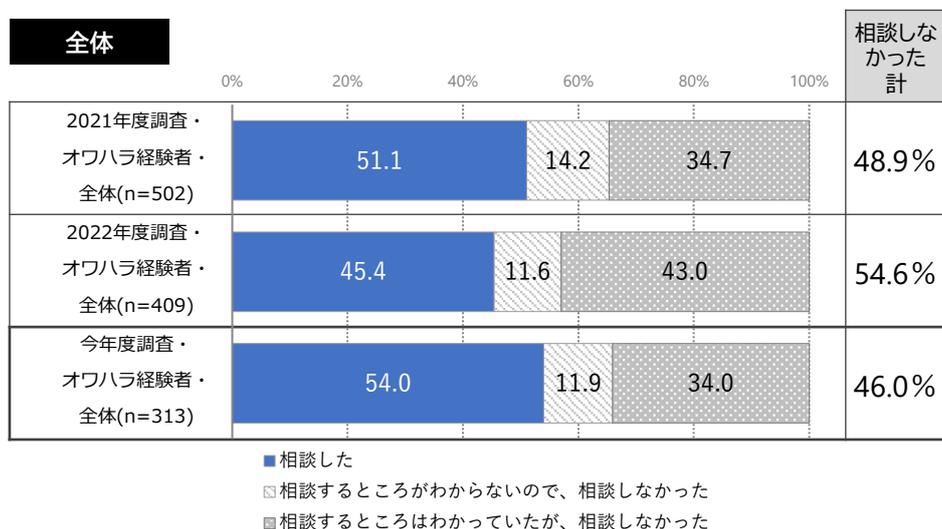
一方、「相談しないと思う(相談するところがわからない、相談するところがわかっていても相談しないの計)」は、約1割となっている。



※1：オワハラについては、「企業等から、あなたの意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント行為」と案内した上で調査を行った。

⑥「オワハラ」について相談したかどうか(オワハラを受けた人が対象)

オワハラを受けた際の対応について、2022年度結果と比較すると、「相談した」が今年度調査では54.0%(2022年度結果は45.4%)と増加傾向。「相談するところはわかっていたが、相談しなかった」が、今年度調査では34.0%(2022年度結果は43.0%)と減少。



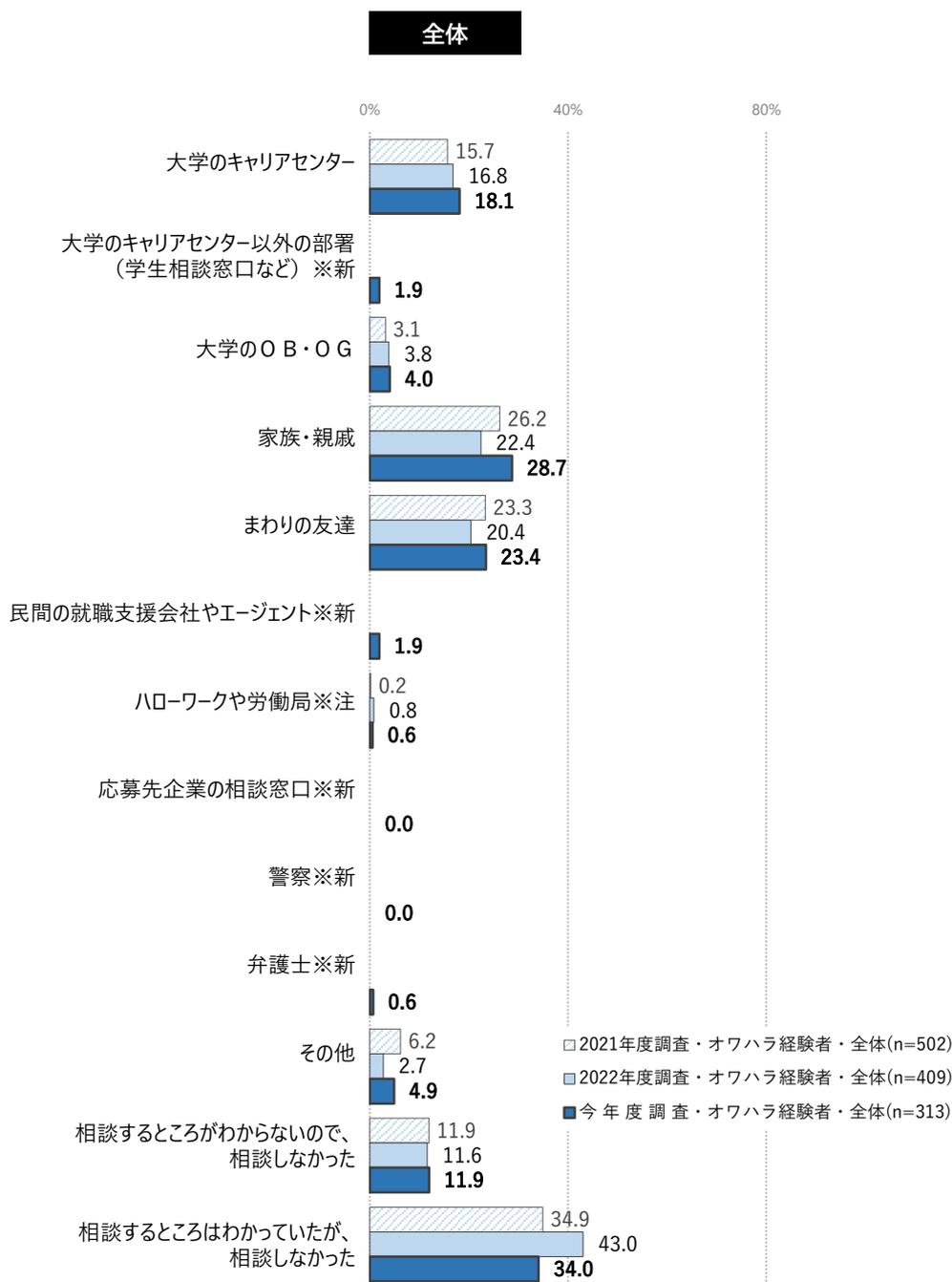
※1：オワハラについては、「企業等から、あなたの意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント行為」と案内した上で調査を行った。

⑥「オワハラ」について相談したかどうか(オワハラを受けた人が対象)

他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント的な行為(「オワハラ※1」)を受けた際の対応については、「家族・親戚に相談した」の回答割合が約3割、「まわりの友達に相談した」の回答割合が約2割となっている。

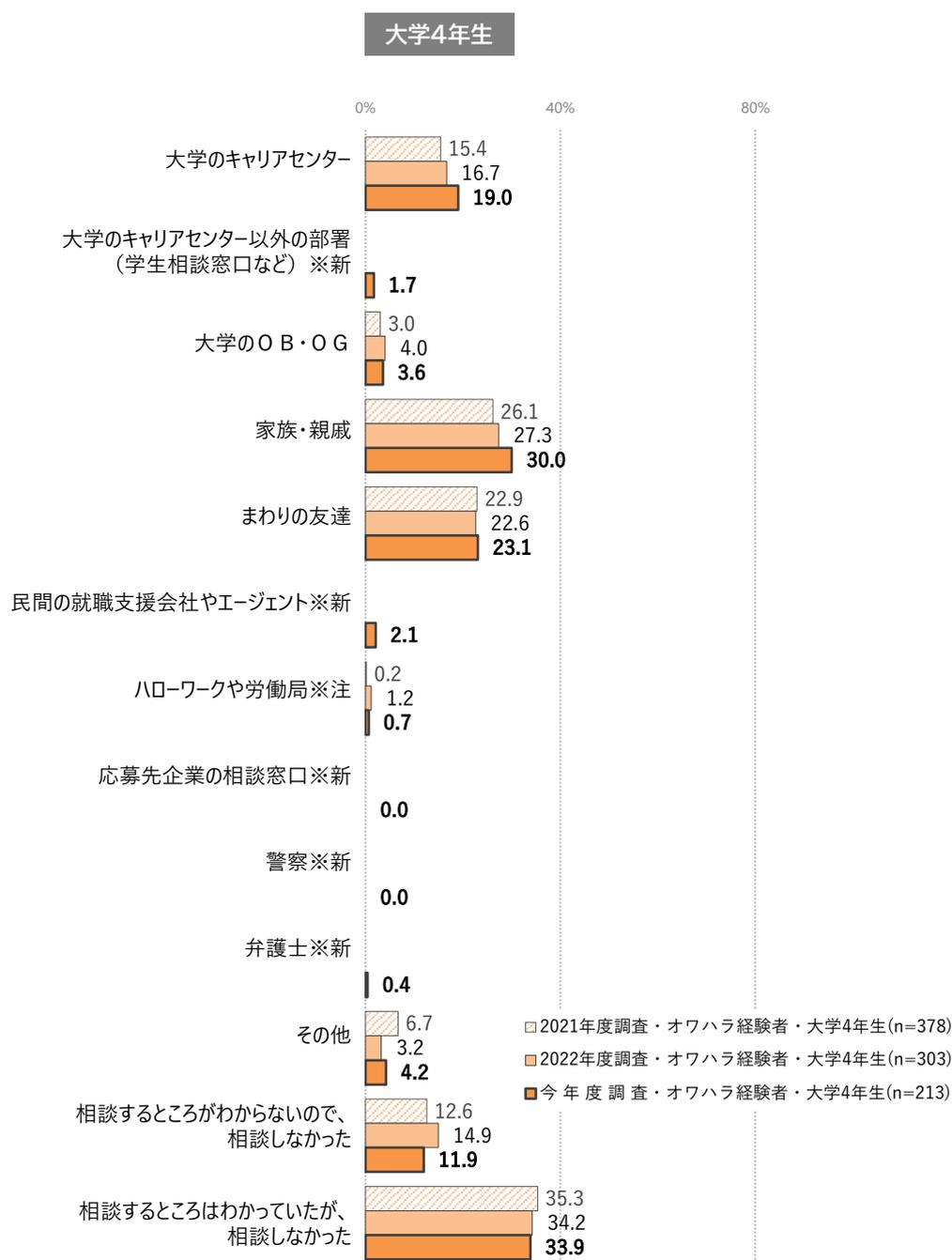
一方、「相談するところがわからなかったので相談しなかった」が約1割、「相談するところはわかっていたが相談しなかった」が約3割となっている。

過年度調査と比較すると、「大学のキャリアセンター」が増加傾向にあり、昨年度と比較すると、「家族・親戚」の割合が増加している。

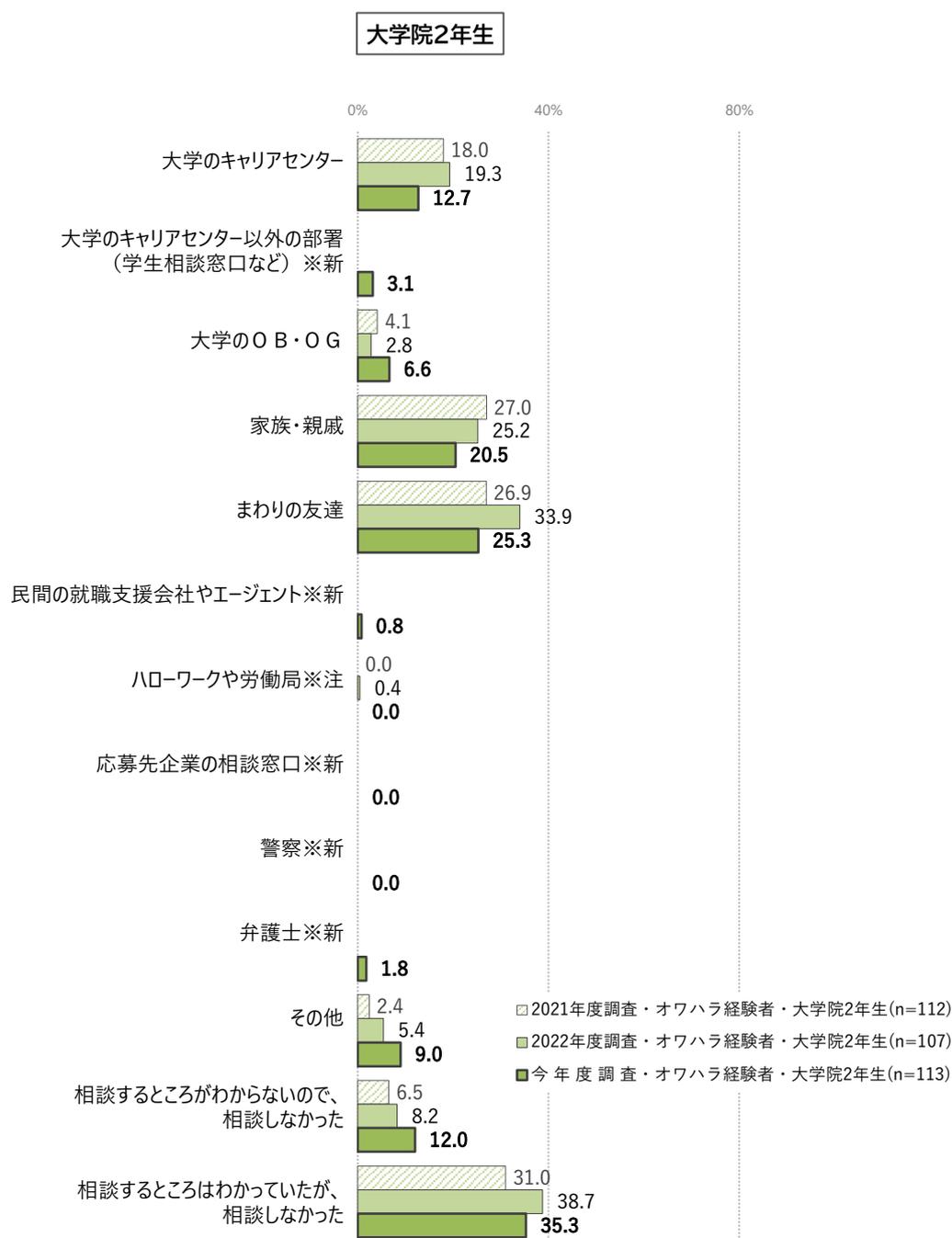


※1：オワハラについては、「企業等から、あなたの意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント行為」と案内した上で調査を行った。

⑥「オワハラ」について相談したかどうか(オワハラを受けた人が対象)



⑥「オワハラ」について相談したかどうか(オワハラを受けた人が対象)

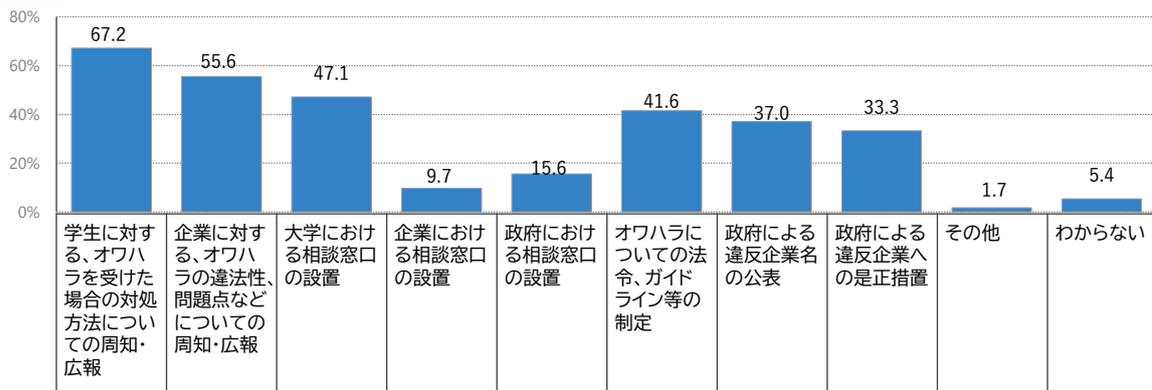


⑦「オワハラ」をなくすために求めたいこと

オワハラ※1をなくすために求めたいことについて、「学生に対する、オワハラを受けた場合の対処方法についての周知・広報」が約7割と最も高く、「企業に対する、オワハラの違法性、問題点などについての周知・広報」が約6割となっている。

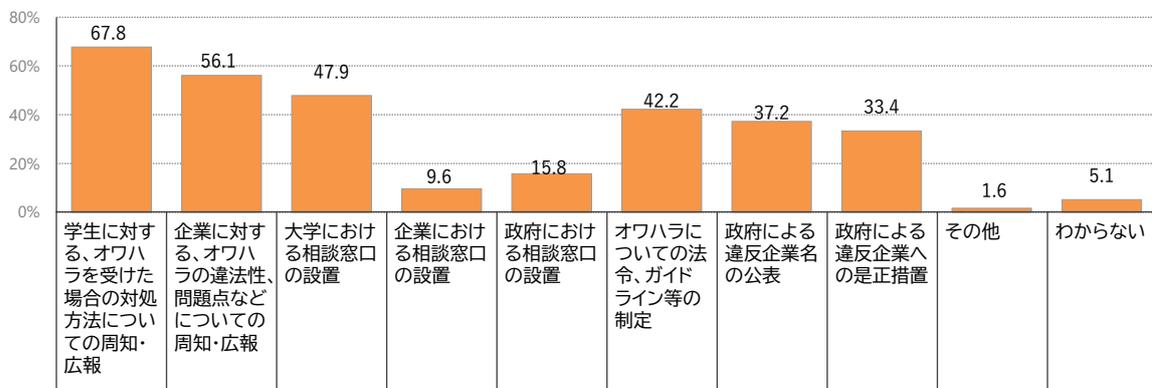
全体

■ 今年度調査・全体(n=3,874)



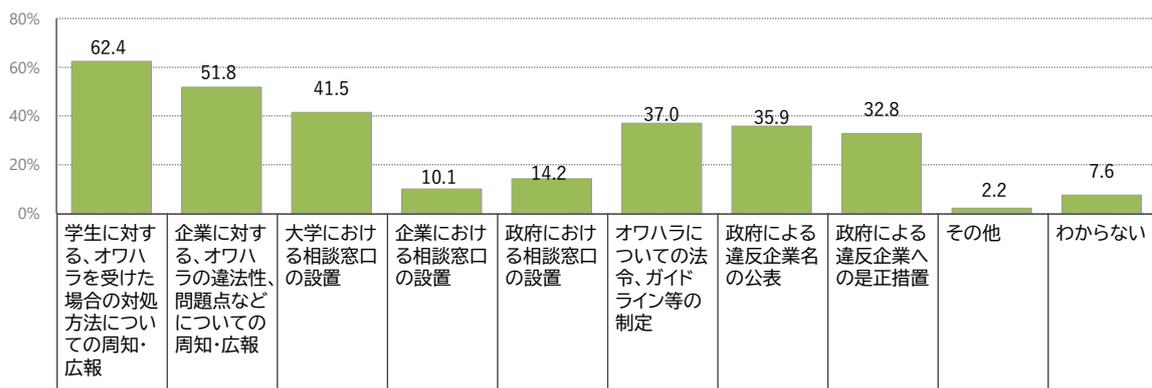
大学4年生

■ 今年度調査・全体(n=2,707)



大学院2年生

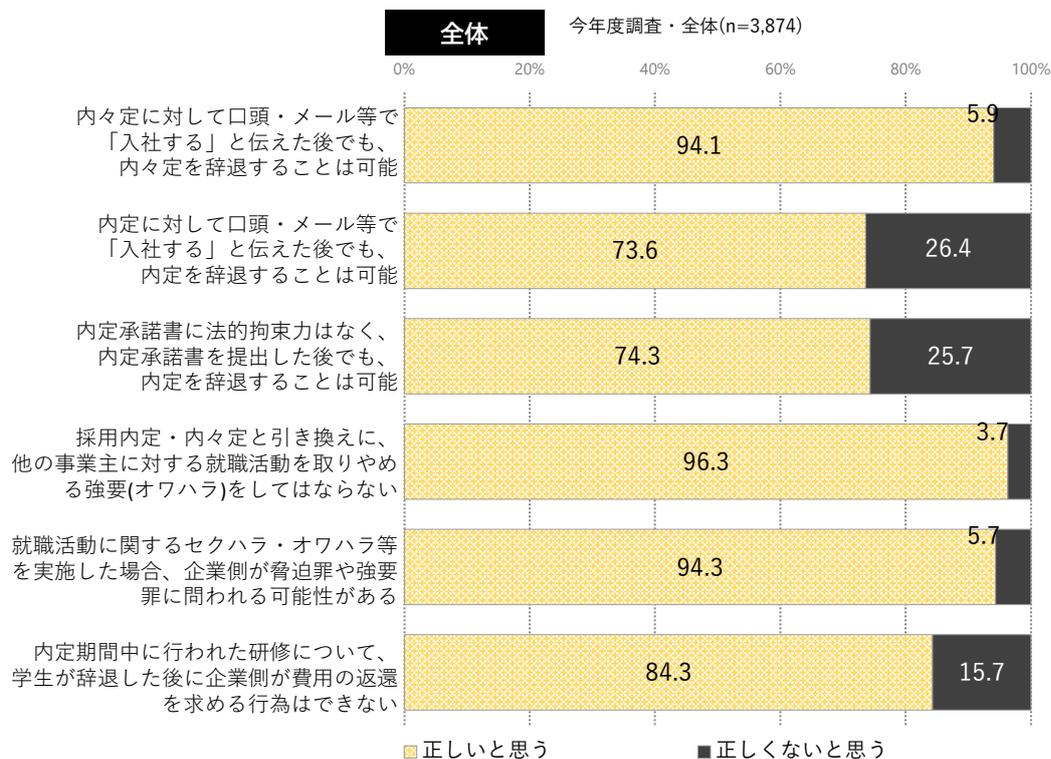
■ 今年度調査・全体(n=1,187)



※1：オワハラについては、「企業等から、あなたの意思に反して他の企業等への就職活動の終了を強要するようなハラスメント行為」と案内した上で調査を行った。

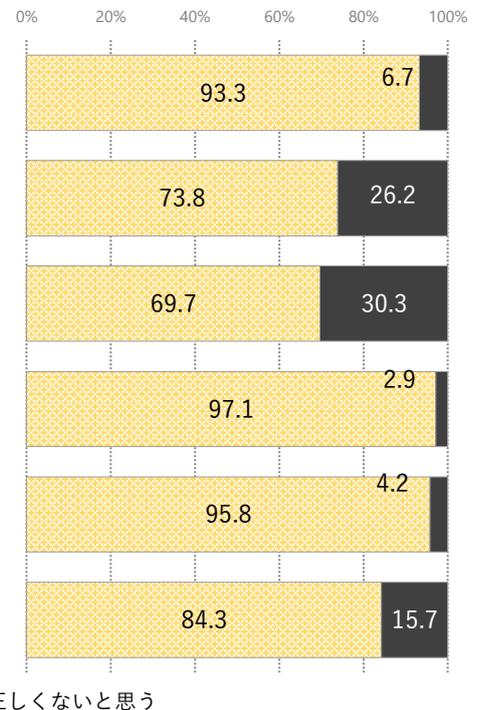
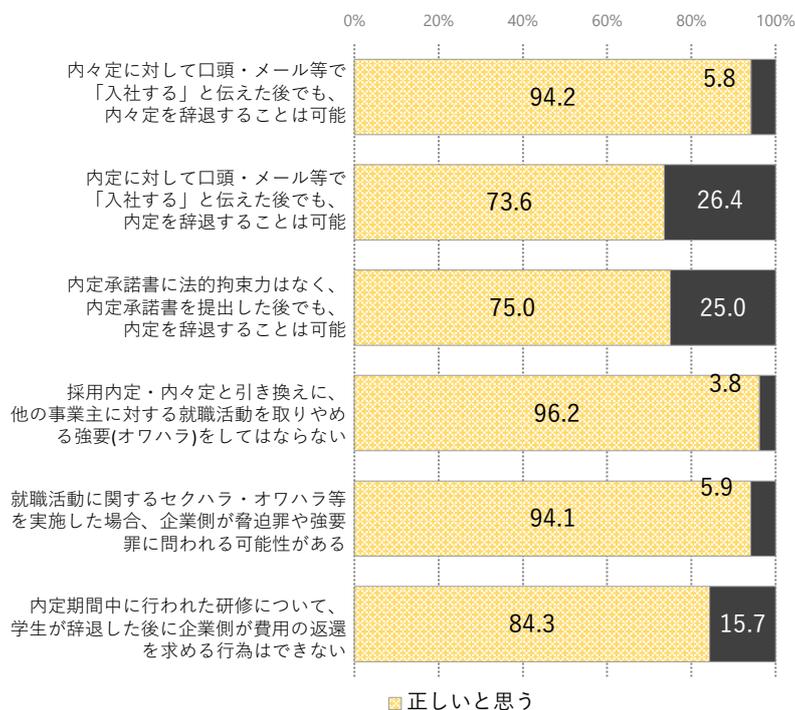
⑧就職活動に関連する法律(労働法令等)についての理解

就職活動に関連する法律(労働法令等)について、正しいと思うものを尋ねたところ、「内定に対して口頭・メール等で「入社する」と伝えた後でも、内定を辞退することは可能」、「内定承諾書に法的拘束力はなく、内定承諾書を提出した後でも、内定を辞退することは可能」は、「正しいと思う」が約7割となっている。



大学4年生 今年度調査・大学4年生(n=2,707)

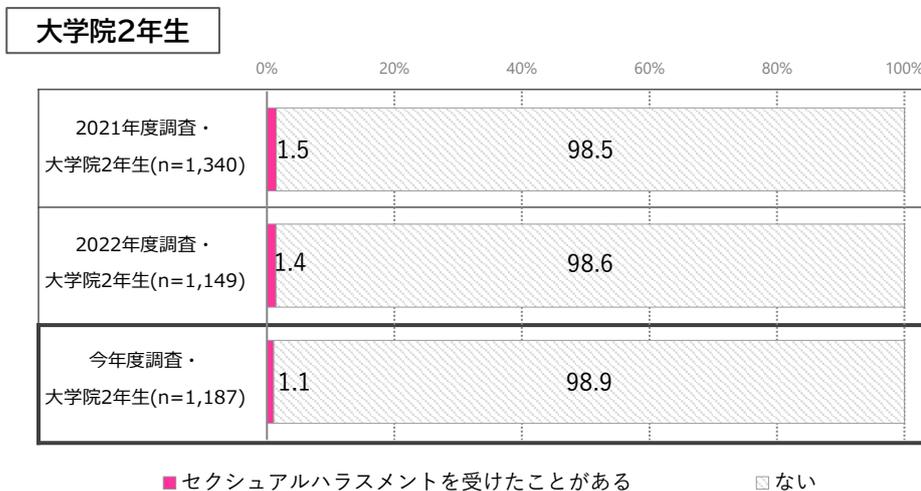
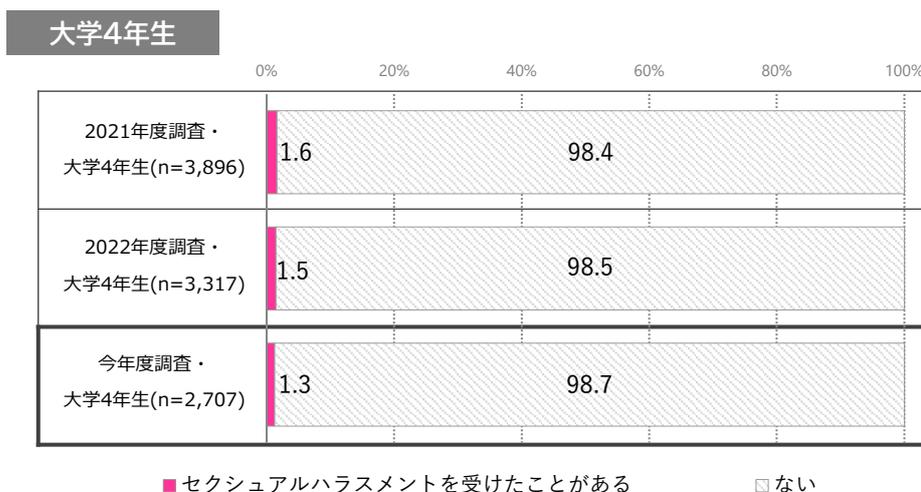
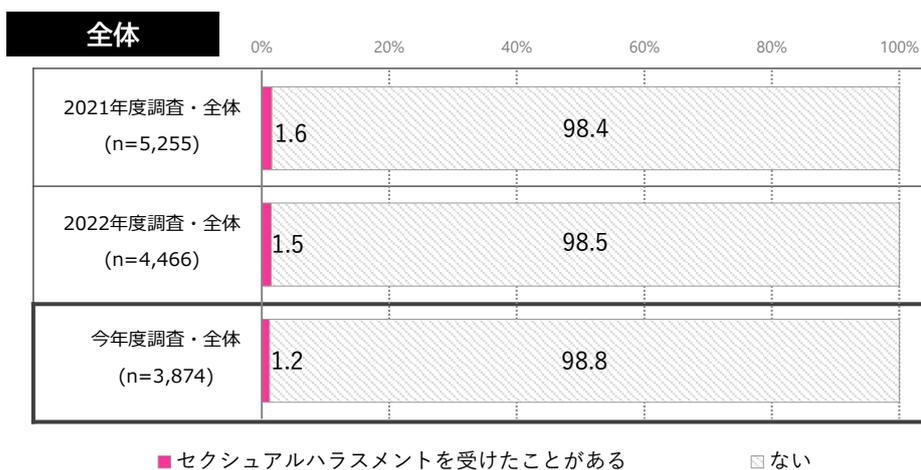
大学院2年生 今年度調査・大学院2年生(n=1,187)



(9) 「セクシュアルハラスメント」の状況

①「セクシュアルハラスメント」行為の有無

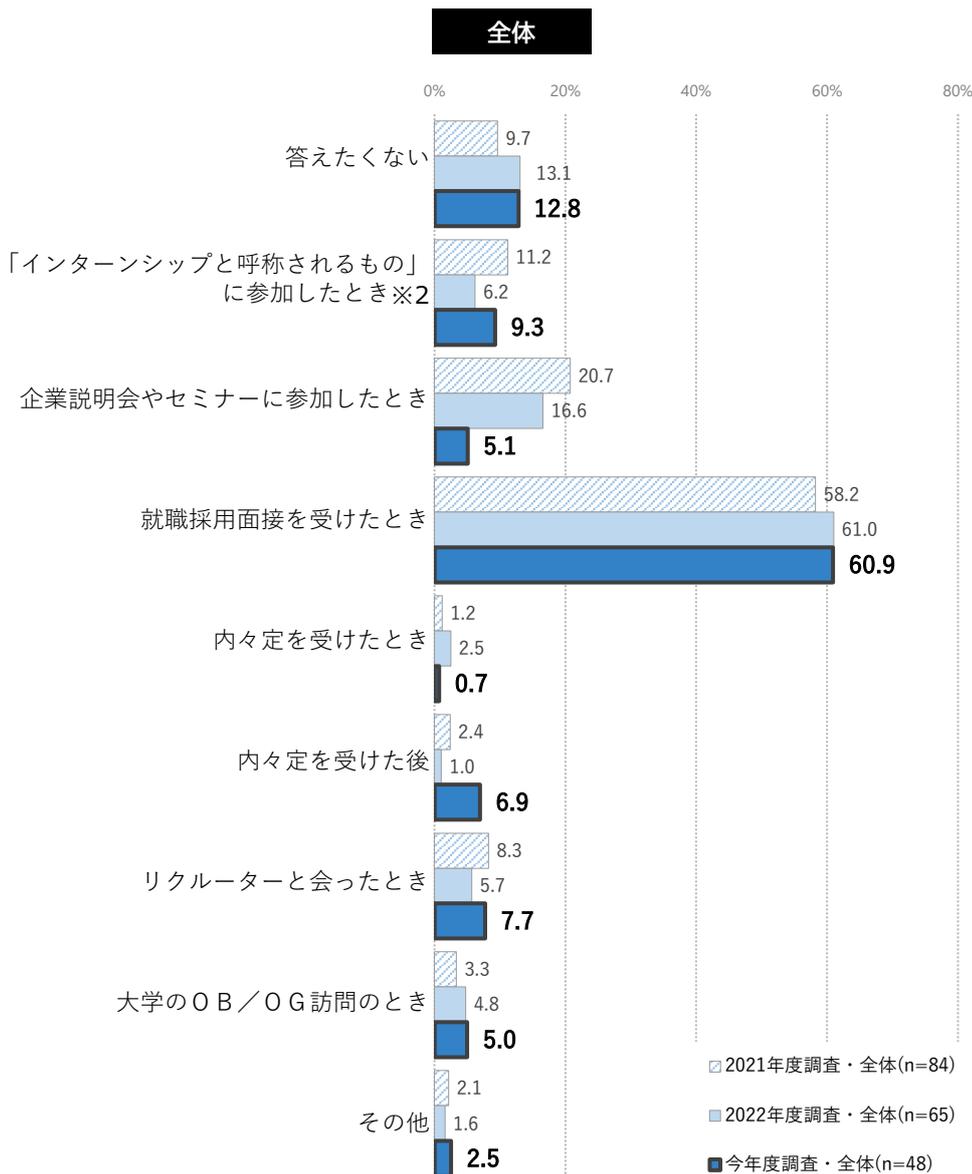
就職活動の過程において、セクシュアルハラスメント行為を受けたことがあるかについて、「ある」の回答割合は1.2%であった。過年度調査と比較すると、ほぼ同様の結果となっている。



②「セクシュアルハラスメント」行為を受けたタイミング

セクシュアルハラスメント行為を受けたことがあると回答した者に関し※1、行為を受けたタイミングとしては、「就職採用面接を受けたとき」との回答が約6割と最も高く、次いで「インターンシップと称されるもの」に参加した時が約1割となっている。

過年度調査と比べると、「企業説明会やセミナーに参加したとき」の回答割合が低くなっている。



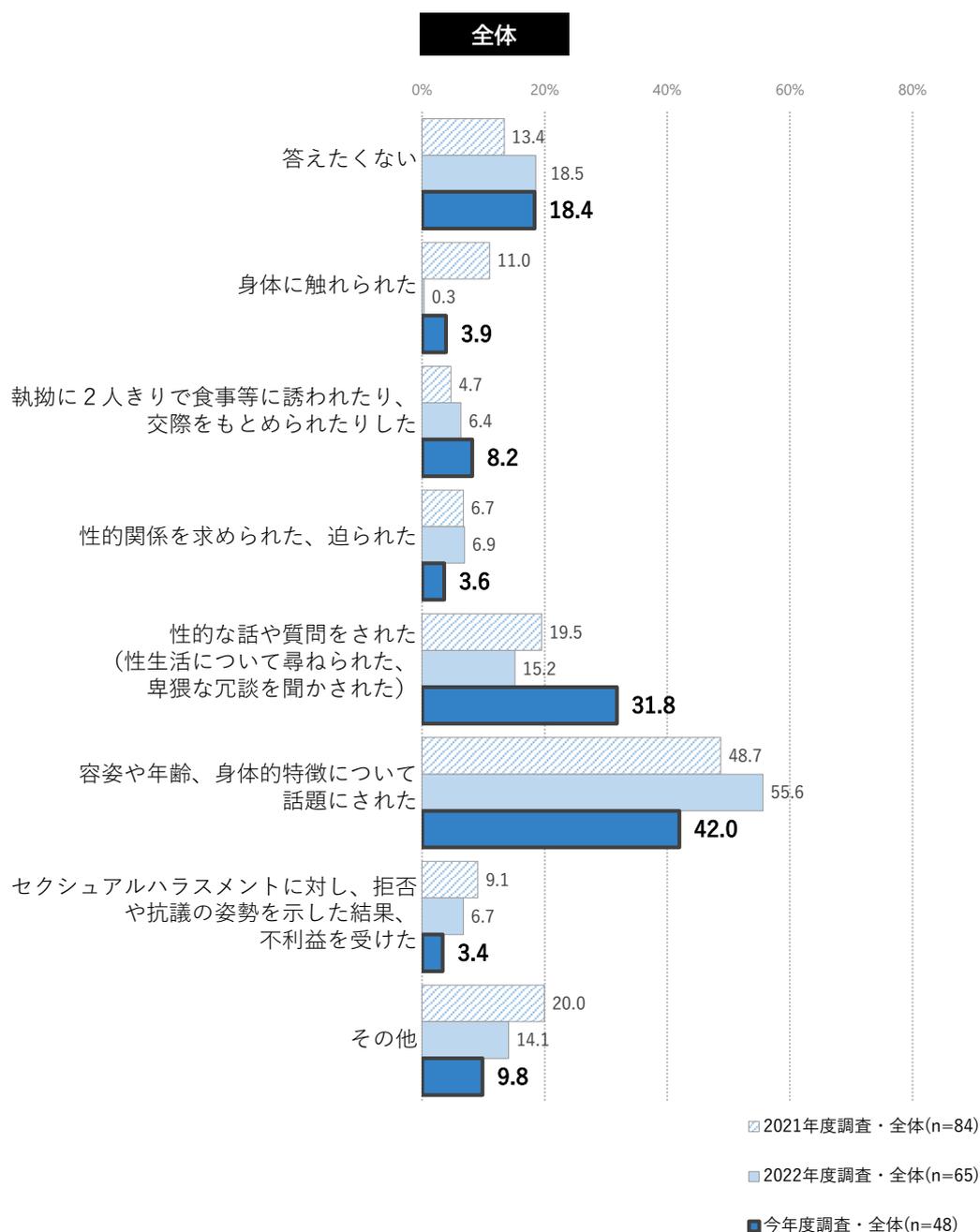
※1：本設問はセクシュアルハラスメント行為を受けたことがあると回答した者を調査・集計の対象としたが、選択肢として「答えたくない」の項目を設けた上で、差し支えない範囲で回答いただくように案内をした。なお、集計対象者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した結果のみ参照した。

※2：今年度調査では、定義変更に伴い、インターンシップについて「インターンシップと称されるもの」と提示した。

③「セクシュアルハラスメント」行為の内容

どのようなセクシュアルハラスメント行為を受けたかについて、「容姿や年齢、身体的特徴について話題にされた」が約4割、「性的な話や質問をされた(性生活について尋ねられた、卑猥な冗談を聞かされた)」が約3割となっている。

過年度調査と比較すると、「容姿や年齢、身体的特徴について話題にされた」の回答割合が減少傾向にある。一方、「性的な話や質問をされた(性生活について尋ねられた、卑猥な冗談を聞かされた)」の回答割合は増加傾向にある。



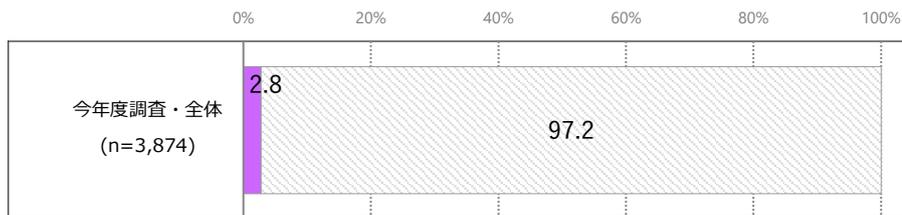
※：「特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付けがあった」は今年度調査より新たに設けた項目である。

(10) 「特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付け」の状況

①「特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付け」有無

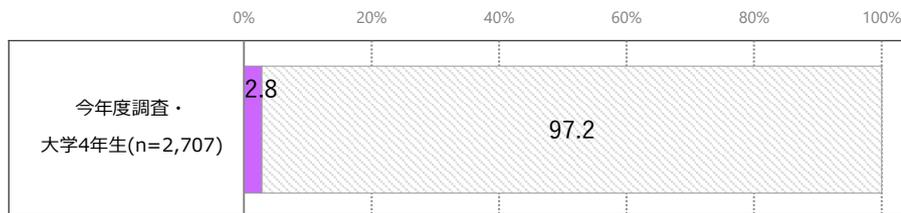
就職活動の過程において、特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付け※1を受けたことがあるかについて、「ある」の回答割合は2.8%であった。

全体



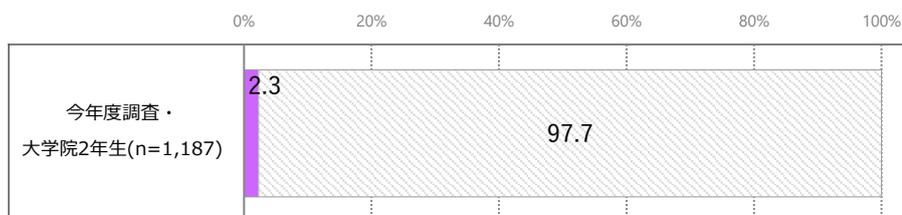
■ 特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付けを受けたことがある □ ない

大学4年生



■ 特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付けを受けたことがある □ ない

大学院2年生

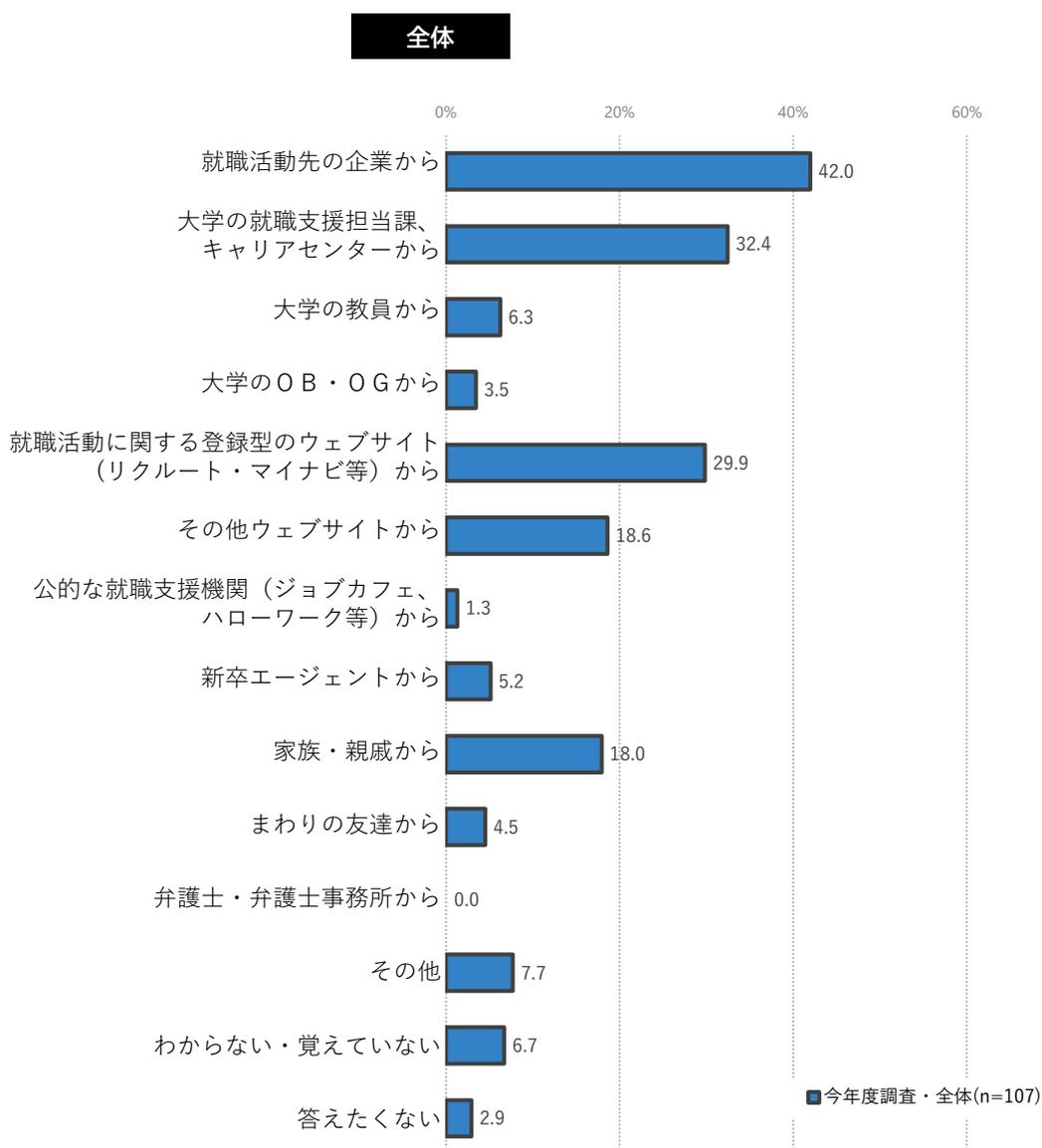


■ 特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付けを受けたことがある □ ない

※1：「意思に反して特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付けの例：就職活動時の服装について、「男らしく」「女らしく」すべきという指南を受けること等」といった例を提示したうえで、調査を行った。

②「特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的なマナーの押し付け」を受けた対象

意思に反して特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付け※1を受けたことがあると回答した者に関し※2、どこから受けたかについては、「就職活動先の企業から」が約4割と最も高く、次に「大学の就職支援担当課、キャリアセンターから」「就職活動に関する登録型のウェブサイト(リクルート・マイナビ等)から」が約3割となっている。



※1：「意思に反して特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的な服装やマナーの押し付けの例：就職活動時の服装について、「男らしく」「女らしく」すべきという指南を受けること等」といった例を提示したうえで、調査を行った。

※2：本設問は特定の性別に基づいた性差別的・抑圧的なマナーの押し付けを受けたことがあると回答した者を調査・集計の対象としたが、選択肢として「答えたくない」の項目を設けた上で、差し支えない範囲で回答いただくように案内をした。なお、集計対象者の数が必ずしも多いわけではないことから、ここでは、大学4年生・大学院2年生について合わせて集計した結果のみ参照した。